上田市文化財調査報告書35集

林　之　郷

林之郷遺跡緊急発掘調査報告書

1989年3月

上田市教育委員会

上小地方事務所

上田市文化財調査報告書35集

林　之　郷

林之郷遺跡緊急発掘調査報告書

１９８９年３月

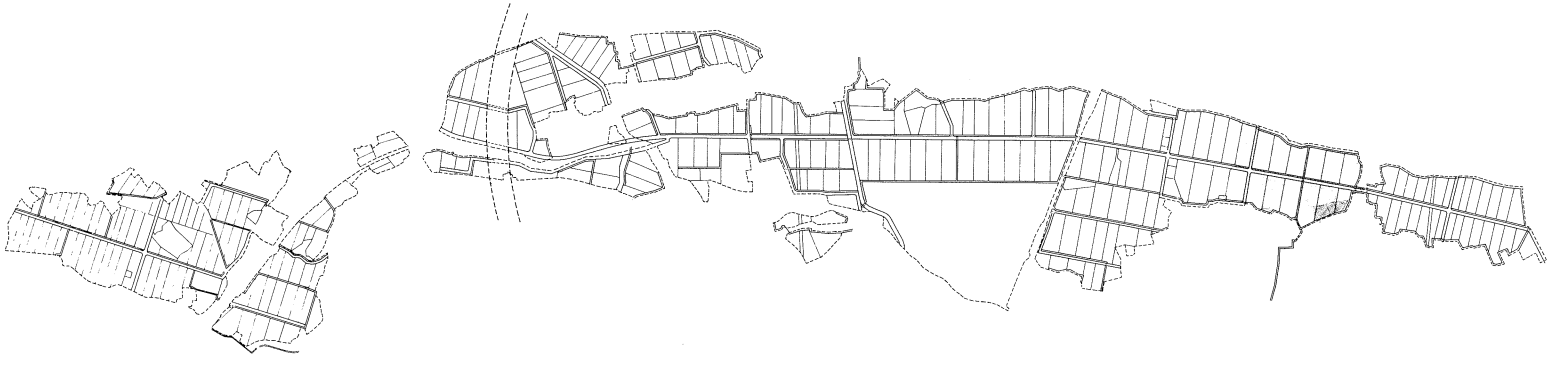
上田市教育委員会

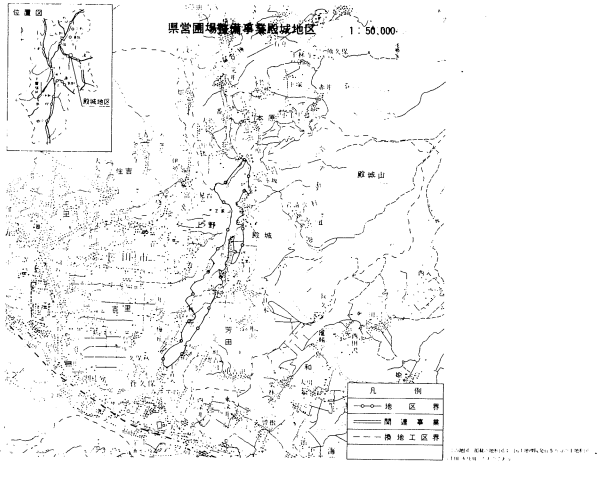
上小地方事務所

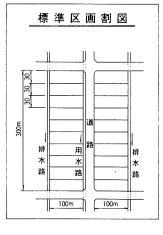
P. L I　林之郷遺跡 A 区遠景

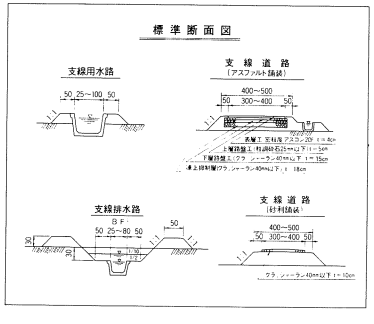
P. L 2　林之郷遺跡C区遠景

県営圃場整備事業殿城地区計画平面図







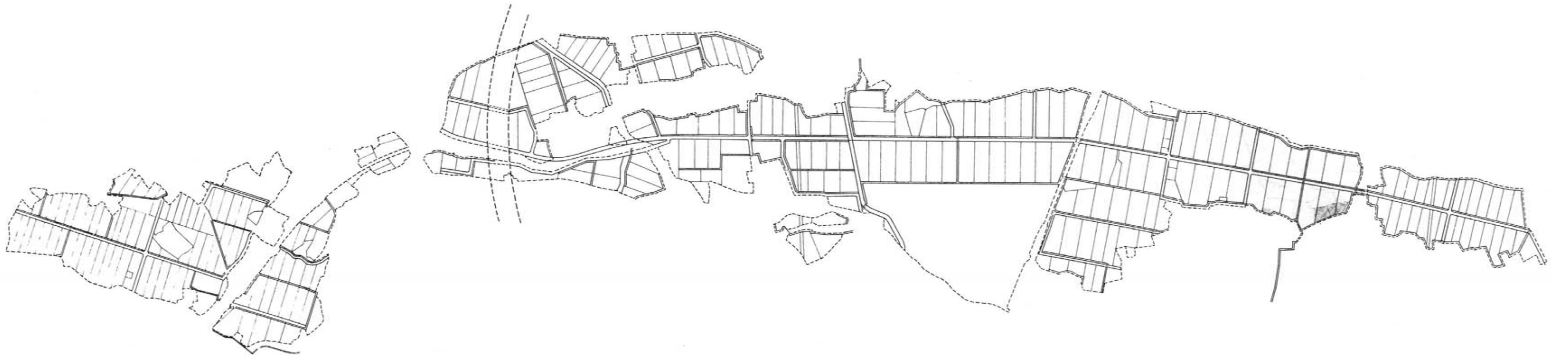


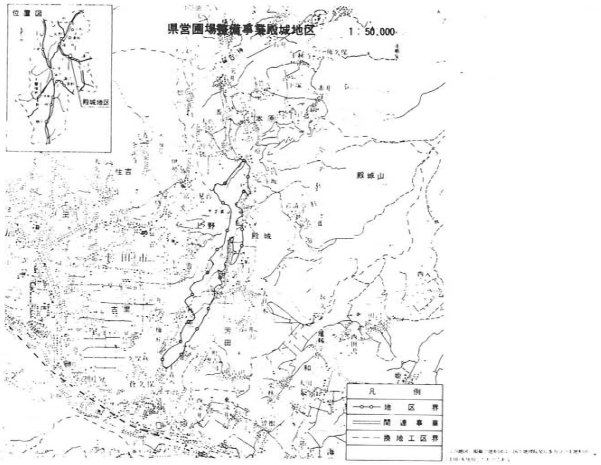
凡例	
	市町村界
	地区界
	関連事業
年度別着色区分	
色別	施行年度
	昭和　年度まで施行
	昭和　年度施行
	昭和　年度
	昭和　年度以降施行

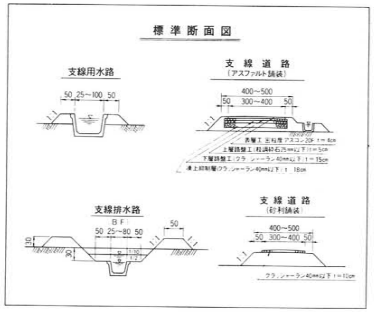
第１図　殿城地区ほ場整備計画図

長野県上小地方事務所

県営圃場整備事業殿城地区計画平面図







凡例	
	市町村界
	地区界
	関連事業
年度別着色区分	
色別	施行年度
	昭和　年度まで施行
	昭和　年度施行
	昭和　年度
	昭和　年度以降施行

第１図　殿城地区ほ場整備計画図

長野県上小地方事務所

序

上田市の北東部に位置する殿城地区には、古くから私たちの祖先が暮らし、数々の遺跡や古墳、城館跡、社寺等の文化財が現在に伝えられ、往時を偲ばせています。

このたび、この殿城地区にもほ場整備が始まり、また新たな歴史をこの土地に刻むこととなりました。このことは同時に、現在の私たちの祖先の足跡を根底から消し去ることでもあり、一概にそのどちらを選択するか、単純な議論で済まされる問題ではありません。現在の私たちは過去と未来に対して責任を追わなければならないからです。

現在、各種の開発行為に際しては、この点を充分に検討し、遺跡の保護と開発をどのように並存させていくべきか常々苦慮している次第ですが、この度のほ場整備については、次善の策として、「記念保存」という方策を選択しました。無論、この方策は万全ではありません。埋没している文化財をたとえどのような方法と理由であれ、白日のもとに晒すことは破壊行為であり、発掘調査といえどもその難を免れないからです。

このような責務を負って、調査団の顧問の先生方や調査員、作業員の皆さんには夏の猛暑のなか、たいへんな御尽力をいただき、林之郷遺跡が平安時代の集落遺跡であることが解明でき、上田市の歴史に新たな一頁を加えることができました。

林之郷遺跡の大部は未だ土の下に眠り、今回の調査でその全てが明らかとなったわけではありません。将来の調査、研究によってその全貌が明らかになると思われます。今回の調査がその一助となれば幸いです。

最後となりましたが、この度の調査では地元のほ場整備実行委員会の皆さん、林之郷自治会の皆さんには終始絶大な御協力を賜り、殊に、調査対象地区となった地権者の方々には秋の実りを断念して頂くという無理なお願いに対して、深い御理解と御協力を頂きました。ここに記して衷心より御礼申し上げる次第です。

平成元年３月２５日

上田市教育委員会

教育長　赤羽　資

例　　言

1　本書は長野県上田市大字林之郷における県営ほ場整備事業及びふれあい農園整備プロジェクト事業殿城地区に伴う、昭和６３年度林之郷遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は、上田市教育委員会が上田市教育委員会教育長赤羽奨を調査団長として、林之郷遺跡発掘調査団を編成し、調査を委託して実施した。なお、事務局は上田市教育委員会社会教育課においた。

3　発掘調査は遺物整理、報告書刊行まで含めて１９８８年（昭和63年）８月２日から１９８９年（平成元年）３月２５日まで実施した。この間の調査は調査主任川上元の指導の下、主に中沢徳士があたり、調査補助員・作業員の協力をいただいた。

4　遺構の実測は倉沢正幸・中沢・河上純一・川崎康子が行い、トレースを中沢・河上・大原宏枝・青木国江が行った。

5　遺物の実測は、猪熊啓司・倉沢・中沢・河上・大原が行い、トレースを猪熊・倉沢・中沢・河上・大原・青木が行った。

6　本文の執筆は川上・猪熊・倉沢・中沢が行い、文責は目次に記した。なお、遺物の観察は実測者が行い、執筆者が確認した。

7　版組は主に中沢・河上が行い、大原・青木がこれを補佐した。

8　遺構の写真撮影は中沢が、遺物の写真撮影は中沢・河上が行った。

9　本調査の基準点及び標高の測量は有限会社写真測図研究所に、航空写真の撮影は株式会社富永調査事務所に業務委託して実施した。

10　遺物の復元作業は清水閲二が行った。

11　本遺跡の資料は上田市教育委員会の責任下、上田市立信濃国分寺資料館に保管している。

12　本書の編集作業は、事務局（上田市教育委員会社会教育課）が担当した。

13　本調査にあたり下記の皆さんにご協力、ご助言を賜った。記して感謝する次第である。

（地権者等）酒井潤太郎、酒井澄幸、春原新三郎、春原春太郎、春原為平、渡辺一雄、渡辺盛長、春原穂積、酒井喜六、上原スギ、長沢準、春原通兄、春原貞治、荒井なみ江、滝沢勇、春原武雄、佐野宏、中村壽雄林之郷自治会長ほか自治会の皆さん、柳沢信ほ場整備実行委員会委員長、荒井甲子次ほか委員会の皆さん

小林秀夫、児玉卓文、百瀬長秀、倉田芳郎、太田喜美子、堀田雄二、保坂富雄、宮下信子、上小地方事務所土地改良第一、二課、上田市農村整備課、上田市農村環境改善センター

（順不同、敬称略）

14　本調査にかかわる林之郷遺跡発掘調査団の調査組織は次のとおりである。

顧問	五十嵐　幹雄	（日本考古学協会員、上田市文化財保護審議会委員）
〃	岩佐　今朝人	（日本考古学協会員、上田小県誌考古編編纂副主任）
団長	赤羽　　寮	（上田市教育委員会委員長）
副団長	塩入　　恒	（上田市教育委員会教育次長）昭和63年９月30日退任
〃	中島　孝一	（上田市教育委員会教育次長）昭和63年10月１日着任
調査主任	川上　　元	（日本考古学協会員、上田市立博物館庶務学芸係長）
調査員	塩入　秀敏	（日本考古学協会員、上田女子短期大学助教授）
〃	猪熊　啓司	（上小考古学会員、長野県長野高等学校教諭）
〃	倉沢　正幸	（上田市立信濃国分寺資料館学芸員）
調査担当者	中沢　徳士	（上田市教育委員会社会教育課学芸員）
調査員	塩崎　幸夫	（上田市教育委員会社会教育課嘱託）
事務局長	清水　万伴	（上田市教育委員会社会教育課長）
事務局次長	富田　　篤	（上田市教育委員会社会教育課文化係長）
事務局員	中沢　徳士	（上田市教育委員会教育課文化係）

15　発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々

稲垣美麻（調査補助員）、井部定雄、河上純一、沓掛酉蔵、小泉好武、小島唯夫、小山倍子、坂口興昌、清水閲二、沼田亀治、林正治、堀内今朝次、長浜峰吉、関茂樹、岩下真、柳沢仁美、川崎康子、山崎美津子、春原慎、池志保、春原昇、春原ます子、江原義典、山崎好明、池田隆徳、白倉忠雄、村瀬自治男、松沢忠明、堀内節子、中沢利子、青木国江、大原宏枝

（順不同、敬称略）

凡　　例

遺　構

1　竪穴住居址（ＳＢ－）、土壙（ＳＫ－）、ピット（Ｐ－）、溝址（ＳＤ－）、竪穴住居址の柱穴（Ｐ）の番号はランダムに付した。

2　遺構の版組は北を基準に行ったが、紙面の都合により例外もある。

3　遺構の縮尺は原図1/20を使用し、縮尺 1/3を基本とした。なお、竪穴住居址竈については原図1/10を使用し、縮尺 1/3を基本とした。

4　遺構が時代の新しい遺構によって、あるいは撹乱等によって破壊を受け、プランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。

5　竪穴住居址の主軸方位は、国家座標の北と竈を通る住居址の中軸線とのなす角度で示してある。

6　土壙、ピット、柱穴の規模は、（長軸×短軸、深さ）で示した。

7　遺構断面図の標高は、すべてｍ単位で示してある。

8　竪穴住居址の床面積の計測にはプラニメーターを用いた。

9　遺構の層序説明は本文中に記した。

10　挿図中におけるスクリーントーンは以下のものを示した。

＝遺構断面図　　＝焼土

遺　物

1　遺物は縮尺 1/3とした。

2　土器の実測方法は４分割法を用い、右側 1/2に断面及び内面を、左側 1/2に外面を記録した。

3　黒色処理のある遺物はスクリーントーン で表した。

4　篦削りの方向は ⟶ で示した。

5　法量の単位はすべてcmであり、明確でない場合は（　　）で示した。

6　出土遺物一覧表の器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」と記載した。なお色調は農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版　標準土色帖』１９８８年　を用いて判別した。

7　遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。

本 文 目 次

序

例　　言

凡　　例

第一章　序説　……1

第1節　調査に至る経過　……1（中沢）

第2節　調査の方法　……3（〃）

第3節　調査日誌　……4（〃）

第二章　遺跡の環境　……5

第1節　自然的環境　……5（川上）

第2節　歴史的環境　……8（〃）

第3節　遺跡の基本層序　……10（中沢）

第三章　調査の結果　……11

第1節　竪穴住居址　……11

1　第1号住居址　……11（中沢）

2　第2号住居址　……15（〃）

3　第3号住居址　……21（倉沢）

4　第4号住居址　……24（中沢）

5　第5号住居址　……29（〃）

6　第6号住居址　……33（〃）

7　第7号住居址　……34（〃）

8　第8号住居址　……38（〃）

9　第9号住居址　……42（〃）

10　第10号住居址　……52（〃）

11　第11号住居址　……53（猪熊）

12　第13号住居址　……62（中沢）

13　第14号住居址　……69（中沢）

14　第15号住居址　……70（〃）

15　第16号住居址　……71（猪熊）

16　第17号住居址　……72（〃）

第2節　掘立柱建物址　……88

1　第1号掘立柱建物址……88（倉沢）

2　第2号掘立柱建物址……88（〃）

3　第3号掘立柱建物址……92（猪熊）

第3節　土壙　……93

1　A区の土壙　……93（中沢）

2　C区の土壙　……95（猪熊）

第4節　溝址　……102

1　第1号溝址　……102（猪熊）

2　第2号溝址　……102（〃）

第5節　ピット　……103

（中沢・猪熊）

第6節　遺構外出土遺物　……114

第四章　調査のまとめ　……129（川上）

図　版　……103

あとがき　……167（中沢）

挿 図 目 次

第１図　殿城地区ほ場整備計画図
第２図　林之郷遺跡の周辺遺跡分布図…… 6
第３図　土層模式図 ……10
第４図　第１号住居址実測図 ……12
第５図　第１号住居址出土遺物実測図……13
第６図　第２号住居址実測図 ……15
第７図　第２号住居址竈実測図 ……16
第８図　第２号住居址出土遺物実測図(1)…17
第９図　第２号住居址出土遺物実測図(2)…18
第10図　第３号住居址実測図 ……20
第11図　第３号住居址竈実測図 ……22
第12図　第３号住居址出土遺物実測図(1)…22
第13図　第３号住居址出土遺物実測図(2)…23
第14図　第４号住居址実測図 ……25
第15図　第４号住居址竈実測図 ……26
第16図　第４号住居址出土遺物実測図(1)…26
第17図　第４号住居址出土遺物実測図(2)…27
第18図　第５号住居址実測図 ……29
第19図　第５号住居址竈実測図 ……30
第20図　第５号住居址出土遺物実測図……31
第21図　第６号住居址実測図 ……33
第22図　第６号住居址出土遺物実測図……34
第23図　第７号住居址実測図 ……35
第24図　第７号住居址竈実測図 ……36
第25図　第７号住居址出土遺物実測図(1)…36
第26図　第７号住居址出土遺物実測図(2)…37
第27図　第８号住居址実測図 ……39
第28図　第８号住居址出土遺物実測図……41
第29図　第９号住居址実測図 … 43,44
第30図　第９号住居址竈実測図 ……45
第31図　第９号住居址出土遺物実測図(1)…48
第32図　第９号住居址出土遺物実測図(2)…49
第33図　第９号住居址出土遺物実測図(3)…50
第34図　第10号住居址実測図 ……51
第35図　第10号住居址出土遺物実測図……51
第36図　第11号住居址実測図 ……53
第37図　第11号住居址竈実測図 ……54
第38図　第11号住居址出土遺物実測図(1)…55
第39図　第11号住居址出土遺物実測図(2)…56
第40図　第11号住居址出土遺物実測図(3)…57
第41図　第11号住居址出土遺物実測図(4)…58
第42図　第13号住居址実測図 ……63
第43図　第13号住居址竈実測図 ……63
第44図　第13号住居址出土遺物実測図(1)…66
第45図　第13号住居址出土遺物実測図(2)…67
第46図　第13号住居址出土遺物実測図(3)…68
第47図　第14号住居址実測図 ……69
第48図　第15号住居址出土遺物実測図……70
第49図　第15号住居址実測図 ……71
第50図　第16・17号住居址実測図 ……74
第51図　第16・17号住居址竈実測図 ……74
第52図　第16号住居址出土遺物実測図(1)…79
第53図　第16号住居址出土遺物実測図(2)…80
第54図　第16号住居址出土遺物実測図(3)…81
第55図　第16号住居址出土遺物実測図(4)…82
第56図　第16号住居址出土遺物実測図(5)…83
第57図　第17号住居址出土遺物実測図(1)…86
第58図　第17号住居址出土遺物実測図(2)…87
第59図　第１号掘立柱建物址実測図 …89,90
第60図　第２号掘立柱建物址実測図 ……91
第61図　第３号掘立柱建物址実測図 ……92
第62図　Ａ区土壙実測図 ……94
第63図　Ｃ区土壙実測図(1) ……96
第64図　Ｃ区土壙実測図(2) ……96
第65図　第15号土壙出土遺物実測図(1)……100
第66図　第15号土壙出土遺物実測図(2)……101
第67図　第１号溝址実測図 ……102
第68図　第２号溝址実測図 ……103
第69図　Ａ区ピット実測図(1) ……106
第70図　Ａ区ピット実測図(2) ……107
第71図　Ａ区ピット実測図(3) ……108
第72図　Ａ区ピット実測図(4) ……109
第73図　Ｃ区ピット実測図(1) ……109
第74図　Ｃ区ピット実測図(2) ……110
第75図　Ｃ区ピット実測図(3) ……111
第76図　Ａ区ピット出土遺物実測図(1)……112
第77図　Ａ区ピット出土遺物実測図(2)……113
第78図　Ｃ区ピット出土遺物実測図 ……113
第79図　Ａ区グリッド出土遺物実測図……114
第80図　Ｃ区グリッド出土遺物実測図(1)…115

第81図　C区グリッド出土遺物実測図(2) 116
第82図　C区グリッド出土遺物実測図(3) 117
第83図　C区グリッド出土遺物実測図(4) 118
第84図　C区グリッド出土遺物実測図(5) 119
第85図　C区グリッド出土遺物実測図(6) 120
第86図　C区グリッド出土遺物実測図(7) 121
第87図　C区グリッド出土遺物実測図(8) 122
第88図　C区グリッド出土遺物実測図(9)…123
第89図　C区グリッド出土遺物実測図(10)…125
第90図　C区グリッド出土遺物実測図(11)…126
第91図　C区グリッド出土遺物実測図(12)…127
第92図　C区グリッド出土遺物実測図(13)…128
第93図　A区遺構全体図　131,132
第94図　C区遺構全体図　……133

表　目　次

第１表　林之郷遺跡と周辺遺跡一覧表…… 7
第２表　第１号住居址出土遺物一覧表(1)…12
第３表　第１号住居址出土遺物一覧表(2)…14
第４表　第２号住居址出土遺物一覧表(1)…18
第５表　第２号住居址出土遺物一覧表(2)…19
第６表　第３号住居址出土遺物一覧表(1)…23
第７表　第３号住居址出土遺物一覧表(2)…24
第８表　第４号住居址出土遺物一覧表(1)…27
第９表　第４号住居址出土遺物一覧表(2)…28
第10表　第５号住居址出土遺物一覧表……32
第11表　第６号住居址出土遺物一覧表……34
第12表　第７号住居址出土遺物一覧表……38
第13表　第８号住居址出土遺物一覧表(1)…40
第14表　第８号住居址出土遺物一覧表(2)…42
第15表　第９号住居址出土遺物一覧表(1)…46
第16表　第９号住居址出土遺物一覧表(2)…47
第17表　第９号住居址出土遺物一覧表(3)…48
第18表　第10号住居址出土遺物一覧表……52
第19表　第11号住居址出土遺物一覧表(1)…58
第20表　第11号住居址出土遺物一覧表(2)…59
第21表　第11号住居址出土遺物一覧表(3)…60
第22表　第11号住居址出土遺物一覧表(4)…61
第23表　第11号住居址出土遺物一覧表(5)…62
第24表　第13号住居址出土遺物一覧表(1)…64
第25表　第13号住居址出土遺物一覧表(2)…65
第26表　第13号住居址出土遺物一覧表(3)…66
第27表　第15号住居址出土遺物一覧表……70
第28表　第16号住居址竈出土坏の法量比率73
第29表　第16号住居址出土遺物一覧表(1)…75
第30表　第16号住居址出土遺物一覧表(2)…76
第31表　第16号住居址出土遺物一覧表(3)…77
第32表　第16号住居址出土遺物一覧表(4)… 78
第33表　第16号住居址出土遺物一覧表(5)… 79
第34表　第17号住居址出土遺物一覧表(1)… 84
第35表　第17号住居址出土遺物一覧表(2)… 85
第36表　第15号土壙出土遺物一覧表(1)…… 97
第37表　第15号土壙出土遺物一覧表(2)…… 98
第38表　第15号土壙出土遺物一覧表(3)…… 99
第39表　第15号土壙出土遺物一覧表(4)……100
第40表　ピット一覧表(1) ……104
第41表　ピット一覧表(2) ……105
第42表　A区ピット出土遺物一覧表(1) …111
第43表　A区ピット出土遺物一覧表(2) …112
第44表　C区ピット出土遺物一覧表 ……113
第45表　A区グリッド出土遺物一覧表……114
第46表　C区グリッド出土遺物一覧表(1)…115
第47表　C区グリッド出土遺物一覧表(2)…115
第48表　C区グリッド出土遺物一覧表(3)…115
第49表　C区グリッド出土遺物一覧表(4)…116
第50表　C区グリッド出土遺物一覧表(5)…118
第51表　C区グリッド出土遺物一覧表(6)…119
第52表　C区グリッド出土遺物一覧表(7)…120
第53表　C区グリッド出土遺物一覧表(8)…121
第54表　C区グリッド出土遺物一覧表(9)…122
第55表　C区グリッド出土遺物一覧表(10)…123
第56表　C区グリッド出土遺物一覧表(11)…124
第57表　C区グリッド出土遺物一覧表(12)…126
第58表　C区グリッド出土遺物一覧表(13)…126
第59表　C区グリッド出土遺物一覧表(14)…127
第60表　C区グリッド出土遺物一覧表(15)…127
第61表　C区グリッド出土遺物一覧表(16)…127

写　真　図　版　目　次

巻頭図版１　林之郷遺跡Ａ区遠景

巻頭図版２　林之郷遺跡Ｃ区全景

図　版　１　林之郷遺跡付近航空写真…… 137

図　版　２　Ａ区遠景、第１号住居址…… 138

図　版　３　第１号住居址出土遺物…… 139

図　版　４　第２号住居址・竈…… 140

図　版　５　第２号住居址出土遺物…… 141

図　版　６　第３号住居址・竈…… 142

図　版　７　第３号住居址出土遺物…… 143

図　版　８　第４号住居址・竈・出土遺物…… 144

図　版　９　第５号住居址・出土遺物…… 145

図　版　10　第６号住居址・出土遺物、第７号住居址…… 146

図　版　11　第７号住居址出土遺物、Ａ区遠景…… 147

図　版　12　第８号住居址・出土遺物…… 148

図　版　13　第９号住居址・竈…… 149

図　版　14　第９号住居址出土遺物　(1)…… 150

図　版　15　第９号住居址出土遺物　(2)…… 151

図　版　16　第10号住居址・出土遺物、調査風景…… 152

図　版　17　第11号住居址・竈…… 153

図　版　18　第11号住居址出土遺物　(1)…… 154

図　版　19　第11号住居址出土遺物　(2)、Ｃ区遠景…… 155

図　版　20　第13号住居址・出土遺物　(1)…… 156

図　版　21　第13号住居址出土遺物　(2)…… 157

図　版　22　第15号住居址・出土遺物…… 158

図　版　23　第16・17号住居址・竈…… 159

図　版　24　第16号住居址出土遺物　(1)…… 160

図　版　25　第16号住居址出土遺物　(2)…… 161

図　版　26　第17号住居址出土遺物…… 162

図　版　27　第１号、第２号掘立柱建物址…… 163

図　版　28　ピット出土遺物…… 164

図　版　29　グリッド出土遺物、Ａ区遠景…… 165

図　版　30　現地説明会、作業員記念写真…… 166

第一章　序　　説

第１節　調査に至る経過

昭和62年６月23日付け農村発第80号で、上田市農政部農村整備課から「県営ほ場整備事業殿城地区における埋蔵文化財発掘調査について（協議）」として上田市殿城地区のほ場整備事業を昭和６３年度新規採択事業として計画している旨の協議があった。これによれば、上田市上青木地区から赤坂地区に及ぶ神川第二段丘上の水田、畑地等 130haを総事業費 1,820,000千円をもって営農の近代化と作物生産性の向上を図るため、ほ場整備を実施するというものである。

この事業区内には林之郷遺跡をはじめとする周知の埋蔵文化財包蔵地９ヶ所が存在しており、その総面積が86,000㎡に及び、かつてない調査量が予想された。上田市教育委員会事務局（以下市教委という）では昭和63年６月29日付け上教社発第 100号で、事業の実施に当たっては埋蔵文化財の保護について十分な配慮と各事業年度ごとの遺跡保護協議を持つよう回答した。この後、昭和63年度事業に係る林之郷遺跡の保護協議を９月14日、11月６日の２回にわたって長野県教育委員会文化課、長野県上小地方事務所（事業主体者）、上田市農村整備課、市教委及び地元研究者である塩入秀敏氏を交えて開催し、その結果、調査面積 1,800㎡以上を総事業費10,000千円（農政部局側負担楽 7,250千円、文化財保護部局側負担額＝農家負担分 2,750千円）で発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図ることとなった。

ところが、昭和62年度も押詰まった昭和63年３月５日、事業主体者である上小地方事務所から62上小土改第 162号で、新たに「ふれあい農園整備プロジェクト事業」が同地区で県営ほ場整備事業と併せて28haにわたって実施する旨の協議があった。これによれば、遺跡の事業に係る面積は61,250㎡に及び、約 100,000千円にのぼる調査が必要とされた。この事業量は上田市では未曾有の調査量であり、市教委としては、これだけの調査への対応は「不可能」であるとの回答をせざるを得なかった。

この後、上小地方事務所、市教委で事業への対応策をそれぞれ検討し、昭和63年６月10日、再度文化課指導主事を交えて保護協議を開催した。この席上で上小地方事務所から事業の縮小案が呈示され、一方市教委では至急遺跡の試掘調査を実施し、この結果をもとに改めて協議を行う旨の確認がされた。

市教委では７月６日から９日にわたって事業地区内に６本のトレンチを設定した試掘調査を実施した。この結果、平安時代前期を中心とした遺物包含層が地表から30～40㎝のレベルで存在すること、遺跡の範囲は当初予想されたものよりやや狭いことが判明した。

７月21日、第４回目の保護協議を行い、ようやく下記の計画を以て昭和６３年度のほ場整備事業に係る遺跡の保護協議が成立したのである。

発掘調査地	上田市大字林之郷字金井、字狐塚
遺跡名	林之郷遺跡
発掘調査の目的及び概要	開発事業、県営ふれあい農園整備事業殿城地区に先立ち、2,200㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。 調査報告書は昭和64年3月25日までに刊行するものとする
調査に要する経費	12，200，000円
発掘調査の主体者	上田市教育委員会
経費の負担割合	上小地方事務所　9，211，000円（75.5%） 上田市教育委員会　2，989，000円（24.5%）

この計画にしたがい、市教委では上小地方事務所から調査の事業委託を受託するとともに、新たに林之郷遺跡発掘調査団を編成し、調査団長である赤羽奈氏（上田市教育委員会教育長）に事業委託して調査を実施することとした。7月28日、調査団会議を開催し、各調査員に委嘱書が交付され、調査の予定、方法等について検討を加えた。

これと並行して7月26日には調査に係る地元説明会を柳沢ほ場整備実行委員長以下関係者の参加を得て開催した。席上、地権者からは、予想されたこととはいえ、水田・畑の作付けの途中で耕作を中断することに対して若干の反発があり、会議はやや紛糾した。しかし、ほ場整備の工期から逆算すると、8月には調査に着手しないと間に合わなくなる可能性があること、埋蔵文化財をここで記録に残しておかないと将来に過悔を残すことを説明し、御承諾を願った。このことは、開発側、文化財保護側の調整を早期から段取り、万全の態勢で調査に臨むべき点、反省材料として銘記せねばならない。

最終的には地元の皆さんに御承諾をいただき、8月2日には作業員を対象とした調査の説明会を国分寺資料館で行い、同日発掘機材の搬入、テントの設営をし、翌3日には鍬入式を挙行し、本格的に調査に着手した。

調査の概要とその結果は別章に掲げるとおりであるが、概ね順調に進渉し、10月中旬には現場調査をほぼ完了、漸次上田市農村環境改善センターにおいて整理作業、報告書作製へと作業を進め、平成元年3月25日、調査報告書を刊行して調査を終了した。

第2節　調　査　の　方　法

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称「林之郷遺跡」とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡記号としてＨＡＹＡＳＨＩ－ＮＯ－ＧＯＵのＨＮＧを組合わせて与えた。各種の記録や遺物の注記等はこの記号を用いている。さらに、各地区にアルファベット順に地区名を与え、例えばＡ地区の地区記号はＨＮＧ－Ａとした。なお、当初Ａ・Ｂ・Ｃの３地区を設定して調査を開始したが、途中でＡ地区とＢ地区が繋がったため、Ｂ地区を廃止してＡ、Ｂ地区合わせてＡ地区とした。

この調査地区の設定については、予め試掘ピットを掘り、おおよその範囲は把握していたものの、ピットの密度が極めて粗かったため、本発掘に際しては改めてトレンチ調査を行い、遺跡の性格と土層の把握をし、併せて面的調査の範囲＝調査区の設定を行った。

面的調査については、表土、耕作土の排除はすべてバックホーを用い、その後の作業は人手によった。なお、面的調査に際しては、グリッドを設定し、遺物の取上げ、遺構測量に利用した。このグリッド杭の設定については、国家座標のメッシュに従い、遺跡周辺の三角点の座標値からＡ地区西側に引張り、この点を基準点として30×30ｍの大グリッドを設定し、この中をさらに３×３ｍのメッシュに区切って、グリッドを設定した。すなわち、大グリッド内に 100の小グリッドが設定される訳である。

なお、基準点の座標値はＸ＝42,942.000, Ｙ＝-18,240.000 であり、上田地区は国家座標第Ⅷ量系に属している。

第3節　調　査　日　誌

昭和６３年

８月２日（火）曇り	午後１：００～作業説明会の後、国分寺資料館から発掘機材を現地へ搬入。テント設営
８月３日（水）曇時々雨	午前９：００鍬入式。重機による試掘トレンチＴｒ－１～６設定をし、平面調査区を決定する。
８月５日（金）晴れ	Ａ地区遺構検出作業、Ｂ地区表土剝ぎ・遺構検出作業、ＳＢ－０１検出
８月８日（月）曇時々晴	Ｂ地区表土剝ぎ・遺構検出作業。字狐塚地籍の重機による試掘トレンチ設定、Ｃ地区として平面発掘するととする。 国分寺資料館夏休み考古学教室で小学生２０名ほど来訪。Ａ地区の遺物収集を行う。

8月12日（金）曇り	業者に委託した国家座標が調査区西側に取付けられる。これに合わせてグリッドの設定（3m×3m）を行う。
8月17日（水）曇後雨	A、B地区グリッド杭打ち。C地区遺構検出。
8月18日（木）晴れ	B地区遺構(SB-01～04）掘上げ開始。
8月22日（月）晴れ	B地区南辺に黒色の落込みがあり、遺構が延びている可能性があるためこれを拡張し、A地区と繋げることとする。
8月25日（木）曇後雨	A地区南側へ調査区を拡張。
8月27日（土）晴れ	SB－02、03竈堀上げ。SB－04完掘。
8月29日（月）晴れ	C地区遺構検出。未だに遺構のプランが把握できない。A地区では引続き重機による調査区の拡張を行う。
8月30日（火）晴れ	重機による表土剥ぎすべて完了。
8月31日（水）晴れ	C地区遺構検出。重機の出入りにより崩れた畦畔の石積を直す。
9月1日（木）晴れ	A地区南拡張区遺構検出。SB－01、02床面精査。
9月3日（土）曇時々晴	SB－03覆土内から未焼成の須恵器辺（底部？）出土
9月5日（月）曇時々雨	SB－04～08掘上げ
9月7日（水）曇時々晴	昨日来の雨でA地区水没し、この排水作業にかかる。C地区SB－11から緑釉陶器の坏・蓋片出土
9月13日（火）晴れ	SB－06床面に繊維質の炭化物ひろがる。C地区はサブトレンチを設定し遺構検出に努めるが明確なプランは摑めない。
9月18日（日）晴れ	第1号掘立柱建物址ピット掘り上げ。本日から簡易遣り方による遺構平面図（1/20）作成に掛かる。
9月21日（水）晴れ	昨日来の雨で再びA地区水没、この排水に一日かかる。
9月26日（月）曇り	24～25日の雨で再びA地区水没、この排水に一日かかる。
9月27日（火）曇後雨	C地区遺構検出作業、A地区遺構実測
9月30日（金）曇後雨	C地区遺構掘上、A地区全体清掃
10月2日（日）晴れ	A、C地区遺構掘上作業、遺構実測
10月4日（火）晴れ	C地区遺構清掃、写真撮影、遺構実測
10月5日（水）曇後雨	発掘機材のうち主だったものを撤収、テントも外す。

以後、遺構実測と遺構の細部掘上げを若干の調査員・作業員で行い、10月17日遺跡全景写真を㈱富永調査事務所に委託して実施し、全ての現場調査を終了した。

こののち、上田市農村環境改善センターにおいて整理・報告書作製作業を実施し、平成元年3月25日、調査報告書を刊行してすべての調査を終了した。

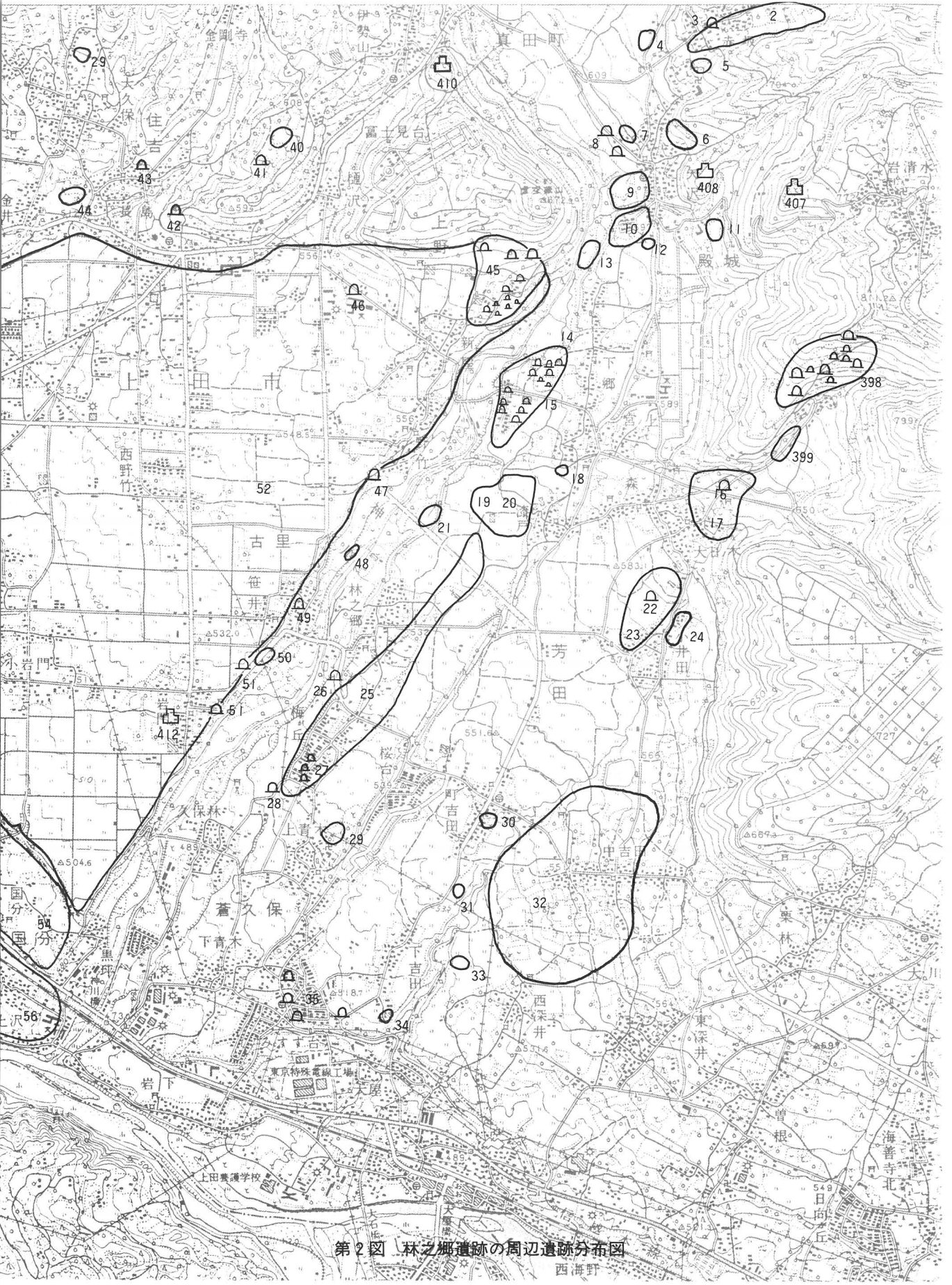
第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境

林之郷遺跡の位置する地域は、地形的にみると大きくは千曲川右岸に展開する上田盆地の東側にあたる。ここはとくに上田盆地の北東部にそびえる四阿山（2332m）に源をもつ神川によって形成された一大扇状地形を呈した地域である。神川左岸の神川扇状地では、第１段丘面・第２段丘面・第３段丘面および赤坂集落の谷口扇状地などから構成されている。第１段丘面では標高約５８０mの大日ノ木集落付近を頂点として半径４kmの規模で南に広がり、その扇端部は５００mの等高線をもって段丘崖として終わっている。またこの押出しが第２段丘にもおよび、新しい扇状地をつくっている。現在の神川は回春して下刻し、この面よりかなり低いところを流れているが、長い年月のうちに流路が次第に西に偏したため、このように南北方向に見事な三段の段丘を形成しているといえるのである。

第１段丘面は現河床面より約２０～３０mの比高をもち、森・大日ノ木・小井田・町吉田などの各集落が立地する広い面で、通称吉田面と呼ばれている。この面の地質は神川の運んだ厚い砂礫層からなり、地表面は１～２mほどの厚さをもつローム層に覆われている。古くから周辺の神明川や瀬沢川から、この面に水を取り入れたり、また吉田堰（童女堰）の開削などによる開拓が行われたため、現在立派な水田地帯となっている。しかし、昭和６２年度この面の大字芳田字訳口上に所在する訳口上遺跡の発掘調査を実施した地域では、水便の悪さのため、下流の水田地帯へ田用水を公平に配分する用水堰の分配施設としての「訳口」が字名になったとみられ、水に苦心をしたかつての歴史をみた。近年この面の段丘崖に沿って、桜台・みすず台などの住宅団地もでき、また浅間山麓広域農道などの開通に伴って、様相が一変しつつある。

第２段丘面は今回発掘調査を実施した林之郷遺跡の位置する面で、第１段丘より約１０～１２m低く形成されている。この面も比較的広く林之郷や上青木など五つの集落があり、林之郷面と呼ばれている。地質も第１段丘面に比べて、あまりローム質の強くない土層で比較的通水性もよく、またいくつかの用水堰に恵まれているため、現在同様に広い水田地帯になっている。この面もまた宅地化の波が押しよせてきていることもいなめない。調査を行った林之郷集落周辺では、住宅のある部分がやや高い微高地となっており、集落東側即ち第１段丘崖下で低くなる。いわゆる後背湿地の様相を呈していることがわかる。遺跡の主体部は、したがってこの若干高い部分の集落の中で、さらに一帯に広がっていることが分布調査で確認されている。また、第３段丘面は全体的には神川氾濫原としての比較的狭い平坦面としてとらえられている。この段丘面に包括されている久保林集落のあるところは、２～３m高い微段丘を形成して安全な平坦地となっている。この面は久保林面と呼ばれているところであるが、やはり近年宅地化が急速に進行しており、か



第２図　林之郷遺跡の周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	備考	番号	遺跡名	時代	備考
2	石矢遺跡	縄弥平		30	荒神田遺跡	平	
3	赤坂将軍塚古墳	古	市指定史跡	31	訳口上遺跡	奈～平	1987年度調査
4	托田遺跡	縄・平		32	中吉田遺跡	縄弥平	
5	北屋敷遺跡	縄・平		33	今井遺跡	平	
6	城山遺跡	縄		34	いなご坂遺跡	縄	
7	上組遺跡	平		35	吉田原古墳群	古	
8	矢沢古墳	古		39	中道遺跡	縄・弥	
9	宿組遺跡	平		40	上野東遺跡	縄	
10	平沢遺跡	平		41	陣馬塚古墳	古	
11	下左口遺跡	縄		42	玄馬塚古墳	古	
12	下樋口遺跡	平		43	熱泰寺古墳	古	
13	石坪遺跡	弥		44	熱泰寺遺跡	縄	
14	神林遺跡	縄弥平		45	七ツ塚古墳群	古	市指定史跡
15	下郷古墳群	古		46	塚田塚古墳	古	
16	大日の木古墳	古		47	野竹塚古墳	古	
17	大日の木遺跡	縄弥平		48	篠井久保遺跡	弥・平	
18	北の平遺跡	平		49	笹井塚古墳	古	
19、20	八千原・堂下遺跡	縄～平		50	掛の宮遺跡	縄・古	
21	太田遺跡	平		51	掛の宮古墳	古	
22	柴崎古墳	古		52	染屋台条里水田跡遺跡	弥～平	'84,'85 調査
23	井戸田遺跡	縄弥平		54	国分遺跡群	弥～平	
24	尾無遺跡	縄、平		56	国分周辺遺跡群	縄～平	
25	林之郷遺跡	縄～平		398	氷沢古墳群	古	
26	日ノ井古墳	古		399	氷沢遺跡	縄・平	
27	高寺古墳群	古		407	矢沢氏支城跡	近	
28	生地場古墳	古		410	伊勢崎城跡	近	
29	中村II遺跡	縄		412	岩門城跡	近	

〔縄…縄文　弥…弥生　古…古墳　奈…奈良　平…平安　近…近世〕

第1表　林之郷遺跡と周辺遺跡一覧表（番号は長野県遺跡番号による）

つての景観が変貌している。

一方、神川右岸の染屋面では２５m内外の急崖となっており、わずかにベンチ状に第２・第３段丘が形成されているだけである。これは前述のとおり、神川の流路が下刻と同時に漸次西偏したため、東側の左岸では見事な段丘となるのに対して、右岸では浸食され段丘が形成されにくいといえる。

第２節　歴史的環境

上田市域の東側にあたる一帯の歴史的環境を見てみると、とくに考古学的遺跡では烏帽子岳西南麓に分布する遺跡として把握され、各段丘からは縄文期から奈良・平安時代に属すいくつかの遺物・遺構が確認されている。

今回調査を実施した第２段丘面の考古遺跡から概観すると、まず一連の林之郷遺跡群のなかに包括される遺跡としては、蒼久保・林之郷・漆戸地籍にまたがる茅御堂・境田・貝戸・池田・狐塚・松ノ木・下ノ畑などの各遺跡がある。また、この遺跡群の北側にも林之郷地籍の太田、漆戸地籍の堂下・ヤチ原・北の平などの遺跡が知られ、南側では蒼久保地籍の中村Ⅱ遺跡が分布調査等によって確認されている。このうちとくに太田・茅御堂の両遺跡は、昭和４９年広域農道開削に伴う事前の発掘調査が行われ、太田遺跡からは古墳時代鬼高期の住居址４軒、同期の高床状遺構、また平安時代国分期の住居址４軒とこれらに伴う豊富な遺物を検出した。また茅御堂遺跡からも古墳時代五領期・和泉期・鬼高期の各住居址および集石遺構・竪穴遺構とそれぞれに伴う遺物が検出され、この地域の様相がかなり明らかにされたのである。堂下遺跡からは縄文中期加曽利Ｅ式土器・後期の堀之内式土器片・打製石斧・石棒・土偶さらに弥生後期の箱清水式土器片、土師器などが発見された。また、ヤチ原遺跡からはやはり縄文中期の土器片・磨製石斧・石棒が出土し、北ノ平遺跡からは若干の後半期の土師器が採集された。古墳は遺跡群の中の南側、蒼久保字中村に高寺古墳１・２・３号墳が、およそ３０m前後の間隔で南北に並んでいる。いずれもほとんど破壊された古墳で、正確な規模は不明であるが、３号墳の残存状態等から直径約５m・高さ約１mほどの比較的小規模な終末期古墳とみられる。同様な規模の生地場古墳が、高寺古墳のわずか西南部の墓地内にある。また、林之郷字塚田の段丘端部にも日ノ井古墳がある。この古墳も墓地内にあり、墳丘が破壊され石室が露出しているが、直径約９mほどの円墳とみられる。なお、対岸の第２段丘面にあたる笹井地籍にも、笹井塚古墳・掛ノ宮塚古墳また第１段丘面の社宮寺古墳等の小規模な終末期古墳があり注意される。このうちとくに笹井塚古墳からは、かつて直刀２本と刀子などが発見されている。

第１段丘面では、小井田集落を中心として縄文中期加曽利Ｅ式土器・石鏃・打製石斧・凹石・砥石、弥生後期箱清水式土器および土師器・須恵器など豊富な遺物を出土する井戸田遺跡、縄文中期土器・土師器などを出土する尾無遺跡、平安期とみられる土師器を出土する戎田遺跡などが

ある。また、中吉田集落一帯に広がる中吉田遺跡群は、この面における最も豊富な資料を提供している遺跡として知られる。この遺跡群の中心は次郎淵と無量寺の両遺跡で、前者からは縄文中期勝坂式土器片、弥生後期箱清水式土器片、土師器・須恵器などが採集され、さらに子持勾玉も検出されており、注意される遺跡である。後者からは縄文中期加曽利E式土器、弥生後期土器、土師器・須恵器が採集されている。ここからは加曽利E期に比定される台付有孔鍔付土器も発見されており、本遺跡もとくに注意されている。

さらにこの遺跡群の西側に、いずれも後半期の土師器・須恵器を出土する荒神田遺跡、訳口上遺跡、今井遺跡が確認されている。このうち、昨年調査を実施した訳口上遺跡からは、奈良時代前半とみられるカマドを伴う住居址や溝址・土壙・ピットなどの遺構が検出された。また、この段丘面の古墳分布をみると、南側段丘崖のみすず台団地のほぼ中央部にある下青木吉田原古墳が現存するのみである。この古墳の墳丘は東西１５m、南北１３m、高さ４mの円墳で、石室内部は玄室と羨道の区分が明確ないわゆる両袖式で、石室の総長６．６mを計る横穴式石室をもっており、市指定史跡となっている。このほか周辺には、旗鉾塚古墳・寺沢古墳・尾無古墳など、古墳時代後期に属すいくつかの古墳がかつて存在したが、団地の造成等で破壊されてしまった。このうち、尾無古墳からは直刀・鉄鏃などが出土したという記録がある。

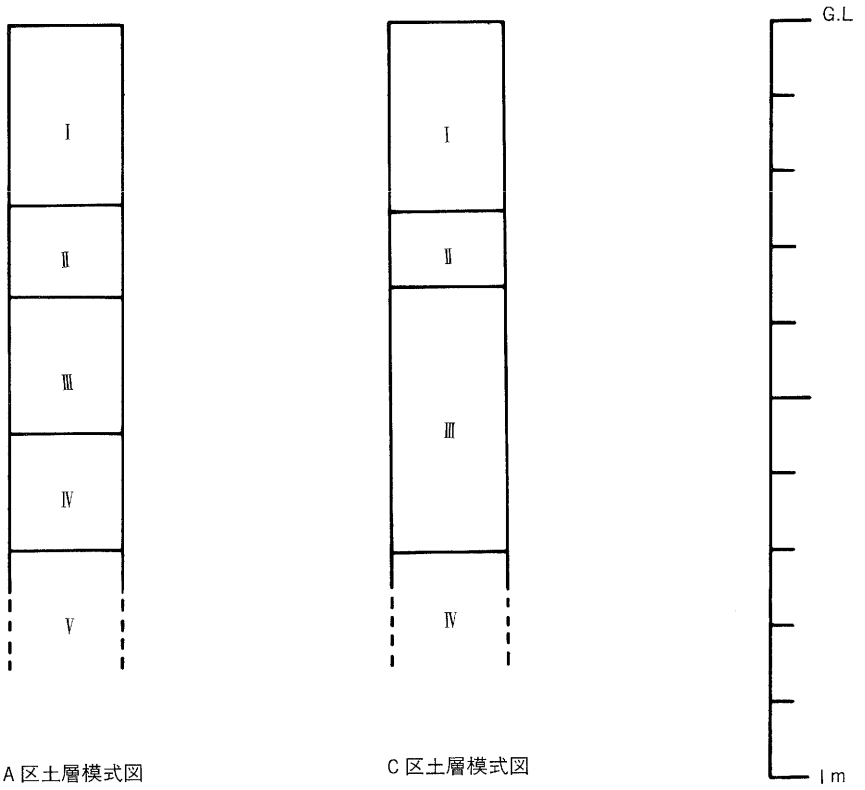
このように、神川扇状地周辺にはいくつかの考古遺跡が存在していることが知られ、林之郷遺跡はこうした考古的環境のなかにあるのである。

第３節　遺跡の基本層序

林之郷遺跡の基本的な土層は第３図に示したとおりである。

Ａ区の土層は上から、Ⅰ層の水田耕作土が厚さ20～30cmを測り、Ⅱ層の鉄分を含む溶脱土が10cm前後を測り、その下に黒褐色の遺物包含層が15～20cmの厚さで存在する。なお、遺跡の東側、後背湿地にかかる箇所ではⅡ層の直下は礫層となっている。Ⅲ層が主たる遺構検出面となった黄茶色の砂質土で、弱い粘性を持つ。Ⅳ層は50～60cmから頭・拳大の礫を多量に含む黄茶色土である。

Ｃ区の土層もＡ区のそれと基本的には同じであるが、過去に桑園となり、耕作が深く及んだため、遺構の破壊が著しく、Ⅲ層の遺物包含層がＡ区と比べると厚くなっている。



第 3 図　土層模式図

第三章　調査の結果

第１節　竪穴住居址

１　第１号住居址

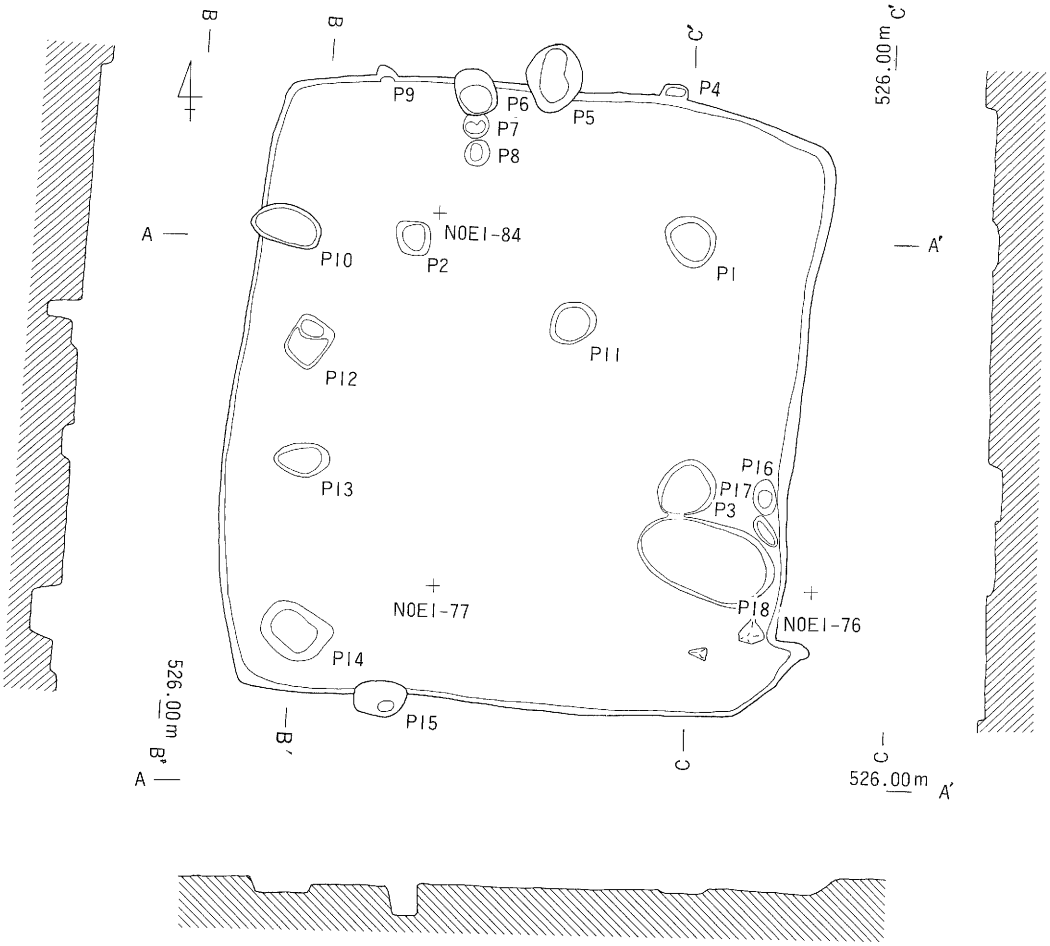
遺　構（第４図）

第１号住居址は、Ａ区Ｎ０Ｅ１－76,77,84,85,96,97グリッドにかけて検出された。南北5.0m東西 4.5mの隅丸方形を呈し、床面積は24.3㎡、主軸はＮ－13°－Ｅを指す。壁高は５～13cmを残し、周溝は検出されなかった。ピットは住居址内において１１個確認され、主柱穴はＰ１（44cm×36cm深さ５cm）、Ｐ２（27cm×28cm深さ25cm）、Ｐ３（49cm×42cm深さ11cm）と思われ、Ｐ12（32cm×37cm深さ６cm）、Ｐ13（45cm×28cm深さ５cm）、Ｐ14（54cm×41cm深さ22cm）は、あるいは壁に沿うように建てられた支柱穴ではないかと考えられる。その他のＰ４（21cm×15cm深さ５cm）、Ｐ５（55cm×45cm深さ４cm）、Ｐ６（38cm×30cm深さ７cm）、Ｐ７（19cm×18cm深さ４cm）、Ｐ８（21cm×20cm深さ８cm）、Ｐ９（17cm×12cm深さ０cm）、Ｐ10(57cm×32cm深さ７cm)、Ｐ11（28cm×12cm深さ５cm）、Ｐ15（42cm×28cm深さ22cm）、Ｐ16（28cm×18cm深さ８cm）、Ｐ17（28cm×12cm深さ５cm）についてはその性格が不明である。なお、Ｐ18(111cm×62cm深さ７cm）は貯蔵穴かとも思われる。覆土は１層で、若干の礫を含む黒色土層である。

竈は東壁最南端に位置するが、すでに壊滅状態であり、支脚と火床が残存するのみで、検出面の上層及び覆土から、竈の芯材に使用されたと思われる被熱した花崗岩が出土している。また竈周辺の覆土からは灯明皿が３点、羽釜片が出土している。

遺　物（第５図・第２・３表）

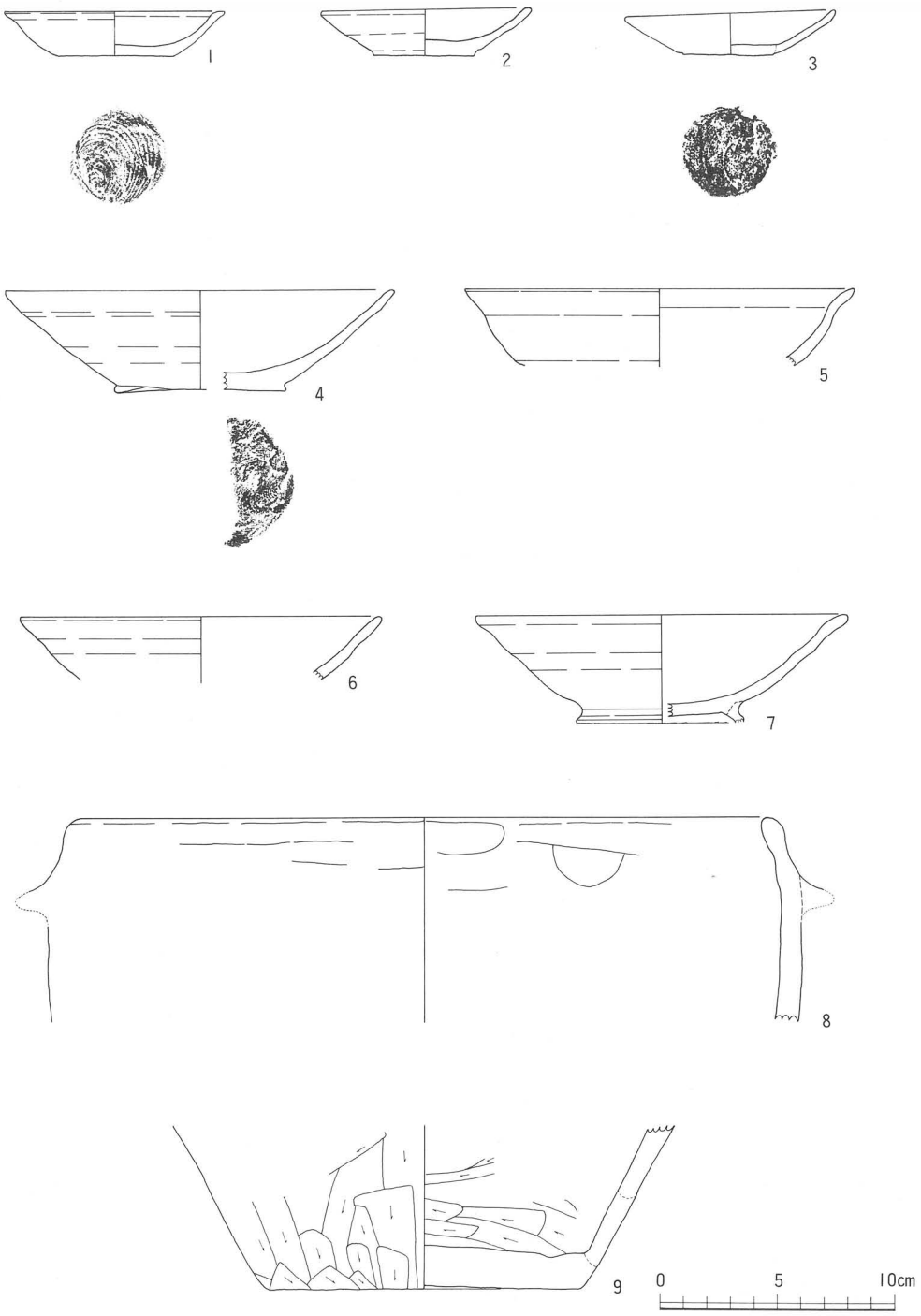
本住居址から出土した遺物は出土量が少なく、器種が判明したのは、土師質の皿３点、土師器坏４点、羽釜上部１点、羽釜もしくは鍋の底部１点等である。１～３の皿は同一の規格意図の下に作製された灯明皿かと思われ、３には芯材の煤けた痕跡が確認される。１には確認されないが、いずれもほぼ同一の底部粘土板に粘土帯を積み上げて作製したものであろう。４、５、６、７もまたスケールが近似値を示す土師器坏である。以上の土器はいずれも製作過程において轆轤を使用している。８は羽釜で、鍔の部分の接合が不完全であったためか、剝がれるように欠損している。９は８と同一の器質を有し、あるいは８の底部にあたるものかと思われる。



第４図　第１号住居址実測図

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	皿 土師	覆土	口径 9.4 器高 2.5 底径 1.9 底部完存 体部～口縁部 1/2	胎：0.2～0.4 の砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/6橙色 内7.5YR6/4にぶい橙色	底部から内彎気味に立上がり、口縁で短く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	2，3とほぼ同様の規格の下に作製か。轆轤右回転。						

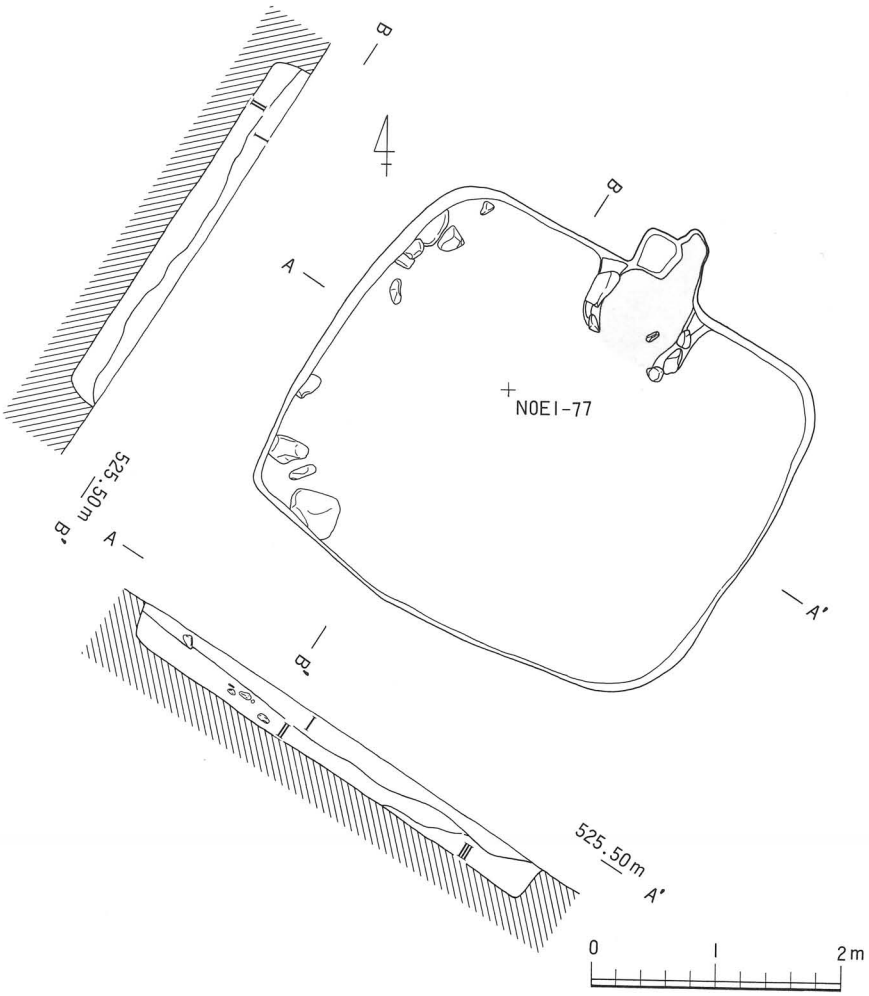
第２表　　第１号住居址出土遺物一覧表（１）



第５図　第１号住居址出土遺物実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
2	皿 土師	竈	口径 9.0 器高 4.2 底径 2.1 口縁部一部欠損	胎：0.1～0.4 の赤褐色砂粒含有 焼：良 色：外内5YR7/4にぶい橙色	粘土帯積み上げ、底部及び体部中位に接合痕が明瞭に残る。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部回転糸切りの後「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	1，3とほぼ同様の規格の下に作製か。轆轤右回転。						
3	皿 土師	覆土	口径 9.0 器高 3.8 底径 1.9 完形	胎：細砂粒含有 焼：良　堅緻 色：外5YR5/6明赤褐色　内2.5YR3/4暗赤褐色	粘土帯積み上げ。底部に接合痕が明瞭に残る。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部回転糸切りの後「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	1，2とほぼ同様の規格の下に作製か。轆轤右回転。						
4	坏 土師	竈	口径16.6 器高 4.3 底径 7.3 口縁 1/8 体部 1/3 底部 1/2	胎：0.4の礫含有 焼：良 色：外7.5YR7/6橙色　内7.5YR7/4にぶい橙色	轆轤成形。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」、体部～底部轆轤による「篦撫で」
備考	轆轤右回転。						
5	坏 土師	覆土	口径16.7 残高 3.3 口縁～体部 1/4	胎：0.1～0.2 の茶色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/6橙色　内7.5YR5/4にぶい橙色	轆轤成形 体部内彎し、口縁部で強く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」
備考							
6	坏 土師	覆土	口径15.4 残高 2.2 口縁部1/4	胎：0.1未満の細砂粒含有 焼：良　堅緻 色：外7.5YR6/4にぶい橙色　内5YR3/4赤褐色		口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」の後「篦撫で」	口縁部轆轤による「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」
備考							
7	坏 土師	覆土	口径15.8 残高 4.6 口縁部 2/3 底部 1/2	胎：0.1～0.4 の粗砂粒・礫含有 焼：良 色：外5YR6/8橙色　内5YR 6/4 にぶい暗赤褐色	底部からやや内彎気味に強く開き、口縁で外反する。 付け高台	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」 高台部横位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	底部整形技法不明。轆轤右回転。						
8	羽釜 土師	竈	口径29.1 残高 8.7 口縁部 1/8 胴部 1/20	胎：細砂粒含有 焼：不良 色：外2.5YR4/8赤褐色　内2.5YR4/6赤褐色	口縁部やや内彎する。	「撫で」	刷毛状工具による「撫で」
備考	9と同一個体か。						
9	羽釜 土師	竈	残高 7.0 底径13.4 胴部 1/8 底部完存	胎：0.2～0.6 の礫含有 焼：不良 色：外2.5YR4/8赤褐色　内2.5YR4/6赤褐色	平底 粘土帯積み上げ	胴部中位右上～左下、胴部下位縦、胴部と底部の接合部左上～右下へそれぞれ「篦削り」	横位の「篦撫で」
備考	8と同一個体か。						

第3表　第1号住居址出土遺物一覧表（2）



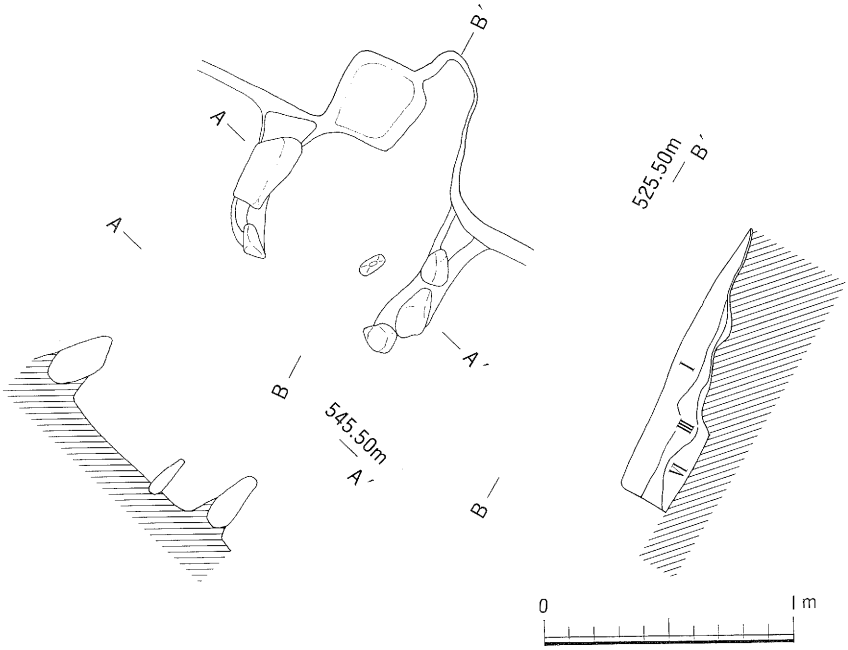
第６図　第２号住居址実測図

２　第２号住居址

遺　構（第６・７図）

第２号住居址はＡ区Ｎ０Ｅ１－76,77,84,85 グリッドにかけて検出された。南北 3.3m、東西 4.7mの隅丸方形を呈し、床面積は10.2㎡、主軸はＮ－31°－Ｅを指す。壁高は29～31cmを残し、周溝、柱穴は検出されなかった。床は竪緻に叩き締められていた。住居址覆土は３層に分層され、Ⅰ層が暗黄褐色土層、II層が礫を含む黒褐色土層、III層が黄黒褐色土層であった。

竈は北壁中央に位置し、比較的良く旧状をとどめているものと考えられる。両袖は明黄褐色の粘土で芯に石材を使用している。上部は石材が露出していた。支脚は竈内の東寄りに、長さ34cmの角柱状の河原石が埋め込まれた状態で検出された。なお、煙道の一部が当住居址廃絶後のピッ



第７図　第２号住居址竈実測図

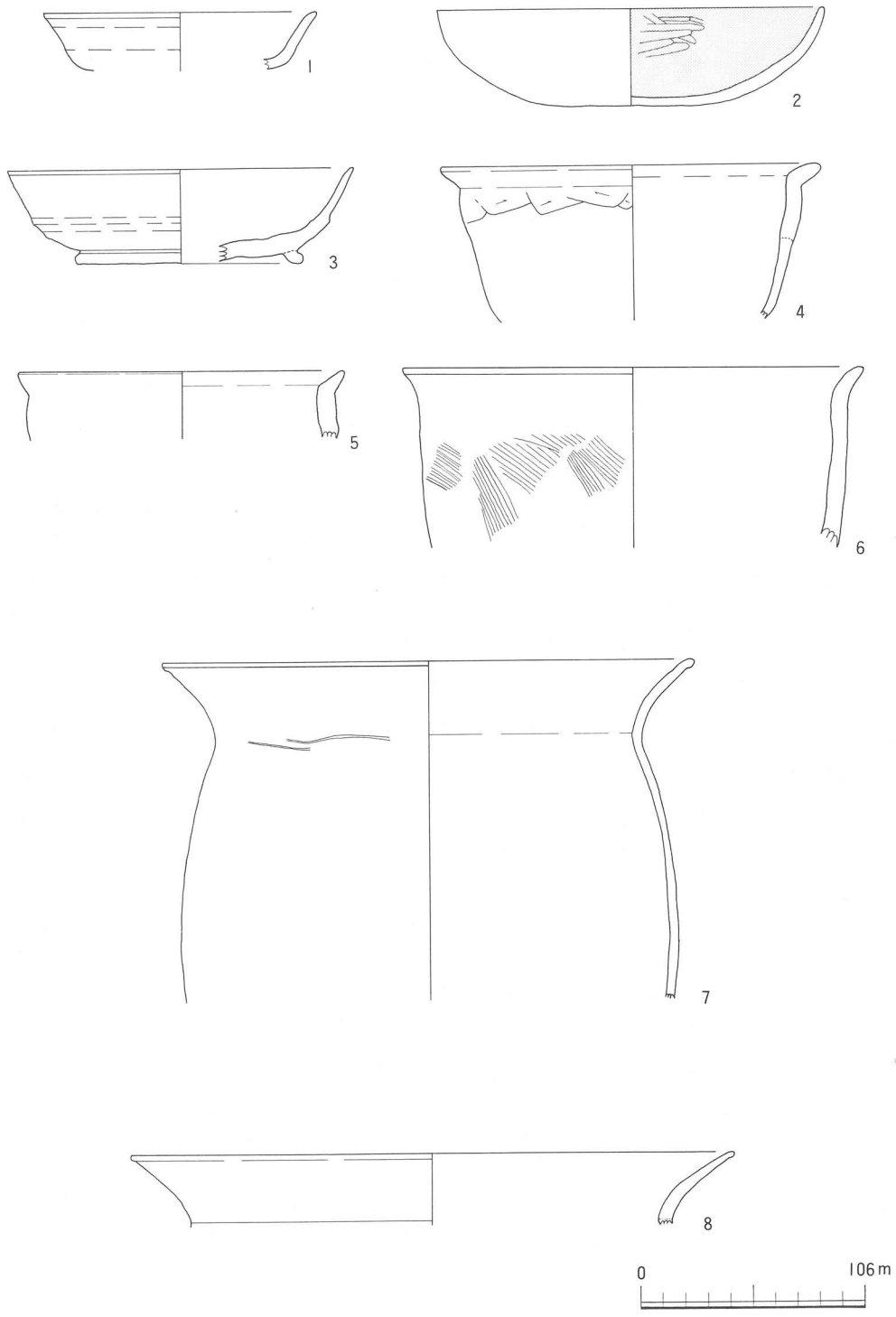
トにより破壊されている。土層堆積はＩ層が暗黄褐色土層、II層が焼土層、III層が若干の焼土を含む黒褐色土層、IV層が焼土、炭化物を多量に含む黒色土層であった。

遺　物（第８・９図、第４・５表）

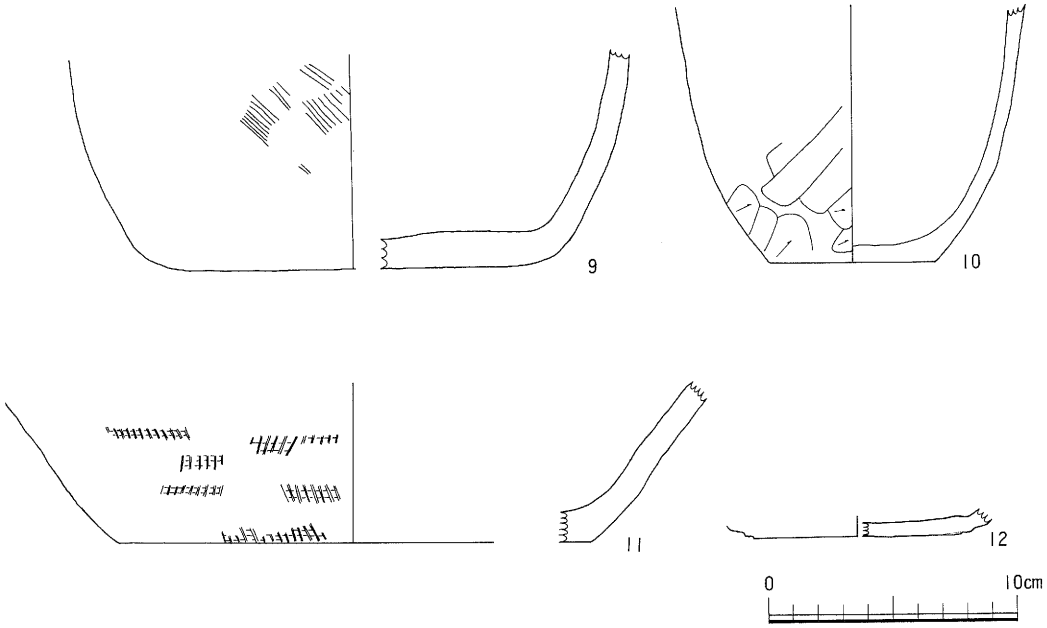
本住居址から出土した遺物量は比較的少ないが、図上復元可能な資料が15点出土している。このうち竈内からは２，３の坏、５，７，１０の甕が出土し、床面から６の甕（椀）が出土している。

２、３の坏はいずれも内面黒色処理がほどこされ、２は丁寧な研磨痕が見られる。３も研磨痕が僅かに見られるものの、磨耗が著しく、図示するに至らなかった。５、７は比較的小型の甕で、５は口縁から胴部にかけてすぼまっている。１０はごく薄い器厚の長胴甕で、胴部に緩やかな張りをもつ。６は器種が明らかでない。

その他、１，４，１４の須恵器は不完全な還元焔焼成である。１１、１２、１５の器種は明確ではない。



第 8 図　第 2 号住居址出土遺物実測図(1)



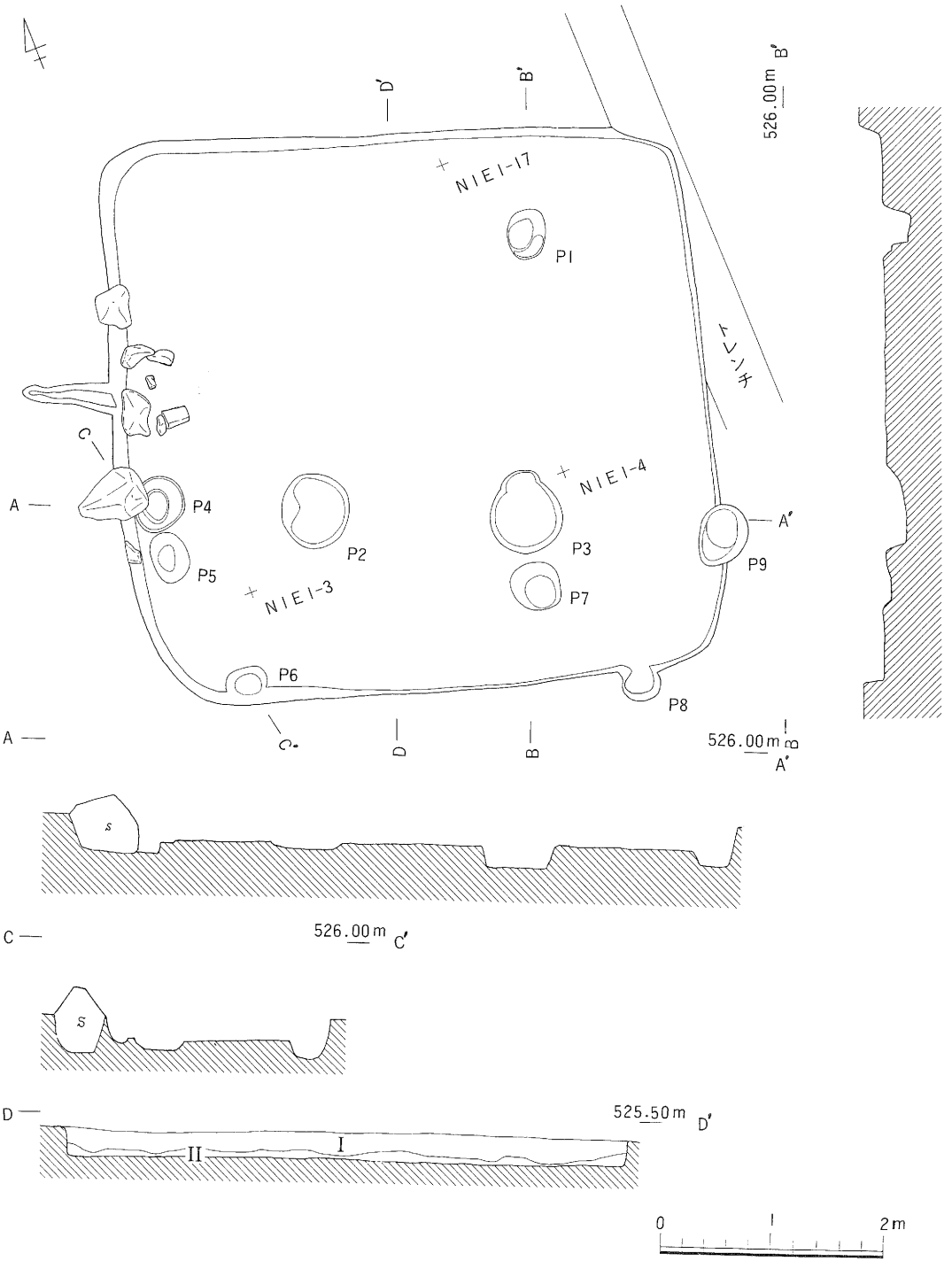
第９図　第２号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	 内
1	坏 須恵	覆土	口径12.1 残高 2.5 体部～口縁部 1/5残	胎：黒色・白色の細砂粒含有 焼：良 色：外5RP5/1紫灰色 内5PB7/1明青灰色	底部から内彎気味に立上がり、体部中位から緩く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考							
2	坏 土師	竈	口径17.4 器高 4.4 底径 7.0 底部～口縁部 1/3	胎：0.1～0.4 の礫・粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/6橙色 内黒色		口縁部横位の「撫で」 体部～底部「篦撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部横位の「篦磨き」
備考							
3	坏 須恵	覆土	口径15.3 器高 4.2 底径 4.0 口縁 1/6 底部 1/2	胎：0.1～0.2 の赤色白色砂粒含有 焼：良 色：外N7/灰白色 内7.5YR7/3にぶい橙色	轆轤成形。 付け高台。 体部中位に段を有する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」 底部整形技法不明	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」
備考							
4	甕 土師	竈	口径17.0 残高 6.8 口縁～胴部 1/3	胎：0.1の砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/6明赤褐色　内7.5YR6/4にぶい橙色	粘土帯積み上げ。 口縁部で外反する。	「撫で」 頸部「篦削り」	「撫で」
備考							
5	甕 土師	床	口径14.4 残高 3.0 口縁部 1/8	胎：微砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/4にぶい橙色　内7.5YR6/4にぶい橙色	口縁部で外反する。	「撫で」	「撫で」
備考							

第４表　　第２号住居址出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
6	甕 土師	竈	口径20.4 残高 8.0 口縁部～胴部 3/4	胎：0.1～0.4 の赤色砂粒、細雲母含有 焼：良 色：外5YR7/4にぶい橙色 内5YR7/3にぶい橙色	直立する胴部から短く外反する口縁へ至る。	口縁部横位の「撫で」 胴部刷毛状工具による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 胴部「撫で」
備考							
7	甕 土師	竈	口径23.5 残高15.1 口縁部～胴部 1/2	胎：微砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/6橙色 内5YR7/6橙色	粘土帯積み上げ。 緩やかに張る胴部から「くの字」状に外反する口縁に至る。	口縁部横位の「撫で」 胴部「箆撫で」	口唇部「箆撫で」 胴部「撫で」
備考							
8	甕（壺） 土師	覆土	口径26.6 残高 3.7 口縁部 1/8	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR4/4にぶい赤褐色 内5YR5/4にぶい赤褐色	粘土帯積み上げ。	箆状工具による横位の「撫で」	箆状工具による横位の「撫で」
備考							
9	羽釜（鍋） 土師質	覆土及び竈	残高 8.4 底径 9.6 胴部 1/6 底部 1/2	胎：0.1～0.4 の赤褐色砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/3にぶい赤褐色 内5YR6/3にぶい橙色		刷毛状工具による「撫で」及び「箆撫で」	刷毛状工具による「撫で」及び「箆撫で」
備考							
10	甕 土師	覆土	残高10.3 底径 6.6 底部～胴部 3/4	胎：雲母、石英、赤色砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4にぶい橙色 内5YR5/4にぶい赤褐色		「箆削り」 底部手持ち「箆削り」	「箆撫で」
備考							
11	甕 須恵	覆土	残高 5.7 底径18.9 底部～胴部下位 1/8	胎：石英、赤褐色砂粒含有 焼：不良 色：外10R5/2灰赤色 内10R1/5赤灰色	平底から開き気味に胴部に至る。	胴部格子目状の「叩き」 底部「箆切り」	「箆撫で」
備考							
12	（坏） 須恵	覆土	残高 1.0 底径 4.1 底部 1/2	胎：白色砂粒含有 焼：良 色：外2.5Y7/2 灰黄色 内N7/ 灰白色		底部「箆切り」 体部と底部の接合仕上げは雑	
備考							

第５表　第２号住居址出土遺物一覧表（２）



第10図　第３号住居址実測図

3　第3号住居址

遺　構（第１０図・１１図）

第3号住居址は、A区N１E０－3,4,5,16,17,18,22,23,24 にかけて検出された。主軸はN－18°－Eを指し、平面形態は隅丸方形を呈す。規模は南北 5.1m、東西 5.3mで、床面積は24.3㎡である。壁高は18～20cmを測り、遺存状態は良好であった。覆土は2層で、第1層が締まりの良い黒褐色粘質土層、第2層がやや砂質の暗褐色粘質土層であった。

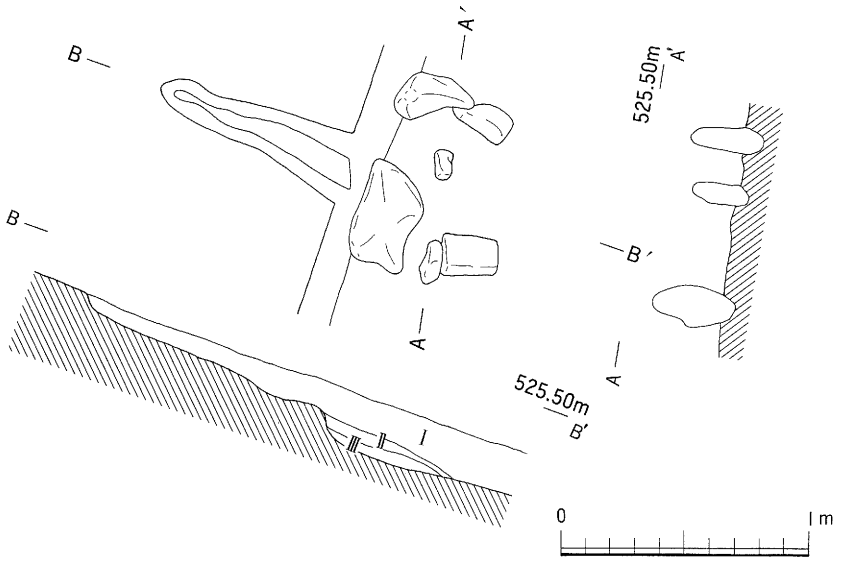
ピットは、住居址内において合計9個検出され、このうち主柱穴と考えられるのは、Ｐ１（46cm×34cm、深さ26cm）、Ｐ２（67cm×60cm、深さ６cm）、Ｐ３（75cm×65cm、深さ20cm）の３個である。その他の柱穴は、Ｐ４（44cm×51cm、深さ12cm）、Ｐ５（46cm×33cm、深さ11cm）、Ｐ６（28cm×38cm、深さ18cm）、Ｐ７（44cm×43cm、深さ５cm）、Ｐ８（35cm×35cm、深さ11cm）、Ｐ９（57cm×43cm、深さ19cm）の６個の柱穴である。この中で、住居址南側の壁中に堀り込まれたＰ６、Ｐ８と、東側の壁中に掘り込まれたＰ９は、住居址の内側に傾斜して掘り込まれており、柱が垂木的に傾斜して埋め込まれ、補助的に上屋を支えた柱穴と想定される。

竈は、西壁中央部に検出され、主軸は、N－73°－Wを指す。規模は全長 1.7m、焚口の幅0.35m、煙道部は細長く、壁外に0.85m程のびている。煙道部の深さは５cm～７cmで、深く遺存していた。竈は、左右両袖の芯材に用いた河原石と、支脚石をとどめていたが、竈を構築していた粘土はほぼ全体が、破壊されていた。わずかに袖部を形成する河原石の内側下部に粘土を貼った痕跡が認められた。また、袖部の東南隅の石は、直方体に面取りされた砂石で、火熱を受けていた。支脚石は、全長23cmの棒状の安山岩で、直立した状態で検出された。

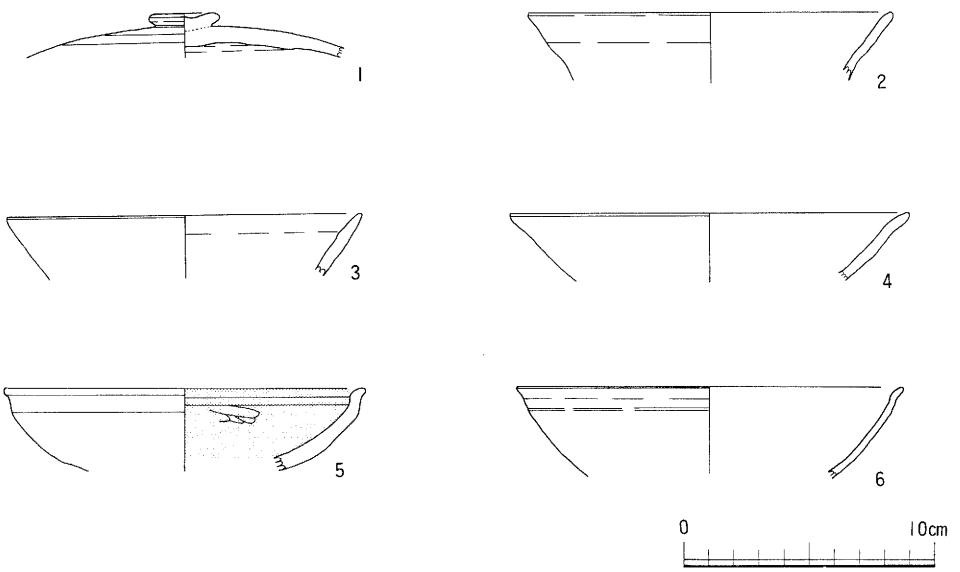
竈の堆積土層は３層で、第１層が木炭、灰、焼土を含む黒褐色土層、第２層が木炭、灰、焼土を多量に含む暗赤褐色土層、第３層は赤褐色の焼土層となっていた。なお、第２層の暗赤褐色土層中より土師器甕の小破片が出土している。竈の床面は、55cm×40cm程の四角な範囲で火熱を受けており、赤色の火床となっていた。

遺　物（第12・13図、第６・７表）

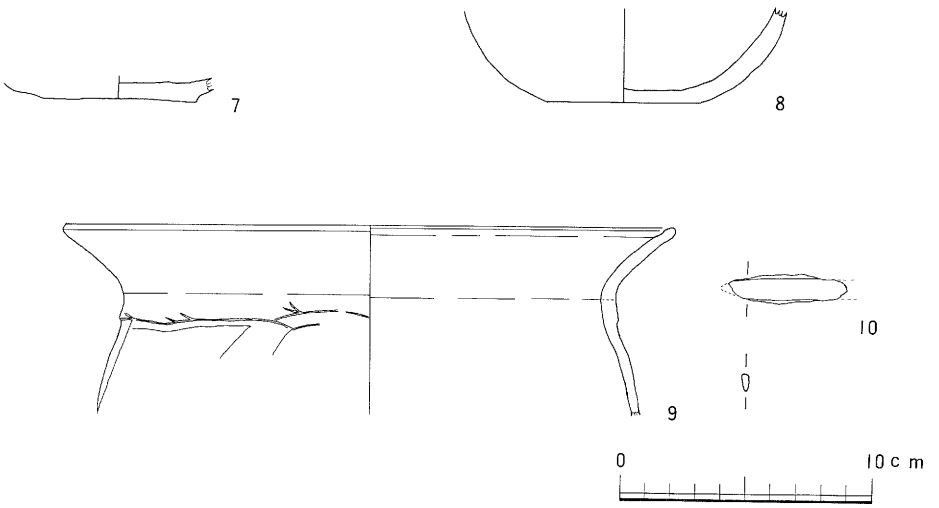
図示した９点は、すべて覆土中からの出土で、床着遺物は出土しなかった。１は須恵器蓋で、つまみ部は皿状の環状つまみで、中心部がやや盛り上がっている。６の土師器は、焼成が極めて甘い土器片である。また、７の須恵器片は未焼成で、内外とも灰白色を呈している。８は須恵器坏で、底部は篦切りがなされている。これらの出土遺物から本住居址は、８世紀前半のものと推定される。なお、竈内から出土した土師器甕の小破片は、図示するに至らなかった。



第11図　第３号住居址竈実測図



第12図　第３号住居址出土遺物実測図(1)



第13図　第３号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	蓋 須恵	覆土	抓み径 2.8 残高 1.9 抓み部完存 天井部 1/2残	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外内N8/灰白色	抓み部は皿状を呈し、中心部がやや盛上がる。付け抓み。	抓み部「撫で」 天井部「回転篦削り」	轆轤による「撫で」
備考							
2	坏 須恵	覆土	口径14.6 残高 2.7 口縁部 1/4	胎：0.1の茶褐色砂粒含有 焼：やや不良 色：外内2.5Y1/8 灰白色	口縁部やや外反する。	「撫で」	「撫で」
備考							
3	坏 須恵	覆土	口径14.2 残高 2.5 口縁部1/9	胎：細砂粒含有 焼：良、堅緻 色：外内N7/灰白色	直立した口縁部	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
4	坏 須恵	覆土	口径16.0 残高 2.7 口縁部1/8	胎：黒色細砂粒含有 焼：良 色：外N4/灰色 内N6/灰色	底部方向から直線的に立上がり口縁部で外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	外面に僅かに自然釉がかかっている。						
5	坏 土師	覆土	口径14.4 残高 3.3 口縁～体部1/6	胎：0.1の粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4にぶい橙色　内黒色	口縁部で短く立上がり僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」体部篦状工具による「撫で」	口唇部横位の「撫で」体部「篦磨き」
備考	口縁部に僅かな歪みがある。						

第６表　　第３号住居址出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
6	坏 土師	覆土	口径15.4 残高 3.6 口縁部～体部 1/6	胎：精選されている。細砂粒含有 焼：不良 色：外7.5YR6/4にぶい橙色 内5YR3/4暗赤褐色	口縁部短く外反する。	横位の「撫で」	横位の「撫で」
備考							
7	皿 (坏) 須恵	覆土	底径 6.1 残高 1.0 底部完存	胎：0.1～0.2 の暗灰色砂粒含有 焼：未焼成 色：外内N8/灰白色		刷毛状工具による「撫で」	「撫で」
備考							
8	(甕) 土師	覆土	残高 4.1 底径 6.2 底部～胴部 1/3	胎：0.1～0.6 の砂礫粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/3にぶい橙色 内5YR7/4にぶい橙色	底部から内彎しながら立上がる。	体部篦状工具による「撫で」底部「篦切り」	「撫で」
備考							
9	甕 土師	覆土	口縁24.1 残高 7.5 口縁部～胴部上位 3/8	胎：0.2～0.4 の砂粒を僅かに含有 焼：良 色：外内7.5YR6/7橙色	粘土帯積み上げ 口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部上位「篦削り」の後横位の「篦撫で」	横位の「横撫で」 胴部上位篦状工具による「撫で」
備考							
10	刀子 鉄製品	覆土	最大長 4.6 最大幅 0.9 最大厚 0.3 重量 5.0g				
備考							

第7表　第3号住居址出土遺物一覧表（2）

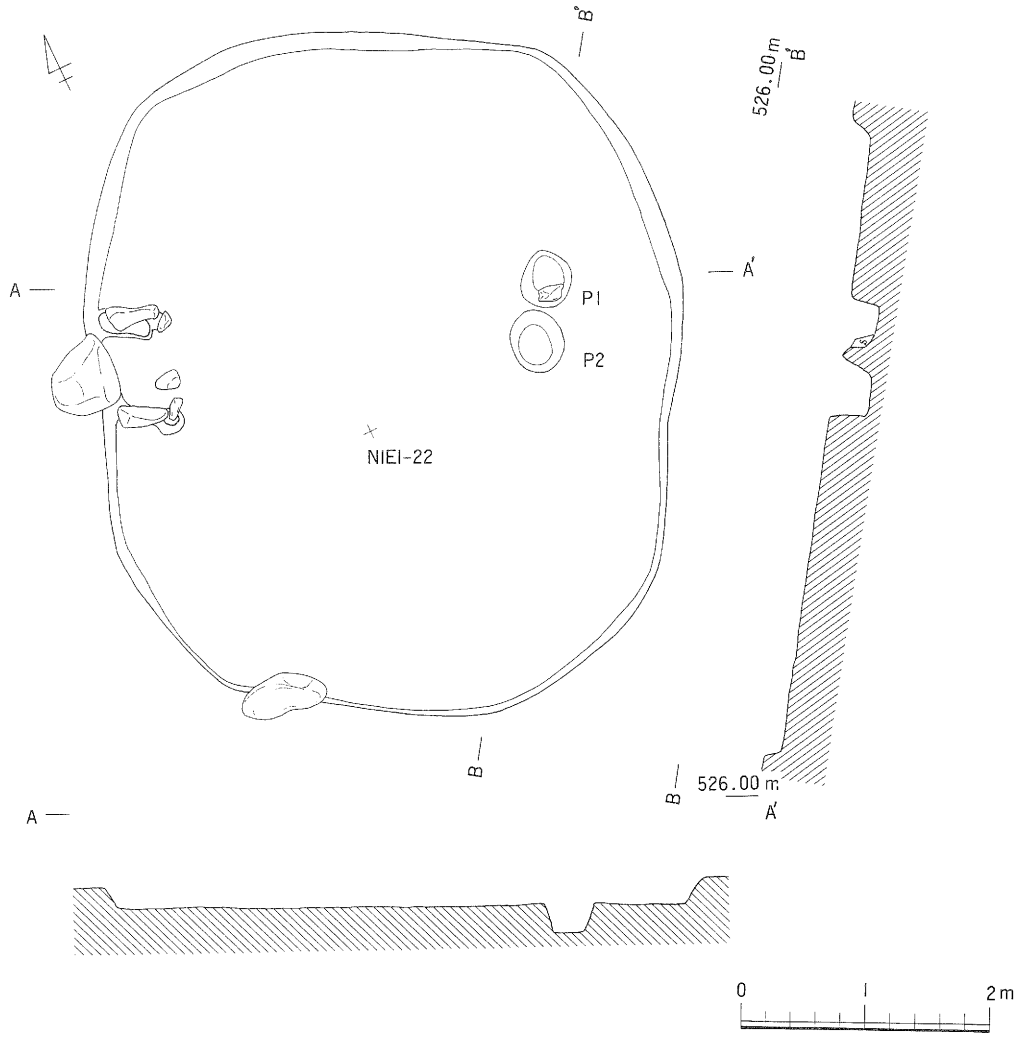
4　第4号住居址

遺　構（第14・15図）

第4号住居址はA区N1E1－22,23,38,39 グリッドにかけて検出された。平面形態はほぼ隅丸方形を呈し、規模は南北 5.4m東西 4.7m、床面積は19.9m²、壁高13～20cmを測る。遺存状況は悪い。主軸方位はN－64°－Wを指す。覆土は一層で、黒褐色土層である。

床はほぼ水平であるが、北部は4cm程低くなっており、頭大から40～50cmの石が多く床に入り込んでいた。

柱穴は2個検出されており、P1（43cm×38cm深さ23cm）、P2（50cm×42cm深さ25cm）のうちP1が主柱穴と思われる。

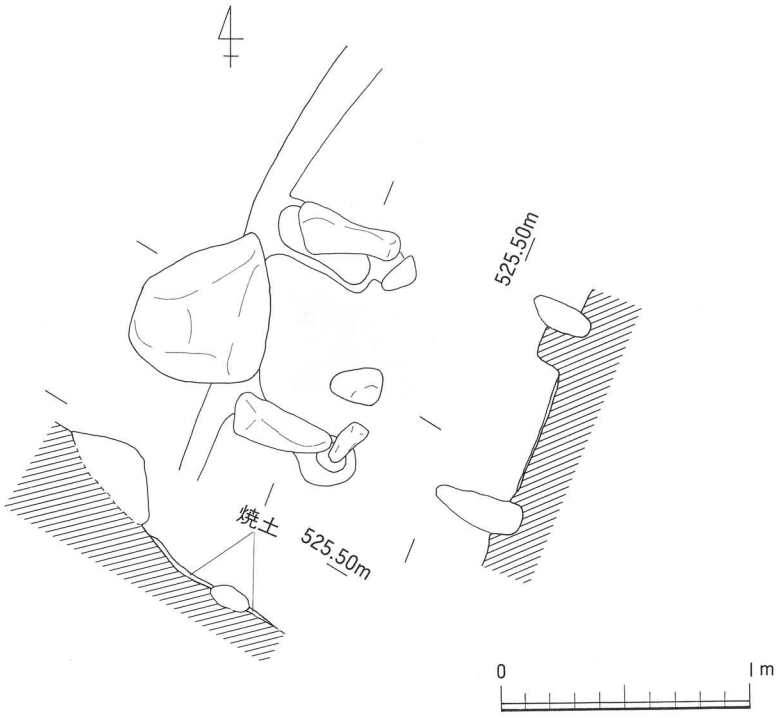


第14図　第４号住居址実測図

竈は西壁中央に位置し、煙道部及び燃焼室の一部が50cm程度の石によって破壊を受けていたものの、その他は旧状を比較的良好に保っている。両袖には砂岩質の石を用いており、火床部は床面をそのまま使用している。規模は焚口幅 0.6mで、支脚は存在していなかった。竈内の土層堆積は覆土と同じ黒褐色土で、火床部には焼土が１～２cmの厚さで堆積していた。

遺　物（第１６・１７図、第８・９表）

覆土内より１～６の坏、７，８，10の甕、９の坏が出土している。遺物はいずれも破片で、図

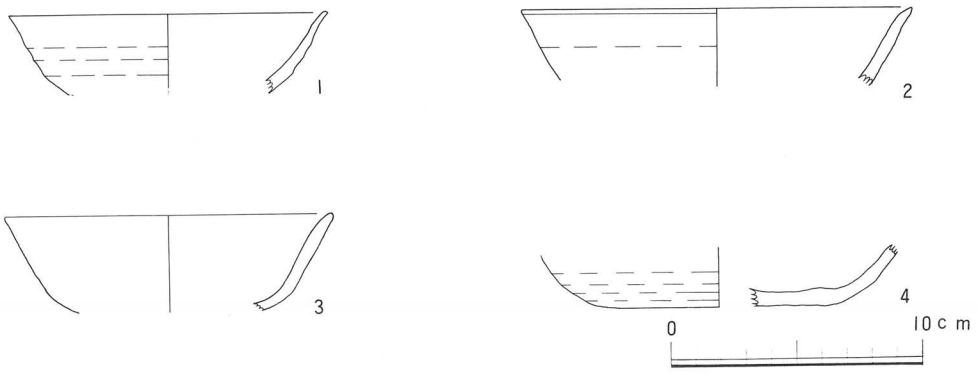


第15図　第４号住居址竈実測図

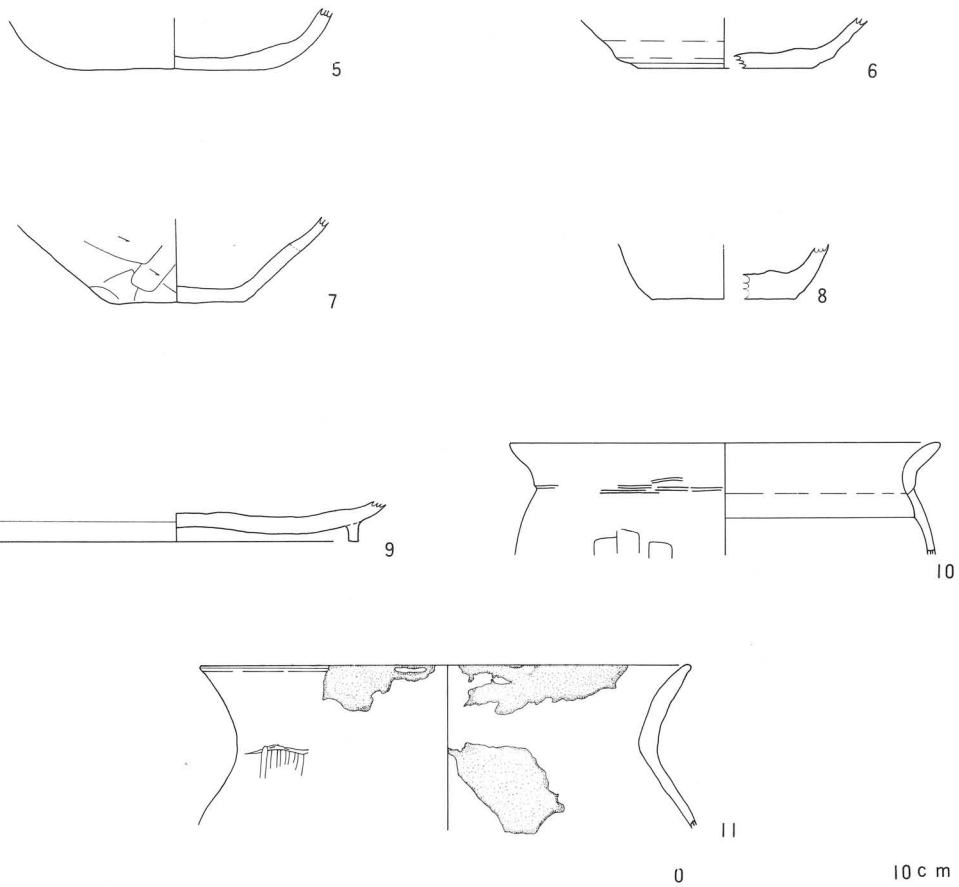
上復元となっている。７、８については、底部が被熱しているため甕とした。１、３、９はいずれも不完全な還元焔で焼成されており、窯内が完全に密封されない窯で焼成されたものと思われる。

竈内からは11の甕が出土しており、内面には漆が付着している。

この他、叩き目のある須恵器甕が２個体出土しているが図示するに至らなかった。



第16図　第４号住居址出土遺物実測図(1)



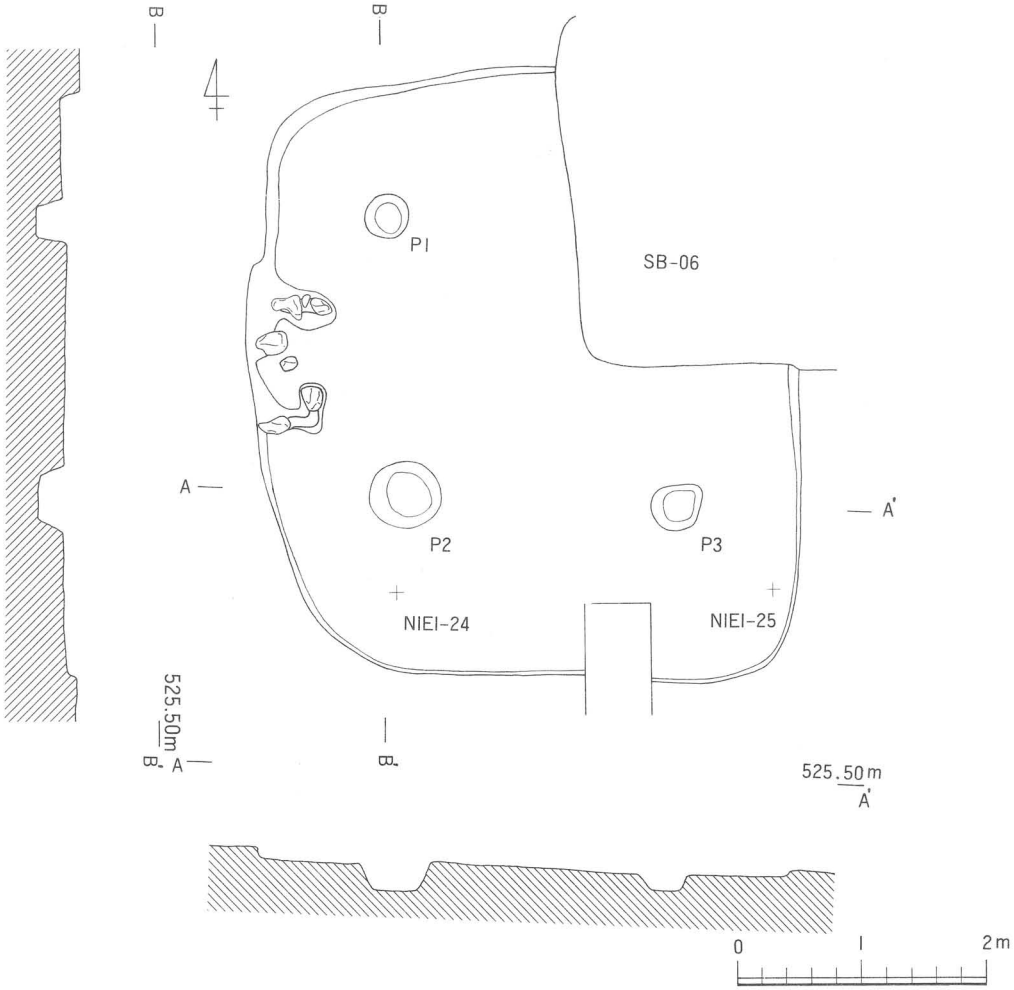
第17図　第４号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	坏 須恵	覆土	口径12.5 器高 3.2 口縁部 1/5	胎：0.1～0.2 の赤色粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/1赤灰色 内2.5YR6/3にぶい橙色	体部緩やかに内彎し、口縁部で短く外反する。	口唇部横位の「撫で」 口縁部轆轤による「撫で」	口唇部横位の「撫で」 口縁部轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
2	坏 須恵	覆土	口径15.6 残高 3.1 口縁部 1/4	胎：白色・黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外6.5/灰白色 内6/灰色	体部外傾し、口縁部で僅かに外反する。	口唇部横位の「撫で」 口縁部轆轤による「撫で」	口唇部横位の「撫で」 口縁部轆轤による「撫で」
備考							

第８表　　第４号住居址出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
3	坏 須恵	覆土	口径13.1 残高 3.9 口縁部 1/8	胎：0.1未満の赤褐色砂粒含有 焼：良 堅緻 色：外2.5Y7/2 灰黄色 内口縁部10Y7/1灰白色、体部5YR5/3にぶい赤褐色	体部下位内湾し、口縁部外傾する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」の後、刷毛状工具による斜位の調整
備考							
4	坏 須恵	覆土	残高 2.1 底径 8.0 底部 1/4	胎：黒色砂粒含有 焼：良 色：外N5/灰色 内N6/灰色	轆轤成形。	体部轆轤による「撫で」底部篦切りの後、「篦撫で」	体部～底部轆轤による「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成。						
5	坏 須恵	覆土	残高 2.8 底径 8.8 底部 1/4	胎：赤褐色砂粒含有 焼：良 色：外内N8/灰白色	轆轤成形。	「撫で」 底部「篦切り」	「撫で」
備考							
6	(坏) 須恵	覆土	残高 1.9 底径 7.0 底部 1/5	胎：0.1～0.2の粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/灰白色	轆轤成形。	体部轆轤による「撫で」 底部静止の「篦切り」	轆轤による「撫で」
備考							
7	(甕) 土師	覆土	残高 3.1 底径 5.4 底部～胴部 2/3	胎：白色・黒色細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR5/3にぶい褐色 内7.5YR7/1明褐灰色	粘土帯積み上げ。 平底の底部から直線的に立上がる。	胴部「篦削り」	「撫で」
備考							
8	(甕) 土師	覆土	残高 2.2 底径 5.6 底部 1/3	胎：0.1～0.4の石英・赤褐色砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/4にぶい赤褐色 内7.5YR5/1褐灰色		刷毛調整	「撫で」
備考							
9	(坏) 須恵	覆土	残高 1.4 底径14.4 底部 1/4	胎：細砂粒・粗砂粒含有 焼：良 色：外内2.5YR6/3にぶい橙色	付け高台 歪みが著しい。	底部「回転篦切り」の後「篦撫で」	轆轤による「撫で」の後篦状工具による不定方向の「撫で」
備考							
10	甕 土師	覆土	口径17.2 残高 4.5 口縁部～胴部上位 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5Y4/1 黄灰色 内5YR6/3にぶい橙色	緩やかに張りを持つ胴部から「くの字」状に外反する口縁部に至る。	頸部横位の「篦削り」の後「撫で」 胴部上位縦位の「篦削り」	頸部「篦撫で」口縁部・胴部「撫で」
備考							
11	甕 土師	竈	口径19.4 残高 6.6 口縁部～頸部 1/8	胎：白雲母・粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/6橙色 内10R6/8赤橙色	口縁部緩い「くの字」状に外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	内面に漆が付着している。						

第9表　第4号住居址出土遺物一覧表（2）



第18図　第５号住居址実測図

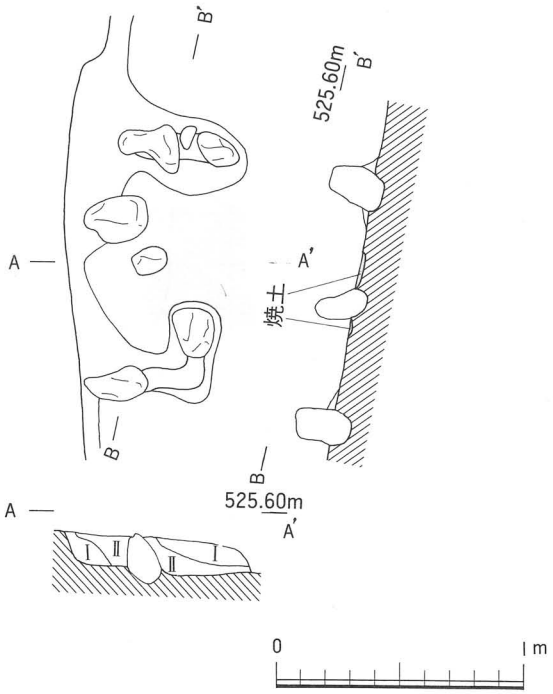
5　第５号住居址

遺　構（第１８、１９図）

第５号住居址はＡ区Ｎ１Ｅ１－24,25,26,36,37,44,45グリッドにおいて検出された。規模は南北 4.8m、東西 4.3m、床面積13.1㎡を測り、平面形態は隅丸方形を呈する。壁高は７～15cmを測る。南東 1/4程度を第６号住居址に、また南壁を試堀トレンチにそれぞれ切られているものの、遺存状態は良好である。主軸方位はＮ－90°－Ｗを指す。覆土は１層で、砂質の黒褐色である。

床はほぼ水平で、所々に黄茶色の叩き締めた貼床が検出されている。ピットは３個検出されており、Ｐ１（36cm×35cm深さ23cm）、Ｐ２（53cm×57cm深さ21cm）、Ｐ３（39cm×36cm深さ13cm）いずれも主柱穴である。

竈は西壁中央に位置する。西壁を僅かに掘り込んで作り、両袖の遺存状況は比較的良好である。芯材に河原石を用い、これを軸に周囲に粘土を張付けて作っており、天井部及び両袖上部は削平

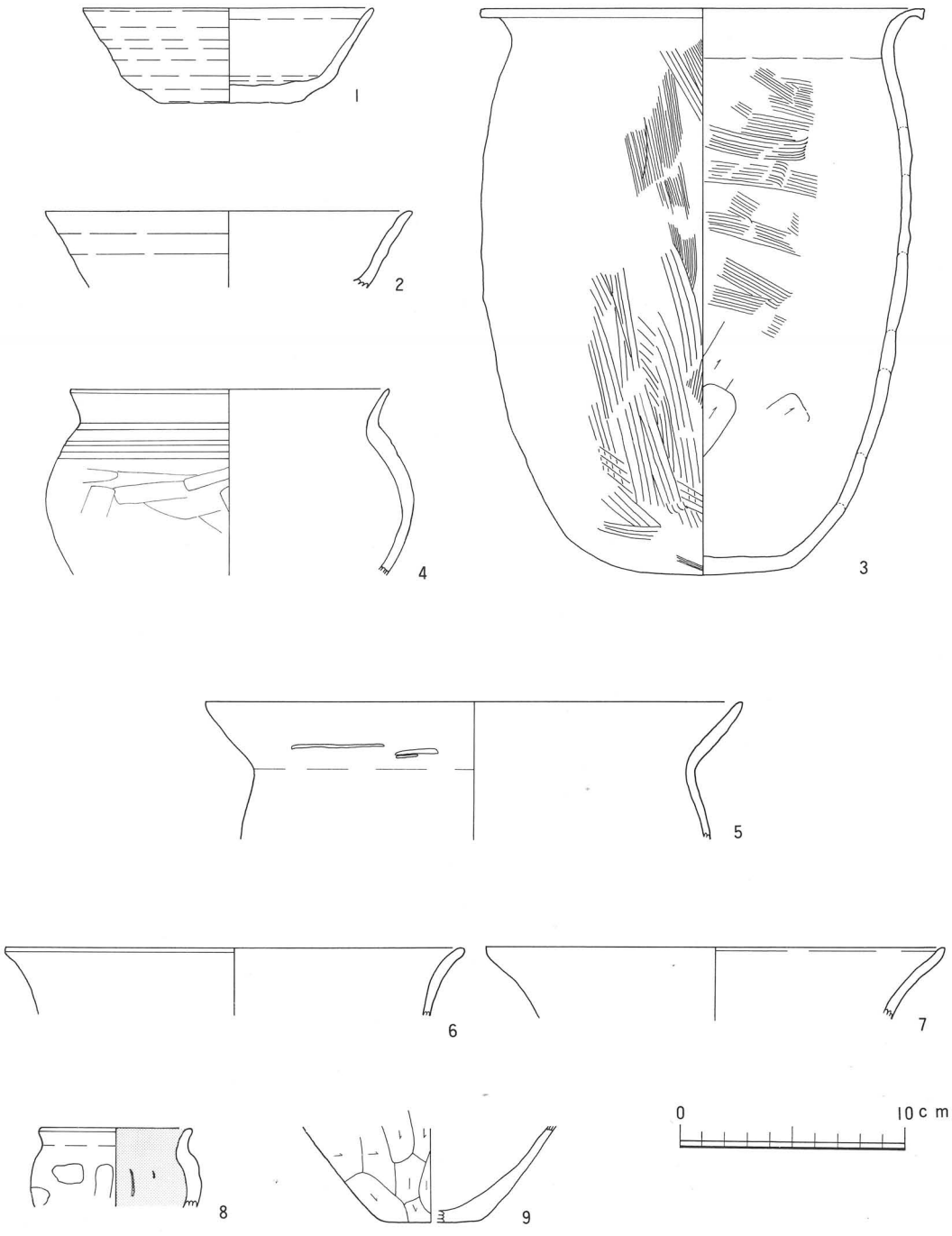


第19図　第５号住居址竈実測図

され、芯材が露出していた。支脚は13cm×10cm×19cmのやはり河原石を用いている。土層堆積はⅠ層が焼土混じりの黒色土、Ⅱ層が焼土混じりの暗赤褐色土となっている。

遺　物（第２０図、第１０表）

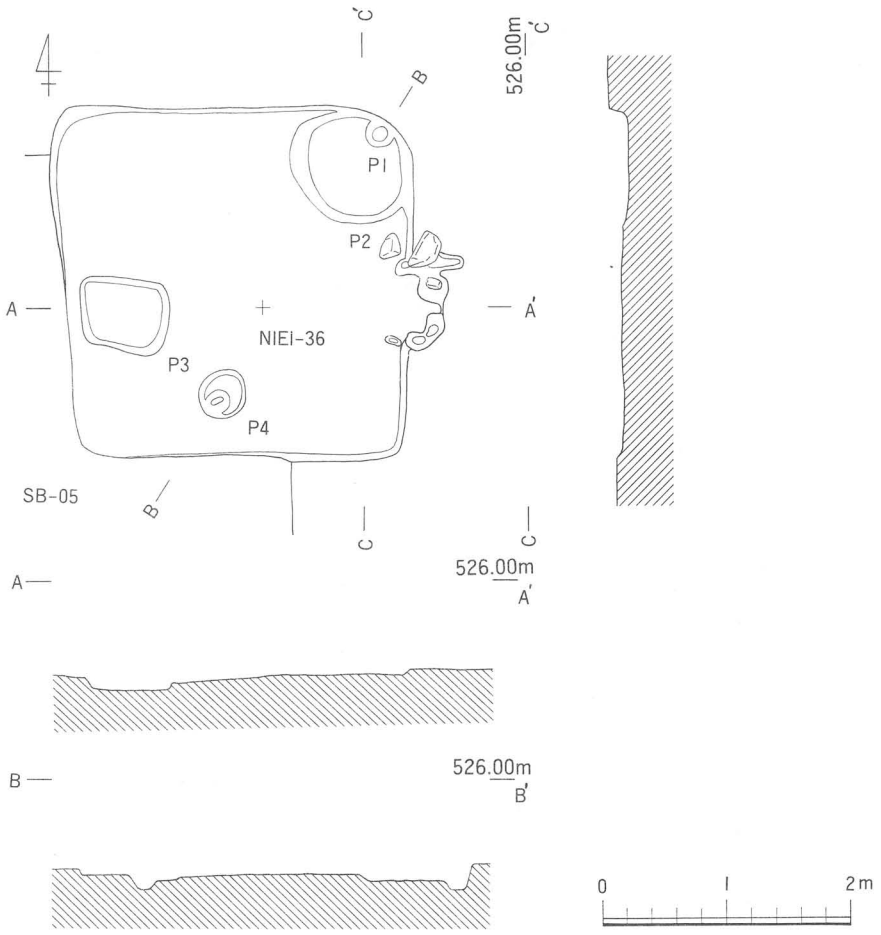
竈内から３，４，５，７，８の土師器甕のほか、土師器の小形（台付）甕が出土している。３の甕は胴部上位から口縁部にかけた 1/4周が竈の西に出土したほかは、竈内から出土している。７は胴が球形を呈する。覆土からは１，２の須恵器坏、６の土師器甕（壷）のほか、内面を黒色研磨した土師器坏、叩き目を有する須恵器甕２種、高台付の須恵器坏等が出土しているものの、総じて出土量は少なかった。



第20図　第5号住居址出土遺物実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	坏 須恵	覆土	口径12.8 器高 4.3 底径 5.2 口縁部 1/3 底部完存	胎：0.1未満の黒色砂粒、石英含有 焼：良 色：外内N6/灰色	底部と体部の間に緩やかな稜を有し、口縁部外傾する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部静止の「篦切り」	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」
備考							
2	坏 須恵	覆土	口径14.7 残高 3.4 口縁 1/10	胎：0.2の粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内2.5Y1/8 灰白色	口縁部外傾する。	「撫で」	「撫で」
備考							
3	甕 土師	竈	口径19.6 器高25.5 口縁部 1/2 ほかほぼ完存	胎：0.1～0.9の粗砂粒、礫含有 焼：良 色：外7.5YR7/3にぶい橙色　内7.5YR8/2 灰白色	丸底の底部から内彎気味に胴部に向かって開き、胴部上位で最も膨らみ、大きく外反する口縁に至る。	口縁部～頸部「撫で」、胴部刷毛状工具による「撫で」	口縁部「撫で」胴部上位刷毛状工具による「撫で」、胴部下位～底部「篦削り」
備考							
4	甕 土師	竈	口径14.2 残高 8.3 口縁部1/12 胴部 1/8	胎：0.1～0.2の石英粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR8/4淡橙色	粘土帯積み上げ 胴部中位に強い張りを持ち、口縁部で「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部上位「櫛削り」、胴部中位「篦削り」	「撫で」
備考							
5	甕 土師	竈	口径23.8 残高 6.1 口縁部～肩部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR8/4淡橙色	口縁部で「くの字」状に外反する。	「篦削り」の後「撫で」	「撫で」
備考							
6	甕 土師	竈	口径20.4 残高 3.0 口縁部 1/8	胎：石英・雲母粒含有 焼：良 色：外5YR6/4にぶい橙色　内2.5YR7/5 淡橙色		横位の「撫で」	横位の「撫で」
備考							
7	甕 （壺） 土師	覆土	口径20.2 残高 3.1 口縁部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR5/4にぶい赤褐色	口縁部外反しながら口唇部で短く内彎する。	横位の「撫で」	横位の「撫で」
備考							
8	甕 土師	覆土	口径 5.8 残高 3.5 口縁部～胴部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：不良（軟） 色：外5YR3/4暗赤褐色　内黒色	非常に小形 口縁部緩く「くの字」状に外反する。	横位の「撫で」	横位の「撫で」
備考	内面は吸炭している。						
9	甕 土師	竈	残高 4.1 底径 4.4 底部 1/4	胎：0.1以下の粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/4にぶい赤褐色　内5YR6/6 橙色	底部から僅かに内彎しながら立上がる。	「篦削り」	「篦削り」の後「撫で」
備考							

第10表　第5号住居址出土遺物一覧表



第21図　第６号住居址実測図

6　第６号住居址

遺　構（第２１図）

第６号住居址はＡ区ＮＩＥ１－35,36,45,46 にかけて、第５号住居址を切る状態で検出された。平面形態は正方形に近い隅丸方形を呈し、主軸はＮ－90°－Ｅを指す。規模は南北 2.8m、東西 2.6mで床面積は 8.7㎡で、ごく小規模の住居址である。壁高０～５cmを測り、床面の高さは第５号住居址より僅かに低い。床面直上には繊維質の炭化物が敷き詰められたように検出されている。

ピットは住居址内において４個検出された。このうち柱穴と思われるのはＰ１（23cm×23cm深さ13cm）、Ｐ４（41cm×37cm深さ12cm）である。Ｐ２（103cm×89cm深さ６cm）、Ｐ３（58cm×71cm深さ８cm）の用途は不明である。

竈は東壁中央に検出されたものの、遺存状態は非常に悪く、主体部はほぼ崩壊状態であった。両袖にあたる箇所には、芯に用いた石材の抜けた跡がピット状に残っており、プラン検出面から

はその芯材と考えられる被熱した石が散見された。

第22図　第６号住居址出土遺物実測図

遺　物（第２２図、第１１表）

当住居址出土遺物で図示できたのは２点のみである。他には叩き目を有する須恵器甕片２種と須恵器坏、蓋、土師器甕等が出土しているものの、出土量はごく少なかった。

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	坏 須恵	覆土	口径14.4 残高 2.1 口縁部 1/3	胎：0.1～0.2 の粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/灰白色	口縁部僅かに外反する。	口唇部横位の「撫で」 轆轤による「撫で」	口唇部横位の「撫で」 轆轤による「撫で」
備考							
2	（坏） 須恵	覆土	残高 1.1 底径 5.6 底部 1/4	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外10Y1/7灰白色 内7.5Y6/1 灰色		轆轤による「撫で」 底部「回転篦切り」の後篦状工具による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							

第11表　　第６号住居址出土遺物一覧表

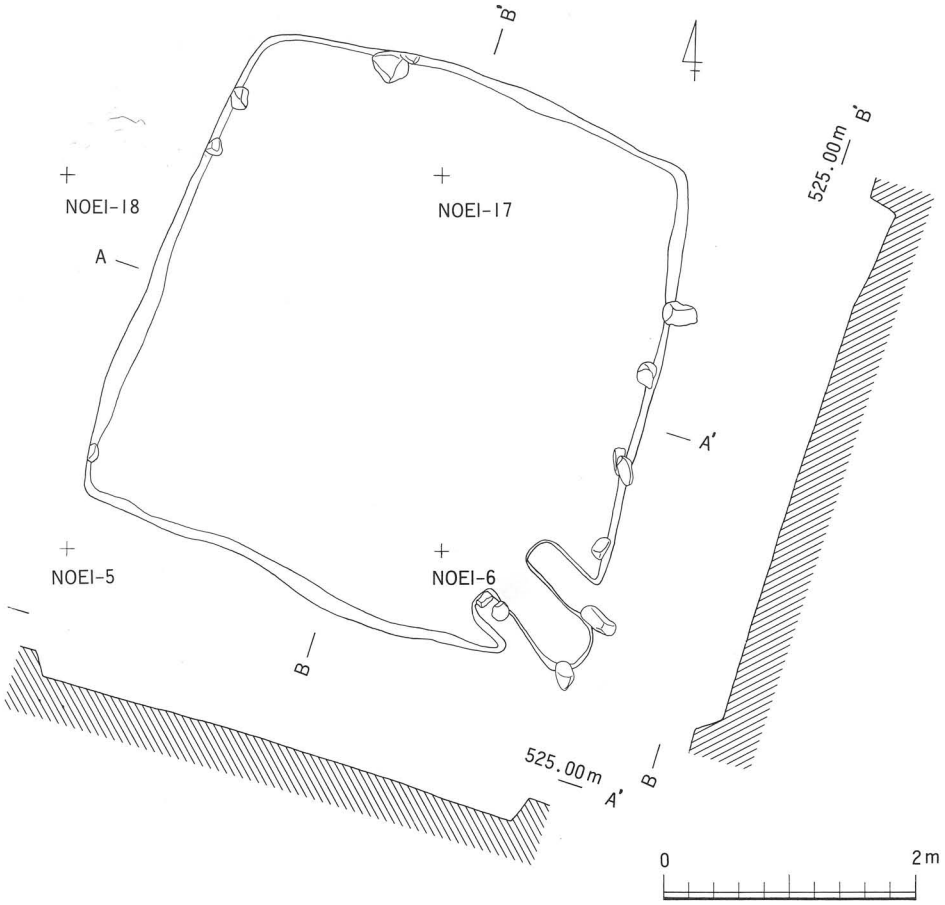
7　第７号住居址

遺　構（第２３・２４図）

第７号住居址はＡ区Ｎ０Ｅ１－5,6,7,16,17,24,25 グリッドにかけて検出された。南北 4.5m 東西 4.1mの隅丸方形を呈し、床面積16.8㎡を測る。主軸方向はＮ－20°－Ｅを指し、壁高は25cm前後を測り、壁溝・柱穴は認められなかった。

覆土は暗褐色の単一土層で、頭～拳大の礫を多量に含んでおり、床にも頭～拳大の礫及び砂が多く検出されている。

竈は住居址の南東隅に検出されたが、ほぼ崩壊状態にあり、両袖の構築プラン、火床部等は明確ではないが、周辺に構材と思われる石が数点散在していた。主軸はＳ－40°－Ｅを指し、全長 0.9m、焚口の幅0.32m、煙道部は焚口と同幅で壁外にのび、煙出部はやや膨らみを持つ。堆積

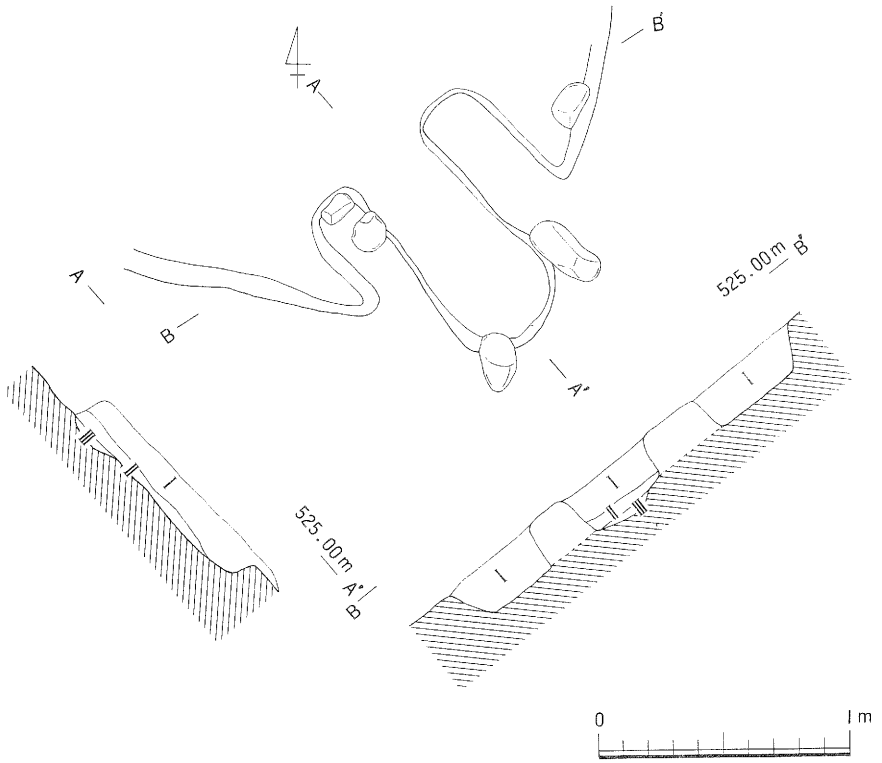


第23図　第７号住居址実測図

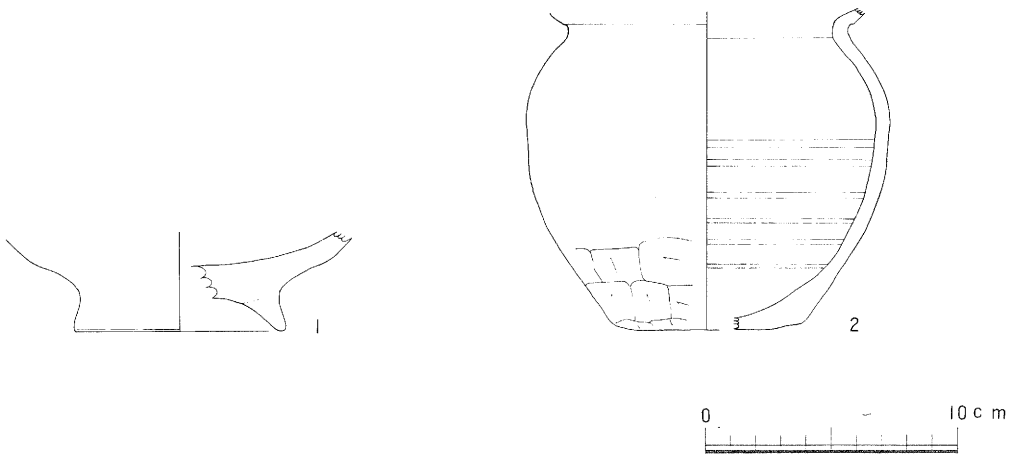
土層は３層で、第Ⅰ層が焼土・炭化物を含む暗黒褐色土層、第II層が３～５cmの礫と炭化物を含む暗褐色土層、第III層が焼土層である。なお、竈内からは図示した３の土師器の鍋と思われるものと、４の羽釜の破片が出土しているほか、支脚が倒置した状態で出土している。

遺　物（第２５・２６図、第１２表）

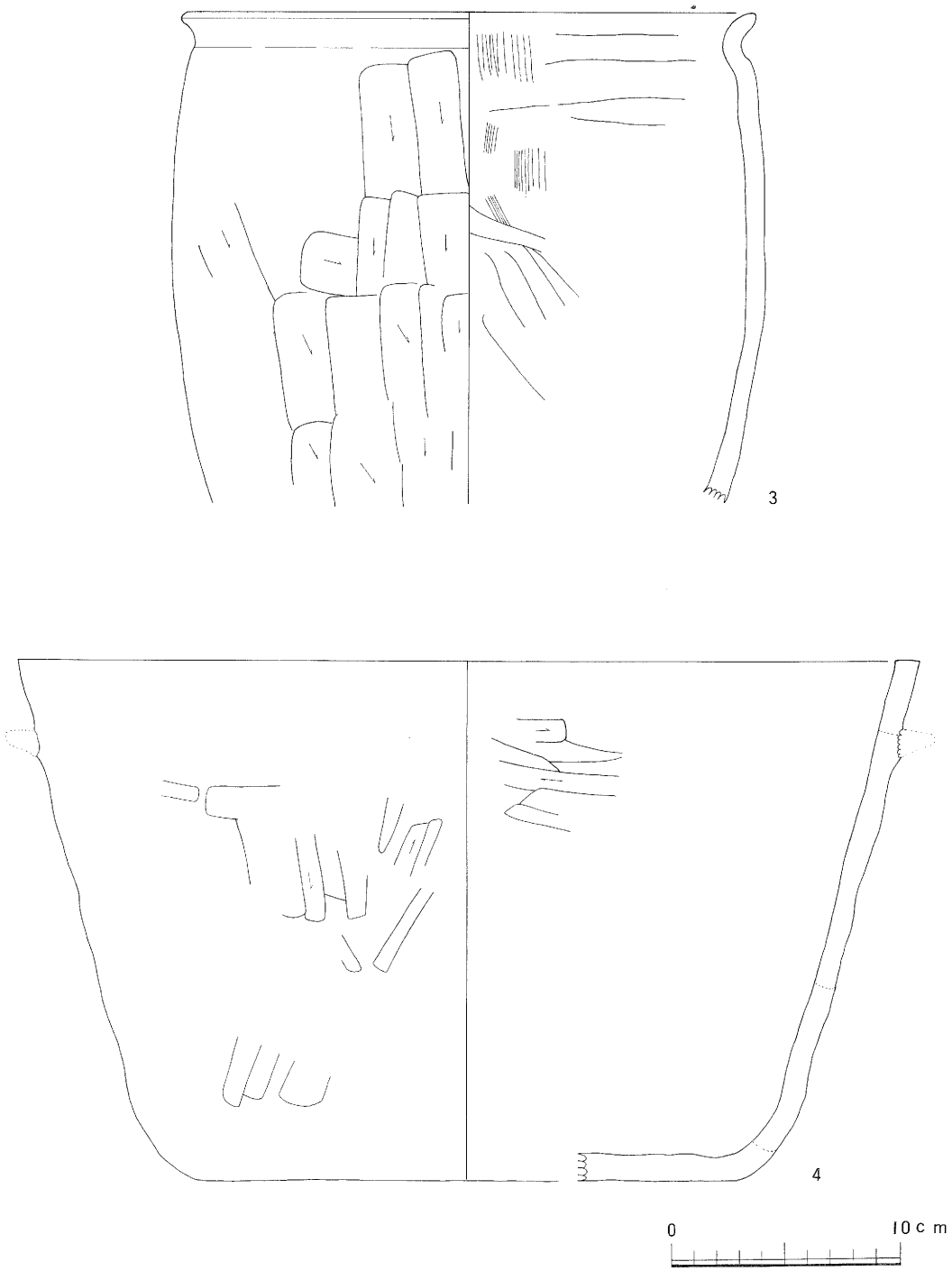
本住居址から出土した遺物は少なく、図示できたのは４点のみである。１は高台付の坏で、高台高が 1.6cmと高い。２の球形胴の小形甕で、胴部内面には幅１cm前後の篦状工具による回転の削りが丁寧に施されている。３は法量の大きな土師質の土器で、鍋もしくは甕と思われる。４の羽釜も法量が大きく、底部は平底で底径も23.8cmと他の遺跡の出土例と比して大型である。鍔部は接合部から欠損している。



第24図　第７号住居址竈実測図



第25図　第７号住居址出土遺物実測図(1)



第26図　第７号住居址出土遺物実測図(2)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	坏 土師	竈	残高 4.0 底径 8.4 底部～体部 4/5	胎：細砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR6/4にぶい褐色 内7.5YR6/3にぶい橙色	付け高台	横位の「撫で」	剝落のため判別不可
備考							
2	甕 土師	覆土	残高12.9 底径 7.4 底部～頸部 1/4	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外2.5Y7/4 淡赤橙色 内2.5YR7/6橙色	口縁部「くの字」状に外反する。	胴部下位「篦削り」底部「篦切り」胴部上位「撫で」	胴部下位轆轤による「篦撫で」胴部上位「撫で」
備考							
3	(鍋) 土師	竈	口径25.2 残高21.8 口縁部～胴部 1/7	胎：粗砂粒、黒雲母含有 焼：良 色：外10R4/8赤色 内10R5/6赤色	口縁部の短く外反する長胴の器形を呈し、最大径を胴部上位に有する。	口縁部横位の「撫で」胴部縦位・斜位の「篦削り」	口縁部「撫で」胴部「篦削り」の後「撫で」一部「刷毛調整」
備考							
4	羽釜 土師	竈	口径39.6 器高23.1 底径23.8 口縁部1/20 胴部～底部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR5/6明赤褐色 内5YR5/6明赤褐色	粘土帯積み上げ 平底の底部から開いて直立し、口縁に至る。	胴部「篦削り」の後「撫で」口縁部「撫で」	胴部「篦削り」の後「撫で」口縁部「撫で」
備考							

第12表　第７号住居址出土遺物一覧表

8　第８号住居址

遺　構（第２７図）

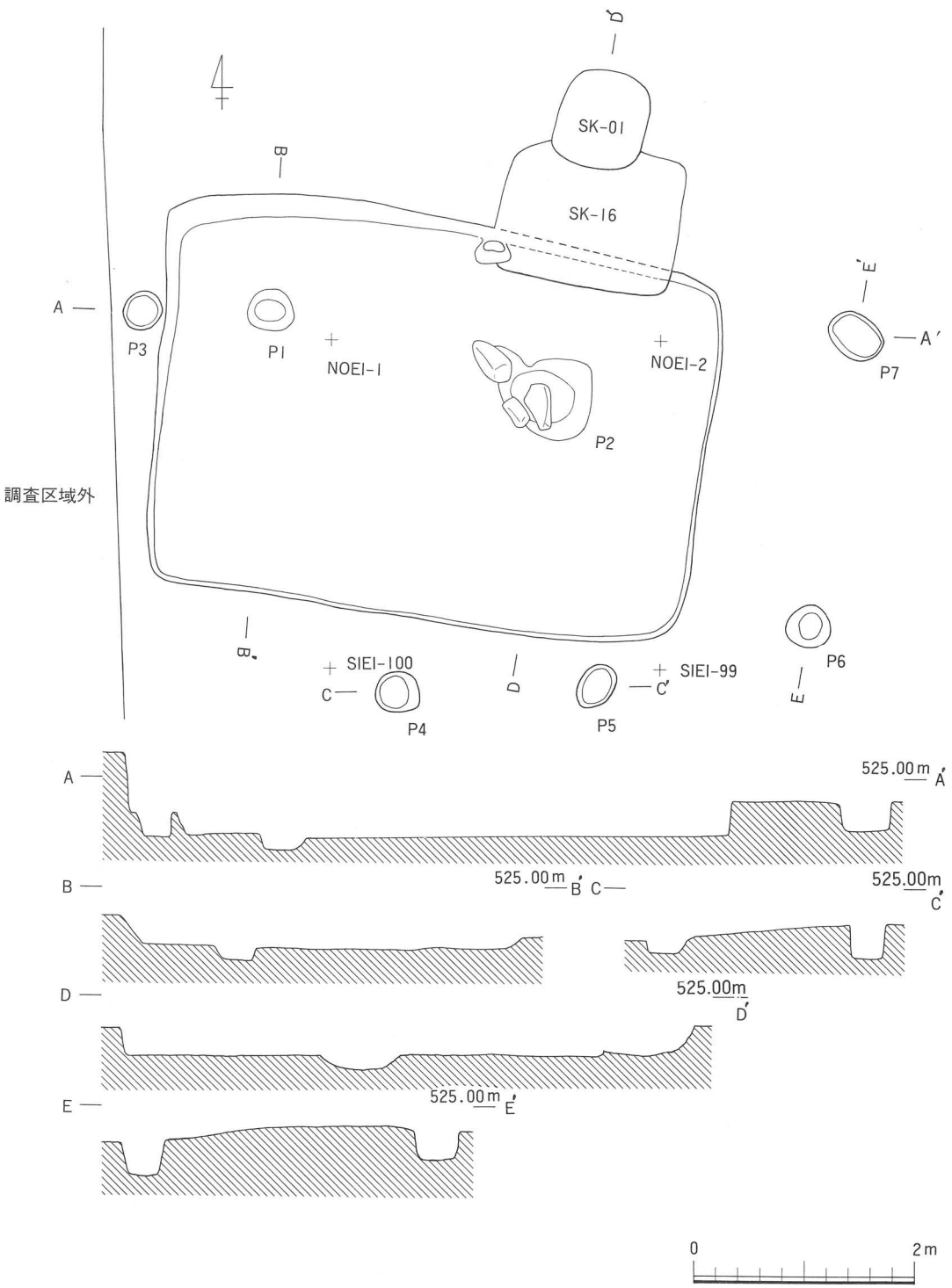
第８号住居址はＡ区Ｎ０Ｅ１－1,2,3,18,19,20にかけて検出された。本住居址は南北 3.3m東西 5.0mの東西に長い隅丸長方形を呈し、床面積15.8㎡を測り、主軸方向はＮ－９°－Ｅを指す。壁高は22～30cmを測る。

覆土は２層で、Ｉ層が礫を含む暗茶褐色土層、II層が明茶褐色土層である。

床面は南西隅方向に向かって僅かに低くなっているものの概ね水平である。

主柱穴は住居址内に１個、Ｐ１（38cm×43cm深さ15cm）を検出したほか、住居址外、壁に沿ってＰ３（36cm×35cm深さ23cm）、Ｐ４（36cm×40cm深さ16cm）、Ｐ５（44cm×30cm深さ30cm）、Ｐ６（38cm×40cm深さ32cm）、Ｐ７（51cm×39cm深さ29cm）が検出され、あるいは本住居址に関わる柱穴かとも思われる。他にＰ２（74cm×85cm深さ13cm）が検出されている。

竈は第16号土壙によって破壊されており、火床部と西袖の一部が僅かに残っていた。また被熱



第27図　第８号住居址実測図

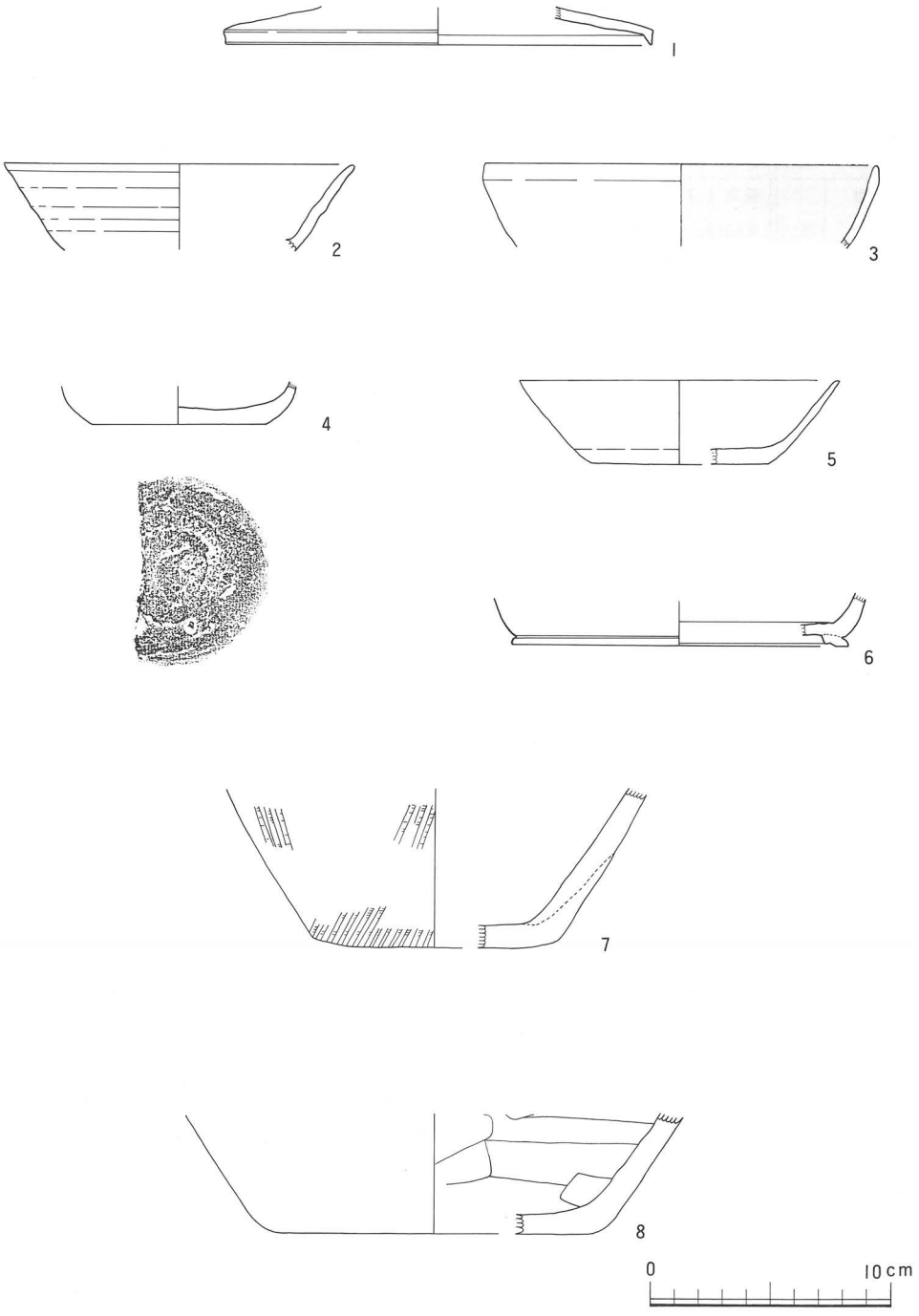
した石材がＰ２の上に不規則に重なり合って出土しており、第16号土壙を掘った際に放り出された竈の構材であろうと推定される。

遺　物（第２８図、第１３・１４表）

図示した遺物８点いずれも覆土中からの出土である。３の坏内面は精緻な磨きを施してある。５の坏は不完全な還元焔焼成で、色調は『にぶい橙色』を呈している。６の器形は明確でないが、盤であろう。７の甕の内面には爪を立てて押付けた跡が４ヶ所見られるほか、「叩き」が底部にまで及んでいる。なお、２と４の坏は接合部がないため、別に図示したが、器質から類推すると１個体となろう。

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	蓋 須恵	覆土	残高 1.3 裾径17.8 天井部～裾部1/5	胎：0.1～0.2 の粗砂粒含有 焼：良 色：外N4/灰色 内N6/灰色		天井部「篦削り」の後、轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」	轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」
備考							
2	坏 須恵	覆土	口径14.6 残高 3.6 口縁部～体部1/8	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外N6/灰色　内7.5R5/2赤灰色	体部に緩やかな綾線を有し直線的に立上がり口唇部で僅かに外反する。	轆轤による「撫で」 口唇部横位の「撫で」	轆轤による「撫で」 口唇部横位の「撫で」
備考	外面に火襷ある。４と同一個体か。						
3	坏 土師	覆土	口径16.4 残高 3.5 口縁部1/12	胎：0.2の粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4にぶい橙色　内黒色	底部方向から内彎気味に立上がり、口縁部で短く更に立上がる。	「撫で」	「篦磨き」
備考							
4	坏 須恵	覆土	残高 1.6 底径 7.2 口縁部1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外5PB6/1青灰色 内5P5/1 紫灰色		底部静止の篦切りの後、更に粘土を盛って「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	火襷ある。２と同一個体か。						
5	坏 須恵	覆土	口径13.4 器高 3.5 底径 7.4 底部～口縁部1/4	胎：0.1 ～0.2 の石英粗砂粒含有 焼：不良 色：外5YR7/4にぶい橙色　内5YR6/4にぶい橙色	平底の底部から口縁部に向かって外傾する。	底部手持ち「篦削り」体部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成、底部に火襷ある。						
6	（盤） 須恵	覆土	残高 2.2 底径14.1 高台部縁辺1/4	胎：0.2以下の黒・白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N8/0灰白色	付け高台	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							

第13表　第８号住居址出土遺物一覧表（１）



第28図　第８号住居址出土遺物実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
7	甕 須恵	覆土	残高 6.5 底径10.2 底部～胴部下位 1/4	胎：黒色細砂粒含有 焼：良 色：外7.5Y6/1 灰色 内N5/灰色	粘土帯積み上げ	胴部「叩き」の後横位の「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	底部の一部に叩き目、胴部下位内面に爪痕ある。						
8	甕 須恵	覆土	残高 4.9 底径12.8 底部僅か 体部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外N8/灰白色 内N7/灰白色		「撫で」	「篦削り」
備考							

第14表　第８号住居址出土遺物一覧表（２）

９　第９号住居跡

遺　構（第２９・３０図）

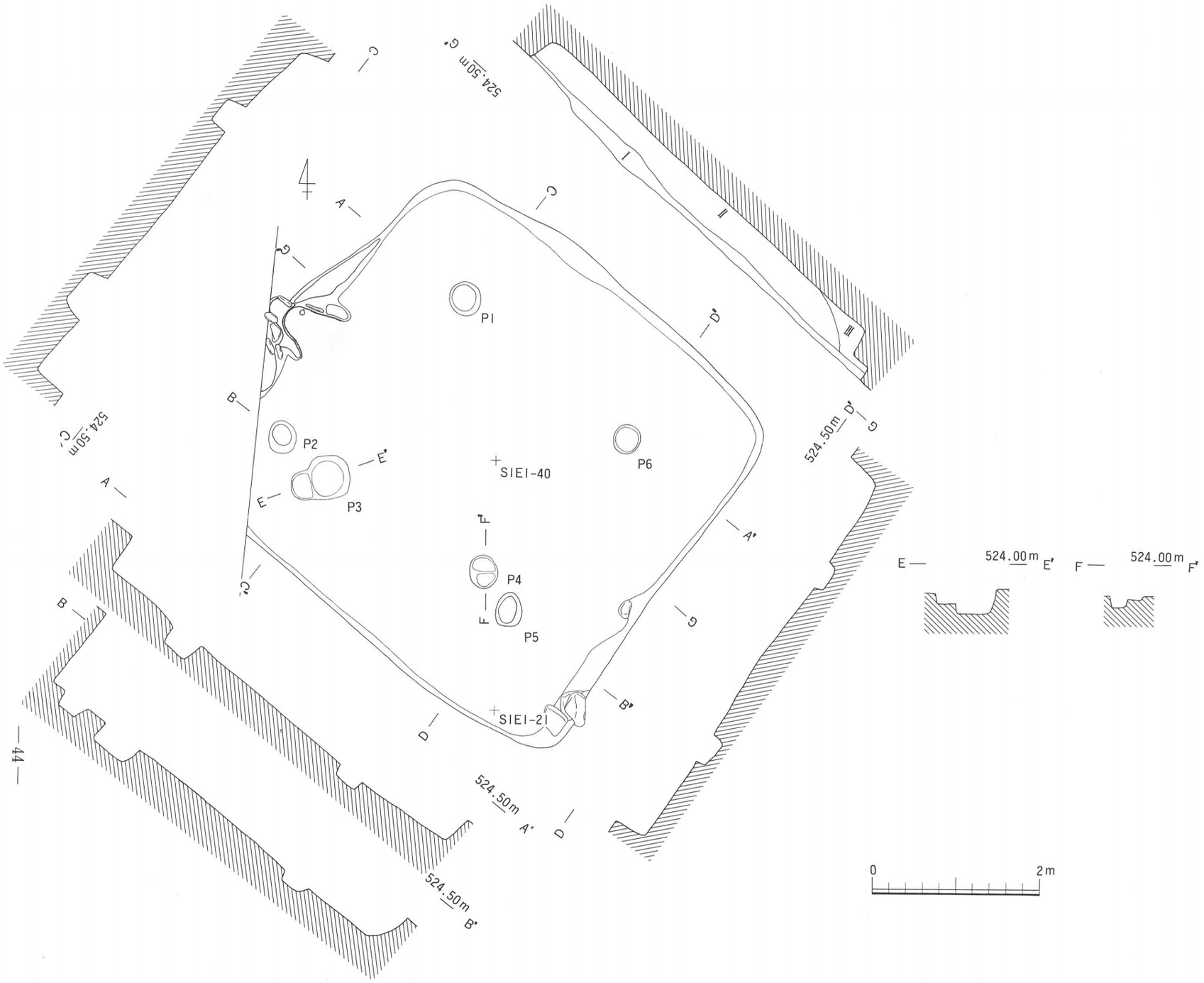
第９号住居跡はＡ区Ｓ１Ｅ１－21,22,38,39,40,41,42,43,59,60 にかけて検出された。住居址の南西隅が調査対象区から外れているが、平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ、規模は、北西－南東 5.2m北東－南西 5.6mで検出床面積25.4㎡を測り、壁高は36～48cmを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｗである。

覆土は３層からなり、Ⅰ層は締まりの良い黒色粘質土、Ⅱ層は礫を含む明茶褐色土、Ⅲ層は黒褐色土である。

床は北東壁際と南西壁際の比高差が14cmあり、緩やかに南に傾斜している。床面は黄褐色の粘質土を叩き締めている。

柱穴は６個検出された。このうち主柱穴はＰ１（40cm×37cm深さ22cm）、Ｐ３（52cm×72cm深さ29cm）、Ｐ５（41cm×32cm深さ14cm）、Ｐ６（35cm×33cm深さ11cm）である。Ｐ２（39cm×32cm深さ18cm）、Ｐ４（40cm×34cm深さ14cm）は支柱穴であろう。

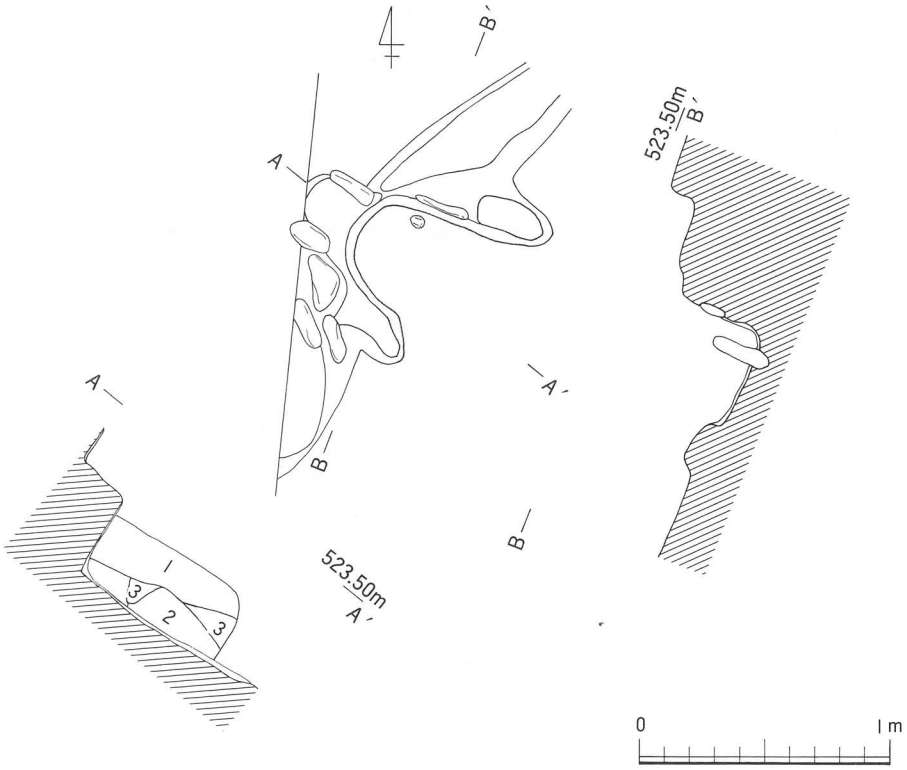
竈は北西壁中央に検出された。主軸方位はＮ－54°－Ｗを指す。左袖部の大部が破壊され、煙道部先端が調査できなかったものの、他の遺存状態は比較的良好であった。規模は全長 2.2m、最大幅 0.6m、焚口幅 0.7m（推定）、煙道長 0.2mを測る。支脚石は右袖の６cm南に、竈の軸から大きく外れた位置に、直立して検出されている。燃焼室から煙道部へは垂直に立上がり、煙道部はほぼ水平である。両袖は白色粘土で芯の石材を覆う形で構築されていた。また竈の左右の壁は壁を外側に張出させる形でテラスを設けている。竈内の土層堆積は３層で、１層は締まりの良い黒色粘質土、２層は暗灰褐色の弱粘質土、３層は黒色粘質土、４層が灰混じりの明灰褐色土であった。また火床部、両袖内側、煙道部壁には焼土が１～３cm堆積していた。



第29図　第 9 号住居址実測図

遺　物（第３１～３３図、第１５～１７表）

本住居址からの出土遺物量は多く、22点が図示できたものの、バラエティには乏しいものであった。２の蓋が床面直上から、19の甕が竈から出土したほかは、いずれも覆土からの出土である。１、２は須恵器蓋、３、５～７は須恵器坏、４、８、９、10は内面を黒色研磨した土師器坏である。11～13については底部のみであるため、器種がはっきりしないが、おそらく坏であろう。13～16は須恵器甕である。14は焼成が甘く軟らかい。18～22は土師器甕である。21、22は器質が酷似しており、接合部が無かったため別に図示したが、同一個体と思われる。



第30図　第９号住居址竈実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	蓋 須恵	覆土	抓み径 4.2 器高 4.2 裾径 17.0 抓み～裾部 2/5残	胎：黒色・白色の粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/灰白色	付け抓みは偏平な擬宝珠形を呈する。	天井部轆轤による「篦削り」抓み、裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
2	蓋 須恵	床	残高 3.2 裾径14.1 天井部～裾部 1/3	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5Y5/1灰色	天井部の張りが強く、裾部に沈線を有する。	天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
3	坏 須恵	覆土	口径13.1 器高 3.7 底径 7.5 底部～口縁部 1/2	胎：白色粗砂粒を多く含有 焼：良 色：外内5Y5/1灰色	粘土紐巻き上げ。体部に螺旋状の稜線を有する。底部静止篦切り。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷、底部に篦記号ある。						
4	坏 土師	覆土	口径12.1 器高 4.0 底径 5.8 口縁部～底部 1/2	胎：0.2以下の赤色・白色粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4にぶい橙色、口縁部黒色 内黒色	平底の底部から内彎しながら口縁部に至る。轆轤成形。	体部轆轤による「撫で」底部静止篦切りの後「撫で」	黒色「磨き」
備考	内面の磨滅激しい。						
5	坏 須恵	覆土	口径15.1 残高 2.5 口縁部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/灰白色		轆轤による「撫で」口唇部横位の「撫で」	轆轤による「撫で」口唇部横位の「撫で」
備考							
6	坏 須恵	覆土	口径14.6 残高 2.8 口縁部 1/5	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内N6/灰色	口縁部短く外反する。	轆轤による「撫で」口唇部横位の「撫で」	轆轤による「撫で」口唇部横位の「撫で」
備考							
7	坏 須恵	覆土	口径12.9 残高 3.4 口縁部1/12	胎：赤褐色粗砂粒含有 焼：不良 色：外内5YR7/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成。						
8	坏 土師	覆土	口径15.0 残高 3.7 口縁部～体部 1/8	胎：0.1粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6橙色 内黒色	体部の内彎が強く、口縁部直立する。	「撫で」	黒色「磨き」
備考							
9	坏 土師	覆土	口径15.5 器高 4.1～4.4 底径 7.2 口縁部～体部 1/5底部完存	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR7/3にぶい橙色　内黒色	丸みを帯びた平底の底部から内彎しながら立上がり、僅かに内彎する口縁部に至る。	底部「篦削り」 体部～口縁部横位の「撫で」	「磨き」
備考							

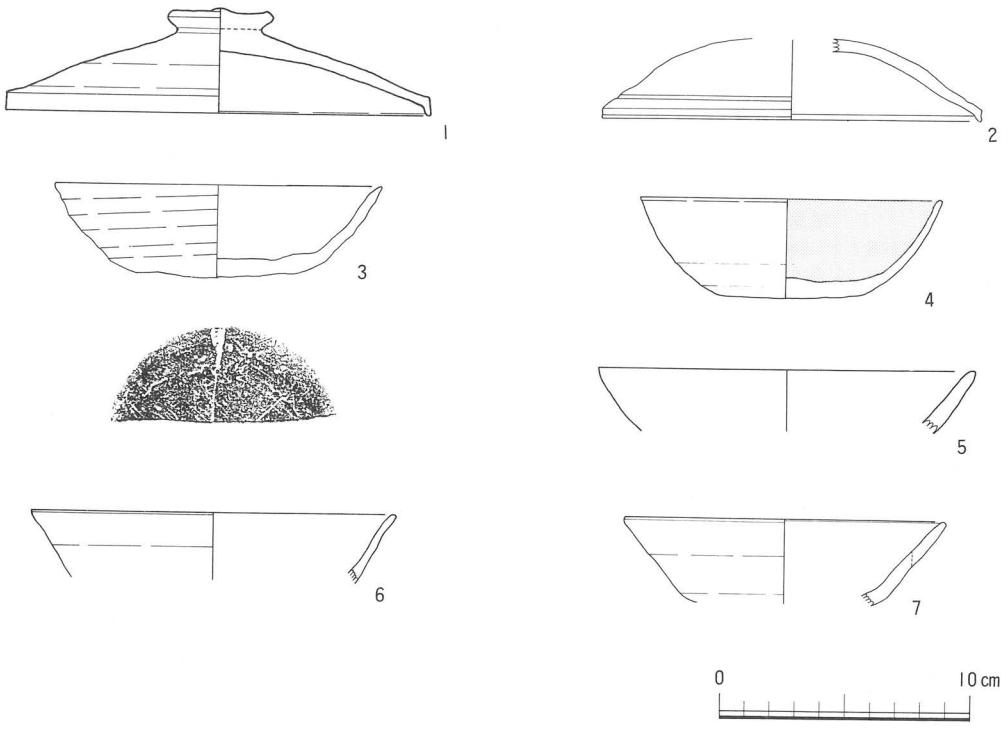
第15表　第９号住居址出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
10	坏 土師	覆土	口径14.8 器高 5.5 底部完存 体部～口縁部 1/5	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR7/4にぶい黄橙色 内黒色	丸底の底部から体部から口縁部まで内彎しながら立上がる。	口縁部横位の「撫で」 体部～底部「篦削り」	口縁部横位の「撫で」 体部横位の「篦磨き」 黒色処理
備考							
11	(坏) 須恵	覆土	残高 2.5 底径 7.0 底部 1/3	胎：黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N6/灰色	轆轤成形 静止篦切り平底の底部。	体部轆轤による「撫で」底部「篦切り」の後、「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
12	(坏) 須恵	覆土	残高 1.5 底径 7.6 底部 1/4	胎：粗砂粒含有 焼：不良 色：外7.5YR8/4浅黄橙色 内2.5Y8/4 淡黄色	平底	底部「篦切り」	轆轤による「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成						
13	(坏) 須恵	覆土	残高 0.8 底径 8.7 底部 1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/灰色	回転「篦切り」の平底	回転「篦切り」の後、底部中央凹部に粘土を盛り「篦削り」	轆轤による「撫で」
備考							
14	甕 須恵	覆土	口径22.2 残高 7.4 口縁部～胴部上位 1/5	胎：雲母、黒色砂粒含有 焼：やや不良 色：外2.5Y8/1 灰白色 内5Y8/1灰白色	胴部上位に強い張りを有し、口縁部「く の字」状に外反する。	口縁部刷毛状工具による横位の「撫で」	「撫で」
備考							
15	甕 須恵	覆土	口径24.0 器高14.2 底径13.2 底部1/6 胴部1/4 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外N5/灰色 内N6/灰色	粘土帯積み上げ 肩部強く張る 平底	轆轤による「撫で」の後、指頭による不定方向の「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
16	甕 須恵	覆土	口径14.8 残高 4.7 口縁部～肩部 1/2	胎：長石、黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外N6/灰色 内N7/灰白色	粘土帯積み上げ 頸部「コの字」状に外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」粘土帯接合部は指頭による「撫で」
備考	肩部の一部に気泡が出ている。						
17	(甕) 須恵	覆土	残高 4.2 底径12.8 底部～胴部下位 1/5	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外N7/灰色 内N2.5Y7/3浅黄色	粘土帯積み上げ	「撫で」	「撫で」
備考	内外面に粘土帯接合痕が明瞭に残る。						
18	甕 土師	覆土	口径20.2 残高 5.2 口縁部～頸部 1/5	胎：雲母・粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/6橙色 内7.5YR7/6橙色	頸部から口縁部に向かって大きく外反し、口縁部で短く内彎する。	頸部「篦削り」口縁部下位刷毛状工具による「撫で」口唇部横位の「撫で」	横位の「撫で」口唇部横位の篦状工具による「撫で」
備考							

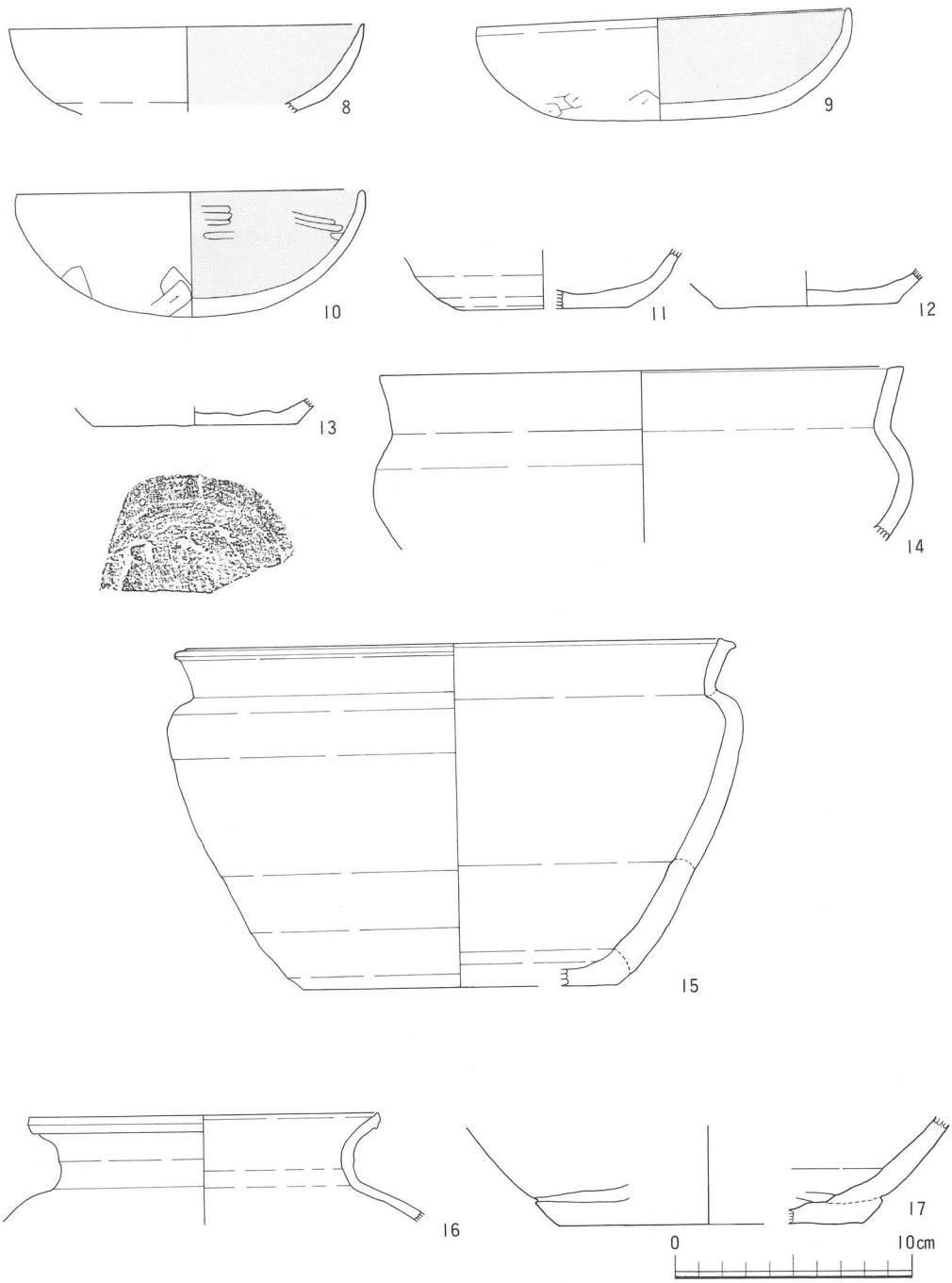
第16表　第9号住居址出土遺物一覧表（2）

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
19	(甕) 土師	覆土	口径25.6 残高 5.5 口縁部～頸部 1/4	胎：雲母・砂粒含有 焼：良 色：外内7.5YR7/3 にぶい橙色	頸部から口縁部に向かって緩やかに外反する。	「撫で」	「撫で」
備考							
20	甕 土師	竈	口径22.7 器高30.5 底径 6.0 口縁部～底部 1/2	胎：雲母・粗砂粒含有 焼：良（やや軟弱） 色：外内7.5YR7/4 にぶい橙色	胴部上位に胴部の最大径を有し、口縁部は大きく外反する。粘土帯積み上げ。	口縁部横位の「撫で」頸部横位の篦状工具による「撫で」胴部上位「篦削り」	口縁部横位の「撫で」頸部横位の「篦削り」胴部に「刷毛目」
備考							
21	甕 土師	覆土	口径15.6 残高10.8 口縁部1/16 胴部 1/5	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/3淡橙色 内5YR8/4淡橙色	粘土帯積み上げ。 胴部は球形を呈し、口縁部で「くの字」状に外反する。	横位の丁寧な「撫で」	横位の丁寧な「撫で」
備考	22の上部か。						
22	甕 土師	覆土	残高 9.6 底径11.0 底部 1/3 胴部 1/12	胎：0.3～0.4 の礫含有 焼：良 色：外5YR8/3淡橙色 内5YR8/4淡橙色	胴部球形を呈する。	胴部横位の「篦撫で」及び横位の「撫で」 底部「篦撫で」	胴部横位の「撫で」 底部放射上の「篦撫で」
備考	21の底部か。						

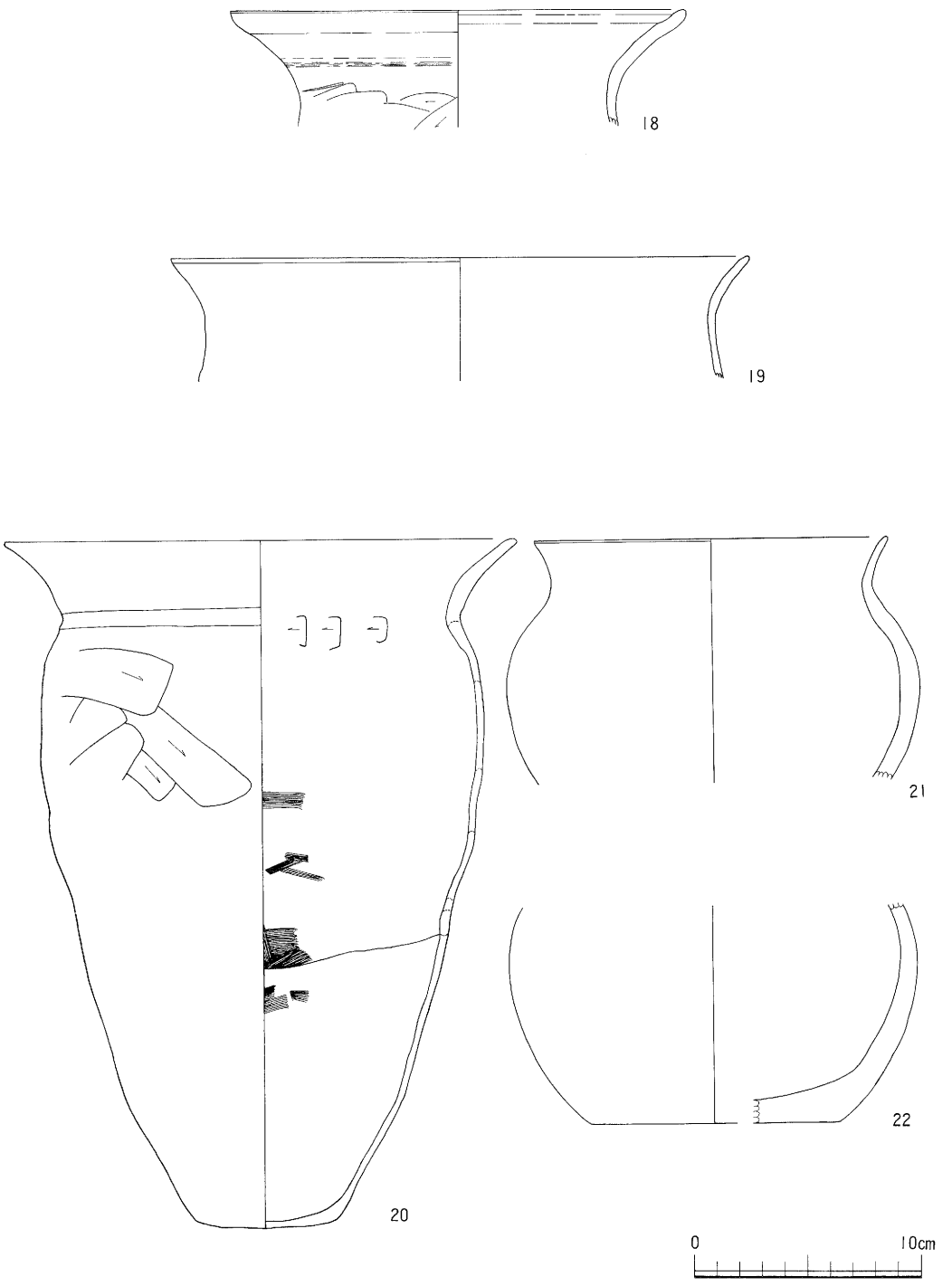
第17表　第９号住居址出土遺物一覧表（３）



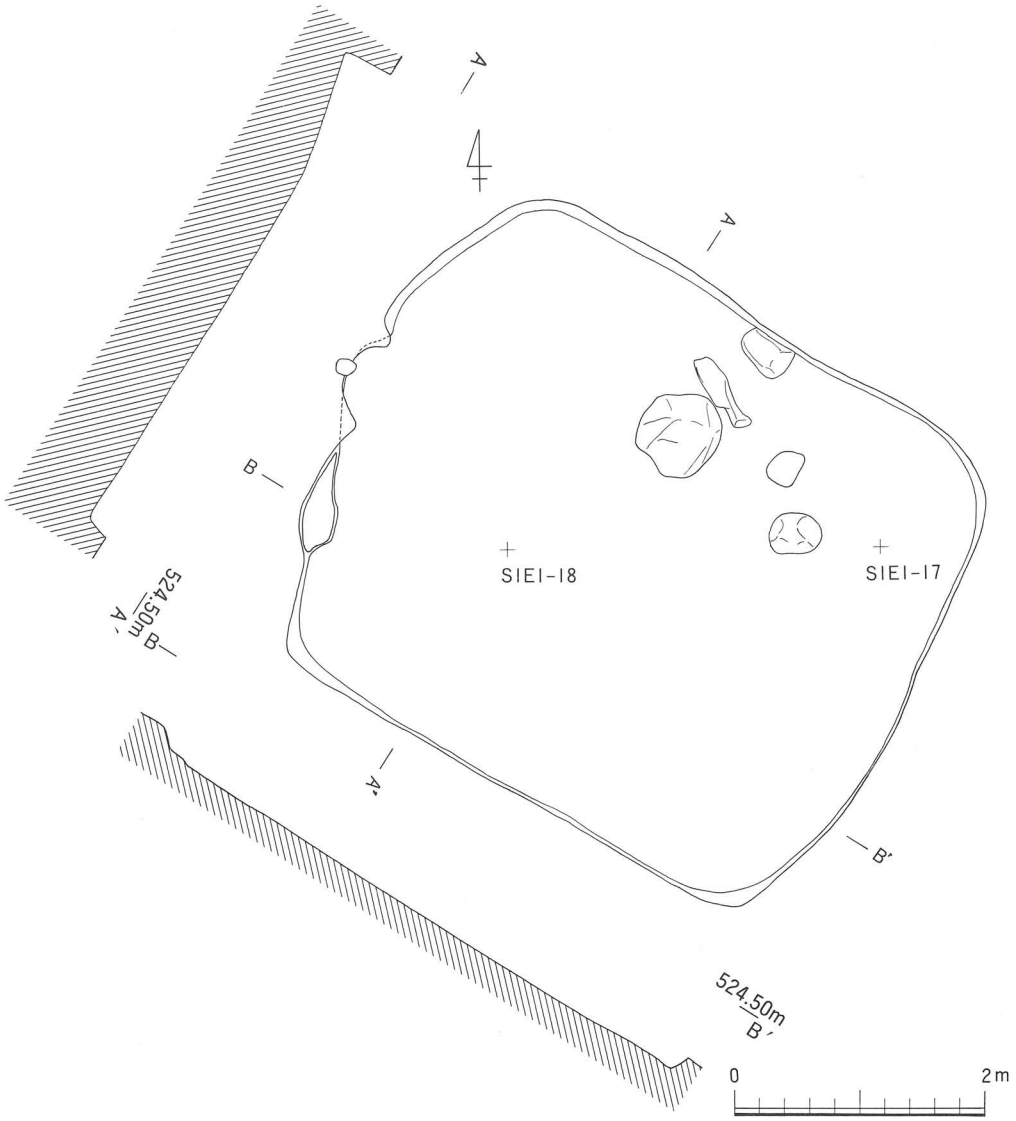
第31図　第９号住居址出土遺物実測図(1)



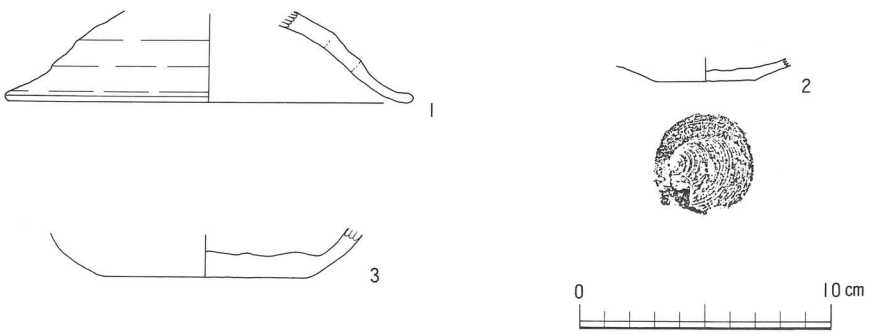
第32図　第９号住居址出土遺物実測図(2)



第33図　第 9 号住居址出土遺物実測図(3)



第34図　第10号住居址実測図



第35図　第10号住居址出土遺物実測図

10　第10号住居址

遺　構（第３４図）

第１０号住居址はＡ区Ｓ１Ｅ１－16,17,18,23,24,25 にかけて検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は、南北 4.3m東西 4.9mで、床面積は21.4㎡である。壁高40～14cmを測り、遺構の遺存状況は悪い。主軸方位はＮ－33°－Ｅを指す。覆土は１層で石、礫を多量に含む砂質の黒褐色土である。

床面には第７号住居址同様、石が多く入り込んでおり、柱穴も確認されなかった。西壁に竈の痕跡が僅かに見られたが、これも壊滅状態で、はっきりと確認できなかった。

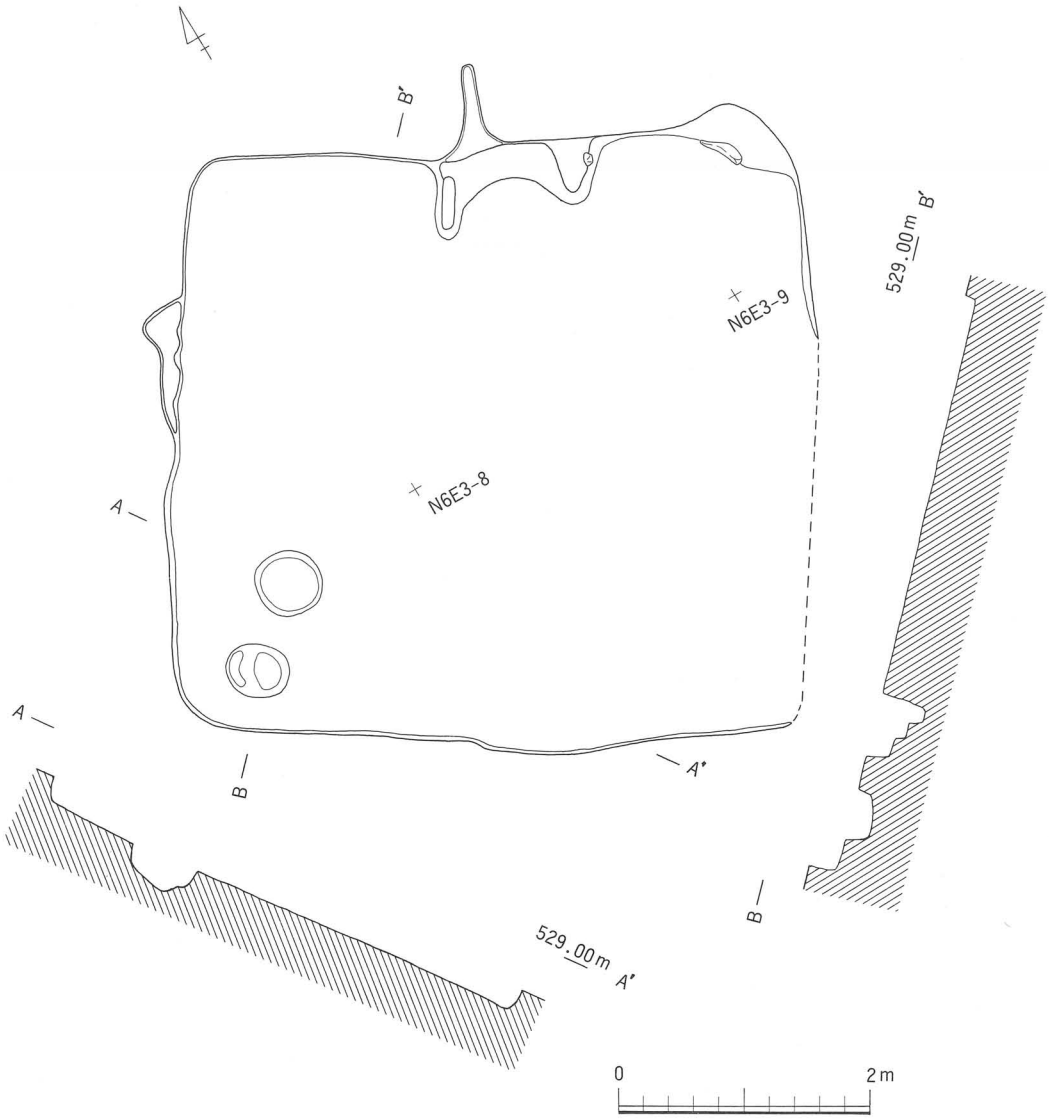
本住居址のプラン検出面周囲は石、礫を大量に含む砂質土であり、河床の様相を呈しており、本住居址が河川の氾濫原に構築され、その後も氾濫によって破壊されたものと推察される。

遺　物（第３５図、第１８表）

本住居址からの出土遺物は少なく、図示出来たのは３点だけである。１は土師器蓋で、器高が高く、内面には吸炭処理をした形跡がある。２は須恵器の土師器坏で、器質は非常に堅緻である。３は須恵器坏底部である。

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	（蓋） 土師	覆土	残高 3.6 裾径16.0 天井部～裾部 1/2	胎：0.8の礫含有 焼：良 色：外2.5Y8/3 淡黄色 内10R4/1暗赤灰色	粘土帯積み上げ 裾部緩やかに大きく外反する。	轆轤による「撫で」の後、天井部縦位の、裾部横位の「撫で」	天井部轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」
備考							
2	（坏） 土師	覆土	残高 0.9 底径 3.9 底部のみ	胎：0.1未満の石英粒含有 焼：良 色：外内7.5YR6/2 灰褐色	底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
3	（坏） 須恵	覆土	残高 2.0 底径 8.2 底部 1/2	胎：0.5の白色礫含有 焼：良 色：外内N8/灰白色	底部から体部に緩やかに立上がる。	底部轆轤による「篦切り」の後放射状の「撫で」体部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							

第18表　　第10号住居址出土遺物一覧表

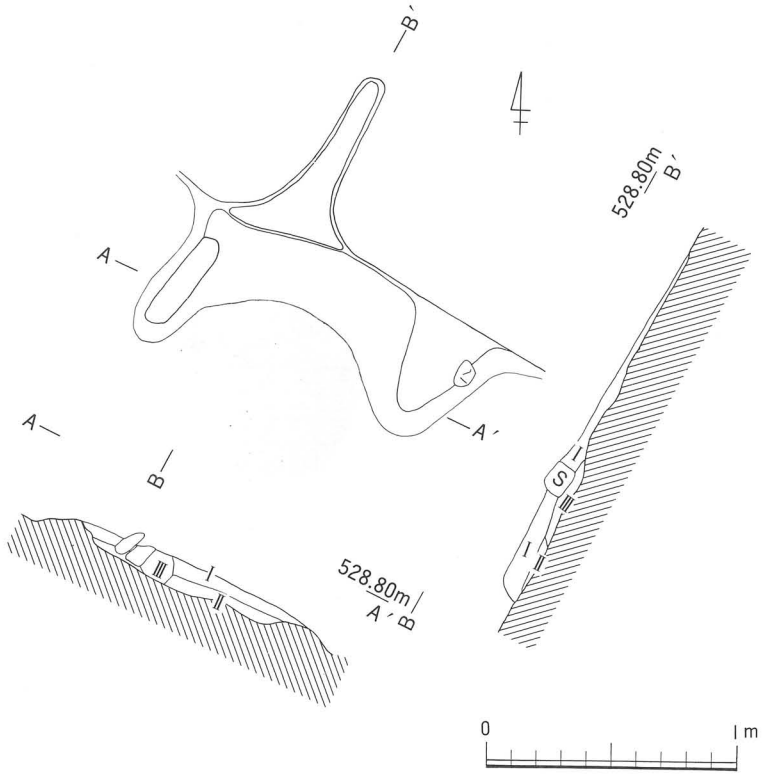


第36図　第11号住居址実測図

11　第11号住居址

遺　構（第３６・３７図）

本住居址はＣ区の最北に位置しており、Ｎ７Ｅ３－11,12,13、Ｎ６Ｅ３－8,9,10のグリッドにわたって検出された。東壁の大部分が流失していて全体の規模ははっきりしないが、遺構はほぼ隅丸方形を呈する。主軸方位はＮ－31.5°－Ｅ、東西方向で約 5.1m、遺構中央の南北方向で4.68m、壁高0.18mを測る。床面積は約23.9㎡である。北壁中央部に竈があり、袖石は失われているが、粘土郭の基部と石のはずれたあとの穴が残り、床面のレベルに焼土が広く遺存していた。床は貼り床である。３～５㎝の厚さの粘土で固く叩き締められていた。床面はほぼ水平であった。



第37図　第11号住居址竈実測図

西壁中央部に階段状の段があり、入り口と思われる。柱穴は一か所だけ確認でき、28×26×13（cm）であった。西南隅に26×20×9（cm）、を測るピットがあったが、その用途は不明である。

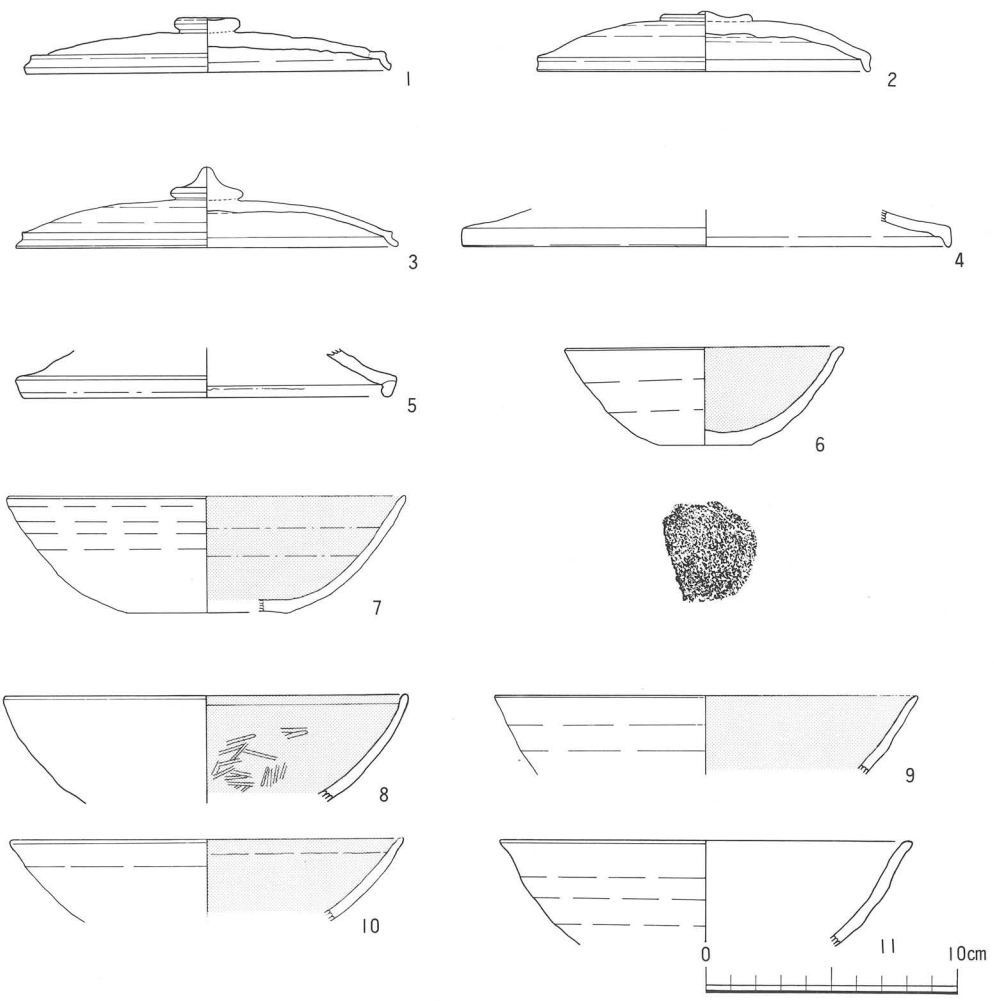
竈は、主軸方位がN－27.5°－E、最大幅0.98m、全長0.54mを測る。右袖部の破壊が激しく、焚口幅の正確な計測はできなかったが、袖残存部の突端から突端までは0.90mであった。煙道長は0.71mを測り、煙道は北壁を掘り込んで緩やかに立ち上がり、壁外でいったん5cmの深さを示し、約2cmの深さで末端部に至る。

覆土は砂混じりの黒色土1層であり、竈部の土層は3層よりなる。I層は覆土であり、II層は焼土と灰混じりの黒色土層、III層は焼土ブロックである。貯蔵穴は発見できなかった。なお、本遺構の東北部分から東南部分にかけてこぶし大の礫が大量に混入しており、川砂も混じっていた。

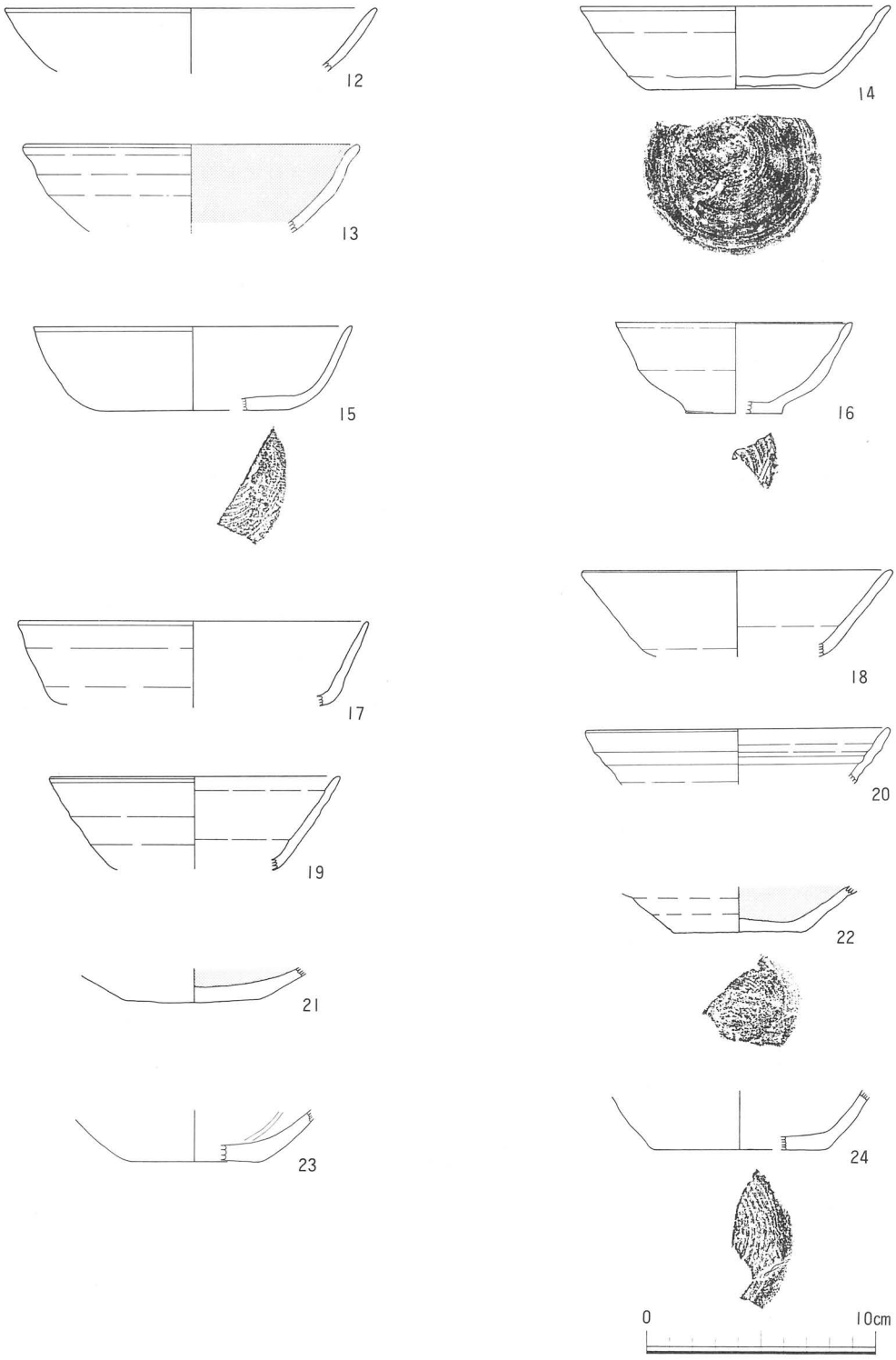
遺　物（第38～41図、第19～23表）

本遺構からの出土遺物は多く、35点を図示できたが、完形品はなかった。床面からの出土は3，14,28 で、他は覆土からの出土である。竈出土は、1，18，30である。1～5は須恵器の蓋である。坏の出土は多く、土師器の坏10点（6～10,12,13，21～23）、須恵器も11点（11，14～20，24,26,27）を数える。高台付のものは少なく、26,27 だけである。25は皿である。内部黒色の坏は8点あるが研磨されているものは8，21のみである。口縁部が外反するものが7，9，10,11,

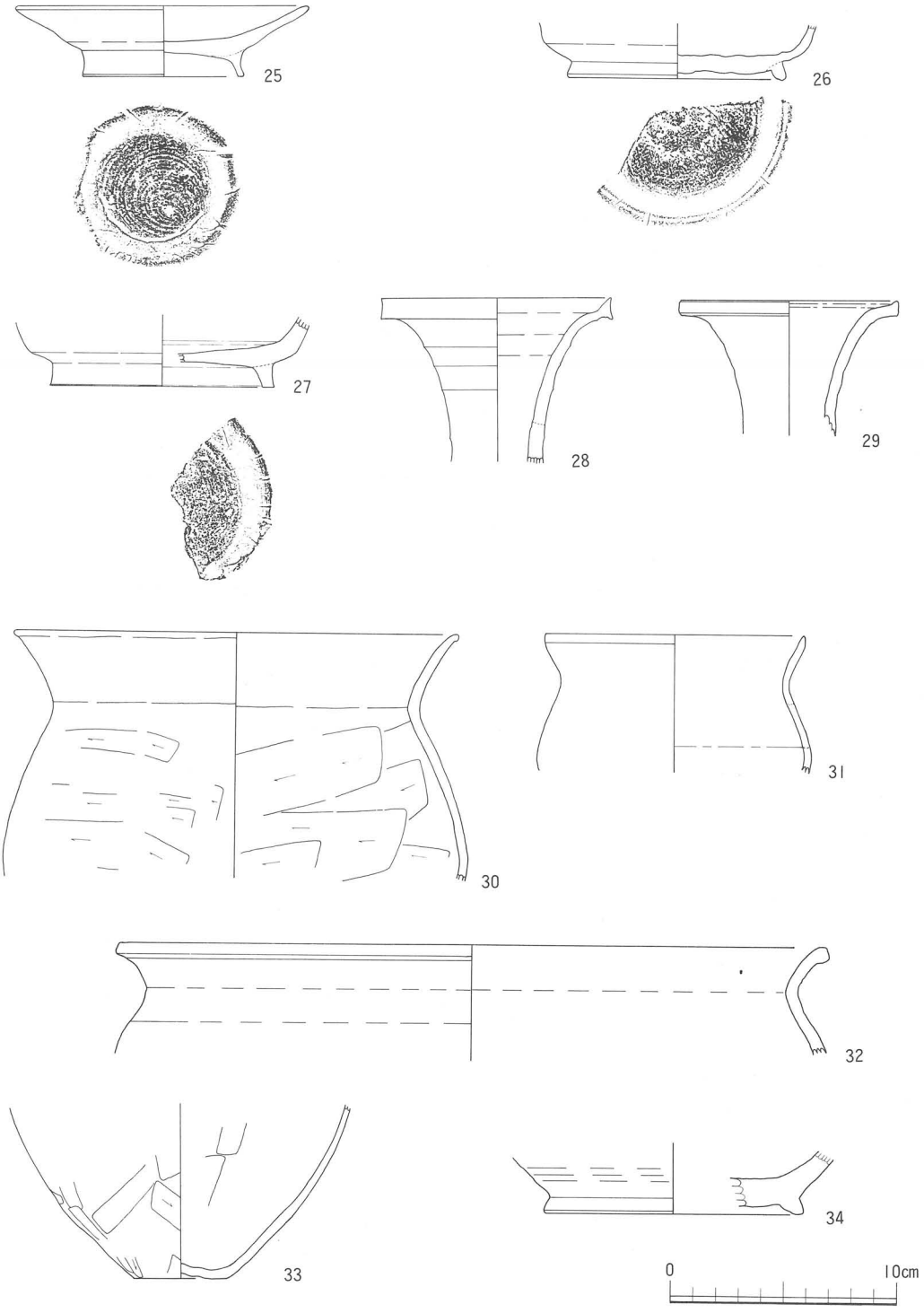
13，で直立するものは８の一つと少ない。須恵器で底部から急に立ちあがるのが14，15である。口径と底径の比は1.84：1,1.66：１と小さく土師器坏は底部より緩やかに立ち上がるものが多い。口径対底径の比が 2.7～3.0 ：１と大きいのが６， ７，16である。底部については、21が手持ち篦切り、26，27が回転篦切り、他は回転糸切りである。28，29は須恵器の壷である。30～33は土師器の甕である。30は外面で横ないし斜方向の篦削り調整が施されており、器肉はうすい（３～５㎜）。30，33は胴部を欠いているが、同一個体のものと思われる。34は須恵器の高台付小型甕、31は器肉の薄い小型甕であるが、胴部以下を欠いている。35は須恵器の大型の壷である。



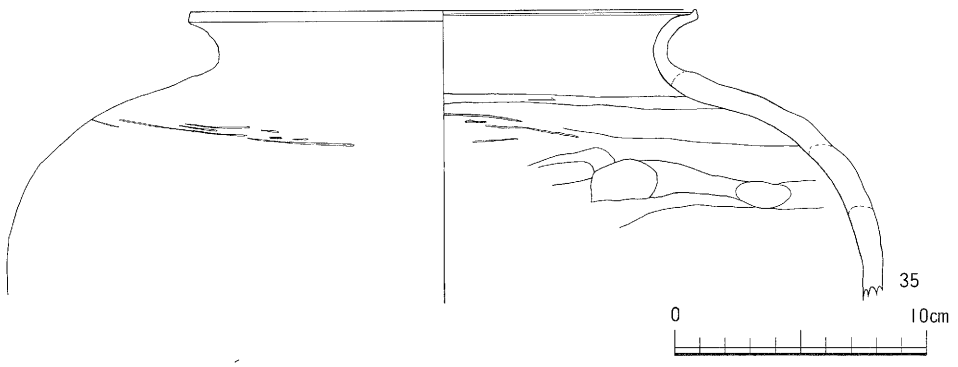
第38図　第11号住居址出土遺物実測図(1)



第39図　第11号住居址出土遺物実測図(2)



第40図　第11号住居址出土遺物実測図(3)



第41図　第11号住居址出土遺物実測図(4)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	 内
1	蓋 須恵	竈	抓み径 2.6 器高 2.2 裾径 14.6 抓み部～裾部1/2	胎：黒色・白色の粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/4にぶい橙色	付け抓みは中央部が窪んだ盤状を呈する。裾部と天井部の接合部に明瞭な段を有する。	抓み部「撫で」天井部上位轆轤による「篦削り」下位轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転、不完全な還元焔焼成。						
2	蓋 須恵	覆土	抓み径 3.7 器高 2.4 裾径 13.4 抓み部完存 天井部～裾部 1/8	胎：白色、黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5Y5/1灰色	抓み部は偏平な宝珠形を呈する。	天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
3	蓋 須恵	床	抓み径 2.9 器高 3.2 裾径 15.3 抓み部完存 天井部～裾部 1/3	胎：黒色粗砂粒を多く含有する。 焼：良 色：外N4/灰色 内N6/灰色	抓み部は宝珠形を呈する。	天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	外面天井部に緑黄色の自然釉が多量に付着している。						
4	蓋 須恵	覆土	残高 1.5 裾径19.6 裾部 1/12	胎：0.1以下の黒色粗砂粒、雲母含有 焼：やや不良 色：外7.5Y7/1 灰白色 内N8/灰白色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
5	蓋 須恵	覆土	残高 1.9 裾径14.6 裾部 1/12	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5B6/1		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	裾部の接合痕が明瞭に見える。						
6	坏 土師	覆土	口径11.2 器高 3.8 底径 3.9 口縁部1/12 底部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR7/6橙色 内黒色	体部外面に緩やかな綾を２条有する。 粘土紐巻上げか。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						

第19表　　第11号住居址出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
7	坏 土師	覆土	口径15.9 器高 4.7 底径 5.3 口縁部～底部 1/6	胎：石英、細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6 橙色 内黒色	体部は内彎しながら立上がり、口縁部で短く外反する。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
8	坏 土師	覆土	口径16.2 残高 4.3 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/4 淡赤橙色(口縁部黒色) 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部やや直立する。	不定方向の「撫で」	不定方向の「磨き」
備考							
9	坏 土師	覆土	口径16.9 残高 3.2 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	外面に2条の稜を有し、口縁部やや外反する。	轆轤による「撫で」	斜位の「撫で」の後黒色処理
備考							
10	坏 土師	覆土	口径15.8 残高 3.3 口縁部～体部 1/12	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外10R3/4 暗赤色 内黒色	口縁部緩く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
11	坏 土師	覆土	口径16.4 残高 4.2 口縁部～体部 1/6	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内2.5YR4/6 赤褐色	体部外面に稜を持ち、口縁部外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
12	坏 土師	覆土	口径16.4 残高 2.8 口縁部～体部 1/12	胎：0.1の赤褐色砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内10YR 7/2 にぶい黄橙色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
13	坏 土師	覆土	口径14.8 残高 3.8 口縁部～体部 1/6	胎：雲母、石英の粗砂粒含有 焼：良 色：外10R6/6 赤橙色 内黒色	体部は内彎しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
14	坏 須恵	床	口径13.6 器高 3.6 底径 7.4 口縁部～底部 2/3	胎：0.3～0.1の黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	平底の底部から体部はほぼ直立し、口縁部に至る。 轆轤水挽き成形	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						
15	坏 須恵	覆土	口径14.0 器高 3.7 底径 8.4 口縁部～底部 1/4	胎：石英、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内N8/ 灰白色	轆轤水挽き成形	轆轤による「撫で」一部手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」一部手持ちの「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						

第20表　第11号住居址出土遺物一覧表（2）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
16	坏 須恵	覆土	口径10.4 器高 4.1 底径 3.9 口縁部～体部 1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内N6/灰色	底部と体部の接合部に明瞭な段を有する。	轆轤による「撫で」一部手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」一部手持ちの「撫で」
備考							
17	坏 須恵	覆土	口径15.4 残高 3.7 口縁部～体部 1/6	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N4/灰色 内N5/灰色	体部は直立し口縁部に至る。体部に緩やかな稜を有する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
18	坏 須恵	竈	口径13.6 残高 3.8 口縁部～体部 1/12	胎：白色細砂粒含有 焼：やや不良 色：外内N8/灰白色	体部は直立し口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
19	坏 須恵	覆土	口径12.8 残高 4.1 口縁部～体部 1/6	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内口辺部2.5GY 7/1 明オリーブ灰色、体部N5/灰色	体部内彎しながら口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
20	坏 須恵	覆土	口径13.4 残高 2.5 口縁部 1/6	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内7.5Y8/1 灰白色	内外面に強い稜がある。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
21	坏 土師	覆土	残高 1.5 底径 5.9 底部 1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	平底の底部から緩やかに体部に立上がる。	「撫で」 底部手持ちの「篦切り」	「磨き」 黒色処理
備考							
22	坏 土師	覆土	残高 1.8 底径 5.8 底部 1/4	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR7/4にぶい黄橙色 内黒色	平底の底部から緩やかに内彎する体部に立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	黒色処理
備考							
23	坏 土師	覆土	残高 2.3 底径 5.7 底部 1/3	胎：石英、粗砂粒含有 焼：良 色：外10R6/6 赤橙色 内10R5/6 赤色		轆轤による「撫で」か 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後1条の篦状工具による「磨き」
備考							
24	坏 須恵	覆土	残高 2.6 底径 7.5 底部～体部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内N8/灰白色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考							

第21表　第11号住居址出土遺物一覧表（3）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
25	坏 (皿) 土師	覆土	器高 3.2 底径 7.2 口径13.1 口辺部 1/8 底部完存	胎：0.1~0.2 の赤褐色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/6 橙色	付け高台は裾部でやや外反する。 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」 高台部横位の「撫で」	放射状に丁寧な「磨き」
備考							
26	(坏) 須恵	覆土	残高 2.4 底径 9.8 底部 1/3	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内10YR5/1 褐灰色	付け高台	轆轤による「撫で」 底部回転「篦切り」	轆轤による「撫で」
備考							
27	(坏) 須恵	覆土	残高 3.2 底径10.0 底部 1/4	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	付け高台 底部中央の器厚が薄い。	轆轤による「撫で」 底部回転「篦切り」か	轆轤による「撫で」
備考							
28	壺 須恵	床	口径10.2 残高 7.4 頸部 1/3	胎：0.7の礫含有 焼：良 色：外内7.5Y7/1 灰白色	粘土帯積み上げ 頸部からラッパ状に開き口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	内外面に淡緑色(7.5GY7/1)の自然釉が付着。						
29	壺 須恵	覆土	口径 9.7 残高 6.0 口縁部~頸部 1/3	胎：石英、雲母、粗砂粒を多く含有 焼：良 色：外N3/ 暗灰色 内N7/ 灰色	頸部からラッパ状に開き口縁部に至る。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	外面に自然釉が付着している。						
30	甕 土師	竈	口径19.8 残高11.0 口縁部1/8 肩部 1/4	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR4/3 にぶい赤褐色 内7.5YR4/3 褐色	口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 胴部「篦削り」	口縁部「撫で」 胴部「篦撫で」
備考							
31	甕 土師	覆土	口径11.6 残高 6.1 口縁部~胴部上位1/12	胎：0.1~0.2 の石英粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6 橙色 内5YR6/2 灰褐色	粘土帯積み上げ	横位の「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
32	甕 須恵	覆土	口径31.6 残高 4.7 口縁部1/16	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内N8/灰色	口縁部「くの字」状に外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
33	甕 土師	覆土	残高 7.6 底径 4.2 底部1/2 胴部下位1/5	胎：0.1の石英、粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR5/6 明赤褐色 内5YR6/6橙色		「篦削り」	篦状工具による丁寧な「撫で」
備考							
34	甕 須恵	覆土	残高 2.5 底径11.6 底部 1/6	胎：黒色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N6/ 灰色	付け高台	轆轤による「篦削り」	轆轤による「撫で」
備考							

第22表　第11号住居址出土遺物一覧表（4）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
35	壺 須恵	覆土	口径 20.2 残高 11.7 口縁部～胴部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅黄橙色 内N5/灰色	粘土帯積み上げ 胴部中～上位に強い張りを有し、口縁部で「コの字」状に外反する。	横位の「撫で」か	口縁部横位の「撫で」、肩部横位の「篦削り」、胴部横位の「篦削り」
備考							

第23表　第11号住居址出土遺物一覧表（５）

口径20.2cmを計り、最大径は胴部にあって30.0cmを計る。外面には浅黄色の自然釉が一面にうき出ている。

13　第13号住居址

遺　構（第４２・４３図）

第１３号住居址はＡ区Ｓ２Ｅ０－90,91,92グリッドにかけて検出された。住居址西側が調査区域外になったため、住居址全体のプランの把握はできなかった。平面形態は隅丸方形を呈すると思われる。南東壁 2.7m、北東壁 3.6mで、壁高12～24cm、検出床面積は 10.13㎡を測る。主軸はＮ－42°－Ｗを指す。覆土は黒褐色の砂質土である。

床は北側がやや高く、地勢に沿った傾斜である。

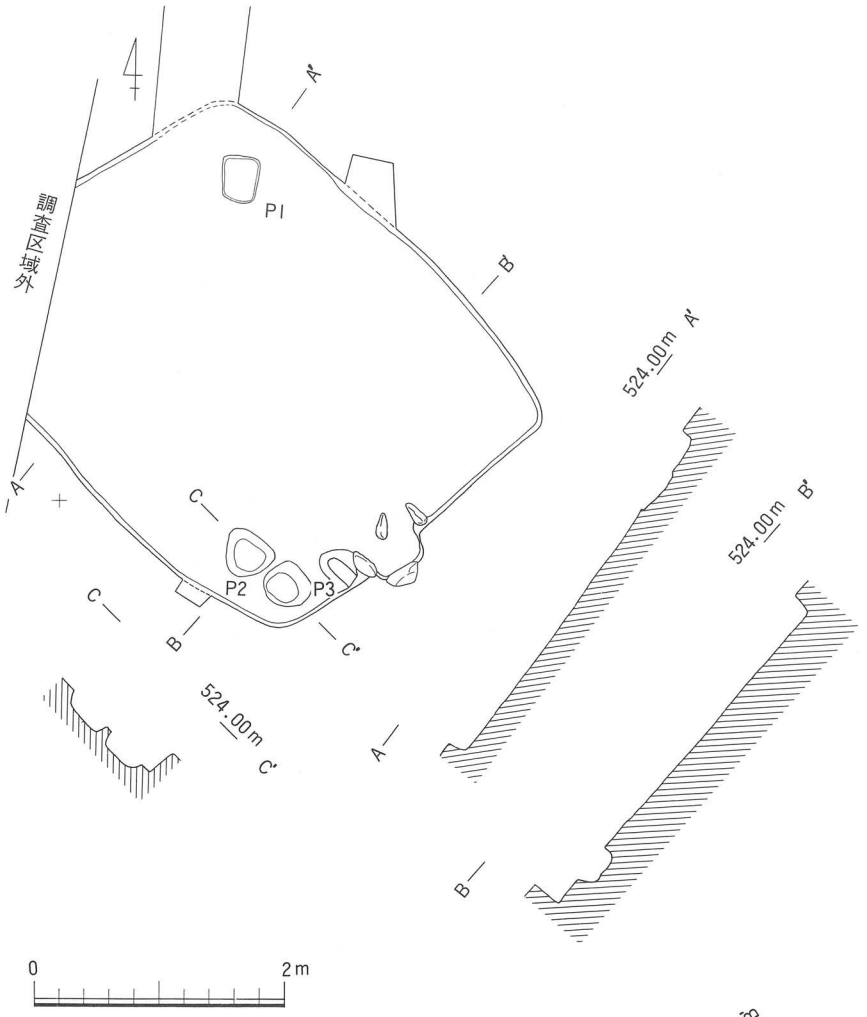
ピットは３個検出された。このうちＰ２（40cm×36cm深さ９cm）、Ｐ３（36cm×34cm深さ９cm）が柱穴である。Ｐ１（32cm×28cm深さ３cm）は方形を呈し、使途は不明である。

竈は南東壁中央南寄りに検出された。主軸方位は住居と同じＮ－42°－Ｗを指す。全長53cm、最大幅75cmを測る。煙道は壁を11cm外に掘り込み、安山岩を立てて構築している。火床部は床面と同一である。両袖部は安山岩の芯が露出した状態で検出された。支脚は火床部中央に倒置して検出されている。

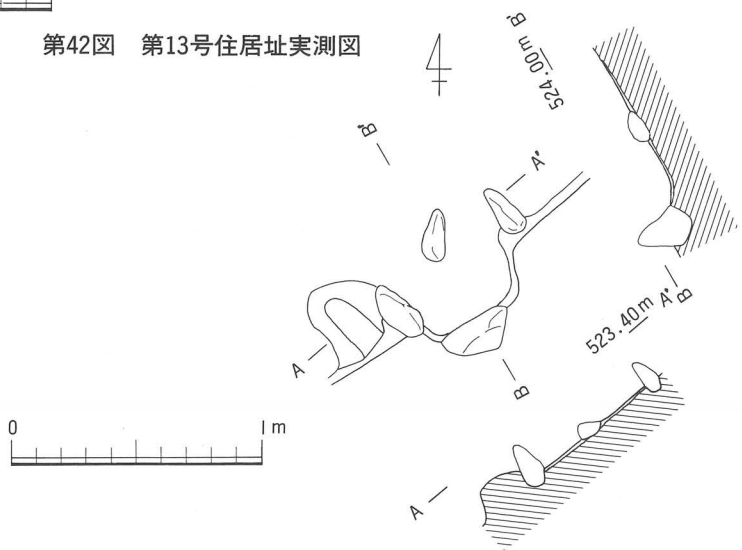
遺　物（第４４～４６図、第２４～２６表）

須恵器坏が多く、計15種出土している。このうち床着遺物は３，５，13，14の坏、１の須恵器蓋、21～23の須恵器甕がある。また、12、15の坏は焼成中に酸素に触れたためか、不完全な還元焔焼成となっている。

竈内からは15の坏と20の須恵器甕が出土している。



第42図　第13号住居址実測図



第43図　第13号住居址竈実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	蓋 須恵	床	抓み径 2.8 器高 3.2 裾径 13.2 裾部一部欠損	胎：0.1の白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	付け抓みは偏平な宝珠形を呈する。	天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「篦撫で」
備考	轆轤右回転。						
2	蓋 須恵	覆土	抓み径 2.6 器高 3.4 裾径 18.2 抓み部完存 天井部完存 裾部 2/3	胎：0.1～0.2 の粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内7.5Y8/1 灰白色	付け抓みは偏平な宝珠形を呈する。	天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	轆轤による「篦撫で」
備考	轆轤右回転。						
3	坏 須恵	床	口径12.8 器高 3.5 底径 7.0 底部完存、口縁部1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	体部僅かに内彎しながら口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。底部外面に篦記号らしいものある。						
4	坏 須恵	覆土	口径15.0 器高 3.8 底径 6.6 底部完存、口縁部1/5	胎：白色粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内N6/ 灰白色	体部僅かに内彎しながら口縁部に至る。	体部轆轤による「撫で」口縁部手持ちの「撫で」底部回転糸切りの後「撫で」	体部轆轤による「撫で」 口縁部手持ちの「撫で」
備考							
5	坏 須恵	床	口径14.0 器高 3.8 底径 6.0 底部～口縁部 1/4	胎：0.1～0.3 の粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外5Y7/ 灰白色 内10Y7/1 灰白色	平底の底部からほぼ直立し、口縁部で僅かに外反する。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切りの後「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
6	坏 須恵	覆土	口径 8.8 器高 3.5 底径 4.2 口縁部1/6 底部 1/4	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	平底の底部からほぼ直立し、口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 底部回転篦切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						
7	坏 上師	覆土	口径14.8 残高 3.8 口縁部～体部 1/7	胎：石英、茶褐色粗砂粒含有 焼：不良 色：外内10YR8/1 灰白色	体部は緩く「くの字」状に内彎しながら立上がり、口縁部で緩く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
8	坏 須恵	覆土	口径13.2 残高 3.1 口縁部～体部 1/10	胎：0.4の礫含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	体部に僅かな稜を有し、口縁部緩やかに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
9	坏 須恵	覆土	口径14.0 残高 3.0 口縁部1/7	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	体部僅かに内彎し、口縁部短く僅かに外反する。	轆轤による「撫で」の後手持ちの「撫で」	轆轤による「撫で」の後手持ちの「撫で」
備考							

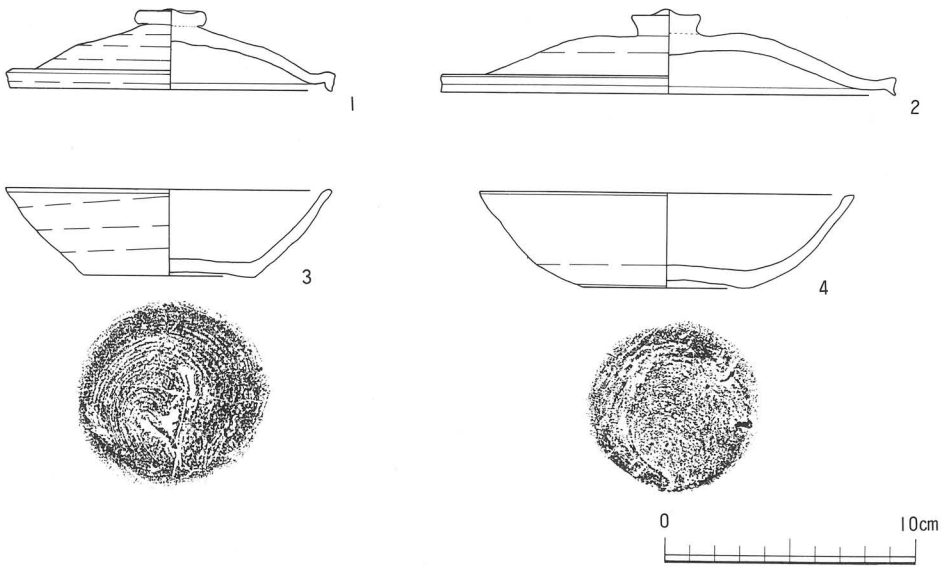
第24表　第13号住居址出土遺物一覧表（1）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
10	坏 須恵	覆土	口径14.4 残高 2.7 口縁部1/12	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内N7/　灰白色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
11	坏 須恵	覆土	残高 1.6 底径 6.6 底部 1/8	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/1 褐灰色 内5YR5/4 にぶい赤褐色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考							
12	坏 須恵	覆土	残高 1.2 底径 6.2 底部 1/6	胎：赤褐色砂粒含有 焼：やや不良 色：外5Y8/1　灰白色 内10YR8/3 浅黄橙色	平底	底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成。						
13	坏 須恵	床	残高 1.6 底径 6.9 底部完存	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/　灰白色		手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						
14	坏 須恵	床	残高 2.1 底径 7.6 底部完存	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N7/　灰白色 内N6/　灰色		体部轆轤による「撫で」体部から底部の移行部「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	外面に火襷ある。						
15	坏 須恵	竈	残高 2.1 底径 9.4 底部 1/2	胎：茶褐色粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外10YR8/1　灰白色　内5YR7/3 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 底部と体部の境に接合痕が僅かに残る。	手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」一部手持ちの「撫で」
備考	不完全な還元焔焼成。						
16	坏 須恵	覆土	残高 0.7 底径10.4 底部 1/8	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/　灰白色		「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考							
17	坏 須恵	覆土	残高 1.5 底径 9.4 底部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5Y7/1 灰白色		「篦削り」 底部篦削り	「撫で」
備考							
18	坏 須恵	覆土	残高 1.6 底径 8.4 底部 1/2	胎：白色細砂粒含有 焼：良 色：外内5Y6/1　灰色		「篦撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						
19	甕 土師	覆土	口径22.8 残高 5.9 口縁部～体部上位1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内5YR7/4 にぶい橙色	口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 頸部「篦撫で」 胴部上位「篦削り」	「撫で」
備考							

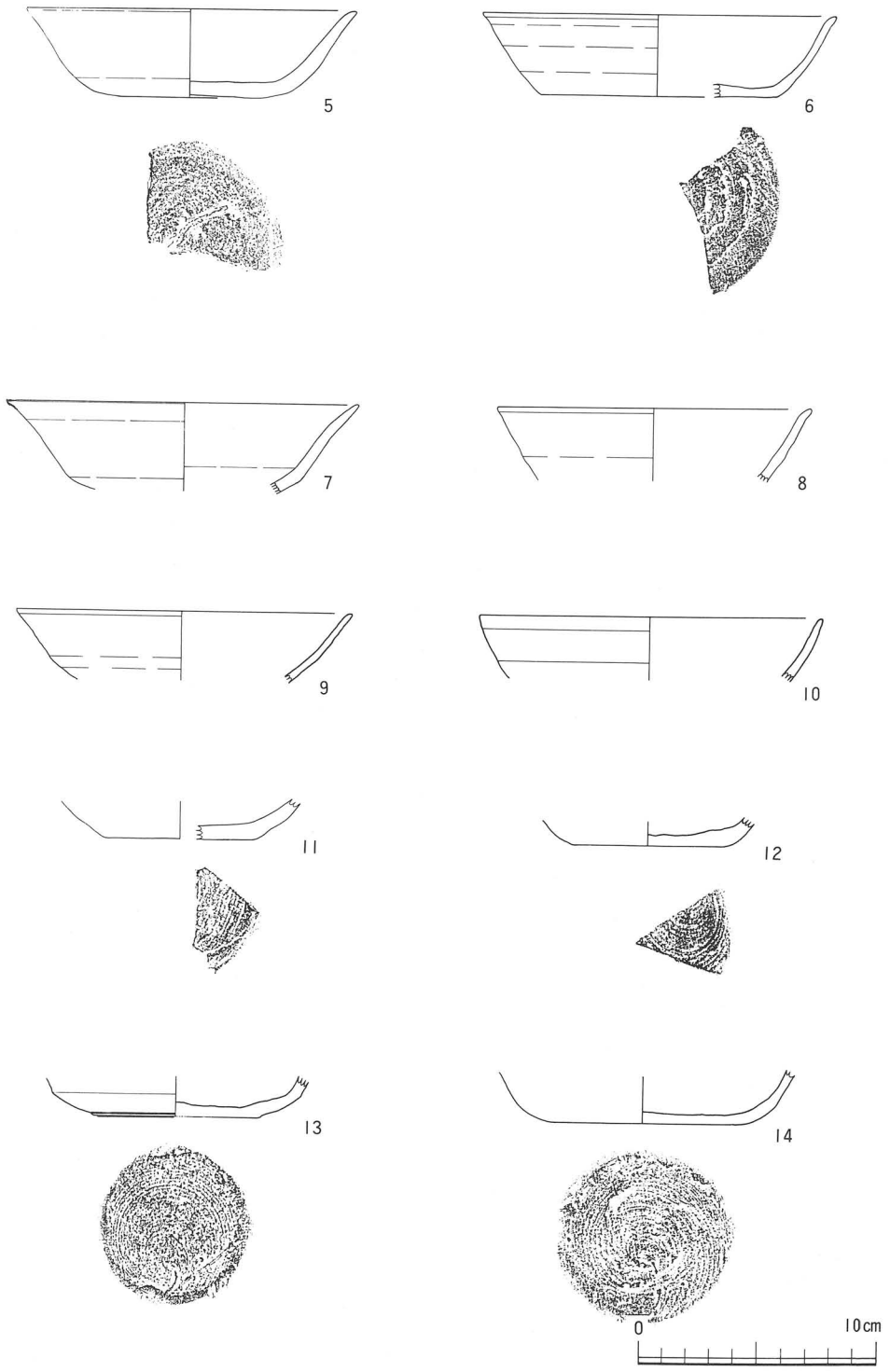
第25表　第13号住居址出土遺物一覧表（2）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
20	甕 土師	竈	口径24.6 残高 5.5 口縁部～頸部 1/16	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外2.5YR7/6 橙色 内5YR8/4 淡橙色	口縁部開く「コの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 頸部横位の「篦削り」	「撫で」
備考							
21	甕 須恵	床	残高 6.8 底径 8.2 底部～胴部下位 1/8	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N7/ 灰白色 内N6/ 灰白色		横位の「篦撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
22	甕 須恵	床	残高 5.9 底径18.2 底部～胴部下位 1/6	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR5/2 灰赤色 内2.5YR5/1 赤灰色		「叩き」の後「篦撫で」一部「篦削り」	横位の「篦削り」
備考							
23	甕 須恵	床	残高 5.8 底径18.4 底部～胴部下位 1/5	胎：赤色粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR4/1 褐灰色 内N7/灰白色		「叩き」 底部「篦切り」	「撫で」 横位の「篦削り」
備考							

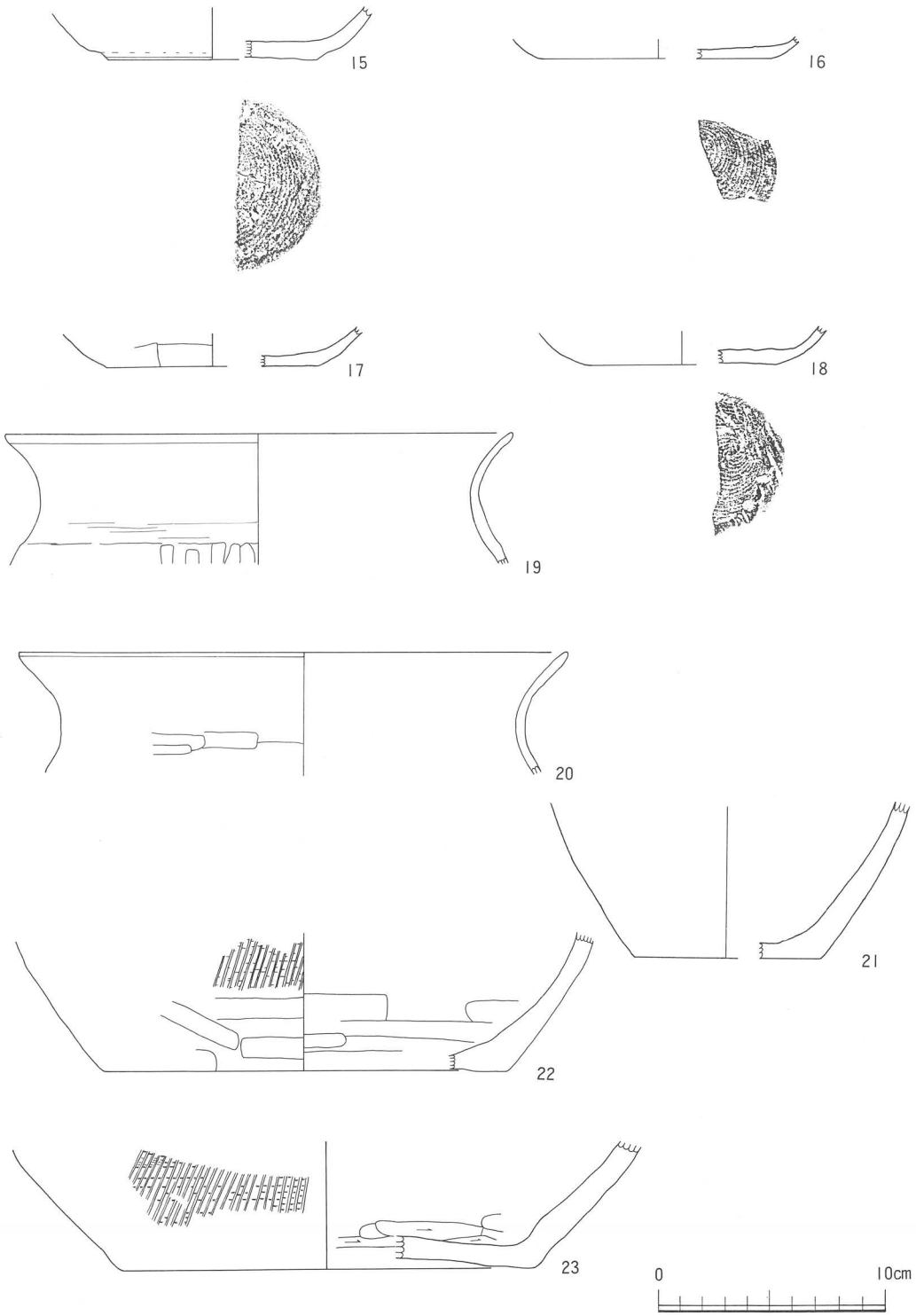
第26表　第13号住居址出土遺物一覧表（3）



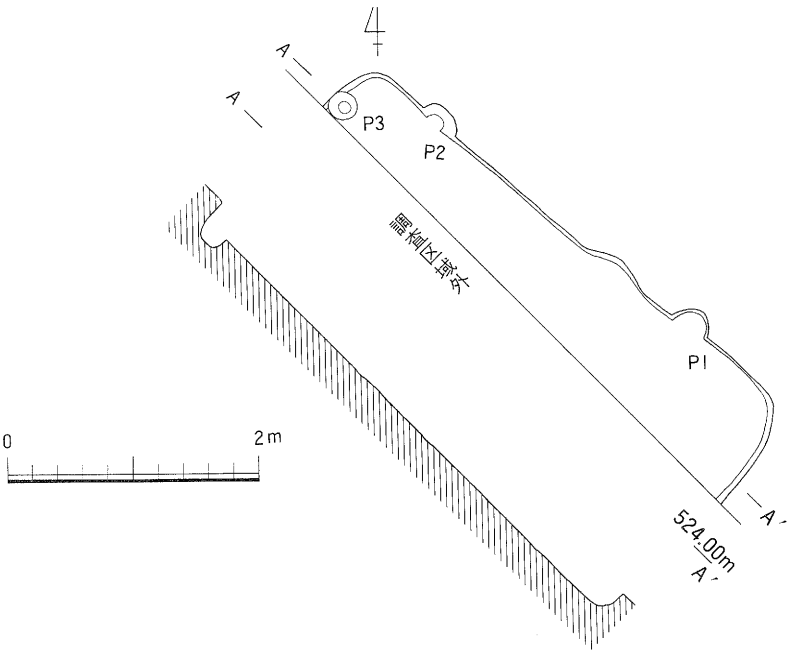
第44図　第13号住居址出土遺物実測図(1)



第45図　第13号住居址出土遺物実測図(2)



第46図　第13号住居址出土遺物実測図(3)



第47図　第14号住居址実測図

14　第14号住居址

遺　構（第４７図）

第１４号住居址はＡ区最南端、Ｓ２Ｅ１－59,62 グリッドにかけて検出された。大部分が調査区域外になっていたため、住居址の北東壁のみの調査となった。平面形態は隅丸方形を呈すると思われる。北東壁の長さは 4.2mを測り、壁高は20～22cm、検出床面積は 7,209㎡を測る。主軸方位はＮ－47°－Ｗと思われる。覆土は黒褐色の砂質土である。

ピットは３個検出された。Ｐ１、Ｐ２は壁を掘り込んでおり、深さは床面と同一である。Ｐ３（22cm×22cm深さ13cm）は北西壁際に作られている。

竈は検出されなかった。

遺　物

本住居址覆土からは須恵器坏、甕片が出土しているが図示するに至らなかった。

15　第15号住居址

遺　構（第４９図）

第１５号住居址はＣ区Ｎ５Ｅ３－24,36,37,38,44にかけて検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、主軸はＮ－42°－Ｗを指す。規模は北東－南西 3.1m、北西－南東 3.9mで、床面積10,703㎡を測る。壁高25～30cmで、床面はほぼ水平である。

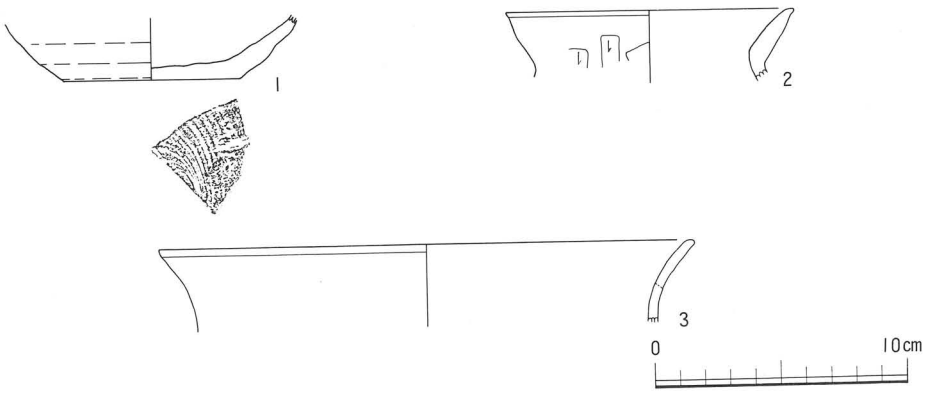
ピット、竈は検出されなかった。

遺　物（第４８図、第２７表）

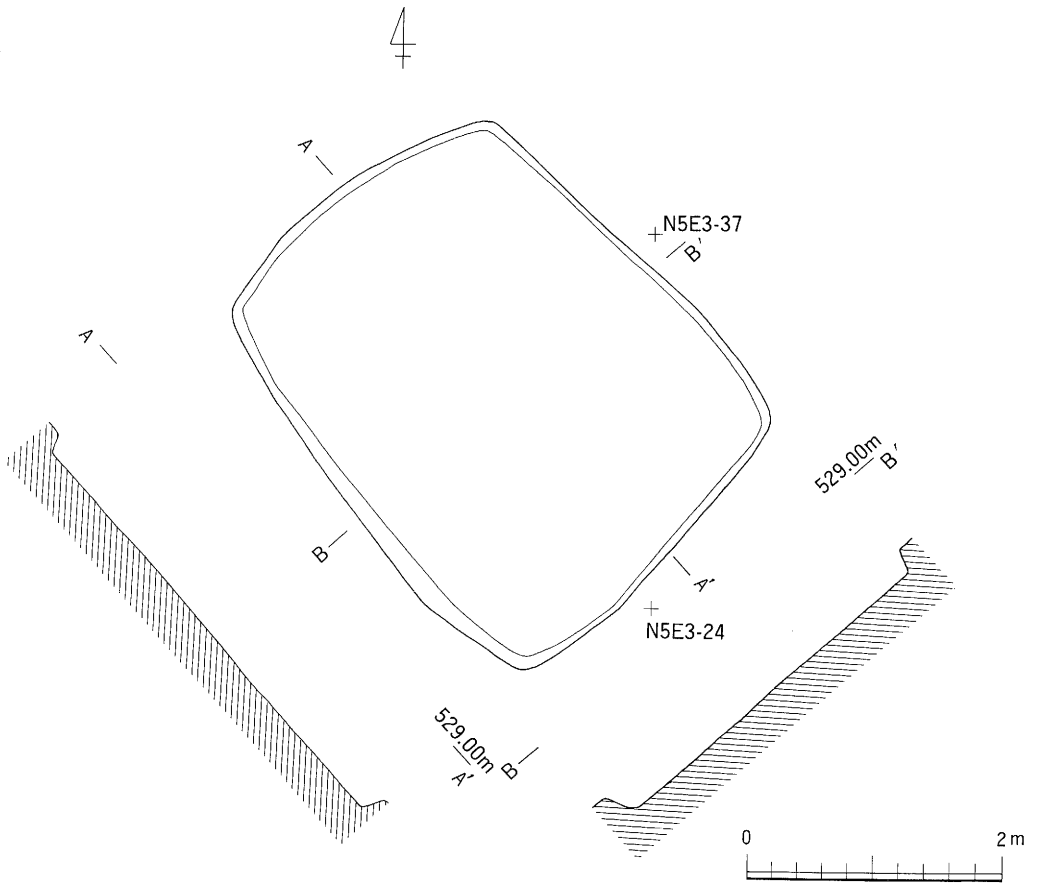
１．須恵器坏、２．小型の土師器甕、３．土師器甕が出土している。

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	坏 須恵	覆土	残高 2.3 底径 7.0 底部 1/4	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/　灰白色	平底の底部から体部内彎して立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						
2	（甕） 土師	覆土	口径11.5 残高 2.6 口縁 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5YR7/3 にぶい橙色	口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 頸部「篦削り」	「撫で」
備考							
3	甕 土師	覆土	口径21.4 器高 3.3 口縁部1/4	胎：雲母、白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ	口縁部刷毛状工具による「撫で」	口縁部「撫で」
備考							

第27表　　第15号住居址出土遺物一覧表



第48図　第15号住居址出土遺物実測図



第49図　第15号住居址実測図

16　第16号住居址

遺　構（第５０・５１図）

本住居址はＮ５Ｅ３－75～77,86,87のグリッドにまたがっており、第１７号住居址を大きく切り、第１４号土壙をも切って作られていた。一方南東の隅は第１５号土壙に切られており、さらに西側は調査区域外にかかっているため全容を確認することはできなかった。しかし、平面形態はほぼ隅丸方形と考えられ、主軸方位はＮ－28°－Ｅであり遺構東端南東方向で 3.9m（推定）であった。床は貼り床で２～４cmの厚さを測り、ほぼ水平であった。

壁については、氾濫を受けたためか、あるいは何か他の原因による作平を受けているのか北壁が第１７号住居址の床面を切って作られている部分で高さ３～５cm、一方竈部では壁が明瞭に確認でき、高さ0.14mを計ることができたが、他の壁はほとんど確認できず、部分的にトレンチと

第１５号土壙の間の15cmだけ確認でき、この部分の壁高は５cmであった。

覆土は１層からなり黄褐色の砂混じりの黒色土であった。柱穴は確認できなかった。

竈は遺構の北東隅の北壁に検出された。主軸方位はＮ－19°－Ｅであり、ほぼ完存していた。規模は全長0.82m、最大幅は焚口にあり、焚口幅0.39m、煙道は確認できなかった。支脚石は竈の軸線上に直立して検出された。燃焼室から煙道部へは垂直に立ち上がり、両側に石を立てて、その間の基部に平な石がおかれる構造と思われ、左側の石は遺存していたが、基部と右側には石の抜けた穴が明瞭に検出された。煙道への出口の構造は第１７号住居址およびＡ区第９号住居址のものと同一形態のものと思われる。両袖は粘土で石材を覆う形で構築されていた。他の遺構の竈に比して全長の割りに福員が狭く、遺構の隅にあって床部へつきだしている構造になっていた。このことは他の竈と著しく異なる点であった。

遺　物（第５２～５６図、第２８～３３表）

本遺構の遺物はたいへん多く、４２点を図示できた。まず大まかな特徴は、第一に竈内からの出土が多かったこと（３１点）、第二に遺物に占める坏の割合が多いこと。第三に床面出土の遺物も多いこと。第四に坏については出土数が多いのに対して完形のものが一点もないこと、第五、器種のバラエティーがなく皿と坏と甕と鉄製品だけであったこと。第六、須恵器が極端に少なく図示できたのは坏１点と甕１点だけであったことなどである。破片から復元によってほぼ完形を得られたのは土師器甕１点であった。第２７表のとおり、土師器の坏について若干まとめてみる。

表から分かるとおり内面黒色処理してあるものが多い。口縁部は外反するものが多く、底面は回転糸切りが多い。また底径と口径の比が小さいものが多い。個別に見ると暗文のあるものがひとつ（３３）、仕上げ粘土を用いてあり焼成が特に堅緻なものがひとつ（９）、とがある。１は皿であり、底部は完存し、体部、口縁部が全体の三分の一残存していた。底部は回転糸切りのあと丁寧に撫でてあり高台の取り付けが浅い。接合部の外面は箆状工具で撫でて沈線状をなしている。

甕は土師器のもの５点（３５，３６，３７，３８，３９）と須恵器のもの１点（４０）であった。３５は全体に少し歪んでいる。３６は小型球形胴にちかく、頸部の「く」の字状外反がやや強い。３７は口唇部で直立して面取りが施されている。３９は頸部での外反が少ない。４０は須恵器の甕の底部の一部である。４１，４２は鉄製品である。４１は木質のものを鉄で巻いたようになっている。４２は鎌と思われる。

17　第17号住居址

遺　構（第５０・５１図）

本住居址はＮ５Ｅ３－86,87 グリッドにまたがっており、第１６号住居址によって大きく切られている。さらに北壁への延長は調査区域外にかかっており、遺構の北壁の一部と竈のみ確認で

きたにとどまった。

床は貼り床であり、黄褐色粘土を２～３cm貼ってあったが、確認できた範囲はあまりにも僅かであった。竈は焚口部、燃焼部ともに破壊されていたが、燃焼部と思われる部位に２～３cmの厚さで焼土が遺存していた。また、壁面の一部を掘り込んで煙出しと思われる石組み構造が遺存していた。竈の主軸方位N－12°－E、焚口幅、最大幅ともに不明。煙出しの大きさは、間口0.14m、奥行き0.20m（推定）を測る。

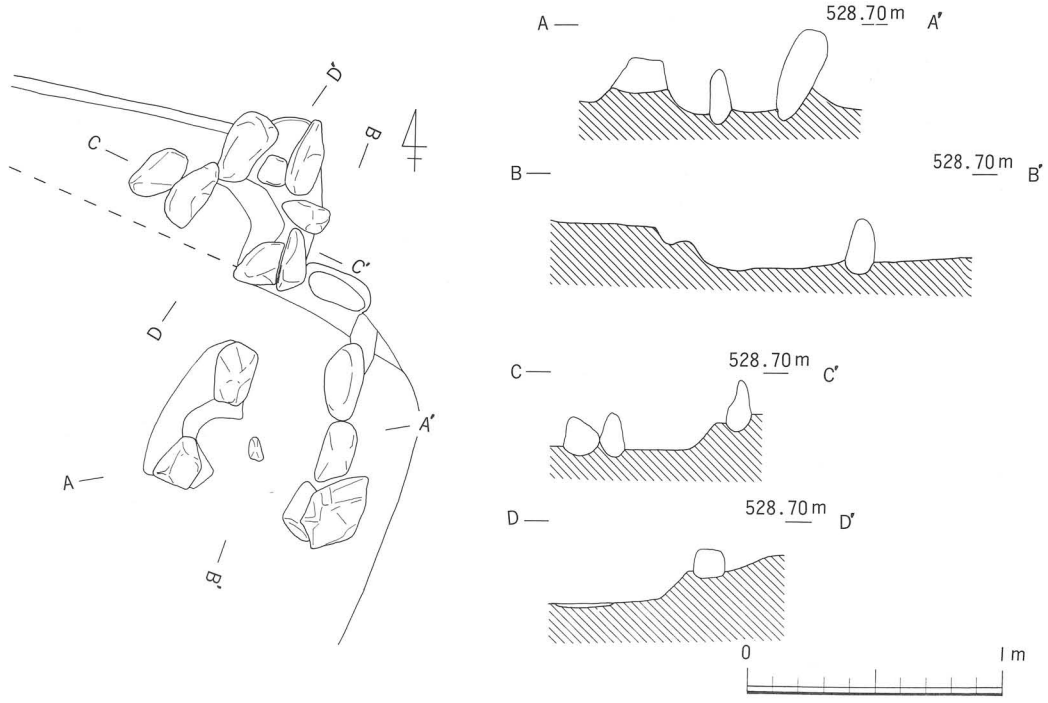
	内面黒色処理	黒色処理なし	口縁外反	口縁直立	回転篦削り	回転糸切り	高台付	口径：底径
2	○			○		○		2，3：1
3		○		○		○		3，1：1
4	○		○			○		2，3：1
5		○	○			○		2，5：1
6		○						
8		○	○					
9		○	○					
10		○		○				
14		○	○					
16	○		○		○			2，7：1
17	○			○		○		2，3：1
18	○			○		○		2　：1
19	○			○	○			2，1：1
21	○		○					2，6：1
22	○			○				
26	○			○				
27	○		○					
28	○			○				
29		○	○					
30	○		○					
31			○					
32	○					○		
34	○					○	○	
合計	14	9	11	10	2	8	1	

第28表　第16号住居址竈出土坏の法量比率

遺　物（第57・58図、第34・35表）

遺物は比較的多く17点を図示できた。土師器坏13点（高台付は12，13）、土師器甕4点である。遺物はすべて竈出土である。坏は内面黒色処理を施してあるものが多く11点である。5は内弯気味に肥厚して、断面丸みを帯びた口縁になっている。8と9は同様な手法による成型のしかたと思われ、肥厚して外弯する口縁となっている。特に8は面とりをして撫でている。12の高台は断面台形を呈し、13の高台はやや内弯気味に付けられている。14，15は小型の甕である。14は頸部の「く」の字状の外反が強く、外面がハケ状工具で調整されている。頸部下部から胴部半部にかけて篦状工具の先端で左上方から右下方へ不規則な間隔で削りによる流れるような文様がみられる。

第50図　第16・17号住居址実測図



第51図　第16・17号住居址竈実測図

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	皿 土師	竈	口径12.9 器高 2.7 底径 6.8 口縁部～高台部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/6	付け高台	轆轤による刷毛状工具による「撫で」、高台接合部「篦撫で」底部回転糸切り	篦状工具による放射状の「撫で」
備考							
2	坏 土師	竈	口径14.8 器高 3.9 底径 6.4 口縁部～底部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR5/2 灰黄褐色 内10YR4/1 褐灰色	平底の底部から体部は直立して立上がって、器厚が口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	篦状工具による放射状の「撫で」
備考	轆轤右回転。						
3	坏 土師	竈	口径16.8 器高 5.1 底径 5.4 口縁部～底部 1/2	胎：雲母、粗砂粒を多く含有 焼：やや不良 色：外内5YR6/6 橙色	右巻の粘土紐巻上げ平底の底部から体部外面に強い稜を有し、内彎しながら口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
4	坏 土師	竈	口径13.0 器高 3.7 底径 5.6 口縁部～体部 1/4	胎：粗砂粒、雲母含有 焼：良 色：外7.5YR6/3 にぶい褐色 内2.5Y4/1 黄灰色	体部内彎しながら立上がり、口縁部で緩く外反する。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	篦状工具による放射状の「磨き」
備考	轆轤右回転。						
5	坏 土師	竈	口径13.6 器高 3.6 底径 5.5 口縁部1/10 体部 3/4 底部完存	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内7.5YR5/2 灰褐色	口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「篦撫で」 口縁部「撫で」 底部回転糸切り	体部「篦磨き」 口縁部「撫で」
備考	轆轤右回転。						
6	坏 土師	竈	口径13.0 器高 3.7 口縁部～体部 1/4 底部5.6	胎：雲母、細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/3 にぶい褐色 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部で緩く僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	「篦磨き」
備考	高台付坏か。内面黒色処理の痕ある。						
7	坏 土師	覆土	口径16.0 残高 3.3 口縁部～体部 1/6	胎：黒色雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外内2.5YR5/6 明赤褐色	体部は内彎し、口縁部緩やかに外反する。	横位の「撫で」	「撫で」
備考							
8	坏 土師	竈	口径12.5 残高 3.5 口縁部～体部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6 橙色 内5YR6/8 橙色	体部は強めに内彎しながら立上がり、口縁部で短く抓み上げ、外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後★
備考							
9	坏 土師	竈	口径15.6 残高 3.1 口縁部～体部 1/10	胎：粗砂粒、雲母含有 焼：やや不良 色：外7.5YR7/3 にぶい橙色 内5YR6/6 橙色	体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部短く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「磨き」
備考	あるいは盤状の形態かと思われる。						

第29表　第16号住居址出土遺物一覧表（1）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
10	坏 土師	竈	口径15.9 残高 3.7 口縁部～体部 1/3	胎：細砂粒含有、比較的精選される 焼：良 色：外内5YR6/6 橙色	体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部短く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
11	坏 土師	覆土	口径14.6 残高 4.0 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6 橙色 内10R6/8 赤橙色	体部内彎しながら立上がり、口縁部緩やかに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
12	坏 須恵	覆土	口径17.4 残高 3.2 口縁部～体部 1/7	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5YR7/4 にぶい橙色	体部は直立に近く、口縁部で短く強めに外反する。	篦状工具による横位の「撫で」	篦状工具による横位の「撫で」
備考	黒色研磨か？						
13	坏 土師	竈	口径14.0 残高 2.3 口縁部～体部 1/12	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR6/3 にぶい橙色 内7.5Y7/1 灰白色	体部に僅かな稜を有し直立する。	横位の「撫で」	「撫で」
備考	内面あるいは黒色処理したものか。						
14	坏 土師	竈	口径15.4 残高 1.9 口縁部1/10	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/8 橙色	口唇部短く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
15	坏 土師	床	口径14.7 器高 4.0 底径 6.7 口縁部～底部 2/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR7/3 にぶい黄橙色 内黒色	平底の底部から緩やかに内彎しながら立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
16	坏 土師	竈	口径12.3 器高 4.3 底径 4.6 口縁部～底部 1/4	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR7/2 にぶい黄橙色 内黒色	平底の底部から強く内彎しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	口縁部～体部轆轤による「撫で」体部下位回転「篦削り」 底部回転篦切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
17	坏 土師	竈	口径14.5 器高 3.7 底径 6.4 口縁部～底部 1/4	胎：礫、粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/1 内黒色	平底の底部から僅かに内彎しながら立上がる。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
18	坏 土師	竈	口径12.8 器高 4.1 底径 6.5 底部完存 体部 1/4	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/8 橙色 内黒色	底部中央凸状に上がり、体部内彎しながら立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考	轆轤右回転。						

第30表　第16号住居址出土遺物一覧表（2）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
19	坏 土師	竈	口径13.0 器高3.9 ～4.3 底径 6.1 口縁部～底部 1/2	胎：赤色礫含有 焼：良 色：外7.5YR8/2 灰白色　内黒色	平底の底部から内彎しながら立上がり、口縁部直立する。口縁部に歪みある。	轆轤による「篦削り」 底部篦切り	底部～体部中位放射状の、口縁部横位の「篦磨き」
備考	口縁部にタール付着。轆轤右回転。						
20	坏 土師	覆土	口径12.9 器高 3.7 底径 6.0 口縁部～底部 1/4	胎：石英、粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	体部内彎しながら口縁部に至る。	轆轤による「撫で」体部下位「篦削り」 底部「篦切り」	轆轤による「撫で」の後黒色研磨
備考							
21	坏 土師	竈	口径13.6 器高 4.0 底径 6.7 口縁部～底部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/3 にぶい橙色 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部「撫で」 体部下位「篦削り」　底部不明	体部「篦磨き」 口縁部「撫で」
備考							
22	坏 土師	竈	口径14.0 残高 3.1 口縁部～体部 1/8	胎：雲母、石英粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6 橙色　内黒色	体部外面に浅い稜を有し、緩やかに内彎する。	轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」	「篦磨き」 口縁部横位の「撫で」
備考							
23	坏 土師	覆土	口径13.7 器高 4.1 底径 5.3 口縁部～底部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	平底の底部から緩やかに体部に立上がる。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考	轆轤右回転。						
24	坏 土師	覆土	口径14.3 残高 3.9 口縁部～体部 1/4	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外7.5YR7/6 橙色　内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
25	坏 土師	覆土	口径16.2 残高 3.6 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外10YR7/4　にぶい黄橙色　内黒色	体部緩やかに内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
26	坏 土師	竈	口径13.4 残高 3.4 口縁部～体部 1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR4/3 褐色　内黒色	体部緩やかに内彎する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
27	坏 土師	竈	口径16.8 底径 4.2 口縁部～体部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR7/3　にぶい黄橙色　内黒色	体部緩い「くの字」状に内彎する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							

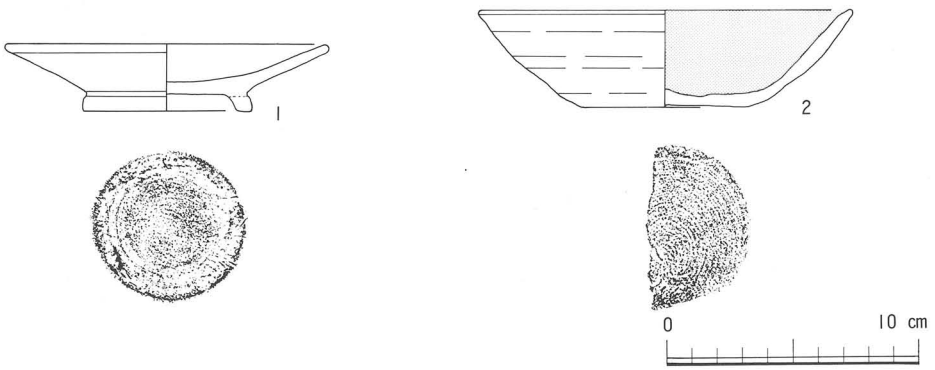
第31表　第16号住居址出土遺物一覧表（3）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
28	坏 土師	竈	口径15.8 残高 3.2 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6 橙色 内黒色	体部は器厚が厚く、口唇はほぼ直立する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
29	坏 土師	竈	口径12.5 残高 2.9 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/6 橙色 内7.5YR4/2 灰褐色	体部はごく僅かに内彎し、口縁部は外反する。 粘土紐巻上げか。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考							
30	(坏) 土師	竈	口径14.0 残高 2.1 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外10YR7/3 にぶい黄橙色 内黒色	口縁部外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
31	坏 須恵	竈	口径14.4 残高 2.5 口縁部1/12	胎：細雲母含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	口縁部短く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
32	坏 土師	竈	残高 2.8 底径 7.6～ 底部～体部 1/4	胎：黒色細雲母含有 焼：良 色：外2.5YR6/8 橙色 内黒色	底部内面中央凸状を呈する。	手持ちの「撫で」 底部回転糸切り	丁寧な「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
33	坏 土師	覆土	残高 1.8 底径 5.4 底部完存	胎：細雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/6 橙色 内黒色		「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理 底部中央から放射状に6条の「篦磨き」
備考	轆轤右回転。						
34	坏 土師	竈	残高 1.8 底径 7.7 底部 1/3	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/6 橙色 内黒色	付け高台	高台部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	黒色処理
備考	轆轤右回転。						
35	甕 土師	竈	口径22.9 器高30.3 底径 3.3 口縁部完存 胴部 7/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/3 にぶい橙色 内2.5YR7/4 淡橙色	粘土帯積み上げ 胴部上位に最大径を有し、口縁部は緩く「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部上位横位の「刷毛目」、胴部下位「篦削り」	口縁部横位の「撫で」、胴部斜位の「刷毛目」
備考							
36	甕 土師	竈	口径15.4 残高12.7 口縁部1/10 胴部 2/3	胎：黒雲母、石英、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内2.5YR4/2 灰赤色	粘土帯積み上げ 胴部外面に稜を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部「撫で」 胴部「篦削り」の後、轆轤による「篦撫で」	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
37	甕 土師	竈	口径20.4 器高10.4 口縁部～胴部上位1/8	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 口縁部緩く外反した後、口唇部で直立する。	轆轤による「篦削り」の後轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」の後、部分的に篦状工具による「撫で」 口縁部「撫で」
備考							

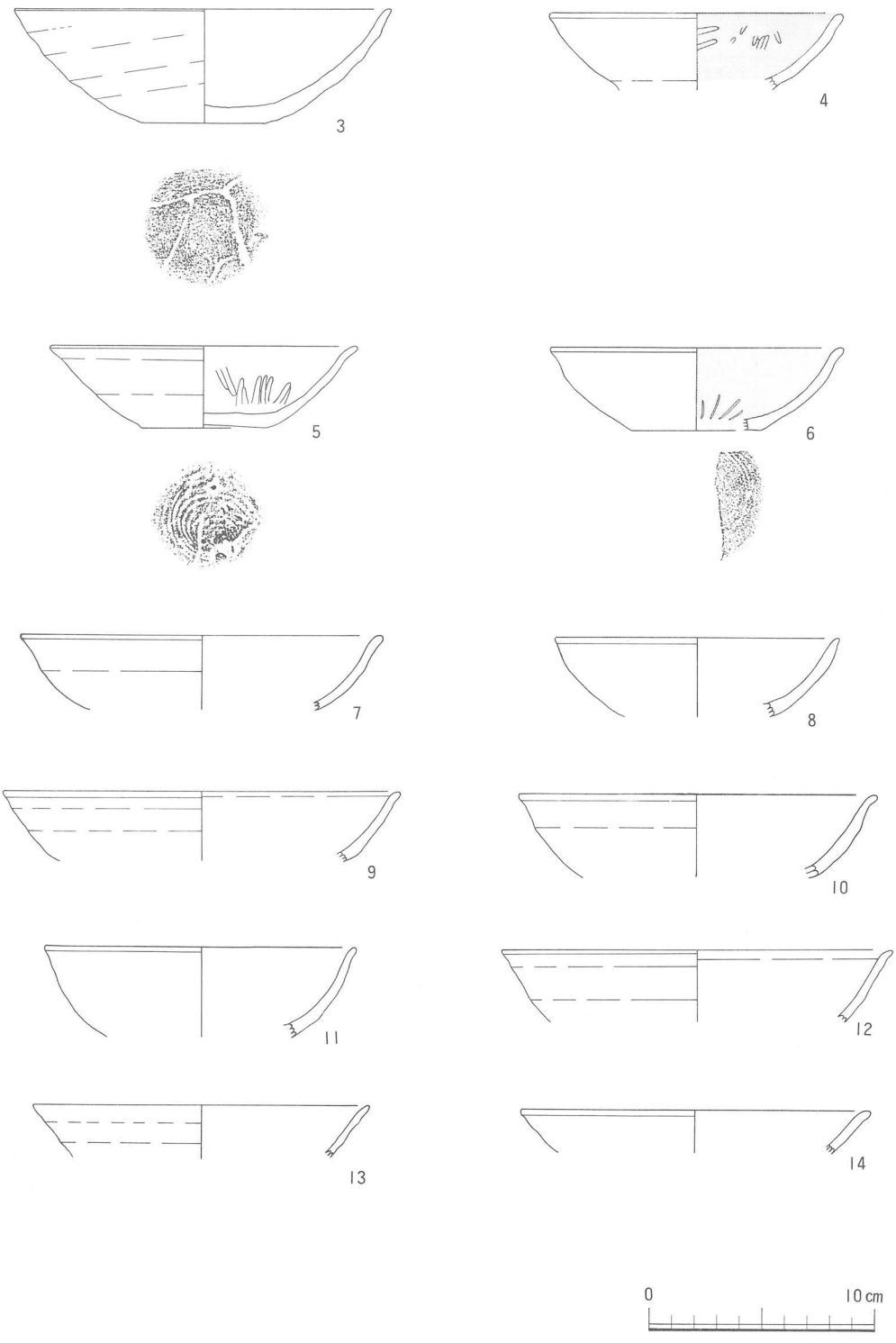
第32表　第16号住居址出土遺物一覧表（4）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
38	甕 土師	覆土	口径13.8 残高 5.3 口縁部～胴部上位1/8	胎：黒雲母、金雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/4にぶい橙色	口縁部緩い「コの字」状に外反する。	口唇部「撫で」 口縁部「篦撫で」 頚部篦状工具による押圧	「撫で」
備考							
39	(甕) 土師	竈	口径22.2 残高 3.7 口縁部1/5	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR4/2灰赤色 内2.5YR5/2灰赤色	口縁部の器厚は厚く、緩く外反する。	口唇部「撫で」 口縁部横位の「篦削り」の後上位は「撫で」	口唇部「撫で」 口縁部横位の「篦撫で」
備考							
40	甕 須恵	竈	残高 7.4 底径12.5 底部～胴部下位 1/8	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外N4/ 灰色 内N6/ 灰色	粘土帯積み上げ 平底の底部から胴部直立する。	「叩き」の後横位の「篦撫で」	「叩き」の後横位の「篦撫で」
備考							
41	? 鉄製品	床	最大長14.5 最大幅 0.9 最大厚 0.5 重量 34.0g		中空の内部に木製品が挿入されている。		
備考							
42	(鎌) 鉄製品	床	最大長 6.4 最大幅 3.7 最大厚 0.6 重量 31.0g				
備考							

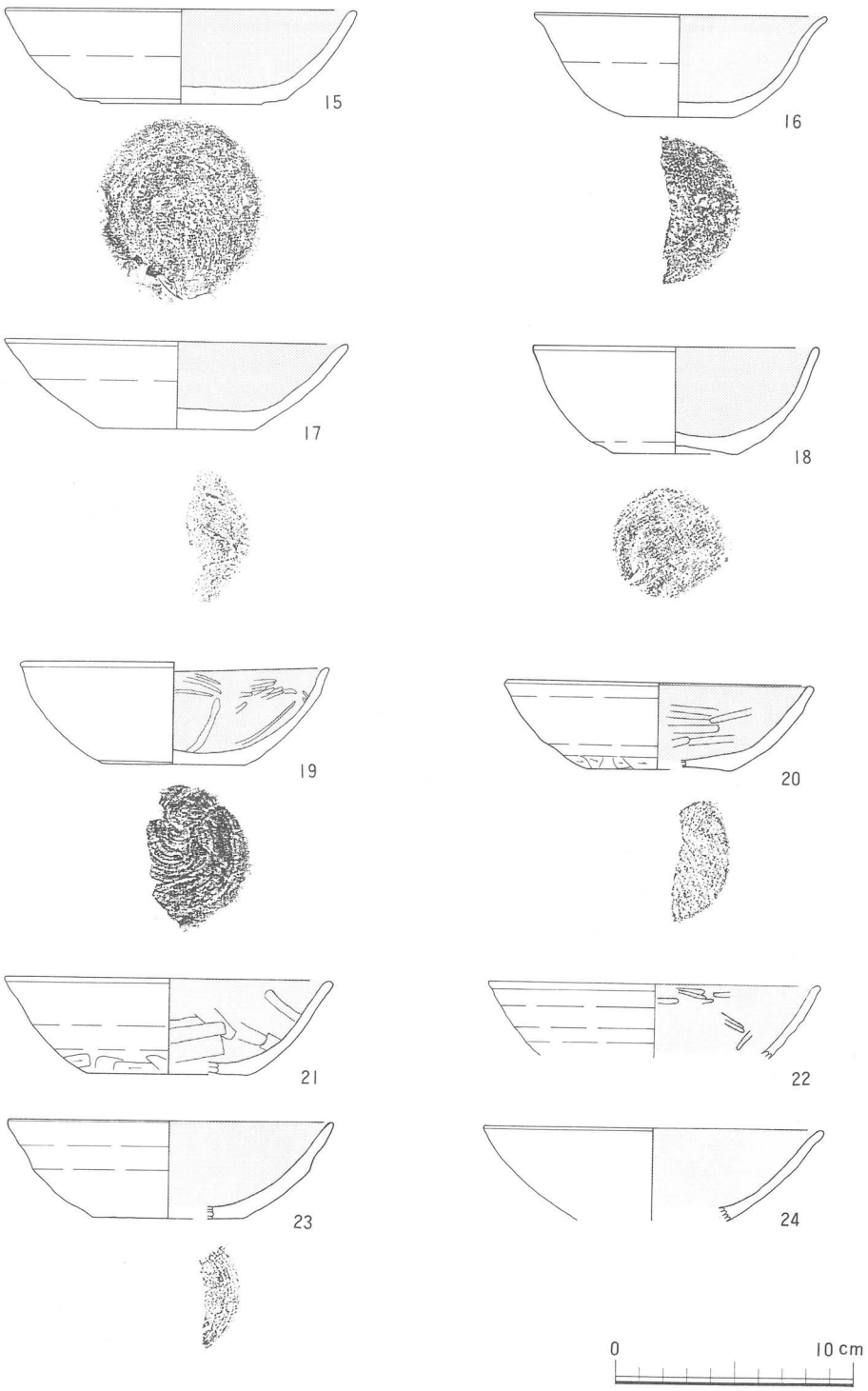
第33表　第16号住居址出土遺物一覧表（5）



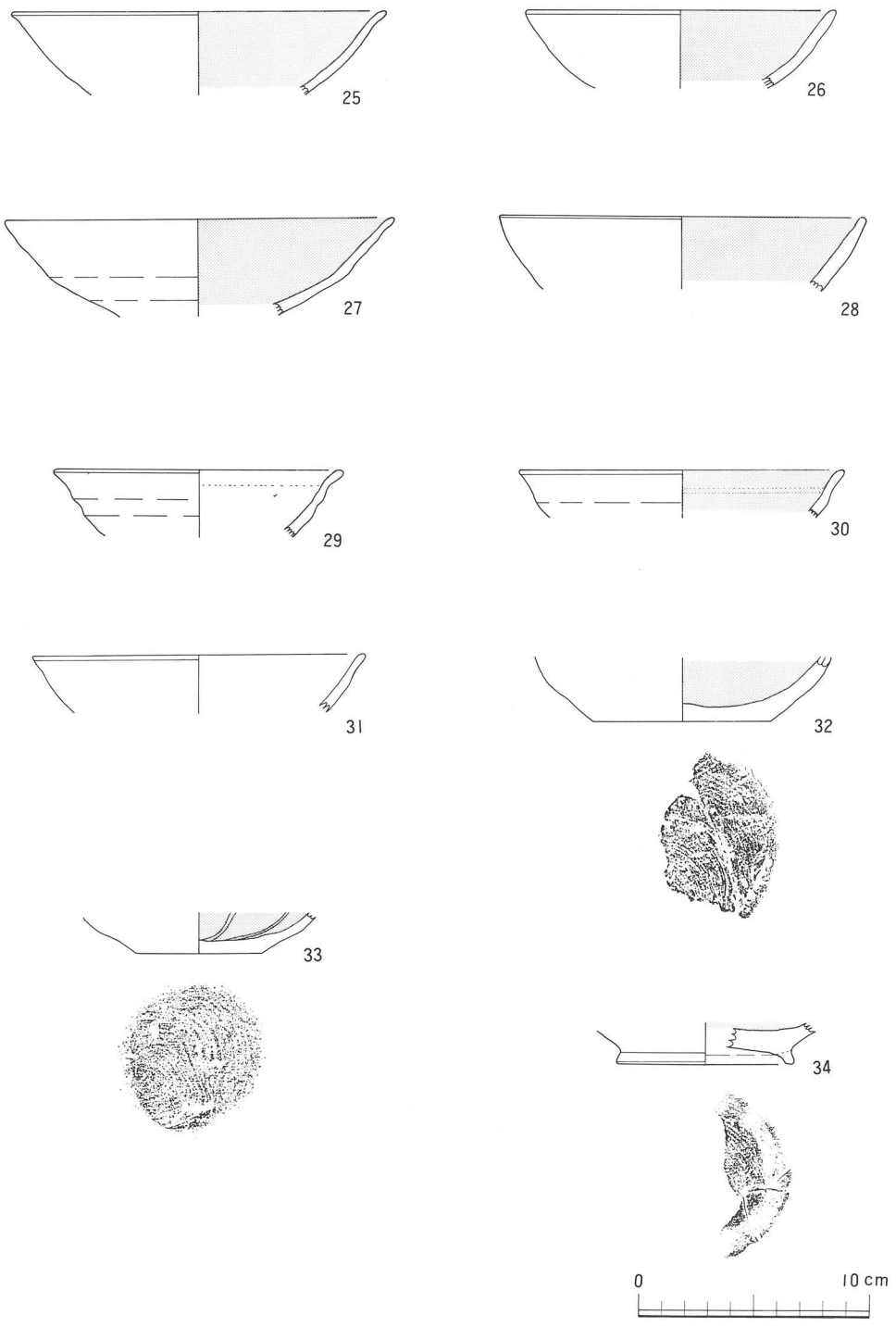
第52図　第16号住居址出土遺物実測図(1)



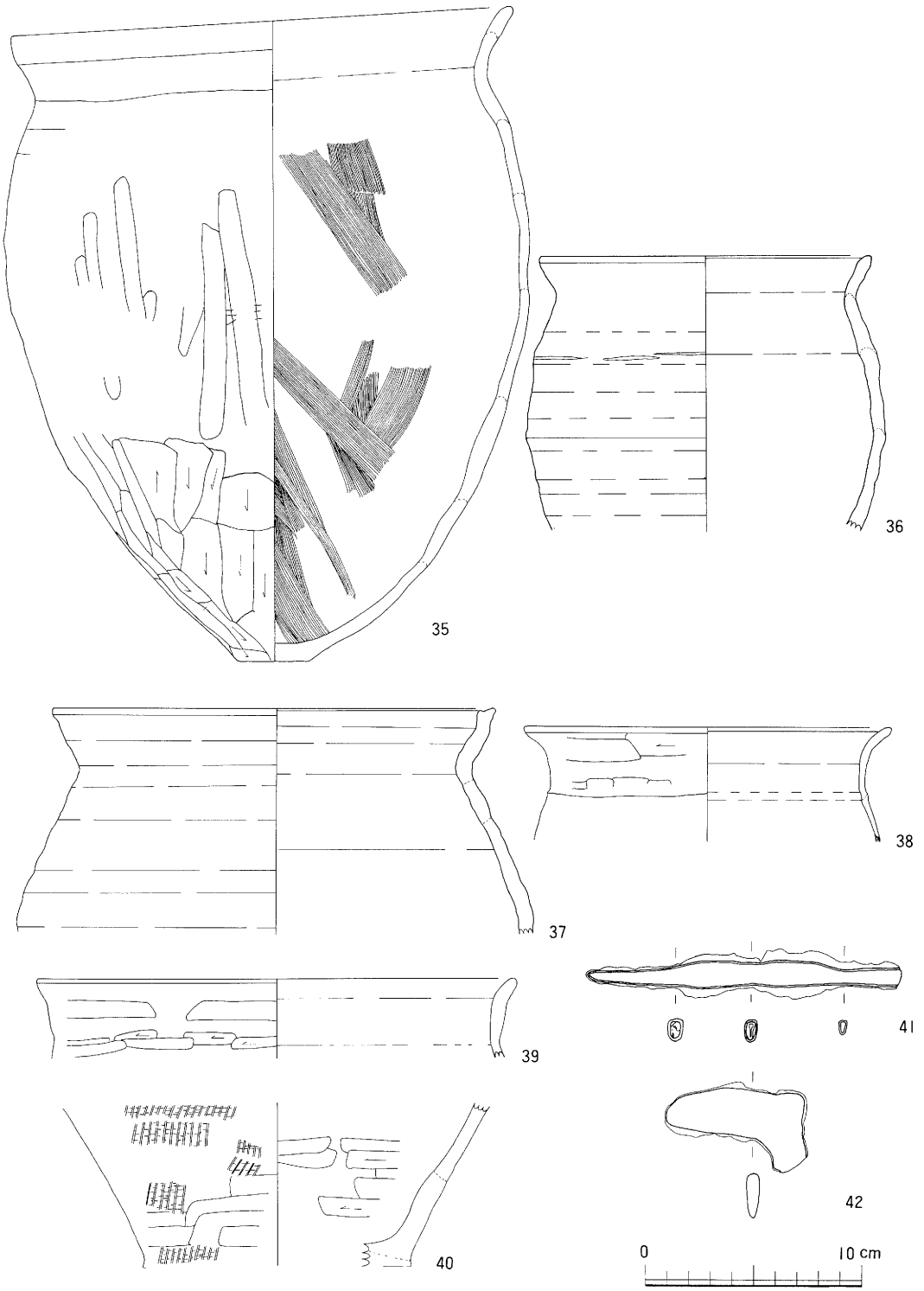
第53図　第16号住居址出土遺物実測図(2)



第54図　第16号住居址出土遺物実測図(3)



第55図　第16号住居址出土遺物実測図(4)



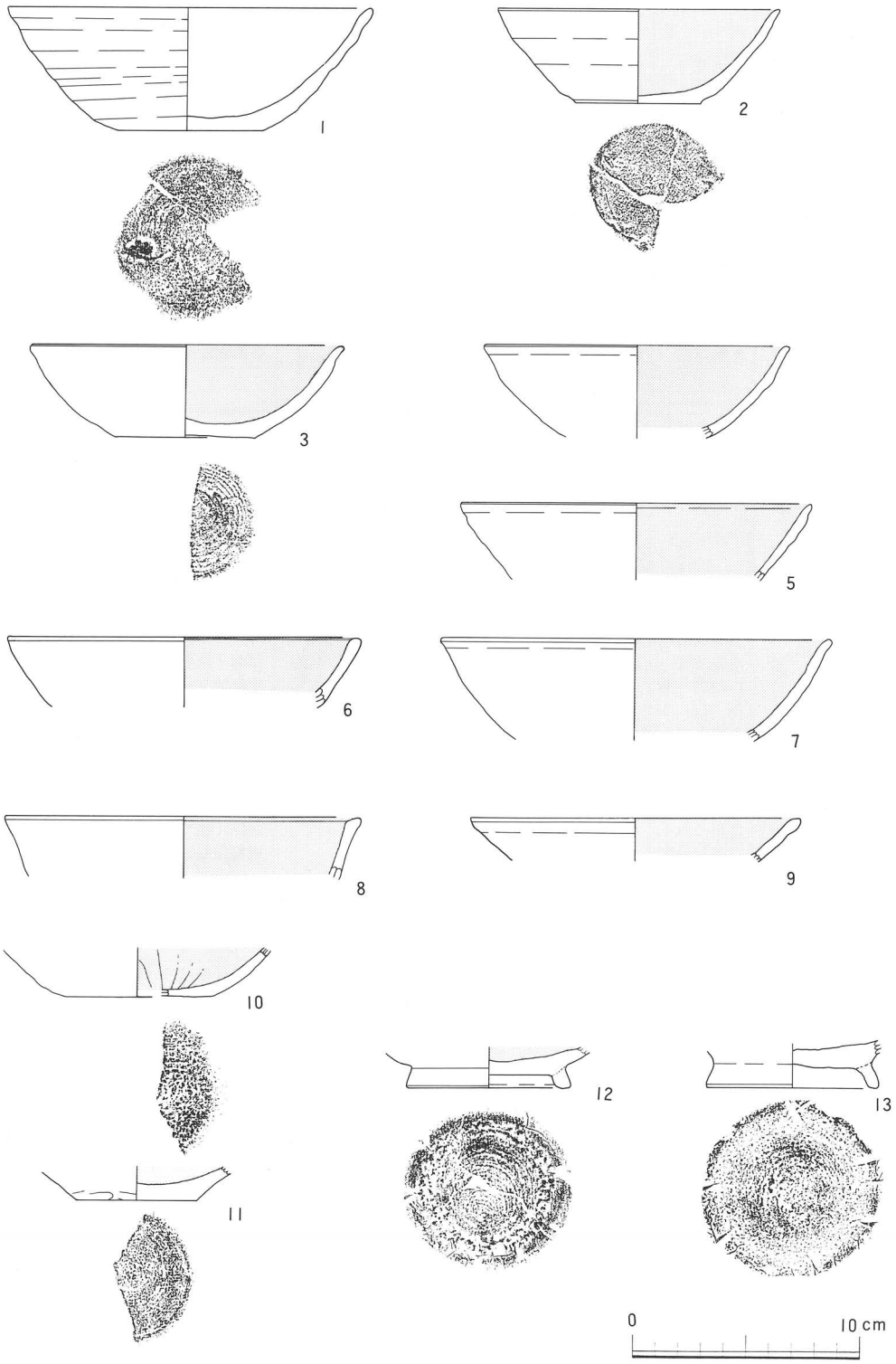
第56図　第16号住居址出土遺物実測図(5)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
1	坏 土師	竈	口径16.2 器高 5.4 底径 6.5 口縁部～底部 1/2	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外内10R6/6 赤橙色	底部から左回りに粘土紐巻上げ。外面に稜を有し、体部内彎しながら立上がり、口縁部で僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」、底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」、口縁部横位の「撫で」
備考	轆轤左回転。						
2	坏 土師	竈	口径12.5 器高 4.2 底径 5.5 口縁部～底部 1/2	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/4 浅黄橙色 内黒色	平底の底部から体部内彎して立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 黒色処理
備考	轆轤左回転。						
3	坏 土師	竈	口径13.8 器高 4.1 底径 6.1 底部 1/2 体部 1/8	胎：礫、粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6 橙色　内黒色	平底の底部から体部内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 底部回転糸切り	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」
備考	轆轤右回転。						
4	坏 土師	竈	口径13.5 残高 4.0 口縁部～体部 1/5	胎：粗砂粒、雲母含有 焼：良 色：外7.5YR6/4 にぶい褐色 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部で緩く外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 黒色処理
備考							
5	坏 土師	竈	口径15.5 残高 3.4 口縁部～体部 1/6	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR2/1　黒色 内黒色	体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部で短く僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」	丁寧な「磨き」 黒色処理
備考	体部外面摩耗が激しい。						
6	坏 土師	竈	口径15.5 残高 3.1 口縁部1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR8/2 浅黄橙色　内黒色	緩やかに内彎する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「箆削り」	「撫で」 黒色処理
備考							
7	坏 土師	竈	口径17.3 残高 4.5 口縁部～体部 1/8	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外10YR7/3 にぶい黄橙色、口縁部黒色　内黒色	体部は内彎しながら立上がり、口縁部で緩く外反する。	体部轆轤による「箆撫で」 口縁部横位の「撫で」	「磨き」 黒色処理
備考							
8	坏 土師	竈	口径15.8 残高 2.8 口縁部1/10	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/6　橙色 口縁部黒色 内黒色	口縁部直立する。	「撫で」	丁寧な「磨き」 黒色処理
備考							
9	(坏) 土師	竈	口径14.6 残高 1.9 口縁部1/8	胎：0.1～0.2 の石英 雲母含有 焼：良 色：外7.5YR4/2 灰褐色　内黒色		轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」黒色処理
備考							

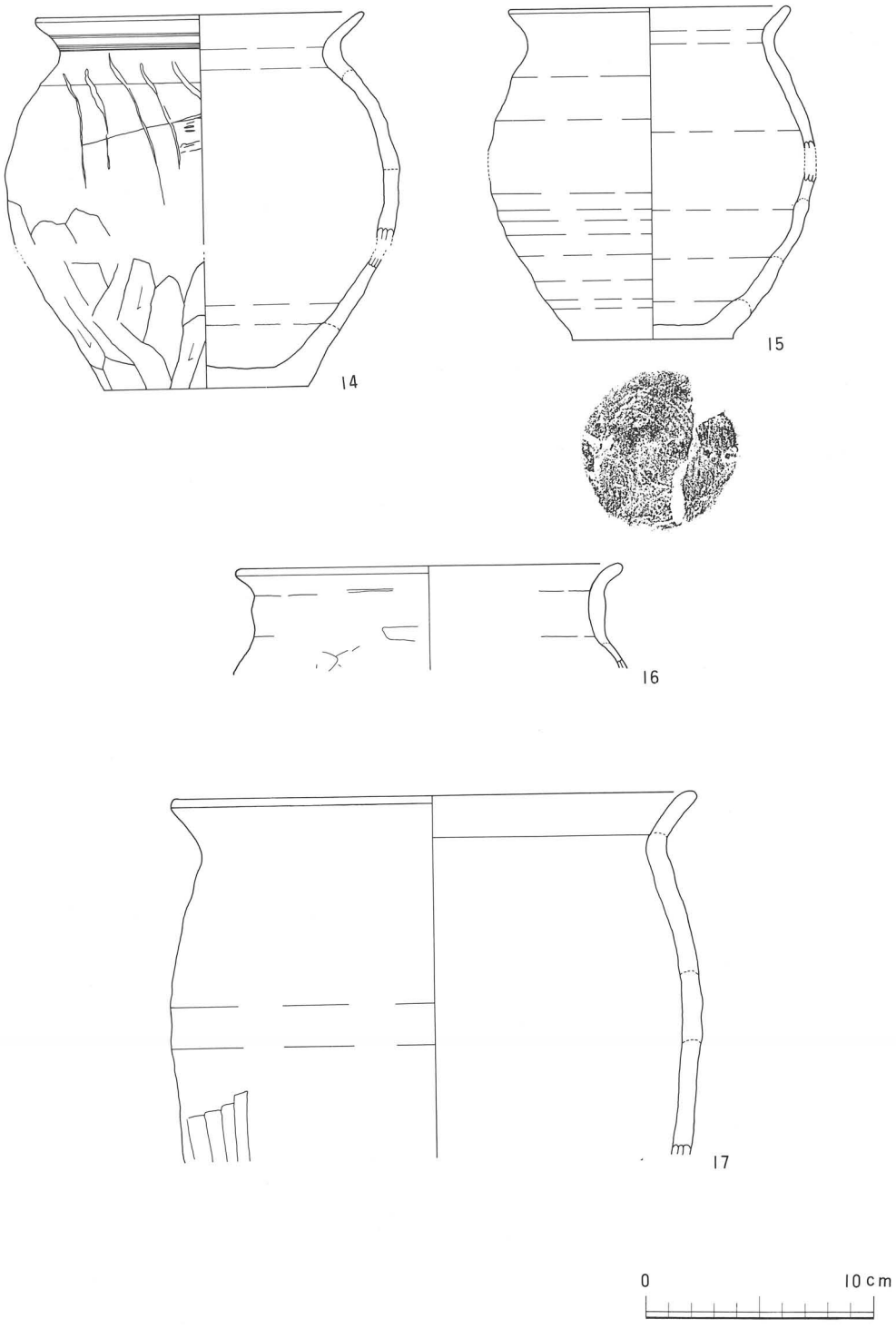
第34表　第17号住居址出土遺物一覧表（1）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
10	坏 土師	竈	残高 2.2 底径 6.6 底部～体部 1/3	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6 橙色 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部緩やかに外反する。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
11	坏 土師	竈	残高 1.5 底径 5.3 底部 1/2	胎：粗砂粒、石英含有 焼：良 色：外7.5YR4/2 灰褐色 内黒色		体部下位「篦削り」 底部回転篦切り	黒色処理
備考							
12	坏 土師	竈	残高 1.8 底径 7.3 底部完存	胎：微細な黒雲母、石英含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	付け高台	高台部横位の「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「篦磨き」 黒色処理
備考	内面黒色処理が相当量剝落している。						
13	坏 土師	竈	残高 2.1 底径 7.6 底部完存	胎：粗砂粒、雲母粒、石英粒多く含有 焼：不良 色：外内5YR7/4 にぶい橙色 内中央黒色	付け高台	高台部横位の「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「篦磨き」
備考							
14	甕 土師	竈	口径14.5 器高(16.4) 底径 9.0 口縁部～胴部 1/4 底部完存	胎：茶色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内7.5YR8/3 浅黄橙色	粘土帯積み上げ 胴部中位に最大径を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 頸部「刷毛目」 胴部中位～下位縦位の「篦削り」	口縁部横位の「撫で」 頸部「篦撫で」 胴部「撫で」
備考							
15	甕 土師	竈	口径12.4 器高(14.6) 底径 7.1 口縁部～胴部中位1/2 胴部中位～底部 1/2	胎：細雲母、粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外内5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 胴部中位に最大径を有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 胴部「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 胴部上位に僅かに「刷毛目」 胴部「撫で」
備考	轆轤右回転。底部を内面から粘土で補強している。						
16	甕 土師	竈	口径17.0 残高 4.6 口縁部～頸部 1/10	胎：細雲母、石英粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/4 淡赤橙色 内2.5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 頸部肥厚し、「コの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 頸部～肩部「篦削り」	横位の「撫で」
備考							
17	甕 土師	竈	口径23.2 残高16.0 口縁部～胴部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/3 淡橙色 内7.5YR7/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 胴部の張り弱く、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「篦削り」	口縁部横位の「撫で」、胴部轆轤による「篦撫で」
備考							

第35表　第17号住居址出土遺物一覧表（2）



第57図　第17号住居址出土遺物実測図(1)



第58図　第17号住居址出土遺物実測図(2)

第２節　掘立柱建物址

１　第１号掘立柱建物址（第５９図）

第１号掘立柱建物址は、Ａ区中央部やや北側寄りに位置し、Ｎ０Ｅ１－47,48,56,57 グリッドにおいて検出された。柱穴はあわせて８個が検出された。各ピットの掘り方のプランは次のとおりである。Ｐ－27は長径が66cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約48cmである。Ｐ－28は長径が62cm、短径が60cmのほぼ円形で、深さは約32cmである。Ｐ－29は長径が60cm、短径が42cmの楕円形で、深さは約29cmである。Ｐ－30は長径が70cm、短径が54cmの不整円形で、深さは約28cmである。

Ｐ－31は長径が56cm、短径が52cmのほぼ円形で、深さは約26cmである。Ｐ－32は長径が48cm、短径が46cmのほぼ円形で、深さは約46cmである。Ｐ－33は長径が60cm、短径が58cmのほぼ円形で、深さは約40cmである。Ｐ－81は長径が58cm、短径が52cmのほぼ円形で深さは約45cmである。

各柱穴の心心距離は、 180cmから 218cmを測った。東西列の心心距離の平均値は 187.5cm、南北列の心心距離の平均値は 204cmで、南北列の柱間がやや広くとられ、建物プランは矩形を呈している。本建物址の大きさは東西約 375cm、南北約 410cmで床面積は 15.38㎡であり、２間四方の側柱式の掘立柱建物址である。

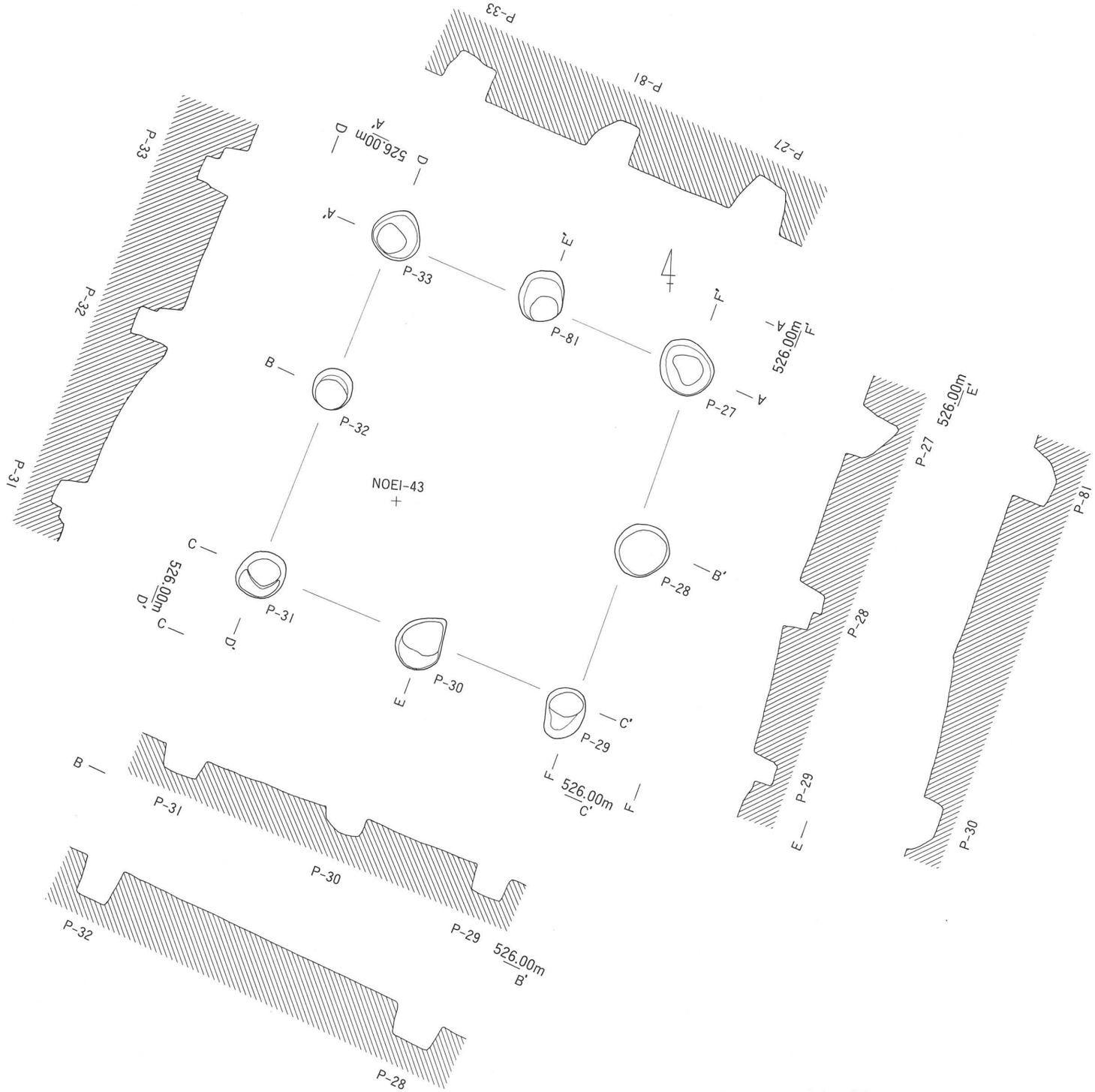
本建物址の南北軸方位はＮ－16°－Ｅを指し、建物全体がやや東に振れて建てられている。各ピットは砂礫を含んだ明褐色土層を掘り込んでおり、その埋土は黒色土層であった。本建物址からの遺物の出土は皆無であった。

２　第２号掘立柱建物址（第６０図）

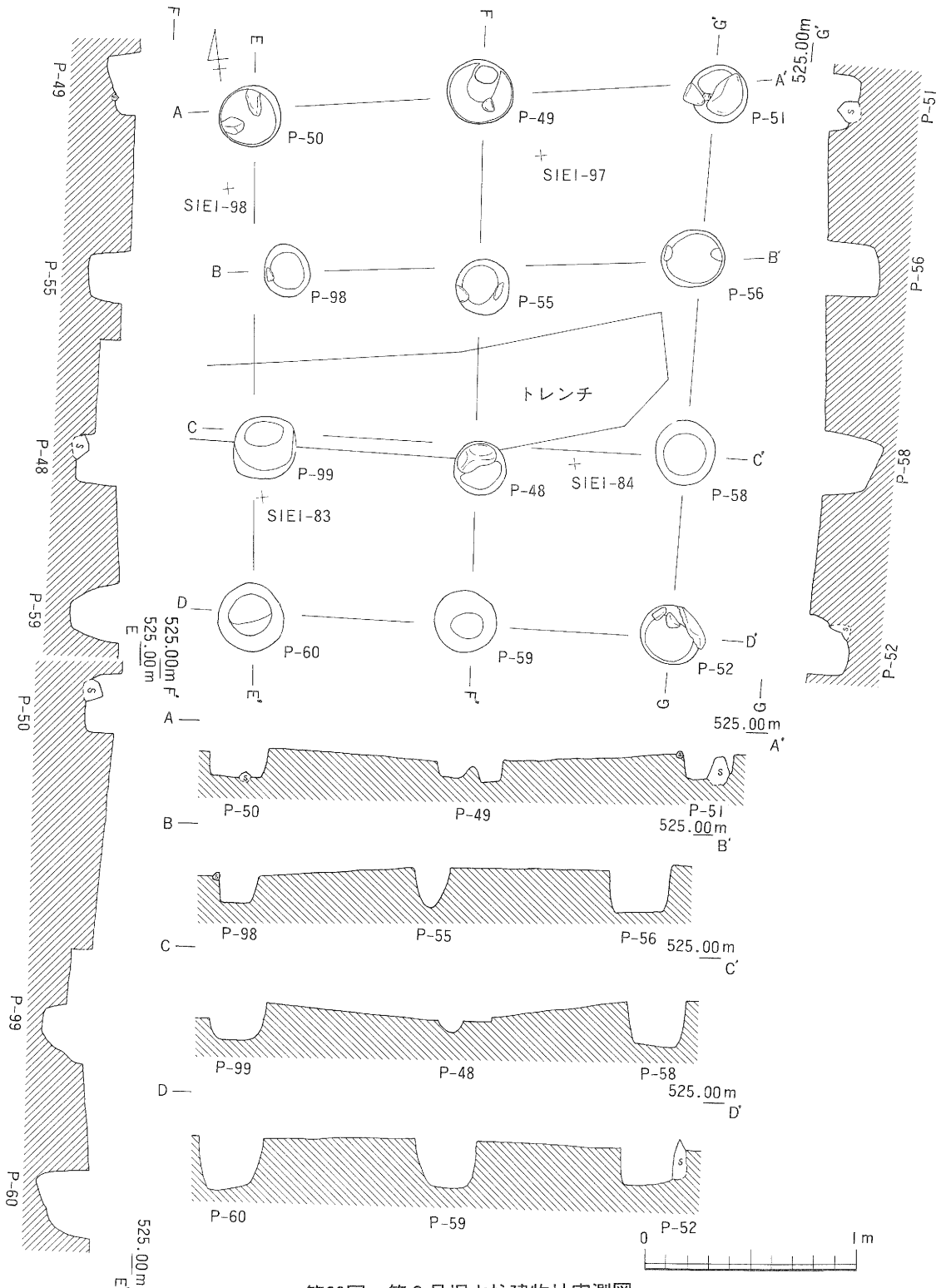
第２号掘立柱建物址は、Ａ地区のほぼ中央部に位置し、Ｓ１Ｅ１－86,87,88,96,97,98 の各グリッドにわたって検出された。柱穴はあわせて12個が出土した。このうちＰ－48，Ｐ－99は幅約１ｍ、深さ20cmの試掘トレンチにより北側部分が一部削り取られている。各ピットの掘り方のプランは次のとおりである。

Ｐ－48は径が52cmの円形で、深さは約41cmである。柱穴底部の北側半分に長さ38cmの河原石がはいっていた。Ｐ－49は長径が64cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約17cmである。Ｐ－50は径が58cmの円形で、深さは約28cmである。柱穴底部に長さ23cmと25cmの河原石が２個はいっていた。Ｐ－51は長径が58cm、短径が56cmのほぼ円形で、深さは約24cmである。柱穴底部に長さ42cmの偏平な河原石がはいっていた。

Ｐ－52は長径が58cm、短径が57cmのほぼ円形で、深さは約38cmである。柱穴側壁の東側に長さ45cmの河原石がはいっていた。Ｐ－55は長径が54cm、短径が50cmのほぼ円形で、深さは約40cmで



第59図　第１号掘立柱建物址実測図



第60図　第２号掘立柱建物址実測図

ある。Ｐ－56は長径が60cm、短径が56cmのほぼ円形で、深さは約51cmである。Ｐ－58は長径が62cm、短径が58cmのほぼ円形で、深さは約56cmと深い。

Ｐ－59は径が60cmの円形で、深さは約46cmである。Ｐ－60は長径が68cm、短径が62cmのほぼ円形で、深さは約52cmである。ピットの北側半分が傾斜して深く掘り込まれていた。Ｐ－98は長径が52cm、短径が44cmの楕円形で、深さは約26cmである。Ｐ－99は長径が60cm、短径が59cmのほぼ円形で、深さは約40cmである。

各柱穴の心心距離は、150cmから227cmを測った。東西列の心心距離の平均値は206.4cm、南北列の心心距離の平均値は170.7cmで、東西列の柱間が広くとられている。本建物址の大きさは東西404cm～450cm、南北484cm～526cmで、歪んだ長方形のプランを呈しており、床面積は約21.6m²である。

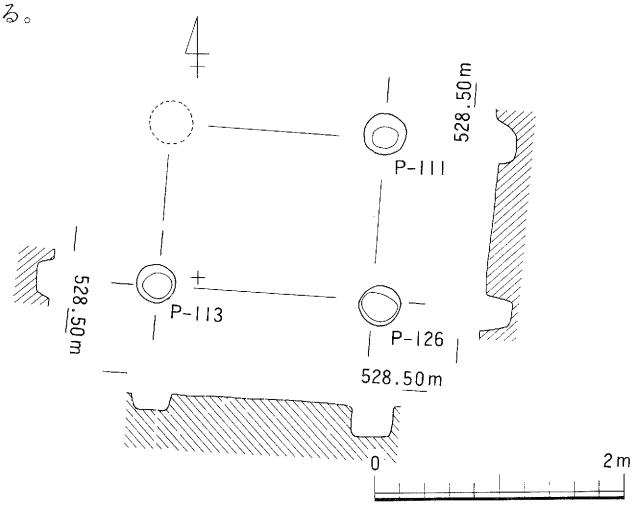
この掘立柱建物址は、２間×３間の総柱式の建物址で、南北軸方位はＮ－９°－Ｅを指している。各ピットは河原石と砂礫が厚く堆積したにぶい褐色の土層に掘り込まれている。ピット内の河原石は、根固め石として、柱を支えるために使用されたと考えられる。各ピットの埋土は黒色土層であった。

本建物址のＰ－98の掘り方の埋土中からは平安期とみられる平行叩き目痕をもつ須恵器甕と須恵器坏の口縁部の破片が出土している。いずれも小破片であり、図示するまでには至らなかった。この掘立柱建物址の所産期は、出土遺物から平安時代か、それ以降と推定される。

3　第３号　掘立柱建物址

遺　構（第６１図）

本掘立柱建物址はＮ５Ｅ３－73,67,68にかけて検出された。確認できた柱穴は３ヵ所だけであったが、第６１図のように３つの柱穴が直交していた。他の柱穴は確認できなかった。柱穴の規模は30×30×13（cm）、34×32×14（cm）であった。その間隔は東西1.72m、南北1.30mとやや狭い。他の柱穴は確認できなかったが、Ｐ－107も本建物址を構成する柱穴のひとつとも考えられる。



第61図　第３号掘立柱建物址実測図

遺　物

本建物址からの出土遺物はなかった。

第3節　土　　壙

1　A区の土壙（第62図）

(1)　第2号土壙

第2号土壙はA区N1E1－5,6,15,16 グリッドにかけて検出された。規模は1.03m×1.12m深さ37cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。土層堆積は、I層が茶褐色砂質土、II層が暗茶褐色弱粘質土、III層が暗茶褐色土であった。

出土遺物は無かった。

(2)　第4号土壙

第4号土壙はA区N1E1－14,15 グリッドにかけて検出された。規模は1.56m×1.13m深さ29cmを測り、平面形態は長楕円形を呈し、断面は船底状を呈する。土層堆積は石、礫を多量に含む茶褐色砂質土の一層であった。

出土遺物は無かった。

(3)　第6号土壙

第6号土壙はA区S2E1－99,100グリッドにかけて検出された。規模は1.25m×1.01m深さ29cmを測り、平面形態は長楕円形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は無かった。

(4)　第7号土壙

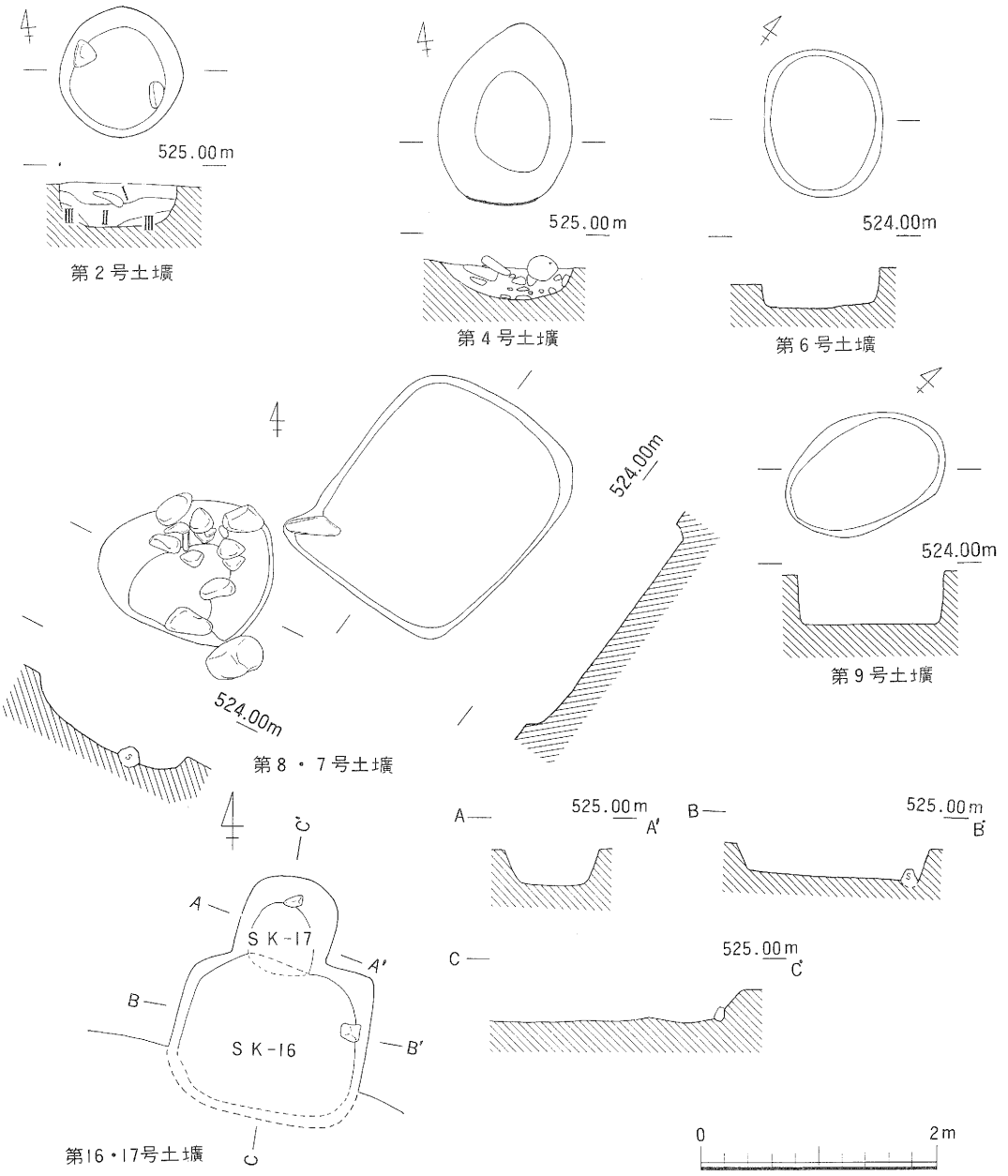
第7号土壙はA区S2E1－81,82,99,100グリッドにかけて検出された。規模は2.10m×1.70m深さ14cmを測り、平面形態は隅丸方形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は土師器片2点、須恵器坏片1点を数えるが、図示するに至らなかった。

(5)　第8号土壙

第8号土壙はA区S2E1－81グリッドにおいて、第7号土壙西隣に検出された。規模は1.33m×1.23m深さ27cmを測り、平面形態は歪んだ楕円形を呈する。土層堆積は黒褐色の砂質土の一層であった。

出土遺物は土師器の甕片と思われる1点のみであった。



第62図　A区土壙実測図

(6)　第9号土壙

第9号土壙はA区S 2 E 1 −94,95 グリッドにかけて検出された。規模は1.42m×0.96m深さ42cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。土層堆積は礫の混じった黒褐色砂質土の一層であった。

出土遺物は土師器の甕片と思われる1点のみであった。

(7) 第１６、１７号土壙

第１６、１７号土壙はＡ区Ｎ０Ｅ１－18,19 グリッド、第８号住居址竈を切る位置に検出された。両土壙の前後関係は判明しなかったが、第１６号土壙は1.65m×(1.4m) 深さ27cmの長方形を、第１７号土壙は0.80m四方、深さ32cmの正方形を、それぞれ呈すると思われる。土層堆積は第８号住居址覆土１層と同じ、暗茶褐色土の単層であった。

出土遺物は無かった。

2 Ｃ区の土壙（第６３，６４図）

(1) 第１０号土壙

第１０号土壙はＣ区Ｎ５Ｅ３－7,14グリッドにかけて検出された。規模は0.65m×0.59m、深さ７cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。土層堆積は一層よりなり暗茶褐色砂質土であった。

出土遺物はなかった。

(2) 第１１号土壙

第１１号土壙はＣ区Ｎ６Ｅ３－６グリッドにまたがって検出された。規模は0.63m×0.61m、深さ８cmを測り、平面形態はほぼ円形を呈する。内部は４部分に分かれている。土層堆積は一層よりなり暗茶褐色砂質土であった。

出土遺物はなかった。

(3) 第１２号土壙

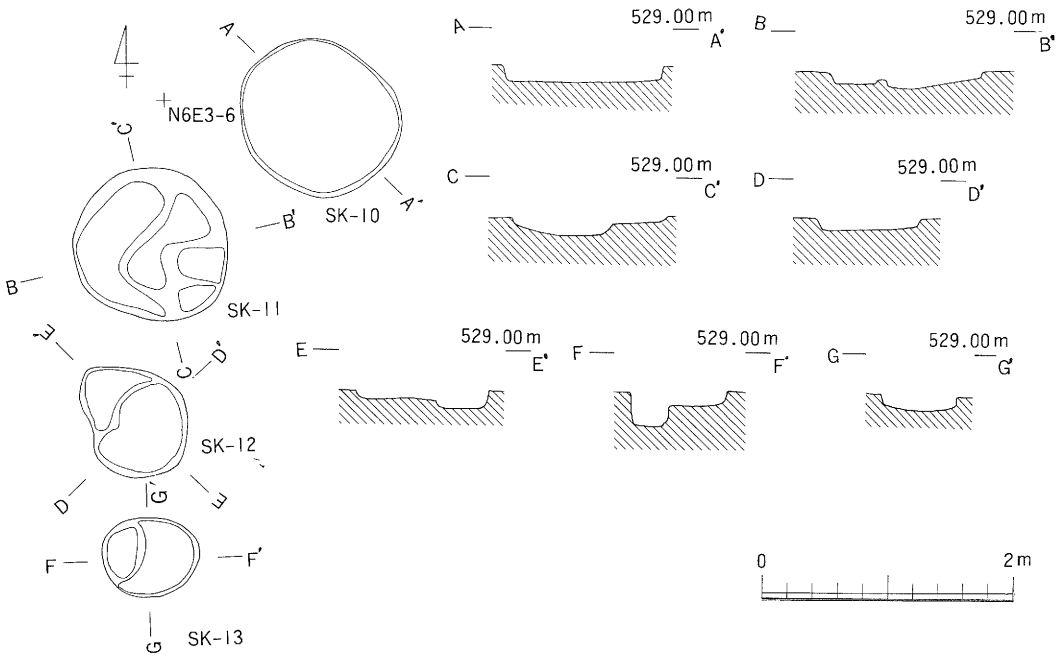
第１２号土壙はＣ区Ｎ６Ｅ３－6,7 グリッドにかけて検出された。規模は0.42m×0.52m、内部が２段になっており浅い部分が深さ５cmで深い部分が８cmを測る。ほぼ円形を呈する。それぞれの部分の底は平坦であった。土層堆積は一層で、暗褐色砂質土であった。

出土遺物は甕の胴部破片１点だけであり、図示するには至らなかった。

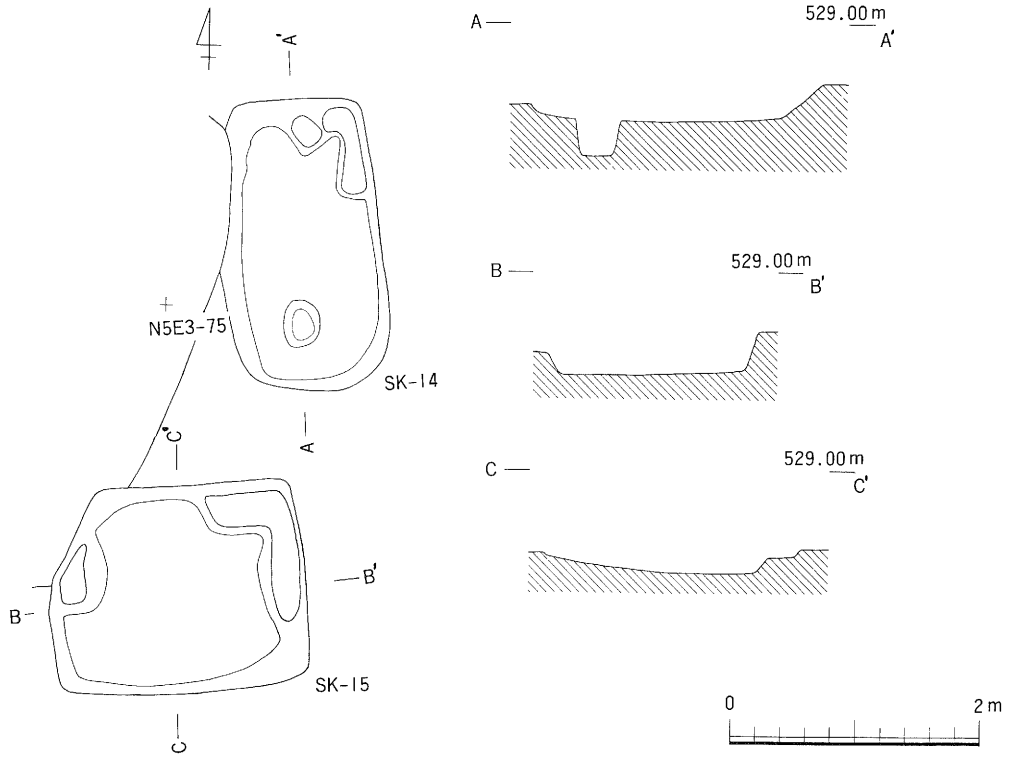
(4) 第１３号土壙

第１３号土壙はＮ５Ｅ３－95,96 グリッドにかけて検出された。規模は0.38m×0.32m、内部は２段になっており深さは浅い部分で６cm、深い部分で14cmを測る。土層堆積は二層よりなり、Ⅰ層は赤褐色砂質土、Ⅱ層（深い部分）は黒色土であった。

出土遺物はなかった。



第63図　C区土壙実測図(1)



第64図　C区土壙実測図(2)

(5) 第１４号土壙

本土壙はＮ５Ｅ３－76，87にまたがり、西壁を第１６号住居址によって切られている。主軸方位はＮ－３°－Ｗであり、主軸上で1.02m、これと直交する方向で0.66mを測る。南壁で壁高6.9cm、北壁で壁高27cmを測る。南から北へ向けて深くなっており、西洋式バスのような形を呈する。中央北より粘土塊と若干の焼土があったが、竈址とは思えなかった。東北隅にテラス状の段があった。南よりに床面に37×29×23cmを測るピットがあるが、このピットの用途、性格は不明であった。

遺物は土師器片６点、須恵器片２点が出土したが、図示するには至らなかった。

(6) 第１５号土壙

遺　構

本土壙はＮ５Ｅ３－74,75,66,67 にまたがり、第１６号住居址の一部を切っている。主軸方位はＮ－１°－Ｅであり主軸上で0.83m、これと直交する方向で最大幅1.02mである。形状はほぼ隅丸方形を呈している。東壁と西壁の一部にテラス状の段があり、壁高は 9.5cmから18.4cmを測る。北西から中央へ徐々に深くなっている。

遺　物（第６５・６６図、第３６～３９表）

本土壙の遺物は、規模に比して多く、25点を数える。坏が多く20点である。内面黒色処理を施したものが17点である。高台付は 19,20の２点である。高台は断面三角形に近く、外へ張出すような付け方で低い。ほぼ完形のものが２である。口縁が外反するものが多く、底部から緩やかに内弯しながら立上がっていく形のものが多い。13は特に開きが強い。１は土師器の蓋である。21,23は球形胴の小型甕と思われる。口縁と頸部の一部だけの出土なので全体の器形は確認できなかった。24は甕の底部である。25は釘の一部と思われる鉄製品である。灰釉陶器、緑釉の破片もそれぞれ一点ずつ出土したが図示するには至らなかった。

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	（蓋）土師	覆土	器高 2.4 裾径13.3 天井部～裾部 1/4	胎：0.1の赤褐色粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/3 にぶい橙色　内5YR8/4 淡橙色		不定方向の「撫で」 天井部回転糸切り	不定方向の「撫で」
備考							
2	坏 土師	覆土	口径13.2 器高 4.4 底径 5.7 口縁部～体部 2/3 底部完存	胎：0.2～0.3 の礫粗砂粒含有 焼：良 色：外10R6/6 赤橙色 内10R6/8 赤橙色	平底の底部から体部は内彎して立上がり、口縁部に至る。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						

第36表　第15号土壙出土遺物一覧表（１）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
3	坏 土師	覆土	口径12.9 残高 3.5 口縁部～体部 1/8	胎：0.1～0.3の礫粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内10YR5/1 褐灰色	体部内彎しながら立上がる。	体部轆轤による「篦削り」の後、「撫で」 口縁部横位の「撫で」	丁寧な「磨き」
備考							
4	坏 土師	覆土	口径14.7 器高 4.1 底径 5.1 口縁部～底部 2/3	胎：石英、粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	小さめの底部から体部内彎しながら立上がり、口縁部で外反する。	轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	丁寧な「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
5	坏 土師	覆土	口径18.1 器高 5.6 底径 5.6 口縁部～底部 1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅黄橙色、 口縁部黒色 内黒色	粘土紐巻上げ 小さな底部から暫時体部に立上がる。体部は外面に稜を有し、ほぼ直立して口縁部で外反する。	体部轆轤による「撫で」 口縁部横位の「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 体部不明
備考	底部糸切り痕が体部まで及ぶ。内面の摩擦が著しい。						
6	坏 土師	覆土	口径12.8 器高 4.2 底径 6.2 口縁部～底部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅黄橙色 内黒色	体部は僅かに内彎し、口縁部短く外反する。	横位の「撫で」	「撫で」 黒色処理
備考							
7	坏 土師	覆土	口径12.9 残高 3.5 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	体部内彎しながら立上がり、口縁部で外反する。	体部「撫で」 口縁部横位の「撫で」	体部「撫で」 口縁部横位の「撫で」 黒色処理
備考							
8	坏 土師	覆土	口径12.8 残高 3.0 口縁部1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4にぶい橙色 内黒色	体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部で短く強く外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「磨き」
備考							
9	坏 土師	覆土	口径15.2 残高 2.9 口縁部～体部 1/5	胎：石英、黒雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外口縁部7.5YR7/4 にぶい橙色 体部10R6/8赤橙色 内黒黒	体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部短く外反する。	体部「撫で」 口縁部横位の「撫で」	「撫で」 黒色処理
備考							
10	坏 土師	覆土	口径16.7 残高 2.6 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/4 浅黄橙色 内黒色	口縁部僅かに外反する。	「撫で」	「撫で」 黒色処理
備考							
11	坏 土師	覆土	口径13.9 残高 3.2 口縁部～体部 1/6	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「篦磨き」 黒色処理
備考							
12	坏 土師	覆土	口径14.9 残高 2.5 口縁部～体部 1/12	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR5/1 褐灰色 口唇部黒色 内黒色	口縁部緩やかに外反する。	横位の「撫で」	「撫で」 黒色処理
備考							

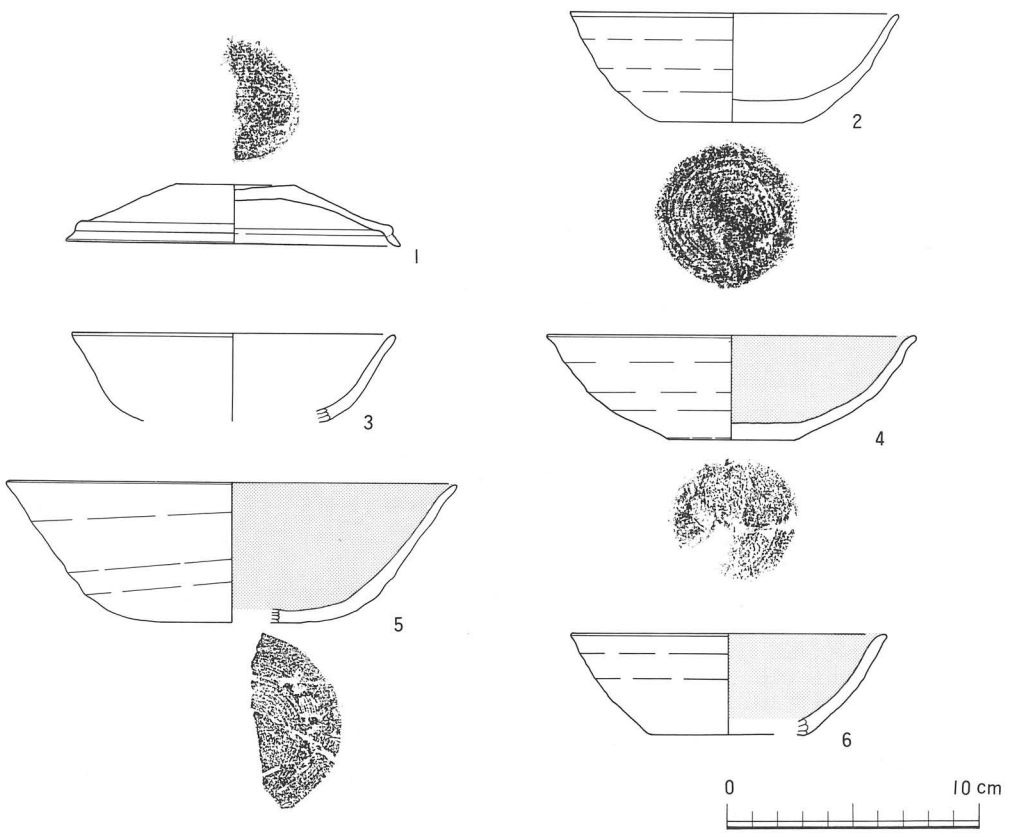
第37表　第15号土壙出土遺物一覧表（2）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
13	(坏) 土師	覆土	口径17.2 残高 3.0 口縁部1/6	胎：雲母、礫含有 焼：良 色：外2.5YR6/6橙色 内黒色	口縁部緩やかに外反する。	轆轤による「撫で」	「篦磨き」
備考							
14	坏 土師	覆土	残高 1.5 底径 5.2 底部 9/10	胎：石英、雲母の粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/4 にぶい赤褐色 内黒色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考	轆轤右回転。						
15	坏 土師	覆土	残高 1.5 底径 6.6 底部 4/5	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR8/4 浅黄橙色 内黒色		体部轆轤による「篦撫で」 底部回転糸切りの後篦状工具による「撫で」	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考	轆轤右回転。						
16	坏 土師	覆土	残高 1.6 底径 5.7 底部 5/8	胎：細石英粒含有 焼：良 色：外5YR6/6 橙色 内黒色		不定方向の「撫で」 底部回転糸切り	「篦磨き」 黒色処理
備考							
17	坏 土師	覆土	残高 0.9 底径 4.8 底部完存	胎：細雲母・石英含有 焼：良 色：外2.5YR6/8橙色 内黒色		底部回転糸切り	「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
18	坏 土師	覆土	残高 1.5 底径 4.2 底部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色		「撫で」 底部回転糸切り	轆轤による「撫で」の後黒色処理
備考	轆轤右回転。						
19	坏 土師	覆土	残高 1.7 底径 7.0 底部 3/4 高台部僅か	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR4/1 赤灰色 内黒色	付け高台	体部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	放射状の「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
20	坏 土師	覆土	残高 1.7 底径 7.1 底部 1/4	胎：細雲母、細砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6橙色 内黒色	付け高台	高台部「撫で」 底部回転糸切り	黒色処理
備考							
21	甕 土師	覆土	口径12.0 残高 3.6 口縁部1/4	胎：石英・雲母粒含有 焼：やや不良 色：外5YR5/6 明赤褐色 内5YR3/6 暗赤褐色	頸部「くの字」状を呈し、口縁部で内彎する。	口縁部横位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」
備考							
22	甕 土師	覆土	口径18.6 残高 4.8 口縁部～頸部 1/12	胎： 0.1～0.2 の粗砂粒含有 焼：良い 色：外内5YR6/4 にぶい橙色	粘土帯積み上げ 頸部の括れはごく小さい。	篦状工具による横位の「撫で」 頸部に「刷毛目」	横位の「撫で」
備考							

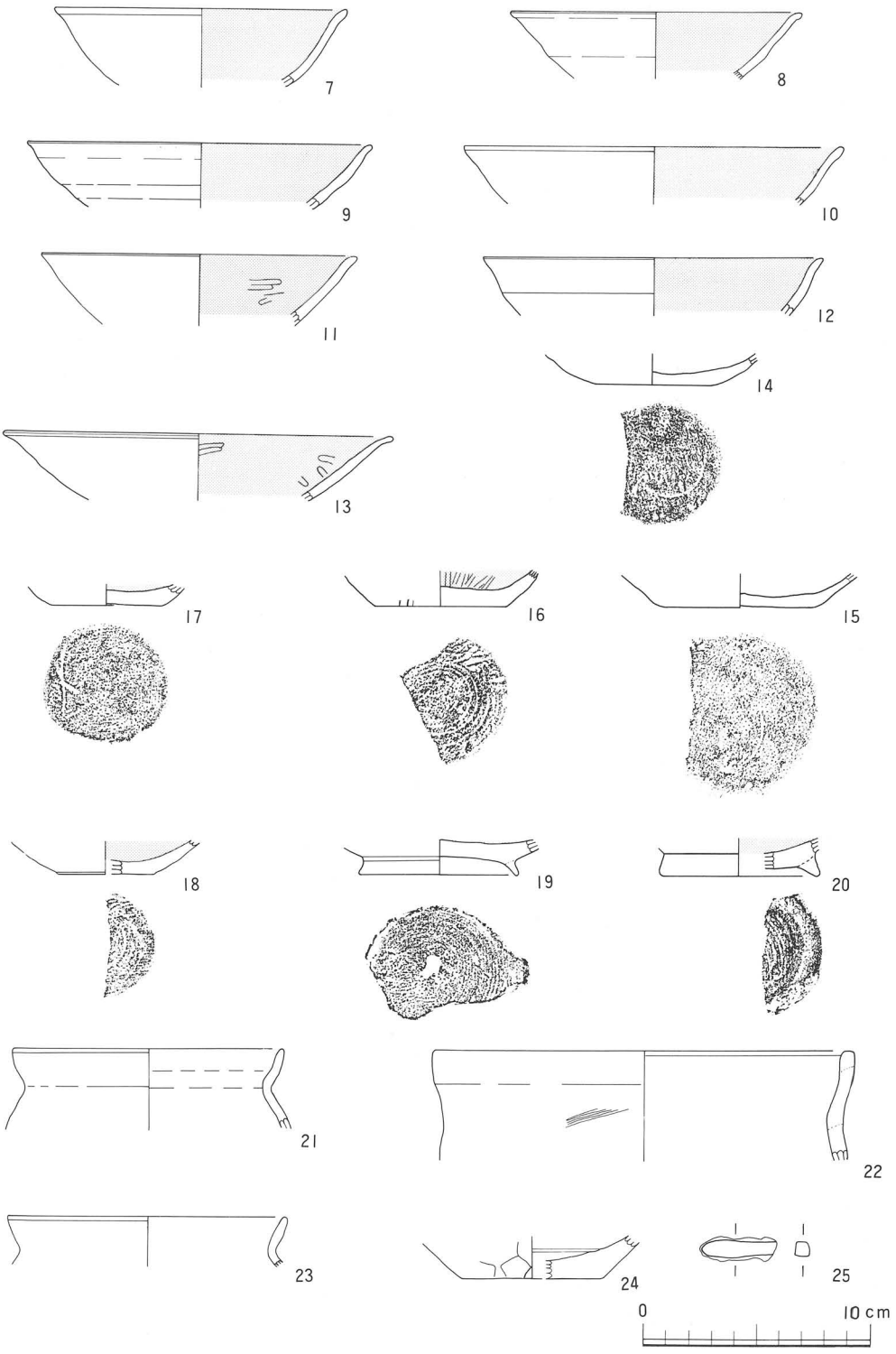
第38表　第15号土壙出土遺物一覧表（3）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
23	甕 土師	覆土	口径12.4 残高 2.2 口縁部1/8	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR6/1 褐灰色 内7.5YR 4/1 褐灰色	口縁部緩い「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」
備考							
24	(甕) 土師	覆土	残高 1.9 底径 6.2 底部 1/6	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR4/3 にぶい赤褐色 内 5YR6/2 灰褐色		「篦削り」 底部篦切り	「撫で」 底部篦状工具による「撫で」
備考							
25	(釘) 鉄製品	覆土	最大長 3.3 最大幅 0.9 最大厚 0.7 重量 4.0g				
備考							

第39表　第15号土壙出土遺物一覧表（4）



第65図　第15号土壙出土遺物実測図(1)



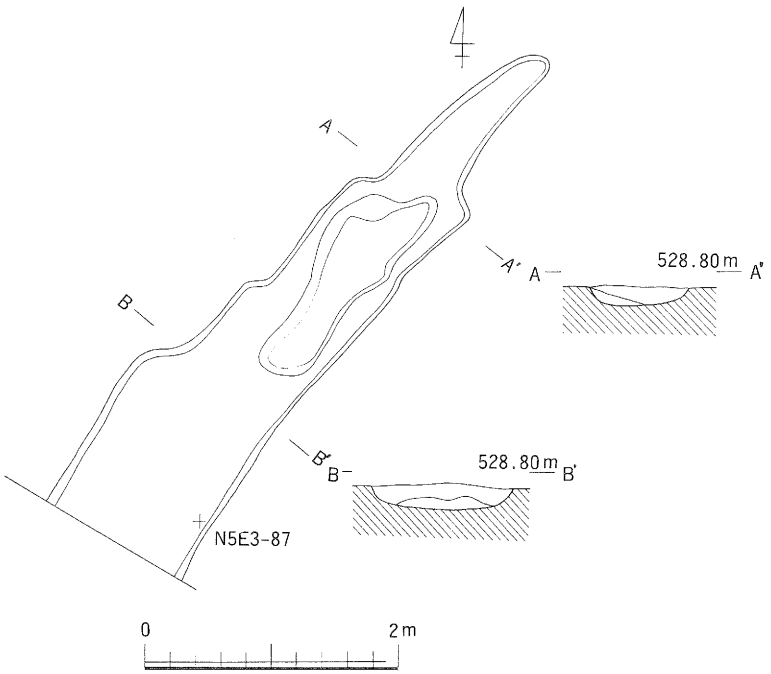
第66図　第15号土壙出土遺物実測図(2)

第4節　溝　　址

1．第1号溝址

第1号溝址はN6E3－7,87,95,96グリッドにかけて検出された。本溝址はN6E3－7グリッドからはじまって、北東から南西方向へ走っていた。末端は確認調査用トレンチによって切られ、さらに第16号住居址によって切られていた。しかし、状況からして第2号溝址へつながっていたと思われる。長さは5.15mを測り、幅員は部分によって異なるが、最大で1.25mを測る。最深部は中央で0.28mを測り、末端部では0.18mであった。土層堆積は2層からなり、Ⅰ層はA

第67図



第67図　第1号溝址実測図

－A'、B－B'ともに茶褐色砂質土で、Ⅱ層はA－A'では礫を含む黒褐色砂質土、B－B'は小礫を多く含む黒褐色砂質土であった。

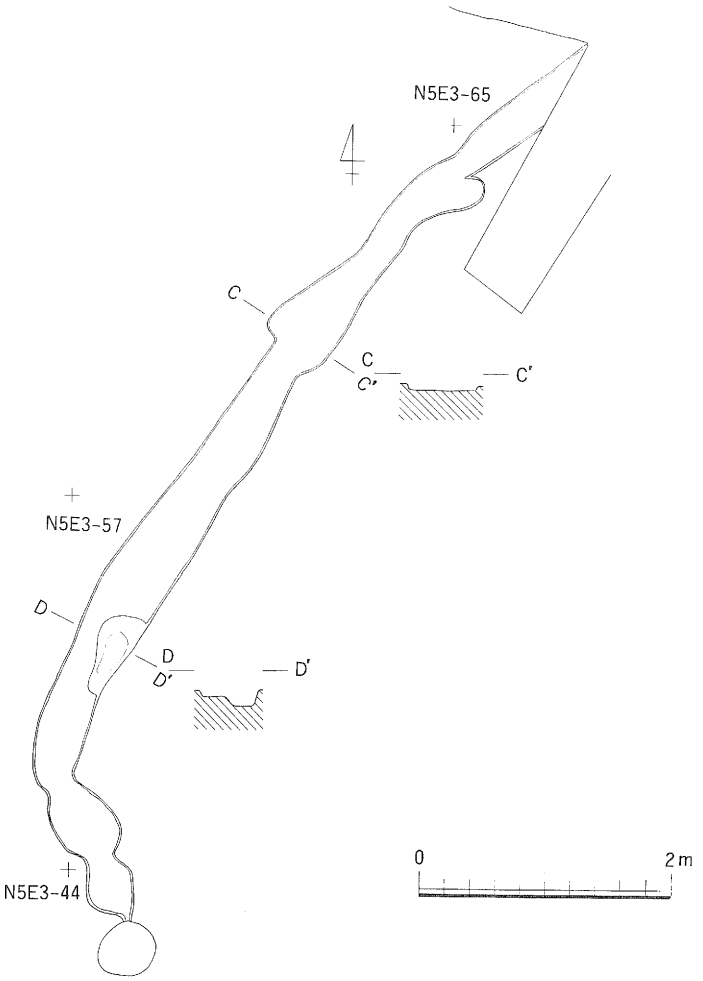
遺　物

出土遺物はなかった。

2．第2号溝址

第2号溝址はN6E3－73,65,56,57,45グリッドにかけて検出された。N5E3－73グリッド

第６８図



第68図　第２号溝址実測図

からはじまり、Ｎ５Ｅ３－45グリッドまでほぼ南流していた。最大幅員は0.56ｍで、長さは7.40ｍであった。土層堆積はＩ層であり、小礫を多く含む黒褐色砂質土であった。深さはＣ－Ｃ'で６cm、Ｄ－Ｄ'には一部深い部分があり、最深部で深さ14cmを測る。末端部には広く（約１㎡）鉄滓が流れ広がっていた。特に末端は円形の浅い（最深５cm）プール状を呈していた。

遺　物

遺物は土師器細片が４点あったが、図示するには至らなかった。

第５節　ピ　ッ　ト

掘立柱建物址を構成するピットを除くピットの規模、出土遺物については第40～44表及び第69

～78図に示すとおりである。

A区においてはP－66から土師器の坏及び羽釜が出土しており、第1号住居址出土のそれと酷似している点注目されよう。このピットの覆土には若干の焼土が確認されている。また、P－71からは土師器の内面を黒色処理した坏片とともに石斧が出土している。

C区においてピットは合計16ヶ所確認できた。このうちP－99,100,101は東西に一列を成しており、掘立柱建物の一部ではないかと思われるが、他の柱穴は確認できなかった。柱穴間隔は2.0mと 2.1mであり、やや広い。P－106 からは覆土に灰と鉄滓、羽口、土師器甕の胴部1点を出土した。小鍛冶の炉址を想定して調査したが、焼土は無く、形状、土層から見て、炉址とは判定できなかった。

番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
21	42	38	26	
22	22	22	16	
23	34	32	10	土師器片
24	26	24	16	
15	54	52	28	須恵器坏片
19	48	46	28	
20	54	42	20	
18	68	50	32	
17	64	46	20	
11	50	40	14	土師器片
12	48	48	18	
10	44	44	12	
09	42	38	8	
02	60	58	30	
07	42	20	16	
08	24	18	10	
16	38	30	16	
05	52	44	12	
120	24	24	18	
121	26	26	26	
25	34	30	32	
26	32	30	34	
34	118	74	74	
122	42	32	34	
123	38	38	26	

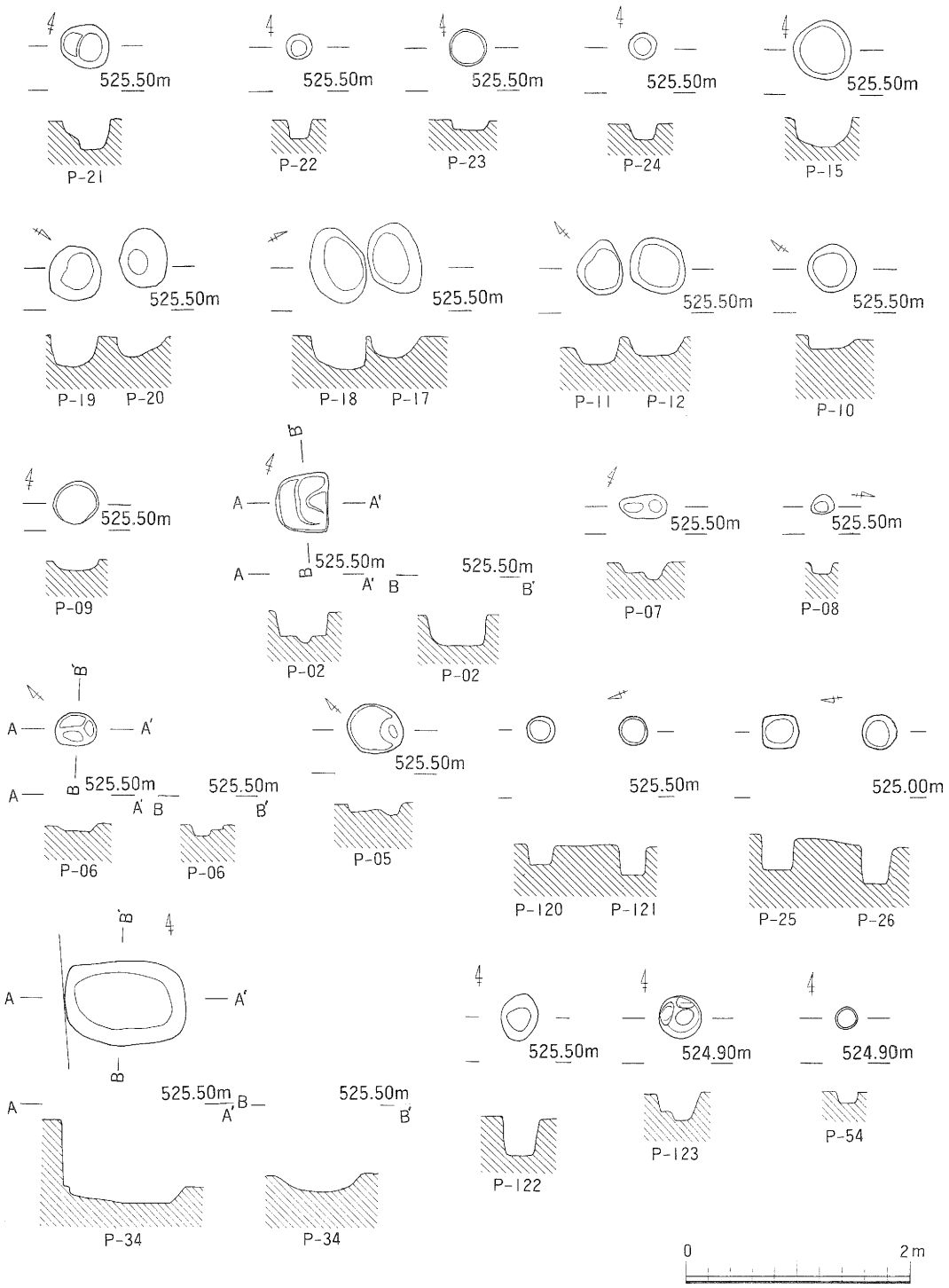
番号	長軸	短軸	深さ	出土遺物等
54	20	20	10	
119	20	18	14	
36	28	26	24	
35	46	44	32	
38	26	26	24	
39	26	24	28	
40	22	22	24	
37	60	58	40	
118	54	54	32	
44	22	20	20	
47	22	20	16	
41	26	24	18	
42	90	80	36	
57	46	40	14	
80	38	36	26	
79	50	46	24	
61	38	34	32	
63	62	58	26	
62	80	74	70	土師器片
64	46	30	16	
125	48	38	36	
65	62	62	68	土師器甕片、須恵器坏片
66	118	96	6	土師器皿片、羽釜片
68	60	58	32	土師器片、土師器坏片
67	64	62	24	土師器甕片

第40表　ピット一覧表（1）

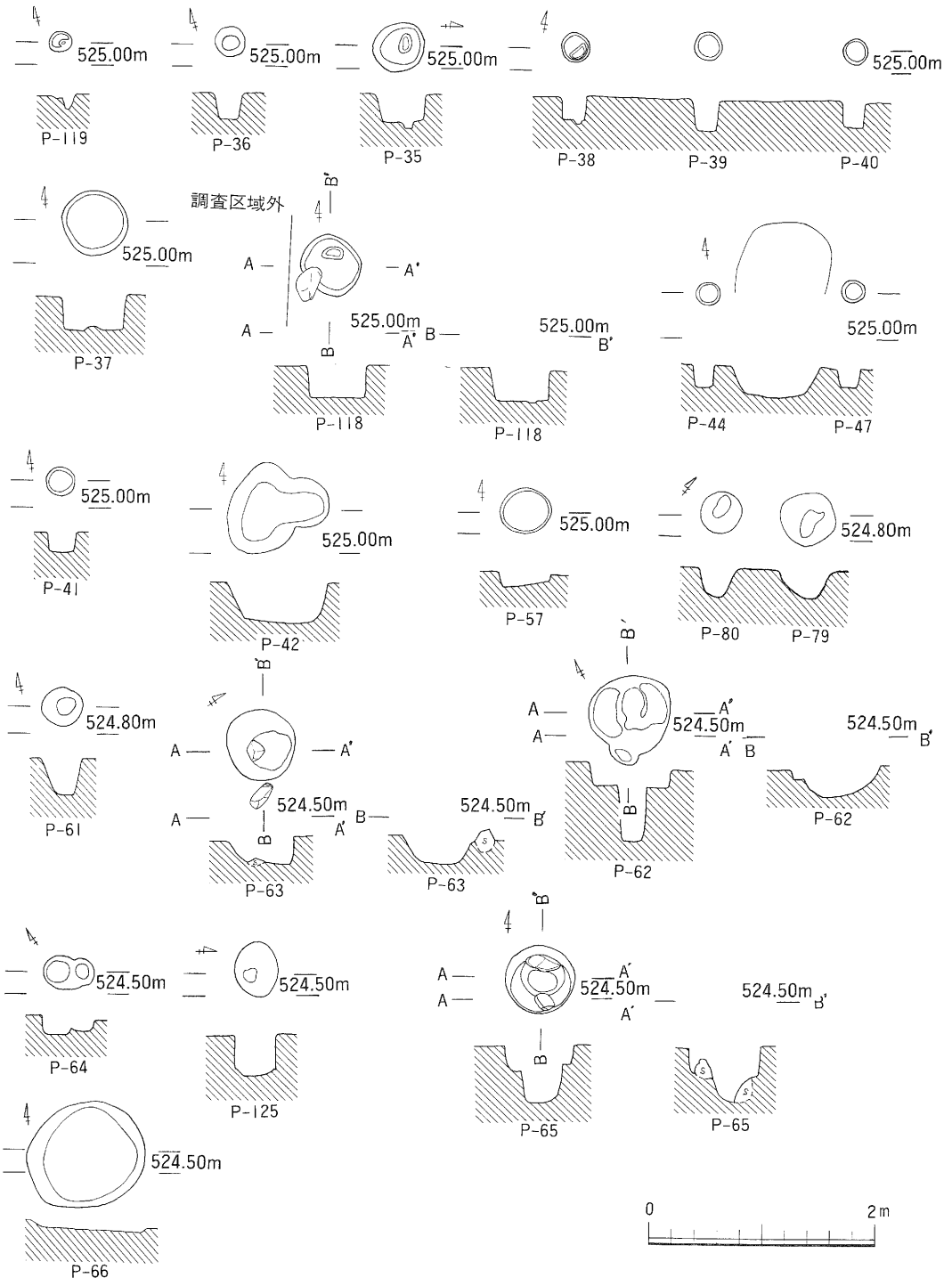
番号	長軸	短軸	深さ	出　土　遺　物　等
72	74	60	44	
94	104	52	34	
71	50	34	14	土師器内黒坏、竈片、石斧
69	48	44	36	土師器甕片須恵器坏片
82	44	40	14	土師器片
83	72	(54)	6	土師器（坏）片
86	98	80	42	
88	42	40	36	
74	38	36	32	
85	58	54	30	
73	60	58	38	
70	68	52	28	
87	40	36	20	
84	66	58	30	
77	90	86	30	
76	114	102	34	
01	70	70	46	
91	76	66	22	
89	26	26	36	
90	38	34	32	
124	44	44	32	鉄製品
92	46	32	12	
93	24	24	26	
97	30	30	34	
98	36	36	6	須恵器坏片・甕片

番号	長軸	短軸	深さ	出　土　遺　物　等
105	58	46	42	
104	54	46	32	
99	62	48	22	
100	64	62	28	
101	56	52	30	
102	62	50	18	
103	58	50	46	
106	36	34	24	土師器甕片、鉄滓、灰、羽口
107	46	42	22	土師器片、縄文鉢片
109	44	42	46	
108	56	54	42	
110	60	52	20	
112	86	68	48	
114	76	76	44	
116	62	54	24	
115	62	46	24	
117	36	36	22	

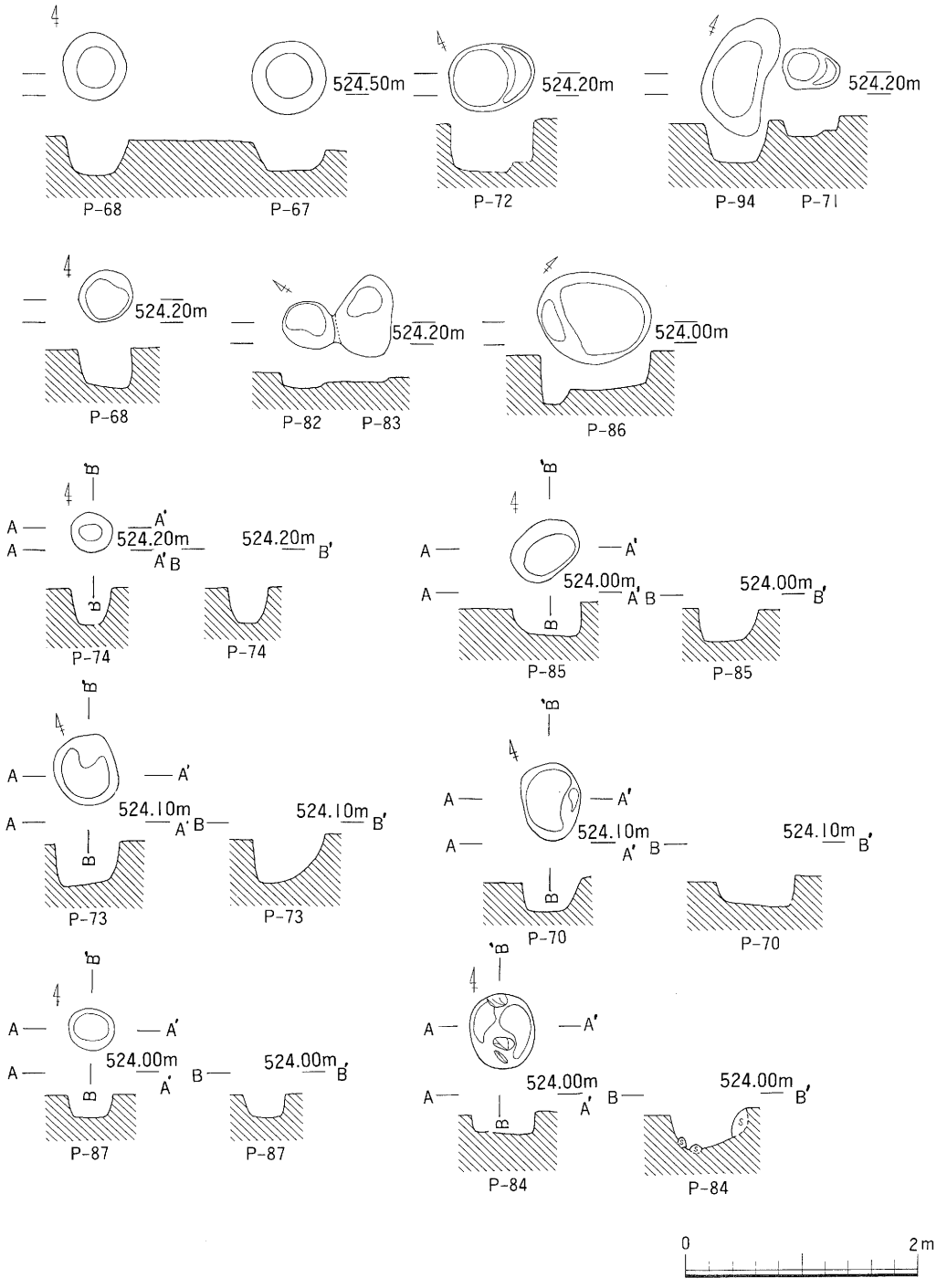
第41表　　ピット一覧表（２）



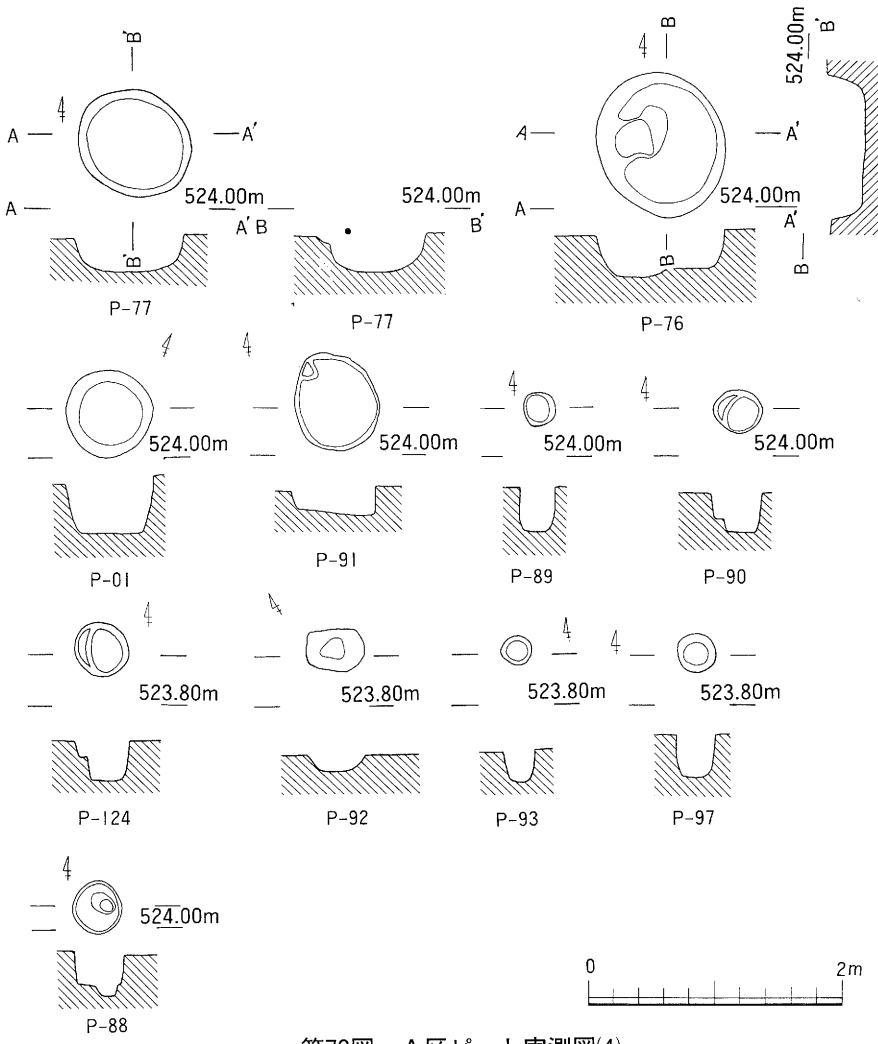
第69図　A区ピット実測図(1)



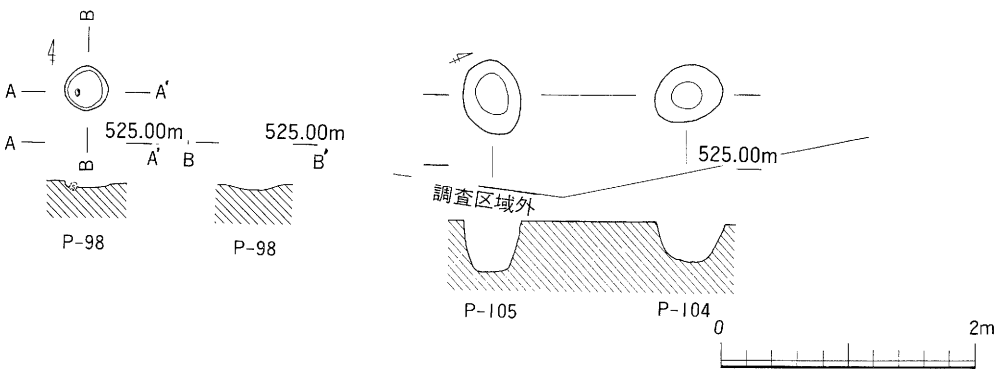
第70図　A区ピット実測図(2)



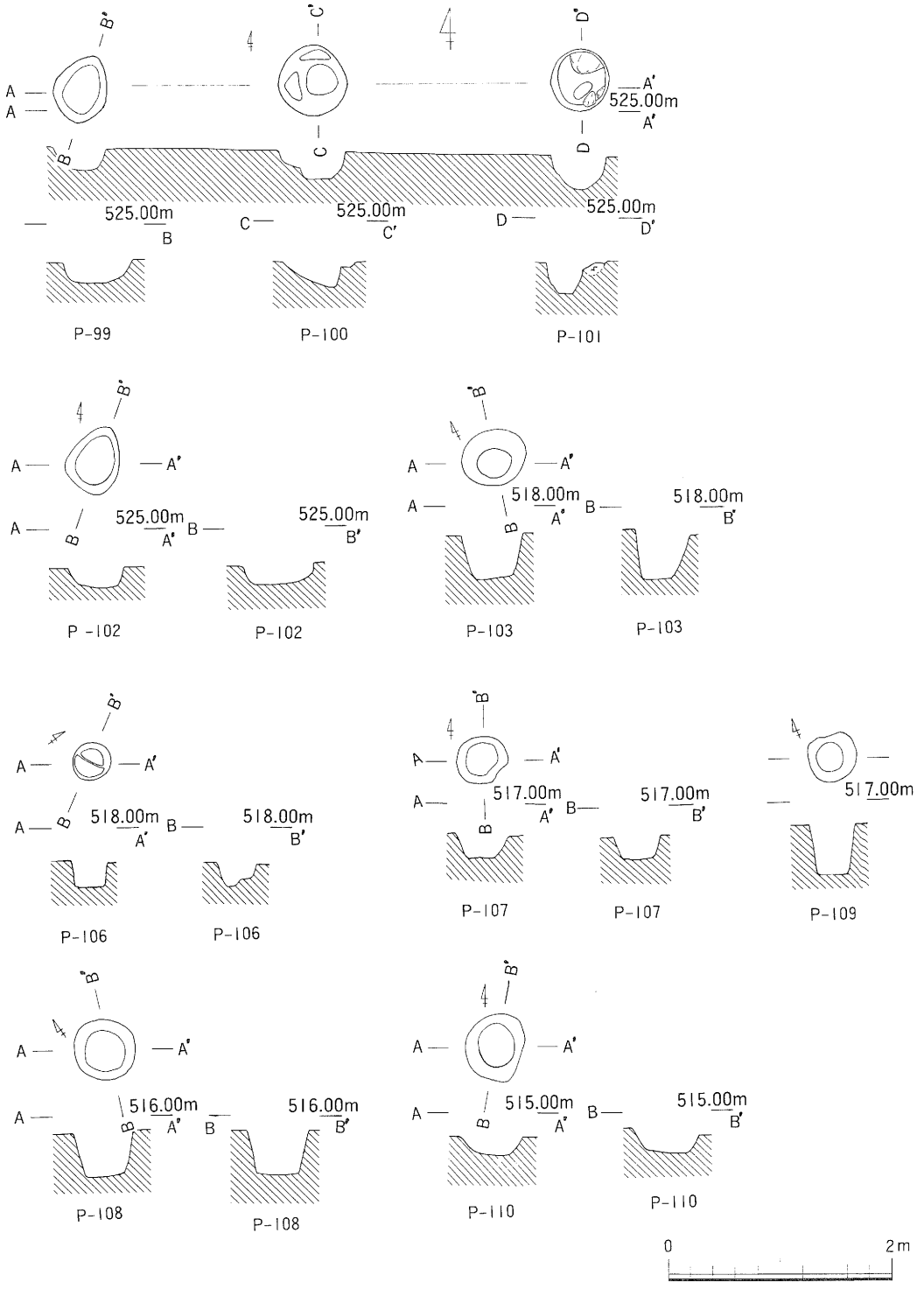
第71図　A区ピット実測図(3)



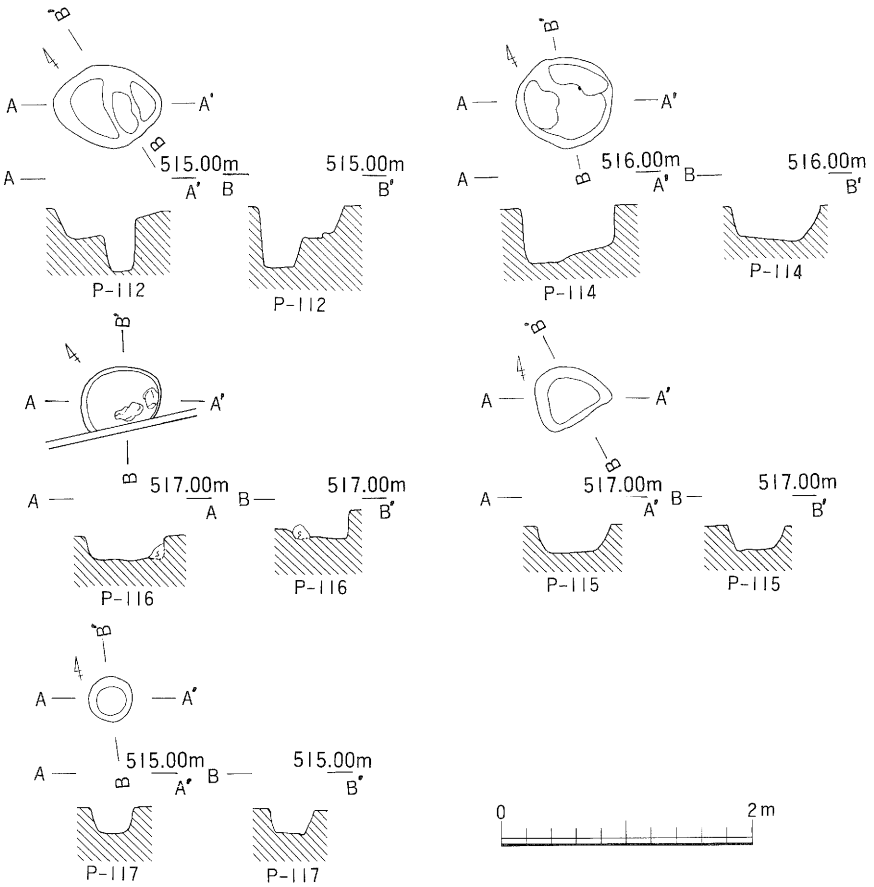
第72図　A区ピット実測図(4)



第73図　C区ピット実測図(1)



第74図　C区ピット実測図(2)



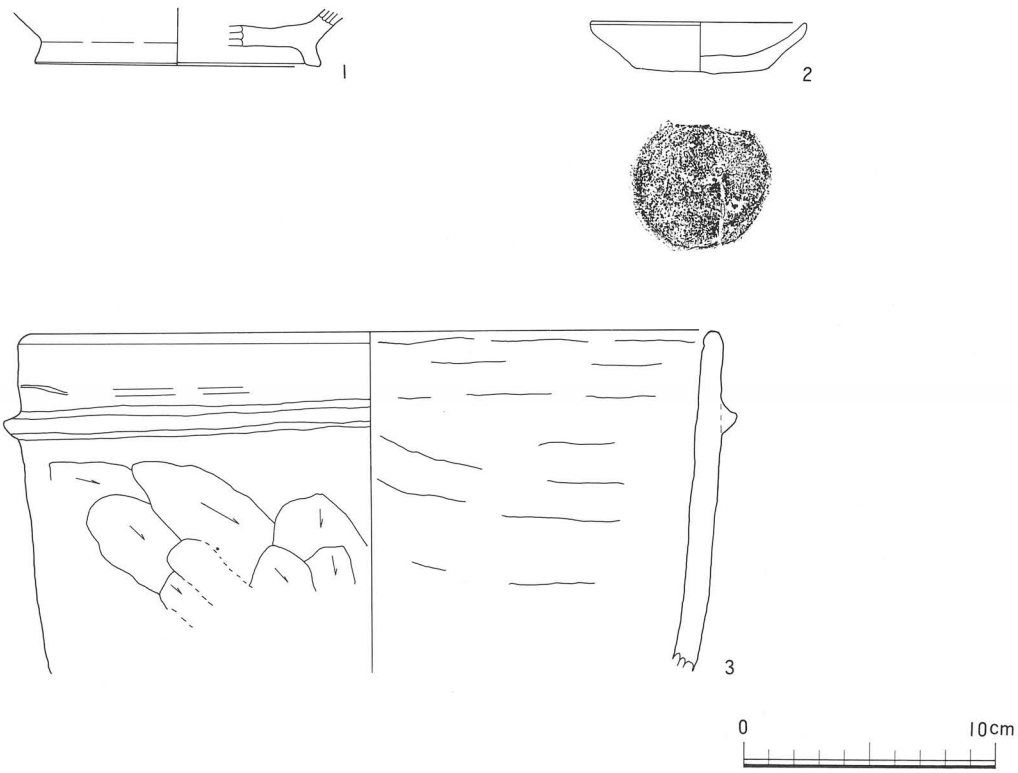
第75図　C区ピット実測図(3)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	 内
1	坏 須恵	P-65	残高 2.3 底径11.4 底部 1/4	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外内N8/　灰白色		体部轆轤による「撫で」、高台部横位の「撫で」、底部不明	轆轤による「撫で」
備考							
2	皿 土師	P-66	口径 8.6 器高 2.0 底径 5.3 底部完存、体部 1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外2.5YR6/8橙色 内2.5YR6/6橙色		口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部回転糸切りか。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」
備考	スケールは第1号住居址出土の皿と酷似している。						
3	羽釜 土師	P-66	口径28.2 残高13.8 口縁部～胴部上位1/5	胎：黒雲母、石英、粗砂粒含有 焼：良 色：外10R4/1 暗赤灰色～10R6/8 赤橙色　内5YR4/1 褐灰色～10R6/8 赤橙色	鍔部は貼り付け。 胴部直立する。	口縁部横位の「撫で」 胴部斜位、縦位の「箆削り」	口縁部横位の「撫で」 胴部横位の「箆撫で」
備考							

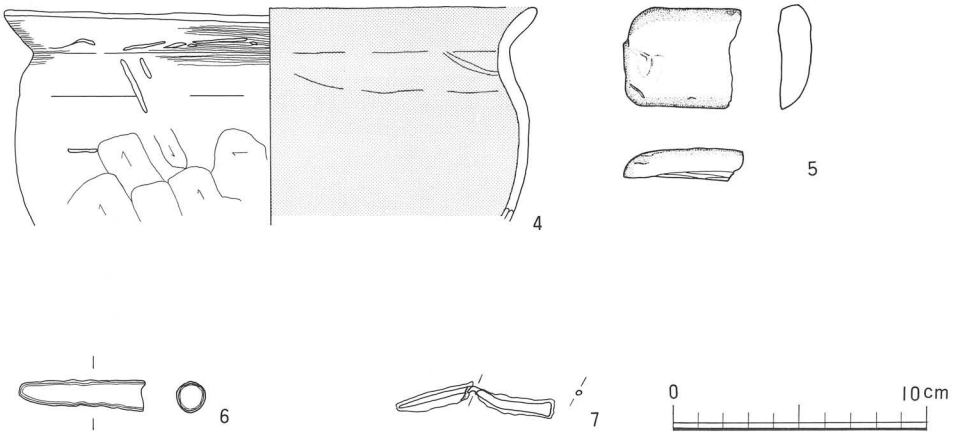
第42表　　A区ピット出土遺物一覧表（1）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
4	甕 土師	P-71	口径21.1 残高 8.6 口縁部～胴部上位1/5	胎：0.1～0.3 の礫、粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/6橙色 内黒色	最大径を口縁部に有し、口縁部「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」、胴部「箆削り」、頸部に箆状工具による掻き目	口縁部横位の「撫で」、胴部箆状工具による「撫で」「磨き」
備考							
5	斧 石製品	P-71	最大長4.7 最大幅4.0 最大厚1.3 重量 31g		磨製		
備考	焼成を受けている。						
6	? 鉄製品	P-124	最大長5.0 最大径1.3 重量 9g		中空で、中に木材をいれている。		
備考							
7	(釘) 鉄製品	P-124	最大長5.2 最大径0.2 重量 5g				
備考							

第43表　A区ピット出土遺物一覧表（2）



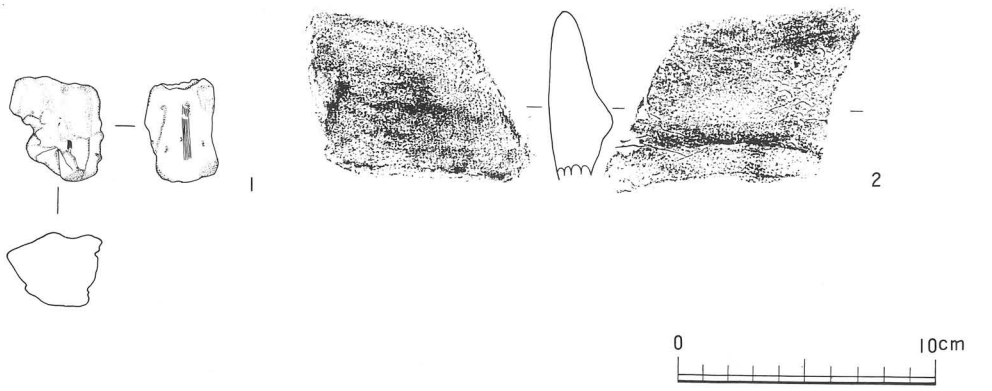
第76図　A区ピット出土遺物実測図(1)



第77図　A区ピット出土遺物実測図(2)

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	羽口	P－106					
備考							
2	(鉢) 縄文	P－107	残高 6.8 口縁部一部	胎：粗砂粒、白雲母、黒雲母、石英含有 焼：良 色：外内10R4/4 赤褐色			
備考							

第44表　　C区ピット出土遺物一覧表

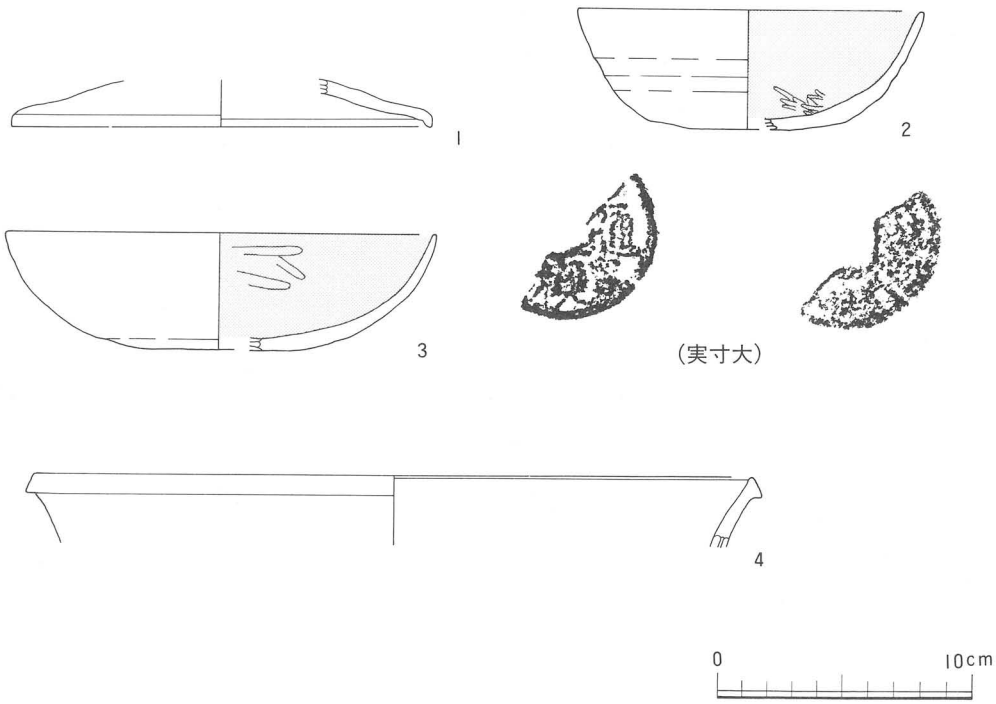


第78図　C区ピット出土遺物実測図

第6節　遺構外出土遺物

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	 内
1	蓋 土師	N1E1 -51	裾径16.8 残高 2.5 裾部～天井部 1/8	胎：0.1の粗砂粒含有 焼：やや不良 色：外2.5YR8/1灰白色 内10YR7/3 にぶい黄橙色		天井部轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」	天井部轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」
備考							
2	坏 土師	N1E1 -58	口径13.8 器高 4.8 底径 7.8 底部～口縁部 1/4	胎：0.1～0.2の粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/4淡橙色 内黒色	体部外面に稜を有し、内彎する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部「篦削り」	口縁部横位の「撫で」、体部篦状工具による「磨き」 黒色処理
備考	内面黒色処理の剝落が著しい。						
3	坏 土師	S1E1 -5	口径17.2 器高 4.7 底部～口縁部 1/12	胎：0.1～0.2の粗砂粒含有 焼：良 色：外口縁部7.5YR 7/4 にぶい橙色 体部2.5YR6/6橙色 内黒色	体部内彎し、口縁部に至る。	体部、底部とも不定方向の「撫で」	「篦磨き」 黒色処理
備考							
4	甕 須恵	S1E1 -22	口径28.6 残高 2.8 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5Y6/1　灰色 内10Y7/1　灰白色		口縁部轆轤による「撫で」、口縁部下位轆轤による「篦削り」	轆轤による「撫で」
備考							

第45表　　A区グリッド出土遺物一覧表



第79図　A区グリッド出土遺物実測図

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
1	坏 須恵	N6E 3-12	口径15.6 器高 3.7 底径 9.1 底部～口縁部1/10	胎：0.2の茶褐色粗砂粒含有 焼：良 色：外N8/ 灰白色 内N7/ 灰白色	体部はほぼ直立して口縁部に至る。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」 底部不明	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	内外面に火襷ある。						

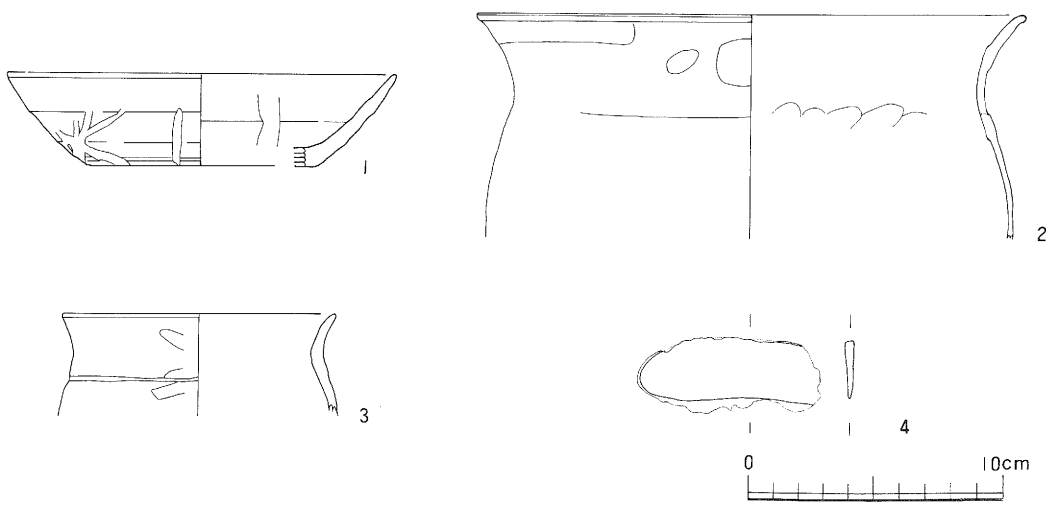
第46表　C区グリッド出土遺物一覧表（1）

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
2	甕 土師	N6E 3-6	口径21.7 残高 9.0 口縁部～胴部上位1/6	胎：0.1～0.3 の粗砂粒、礫含有 焼：良 色：外5YR4/4淡橙色 内2.5YR7/4 淡赤橙色	粘土帯積み上げ 口縁部緩い「くの字」状に外反する。	指頭による圧の強い「撫で」	口縁部横位の「撫で」 胴部上位指頭による圧の強い「撫で」
備考							

第47表　C区グリッド出土遺物一覧表（2）

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
3	(壺) 土師	N5E 3-94	口径 8.8 残高 4.1 口縁部～胴部上位1/6	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR5/3にぶい褐色 内7.5YR4/2 灰褐色	口縁部緩やかに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部「篦削り」	横位の「撫で」
備考							
4	(鎌) 鉄製品	N5E 3-94	残長 7.2 最大幅 2.3 最大厚 0.4 重量 30g 先端部か？				
備考							

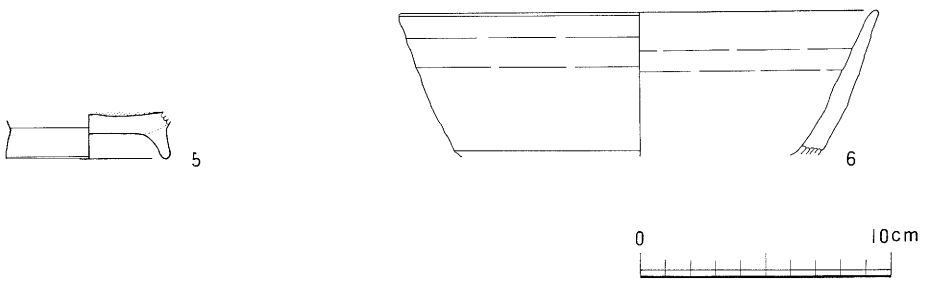
第48表　C区グリッド出土遺物一覧表（3）



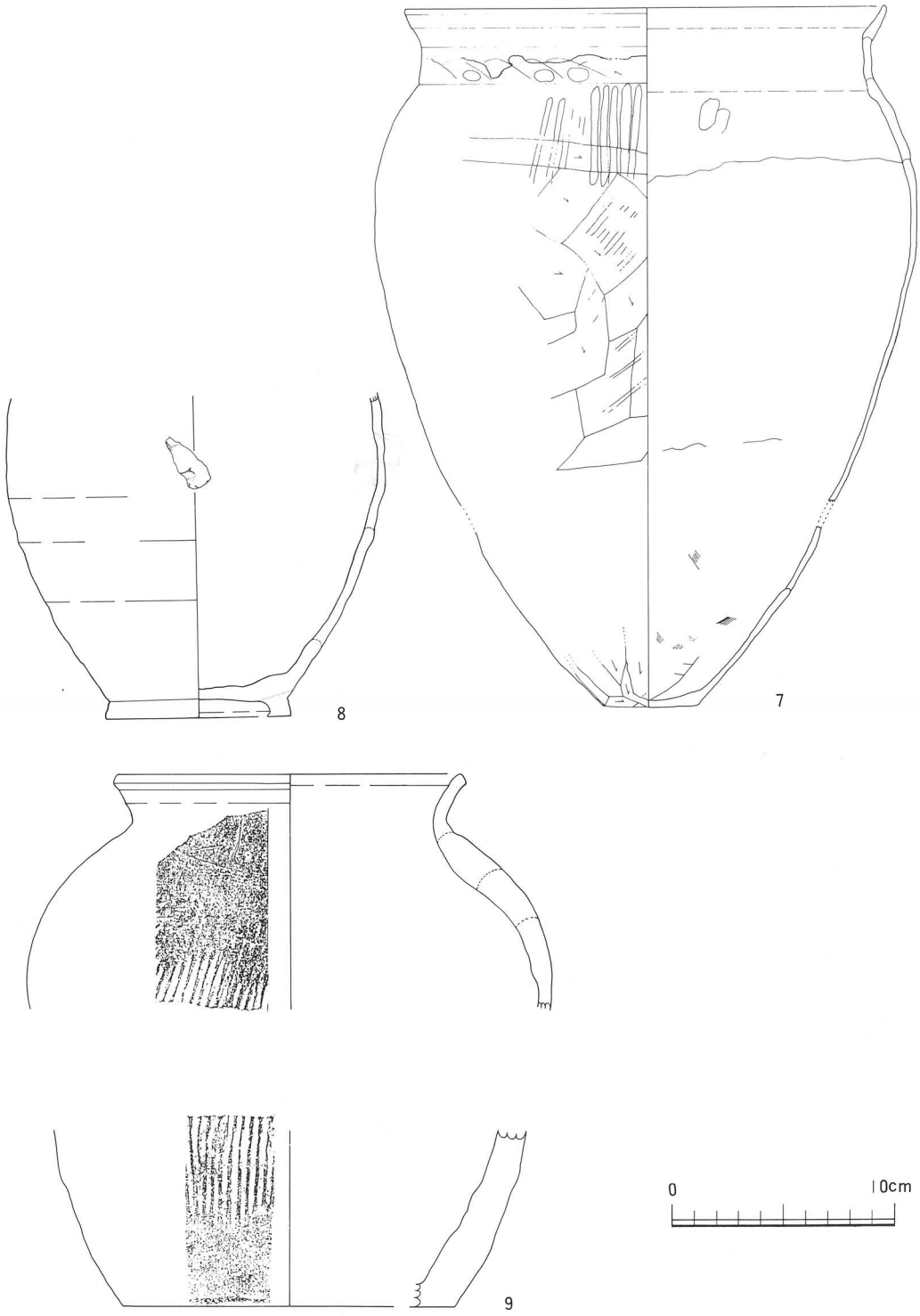
第80図　C区グリッド出土遺物実測図(1)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
5	(坏) 土師	N5E 3-88	残高 1.8 底径 6.5 高台部1/4 底部完存	胎：粗砂粒、雲母粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/3にぶい橙色 内黒色	付け高台	高台部、底部とも「撫で」	轆轤による「撫で」 黒色処理
備考							
6	(椀) 須恵	N5E 3-88	口径19.1 残高 5.8 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR8/3淡黄色 内5YR7/1灰白色	轆轤引き上げ 体部僅かに内彎しながら立上がり、口縁部でごく僅かに外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考							
7	土師	N5E 3-88	器高(31.4) 底径 4.2 口縁部 1/3 胴部 1/6 底部 3/4 口径 21.4	胎：白雲母、細砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/8明赤褐色 内5YR3/6暗赤褐色	最大径(24.4)を胴部中位に有し、口縁部は緩やかな「コの字」状を呈する。	圧痕。胴部にかけて縦方向の篦頭による「削り」胴部～底部不定方向の「篦削り」連続の斜方向の細い篦状工具による「削り」	圧痕。底部内面篦状工具による調整の後、細かい刷毛状工具による調整。口辺～頸部横位の「撫で」
備考							
8	甕 須恵	N5E 3-88	残高15.5 底径 8.2 胴部 1/8 底部完存	胎：白色の礫・粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色	粘土帯積み上げ 付け高台	胴部轆轤による「篦削り」の後轆轤による「撫で」 底部回転糸切りの後、手持ちの右回りの「篦撫で」	轆轤による「撫で」
備考	轆轤左回転。胴部に鉄製品付着している。						
9	甕 須恵	N5E 3-88	口径15.7 器高(24.0) 底径14.9 口縁部～胴部上位1/6 胴部下位～底部1/10	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外N2/ 黒色 内N6/ 灰色	粘土帯積み上げ 頸部肥厚して、口縁部に「くの字」状に外反する。	口縁部横位の「撫で」 胴部平行文の「叩き」 胴部下位「撫で」	口縁部横位の「撫で」 胴部拳？による押圧
備考							

第49表　C区グリッド出土遺物一覧表（4）



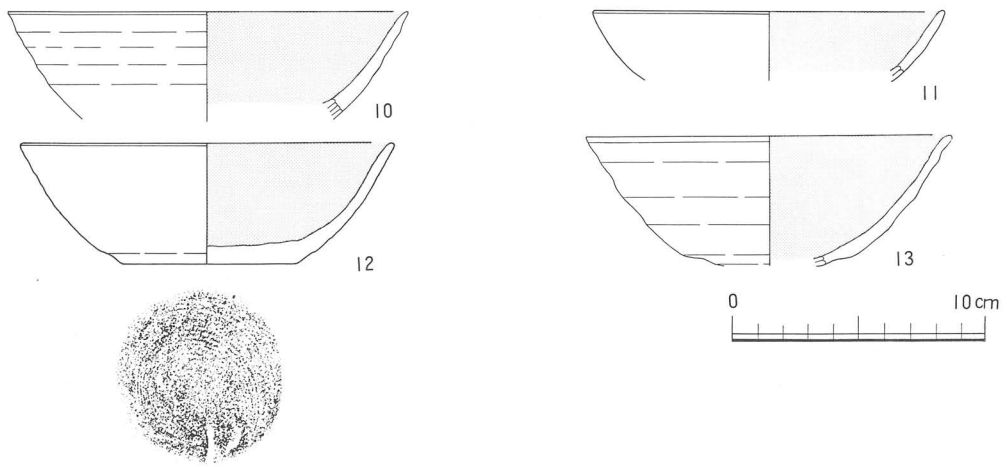
第81図　C区グリッド出土遺物実測図(2)



第82図　C区グリッド出土遺物実測図(3)

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
10	坏 土師	N5E 3-87	口径15.9 残高 4.3 口縁部～体部 1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR6/6 橙色 内黒色	体部は内彎しながら立上がり、口唇部で短く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」 黒色処理
備考							
11	坏 土師	N5E 3-87	口径14.0 残高 2.8 口縁部1/8	胎：雲母粒、粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/4 淡赤橙色 内黒色		口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「篦磨き」
備考							
12	坏 土師	N5E 3-87	口径14.8 器高 4.8 底径 6.8 口縁部～体部 1/4 底部完存	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅赤橙色 内黒色	平底の底部から体部内彎しながら立上がり、口縁部で僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」か 黒色処理
備考							
13	坏 土師	N5E 3-87	口径14.6 残高 5.2 口縁部～体部 1/12	胎：0.1～0.3 の礫・粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/6 橙色 内黒色	粘土紐巻上げか？ 体部に稜を有し、内彎しながら立上がり、口縁部で強く外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」か	口縁部横位の「撫で」 体部「篦磨き」 黒色処理
備考							
14	坏 土師	N5E 3-87	残高 2.1 底径 6.0 底部 1/3	胎：0.1～0.2 の粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/4淡橙色 内黒色		体部横位の「撫で」 底部切離し法不明	「篦磨き」 黒色処理
備考							
15	耳坏 土師	N5E 3-87	長径 5.7 短径 5.3 残高 3.1 体部 1/3 底部 1/2	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内黒色	付け高台 粘土帯積み上げ	口縁湾曲部「篦磨き」 体部～高台部横位の「撫で」 底部回転糸切り 黒色処理	口縁部～体部「撫で」 底部「篦磨き」 黒色処理
備考							

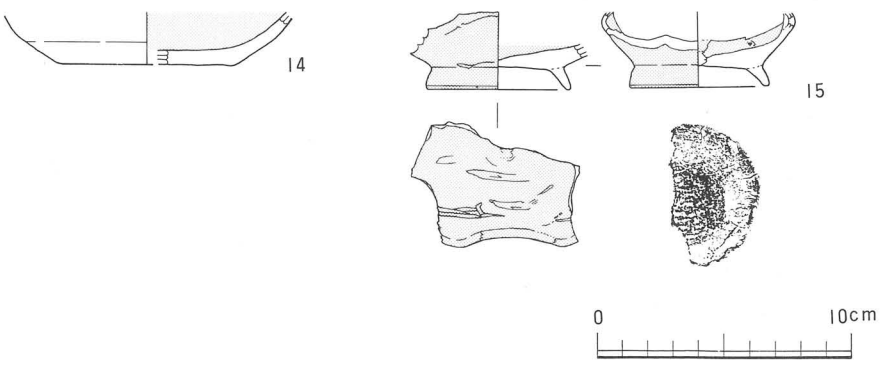
第50表　C区グリッド出土遺物一覧表（5）



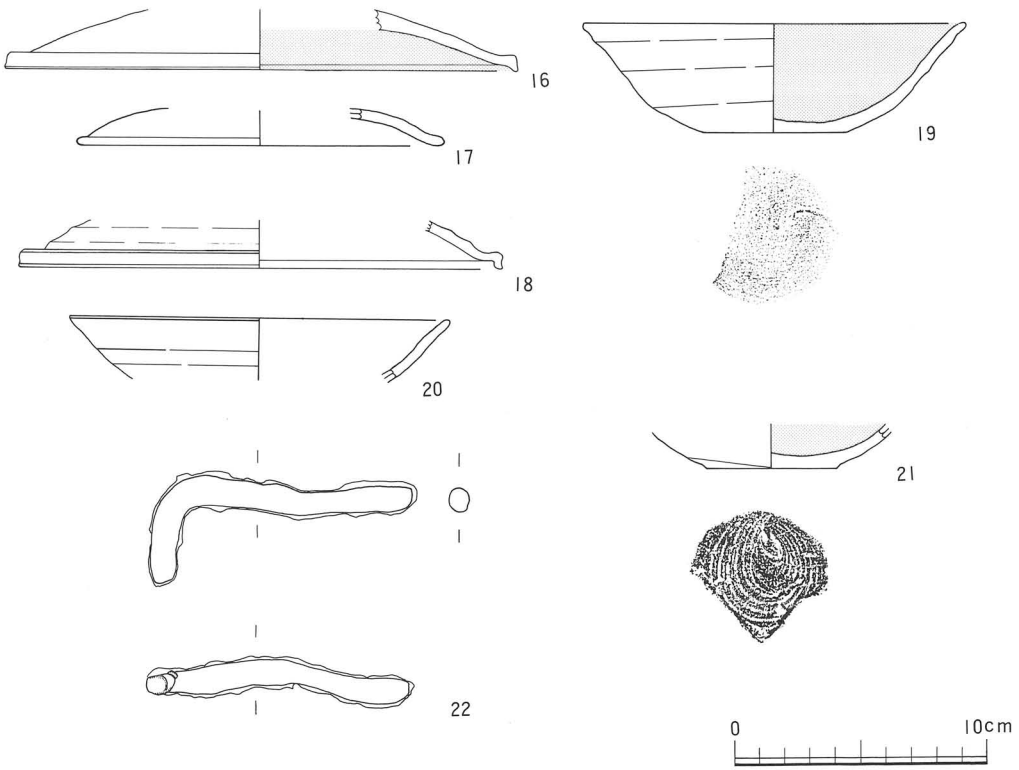
第83図　C区グリッド出土遺物実測図(4)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
16	蓋 土師	N5E 3-86	残高 2.4 裾径20.3 天井部～裾部 1/8	胎：雲母・石英粒、粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR7/6橙色 内黒色		天井部轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」	天井部轆轤による「撫で」 裾部横位の「撫で」 黒色処理
備考							
17	蓋 土師	N5E 3-86	残高 1.4 裾径14.6 袖部 1/8	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR7/4 淡赤橙色 内10YR 7/3 にぶい黄橙色		天井部轆轤による「篦削り」 裾部轆轤による「撫で」	天井部「篦磨き」 裾部横位の「撫で」
備考							
18	蓋 須恵	N5E 3-86	残高 1.9 裾径19.2 裾部1/12	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外N5/ 灰色 内N6/ 灰色	外面に強い稜を有する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」
備考	外面に火襷あり。						
19	坏 土師	N5E 3-86	口径15.2 器高 5.4 底径 5.7 口縁部～体部 1/3 底部 1/2	胎：雲母、粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR8/3淡橙色～10YR8/2 灰白色 内黒色	内彎しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	撫で、体部轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」 底部回転糸切り	撫で、体部轆轤による「撫で」の後、不定方向の「撫で」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
20	坏 須恵	N5E 3-86	口径15.0 残高 2.5 口縁部1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5Y7/1 灰白色		口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
21	坏 土師	N5E 3-86	残高 1.8 底径 4.2 底部 4/5	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR8/2灰白色 内黒色	平底の底部から体部内彎して立上がる。	体部轆轤による「篦削り」 底部回転糸切り	丁寧な放射状の「篦磨き」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
22	? 鉄製品	N5E 3-86	最大長10.5 最大幅 1.2 最大厚 1.2 重量 30g				
備考							

第51表　C区グリッド出土遺物一覧表（6）



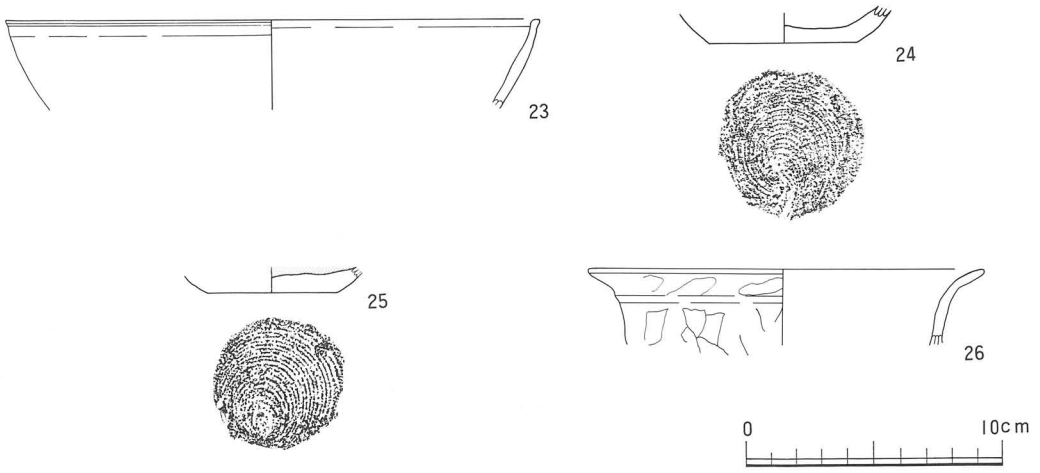
第84図　C区グリッド出土遺物実測図(5)



第85図　C区グリッド出土遺物実測図(6)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
23	坏 灰釉陶器	N5E 3-76	口径21.2 残高 3.6 口縁部～体部 1/12	胎：精選されている。 焼：良 色：外内2.5GY7/1 明オリーブ灰色	口唇部轆轤による引上げ	轆轤による「箆撫で」	轆轤による「箆撫で」
備考							
24	坏 土師	N5E 3-76	残高 1.2 底径 5.8 底部完存	胎：茶褐色粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR5/1褐灰色 内5YR7/3 にぶい橙色	底部は平底で、内面中央が凸状に盛り上がる。	体部「撫で」 底部回転糸切り	箆状工具による放射状の「撫で」
備考	轆轤右回転						
25	(坏) 土師	N5E 3-76	残高 1.0 底径 5.1 底部完存	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR6/3 にぶい褐色 内2.5YR3/1 黒褐色		底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	轆轤右回転。						
26	甕 土師	N5E 3-76	口径15.7 残高 3.0 口縁部1/12	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外内5YR6/4 にぶい橙色	口縁部はラッパ状に大きく外反する。	口縁部指頭による「押圧」 胴部上位「箆削り」	横位の「撫で」
備考							

第52表　C区グリッド出土遺物一覧表（7）



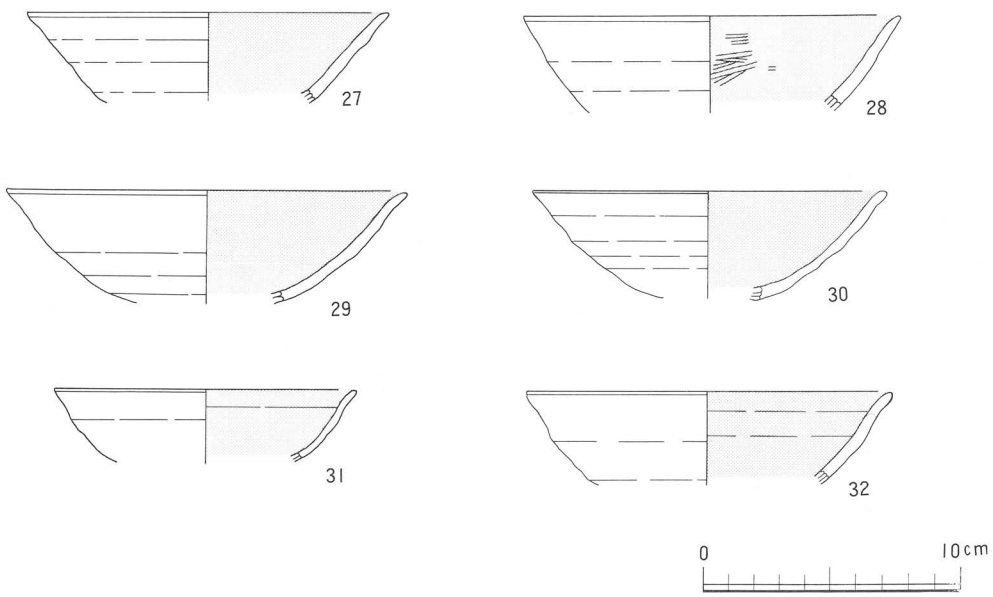
第86図　C区グリッド出土遺物実測図(7)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
27	坏 土師	N5E 3-75	口径14.4 残高 3.6 口縁部～体部1/6	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR7/3 にぶい黄橙色 内黒色	体部外面に緩やかな稜を有し、ほぼ直立する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「篦撫で」	不定方向の「撫で」 黒色処理
備考							
28	坏 土師	N5E 3-75	口径15.0 残高 3.9 口縁部1/6	胎：石英粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内黒色		横位の「撫で」	横位、斜位の「篦磨き」 黒色処理
備考							
29	坏 土師	N5E 3-75	口径15.9 残高 4.5 口縁部～体部1/6	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR8/4 浅黄橙色 内黒色	体部緩やかに内彎しながら立上がり、口縁部で外反する。	轆轤による「撫で」	轆轤による「撫で」 黒色処理
備考							
30	坏 土師	N5E 3-75	口径14.0 残高 4.2 口縁部～体部1/4	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	体部外面に緩い稜を有し、内彎しながら立上がり、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」体部轆轤による「撫で」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						
31	坏 土師	N5E 3-75	口径12.0 残高 3.4 口縁部1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR6/4 にぶい橙色 内黒色	口縁部外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部斜位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部斜位の「撫で」 黒色処理
備考							
32	坏 土師	N5E 3-75	口径14.5 残高 3.7 口縁部～体部1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR7/6橙色 内黒色	粘土帯積み上げ 体部内彎しながら立上がり、口縁部で緩やかに外反する。	横位の「撫で」	横位の「撫で」 黒色処理
備考	轆轤右回転。						

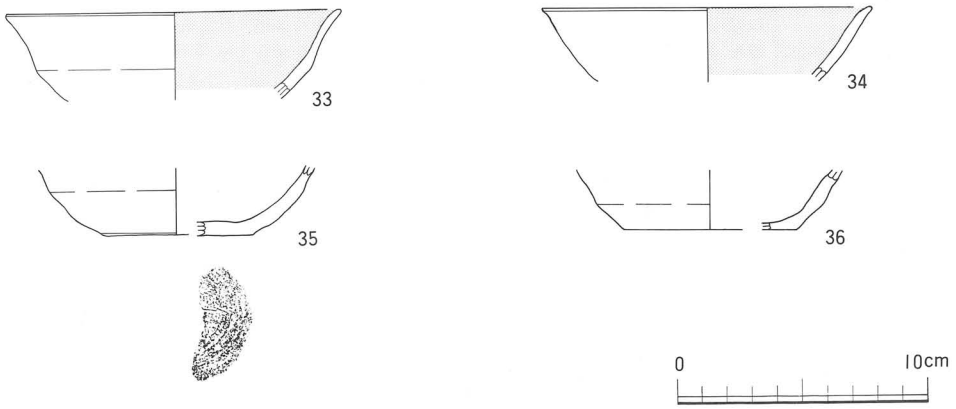
第53表　　C区グリッド出土遺物一覧表（8）

番号	器種種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
33	坏 土師	N5E 3-75	口径13.4 残高 3.5 口縁部～体部1/3	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR7/4 にぶい黄橙色 内黒色	体部内彎して立上がり、口縁部大きく外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」	横位の「撫で」 黒色処理
備考							
34	坏 土師	N5E 3-75	口径13.2 残高 3.2 口縁部1/6	胎：石英粒、粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色		口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」 黒色処理
備考							
35	坏 土師	N5E 3-75	残高 2.6 底径 6.0 底部～体部1/3	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内7.5YR3/1 黒褐色		轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	篦状工具による「磨き」か
備考	轆轤回転方向不明。						
36	(甕) 土師	N5E 3-75	残高 2.4 底径 7.0 底部～胴部下位1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR4/2灰褐色 内7.5YR7/3 にぶい橙色	器厚の薄い底部から稜のある胴部下位へ至る。	胴部下位横位の「撫で」 底部不明	横位の「撫で」
備考							

第54表　C区グリッド出土遺物一覧表（9）



第87図　C区グリッド出土遺物実測図(8)



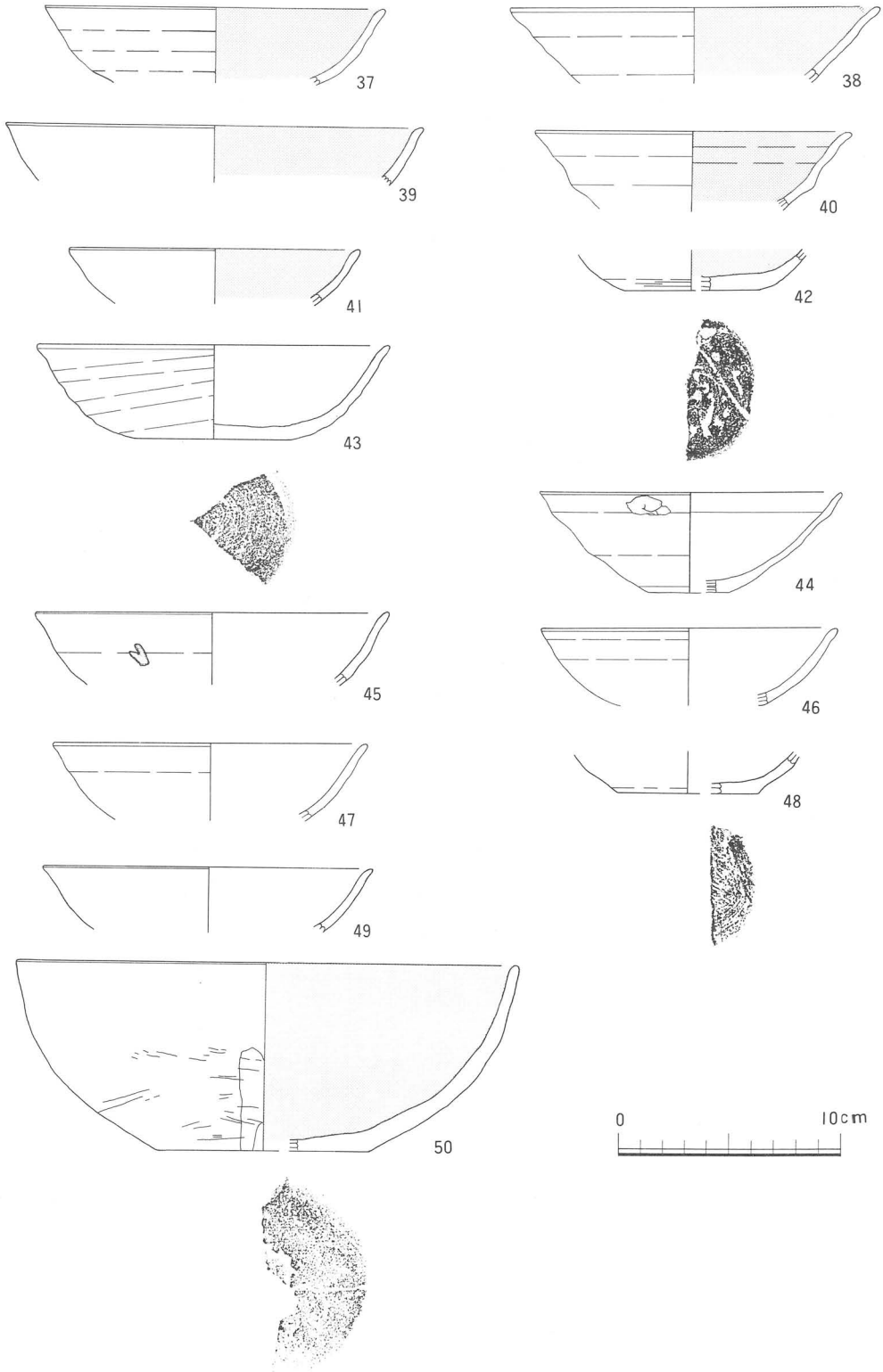
第88図　C区グリッド出土遺物実測図(9)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
37	坏 土師	N5E 3-74	口径15.0 残高 3.4 口縁部1/12	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR5/6 明赤褐色 内黒色	体部は緩やかな稜を有し、強く内彎し、口縁部短く僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部下位轆轤による「篦削り」	口縁部横位の「撫で」、体部斜位の「撫で」 黒色処理
備考							
38	坏 土師	N5E 3-74	口径16.4 残高 3.4 口縁部1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅黄橙色 内黒色	体部はほぼ直立し、口縁部で僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部下位轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部不定方向の「撫で」 黒色処理
備考							
39	坏 土師	N5E 3-74	口径18.6 残高 2.6 口縁部1/16	胎：細砂粒僅か含有 焼：良 色：外5YR6/3 にぶい橙色 内黒色	口縁部ごく僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部不定方向の「撫で」	丁寧な「篦磨き」 黒色処理
備考							
40	坏 土師	N5E 3-74	口径14.1 残高 3.5 口縁部1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	体部外面に強い、内面に緩い稜を有し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部縦位の「撫で」 黒色処理
備考							
41	坏 土師	N5E 3-74	口径13.0 残高 2.5 口縁部1/4	胎：粗砂粒多く含む 焼：良 色：外7.5YR7/6 橙色 内黒色		口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」 黒色処理
備考							
42	坏 土師	N5E 3-74	残高 1.9 底径 6.2 底部 1/2	胎：細雲母、粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	平底の底部から体部へ内彎して立上がる。	体部下位「篦削り」、底部回転篦切りと思われる。	「磨き」 黒色処理
備考							
43	坏 土師	N5E 3-74	口径15.6 器高 4.2 底径 6.6 口縁部1/4 体部～底部1/6	胎：粗砂粒、細砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR5/3 にぶい褐色 内10YR4/1 褐灰色	粘土紐左回転の巻上げ。 体部に稜を有し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」の後不定方向の「撫で」
備考	口縁部外面に漆状のものが付着している。						

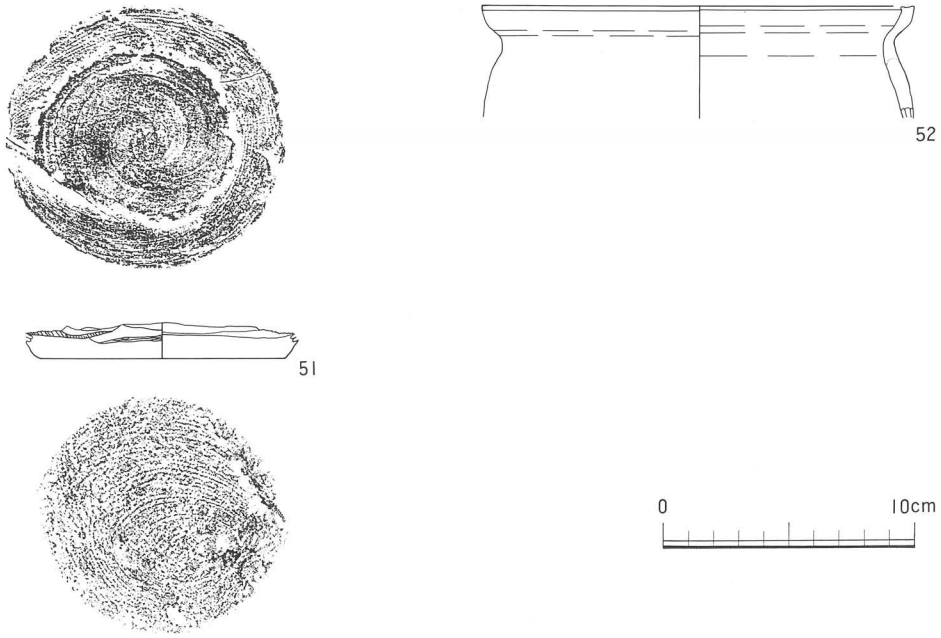
第55表　C区グリッド出土遺物一覧表（10）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法	
						外	内
44	坏 土師	N5E 3-74	口径13.6 器高 4.2 底径 3.4 口縁部～底部 1/8	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内7.5YR6/6 橙色	小さめの底部から体部緩やかに内彎しながら立上がり、口縁部に至る。	粘土紐巻上げ、口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」、底部不明	口縁部横位の「撫で」、体部篦状工具による縦位の「撫で」
備考	口縁部に粘土塊付着。底部回転糸切りの後、再度粘土を盛っている。						
45	坏 土師	N5E 3-74	口径15.8 残高 3.2 口縁部1/8	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR6/8橙色 内N2/　黒色	体部は内彎し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」
備考	体部外面に粘土が付着している。						
46	坏 土師	N5E 3-74	口径13.3 残高 3.5 口縁部～体部 1/7	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色　内10YR 7/3 にぶい黄橙色	体部開き気味に内彎しながら立上がり、口縁部でごく僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部不定方向の「撫で」
備考							
47	坏 土師	N5E 3-74	口径14.1 残高 3.5 口縁部1/9	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外5YR5/2灰褐色 内5YR4/2 灰褐色	体部開き気味に内彎しながら立上がり、口縁部でごく僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部篦状工具による横位、斜位の「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部篦状工具による横位の「撫で」
備考							
48	坏 土師	N5E 3-74	残高 1.7 底径 6.4 底部 1/3	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外内7.5YR6/3 にぶい褐色		体部轆轤による「撫で」 底部回転糸切り	不定方向の「撫で」
備考							
49	坏 須恵	N5E 3-74	口径14.8 残高 2.8 口縁部1/10	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外内10Y6/1 灰色	口縁部外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「篦撫で」
備考	外面に火襷ある。						
50	鉢 土師	N5E 3-74	口径22.4 器高 8.5 底径 8.4 底部 1/3 体部 1/4 口縁部1/16	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外10YR8/3 浅黄橙色 内N2/　黒色	体部は内彎し、口縁部は直立する。	口縁部横位の「撫で」、体部上位篦状工具による横位の「撫で」、体部下位「篦削り」	口縁部～体部上位横位の「撫で」、体部下位～底部篦状工具による「撫で」及び「磨き」
備考	底部外面は切離しの後、粘土を盛っており、整形技法は不明である。						
51	(甕) 土師	N5E 3-74	残高 2.0 底径 9.6 底部のみ	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外内7.5YR6/6橙色	内面に2度粘土を盛って切っている。	底部回転糸切りの後、一部「篦撫で」	底部回転糸切りの後、中央に再度粘土を盛って、凸部を回転糸切りにかける。
備考	轆轤右回転。						
52	甕 土師	N5E 3-74	口径17.0 残高 4.5 口縁部～胴部上位1/10	胎：細砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR6/8　橙色 内7.5YR5/3 にぶい褐色	粘土帯積み上げ 口唇部を面取りし、口縁部の内彎が強い。 頸部は「くの字」状を呈する。	口縁部横位の「撫で」 頸部～体部轆轤による「篦撫で」	口縁部横位の「撫で」 頸部～体部轆轤による「撫で」
備考							

第56表　C区グリッド出土遺物一覧表（11）



第89図　C区グリッド出土遺物実測図(10)



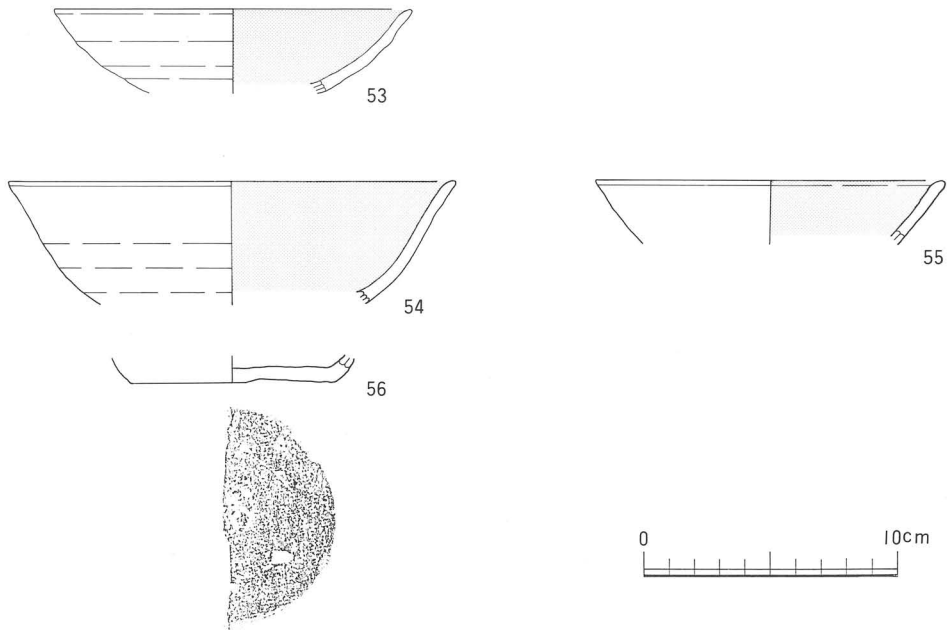
第90図　C区グリッド出土遺物実測図(11)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
53	坏 土師	N5E 3-68	口径14.2 残高 3.4 口縁部～体部 1/10	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR8/3 浅黄橙色 内黒色	体部は内彎し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」 体部轆轤による「撫で」	口縁部横位の「撫で」 体部「撫で」 黒色処理
備考							

第57表　C区グリッド出土遺物一覧表（12）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
54	坏 土師	N5E 3-66	口径17.8 残高 5.0 口縁部1/9 体部 1/6	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外5YR7/4 にぶい橙色 内黒色	体部はほぼ直立し、口縁部で僅かに外反する。	口縁部横位の「撫で」、体部轆轤による「撫で」の後不定方向の「撫で」	口縁部横位の「撫で」、体部篦状工具による「撫で」「磨き」黒色処理
備考							
55	坏 土師	N5E 3-66	口径13.8 残高 2.6 口縁部1/12	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外5YR6/3 にぶい橙色 内黒色	体部から口縁部へ直立する。	不明	丁寧な「篦磨き」黒色処理
備考							
56	坏 須恵	N5E 3-66	残高 0.7 底径 8.2 底部 1/2	胎：白色粗砂粒含有 焼：良 色：外内N7/ 灰白色		底部回転篦切り	轆轤による「撫で」
備考	一部不完全な還元焔焼成。内外面に火襷ある。						

第58表　C区グリッド出土遺物一覧表（13）



第91図　C区グリッド出土遺物実測図(12)

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
57	坏 土師	N5E 3-38	残高 3.4 底径 5.6 底部完存 体部一部	胎：粗砂粒含有 焼：良 色：外7.5YR7/4 にぶい橙色 内黒色		体部「撫で」 底部回転糸切り	丁寧な「篦磨き」 黒色処理
備考							

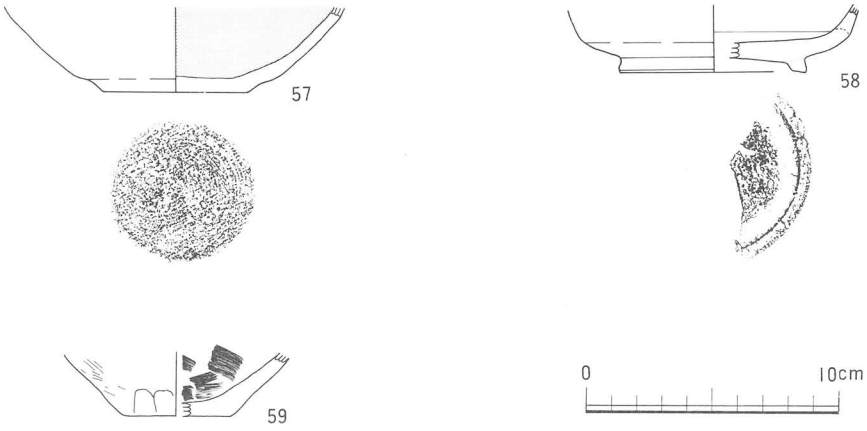
第59表　C区グリッド出土遺物一覧表（14）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
58	坏 須恵	N5E 3-22	残高 2.5 底径 7.3 底部 1/3	胎：粗砂粒多く含有 焼：良 色：外N6/ 灰色 内N7/ 灰色	付け高台 粘土帯積み上げ	体部轆轤による「撫で」、体部下位轆轤による「篦削り」、高台部横位の「撫で」、底部回転糸切り	轆轤による「撫で」
備考	高台接合痕が明瞭である。底部篦切りが中心に及んでいない。						

第60表　C区グリッド出土遺物一覧表（15）

番号	器種 種類	位置	法量	器質	成形・形態	整形技法 外	整形技法 内
59	(甕) 土師	N5E 3-1	残高 2.4 底径 4.4 底部～胴部下位 1/4	胎：細砂粒含有 焼：良 色：外2.5YR6/6橙色 内10R3/6 暗赤色		胴部下位「篦削り」 底部篦切り	篦状工具による「撫で」
備考							

第61表　C区グリッド出土遺物一覧表（16）



第92図　C区グリッド出土遺物実測図(13)

第4章　ま　と　め

林之郷遺跡は上田市の東方に位置し、神川の形成した扇状地の第2段丘面に所在する。前述したように本遺跡は遺跡群としてとらえられるもので、この扇状地の微高地を中心とした一帯にいくつかの遺跡が分布していることが、早くから知られていた。近年、この面も道路敷設や住宅団地・工場造成などによる土地開発が急速に進行してきたところである。昭和49年にはこの地を東西に横切る広域農道開削工事が行われ、これに伴う太田・茅御堂両遺跡の調査が実施されたのが、一帯の考古学的究明の最初であった。その後は同段丘では、下郷地域などで若干の調査が行われたものの、林之郷集落周辺では今回の調査まで、とくに考古学的な調査がなかった地域である。今回の発掘調査は、林之郷地域の県営ほ場整備事業及びふれあい農園整備事業に伴うもので、調査実施面積はA・B区あわせて約2200㎡以上にわたるものであった。このうち調査によって検出された遺構は住居址16軒・掘立柱建物址3・土壙・溝址・ピットなどであった。また、遺物はそれぞれ個々の遺構に伴う土師器・須恵器およびその他の遺物など比較的豊富であったといえる。それぞれについては前章で述べてあるので、ここでは簡単にまとめておきたい。

検出された住居址のプランは、隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈すものであり、そのうちカマドをもつ住居が大半であった。

第1号住居址のカマドは東壁南隅にあり、やや不自然な感じである。また確認された遺物も必ずしも床面からのものではなかった。カマド内から検出された土師器皿はいずれも底部回転糸切りで、また土師質とみられる羽釜もカマド内より見つかっており、おおざっぱに平安時代後半の様相を呈しているとみられる。第2号住居址は比較的小規模プランであり、遺物は土師器坏・甕、須恵器坏・甕などが検出されている。土師器坏はロクロづくりでなく、内面黒色処理が施され、長胴甕は「く」の字状口縁を有す。また須恵器坏も底部ヘラキリ手法をとり、全体的には古墳時代後半の様相をもつ。また、第3号住居址内出土の遺物は土師器坏・甕・須恵器坏・蓋などであるが、すべて覆土中からの検出であり、必ずしも住居構築の年代決定とはならない。しかしこれらの資料の、とくに須恵器坏の底部ヘラキリおよび蓋の環状ツマミの形状などから、8世紀前半位とみることができようか。また、西北に隣接する第4号住居址内検出遺物も、ほとんどが覆土中からである。須恵器坏の底部調整はヘラキリで、第3号住居址とほぼ同様な時期とみられる。

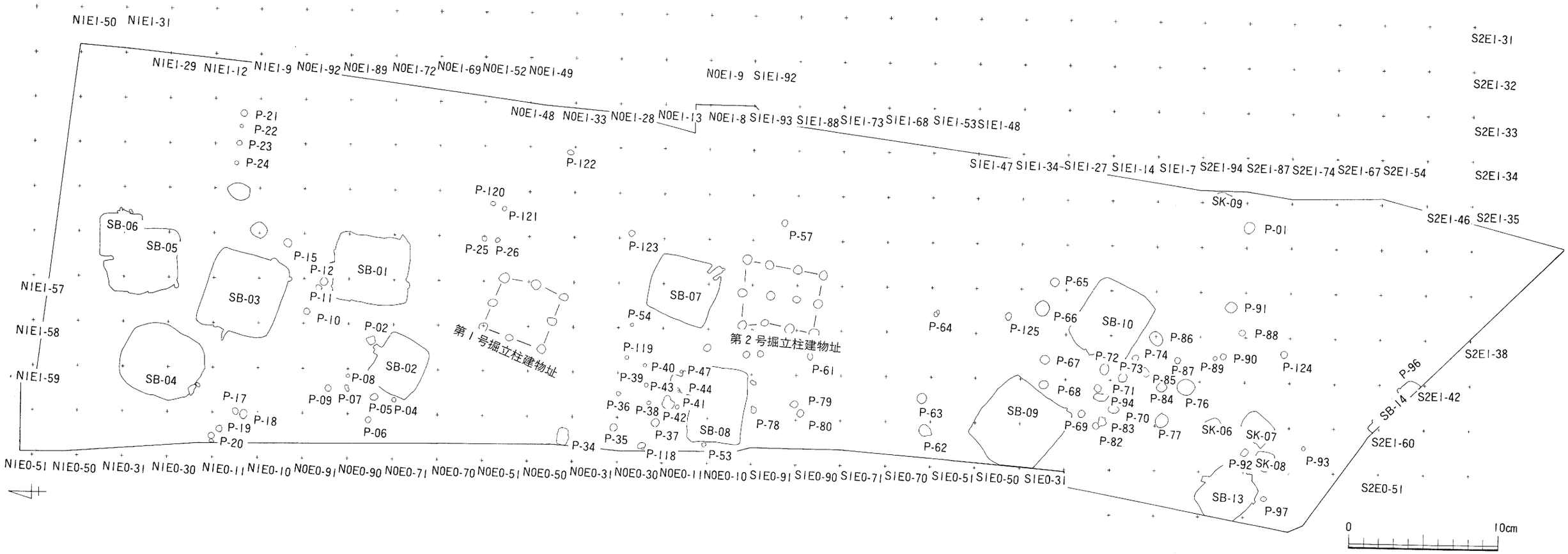
第5号・6号住居址は重なりあっており、6号が後に構築されたものである。第5号住居址の西壁中央に造られたカマド内からは、口唇部を面取りし胴部下半をヘラケズリした土師器長胴甕などが検出されているし、覆土中からは底部ヘラキリの須恵器坏が確認されている。また、小規模の6号住居址からも、須恵器坏・叩き目をもつ甕・蓋、土師器甕などが検出され、遺物からみたかぎりでは、両住居址ともあまり時間的へだたりがないものとみられ、古墳時代末から奈良時代前半位に比定できようか。また、A区のほぼ中央に確認された第7号住居址は、1号住居址と同じようにカマドが東南隅に造られている。このカマド内より土師器足高高台付坏・甕あるいは

羽釜などが検出され、平安時代後半の様相を呈している。さらに第8号住居址内の遺物はいずれも覆土中のものであるが、須恵器坏・蓋・甕、土師器坏などが検出され、ロクロ成形による須恵器が多くみられた。この須恵器には高台付もみられ、蓋はかえしのない器形であった。

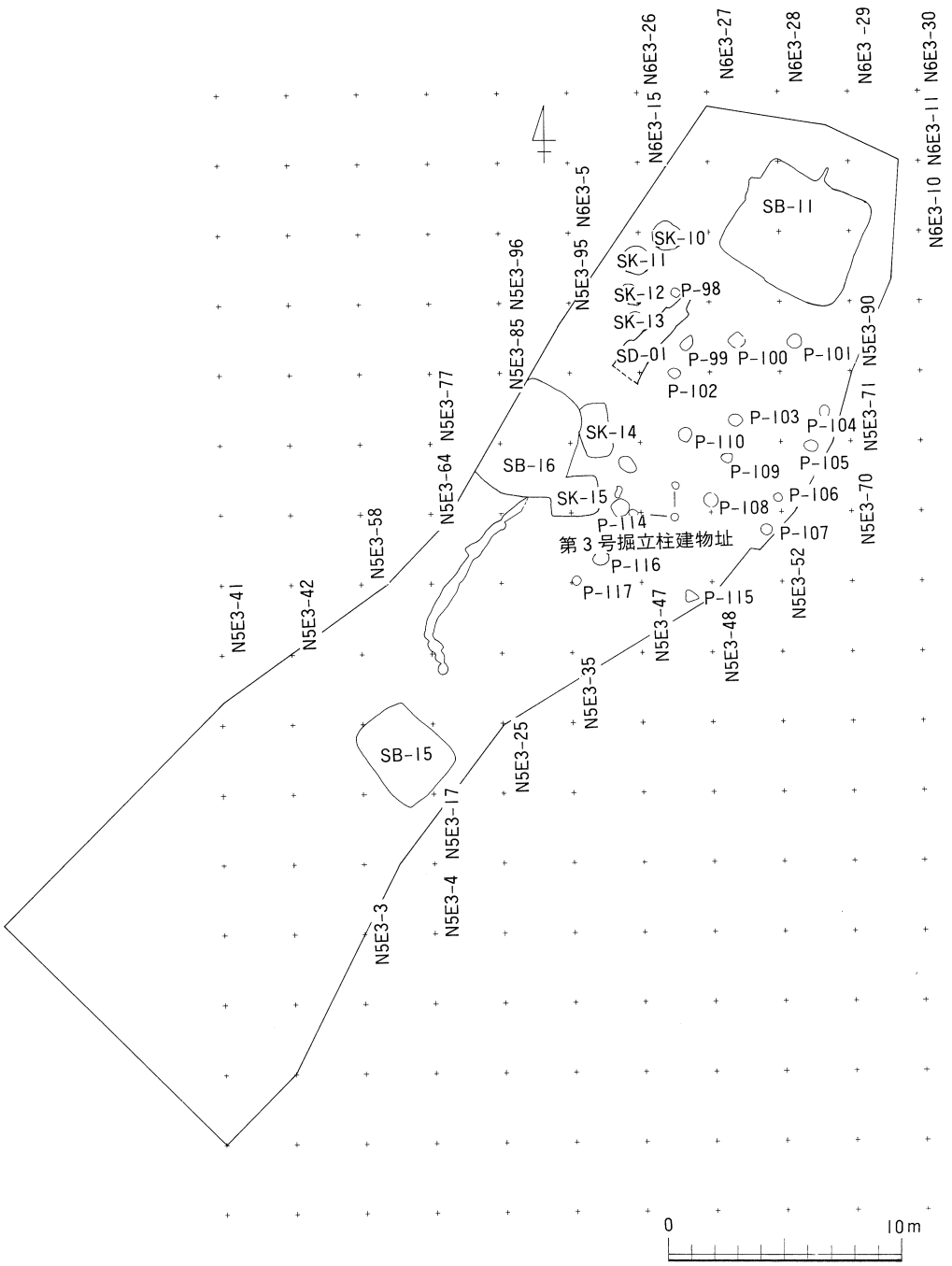
第9号住居址からは、かなりの遺物が検出された。土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕などであるが、土師器・須恵器の坏はいずれも底部ヘラキリによる切り離しである。また、土師器坏には内面黒色処理を施したものが多くみられ、全体的に8世紀後半の様相を呈しているものと思われる。第10号住居址からの出土遺物はわずかで、またいずれも覆土中のものであり、本住居址の構築時期を推定することは無理であった。

C区の北端に確認された第11号住居址からも比較的多くの土師器・須恵器が検出され灰釉陶器も共伴した。しかし、底面からの出土は少なく、覆土中よりの資料が多かった。土師器坏は内面黒色処理を施し、底部ヘラキリによる切り離し手法と回転糸切りによるものが混在している。また、糸切り付け高台付坏も僅かみられる。須恵器坏も回転糸切りによるもので、蓋のツマミの形状もいくつかみられた。また、A区の南側に確認された第13号住居址からも遺物の出土が多かった。とくに須恵器坏が多く、底部回転糸切り・ヘラキリの切り離し手法が混在している。須恵器蓋のツマミは偏平な宝珠形を呈し、土師器甕の口縁部は「コ」の字状に外反するもので、8世紀の後半から9世紀前半位に位置づけられるものであろうか。第14号住居址はA区の南端に検出されたが、大半が調査区域外のため内部の精査は出来なかった。したがって、出土遺物も僅かでまた小片のため図示するに至らなかった。さらにC区に確認された第15号住居址は、カマドや柱穴等の遺構が不明のため、果たして住居址となりうるか疑問であるが、一応住居とした。底部回転糸切りの須恵器坏や土師器甕など僅かに覆土中から検出されている。また、C区に検出された第16・17号住居址は重複しており、先に17号が構築され、後に16号が構築された。第16号住居址さらも多くの土器が確認されている。土師器坏の底部はヘラキリ・回転糸切りが混在し、内面黒色処理したものもみられる。また高台付坏や甕、須恵器坏・叩き目のある甕も共伴し、かなり混在しており構築時期は不明である。第17号住居址も16号に切られたり、また北壁とカマドの部分だけが検出されただけだが、意外と出土土器が多い。土師器坏の底部は回転糸切りで、内面黒色処理したもの、あるいは高台付などがある。土師器甕は「く」の字状・「コ」の字状が共伴するが、平安時代の前半位であろうか。以上、検出された16軒の住居址をみてきたが、その構築時期はおおざっぱにみて奈良時代後半から、平安時代後半にまでわたることが確認できた。

また、掘立柱建物址はA区で2・C区で1と、合計3棟確認できたがいずれも遺物とも関係が把握されにくいため、構築時期の推定が難しい。しかし、第2号掘立柱建物址の掘り方の埋土中から、平安期かそれ以降とみられる須恵器甕・坏の小片が検出され、およその時期が推定されたことは幸いであった。なお、いくつかの土壙および溝址も検出され、出土遺物も多い遺構もあるが、その性格等については不明であり、今後の課題としたい。



第93図　A区遺構全体図



第94図　C区遺構全体図

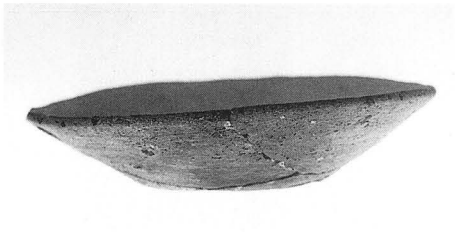
写　真　図　版

林之郷遺跡周辺航空写真（S44年）

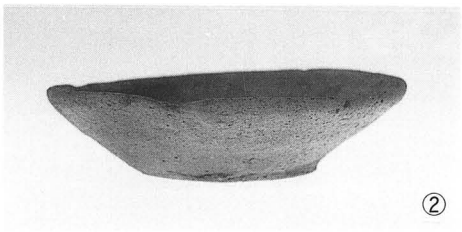
図版2

A区航空写真（S）

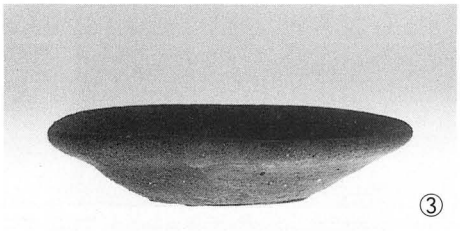
第1号住居址（S）



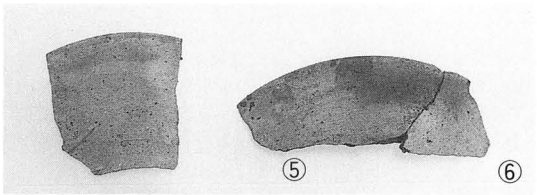
①



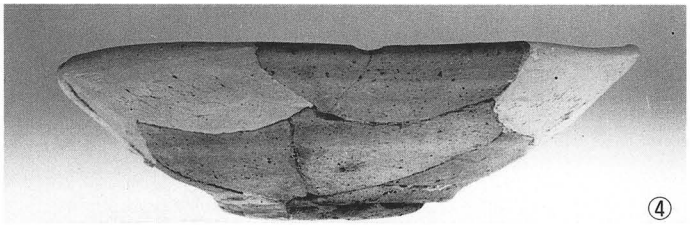
②



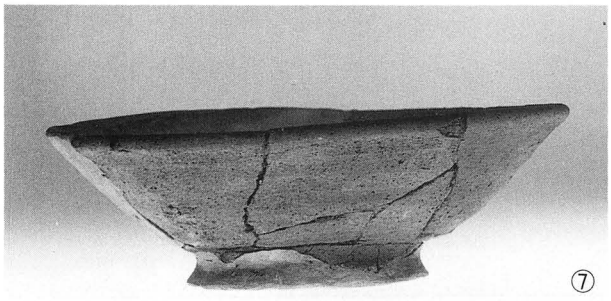
③



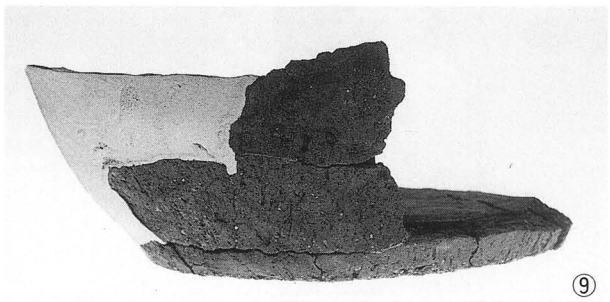
⑤ ⑥



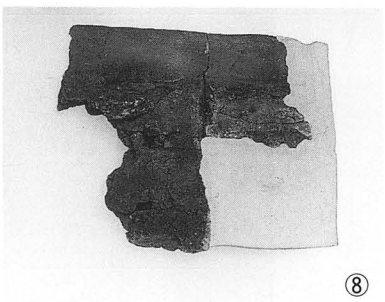
④



⑦



⑨

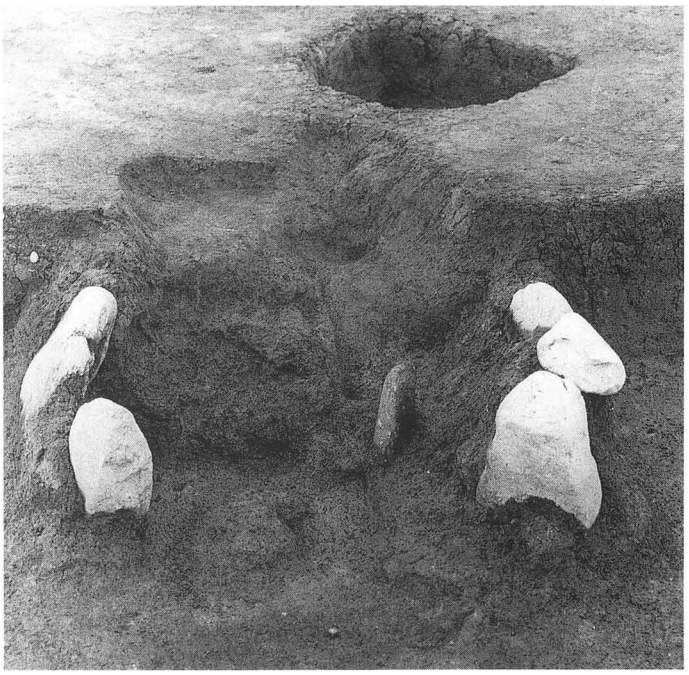


⑧

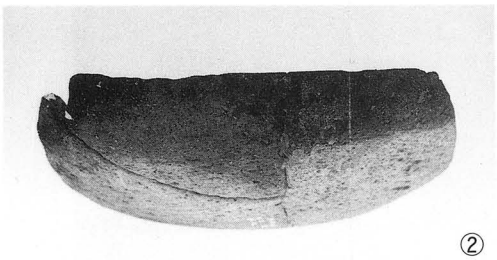
第1号住居址出土遺物

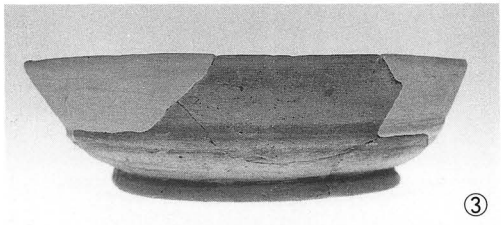
図版4

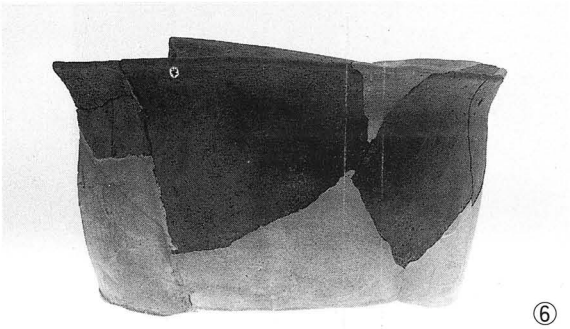
第2号住居跡（ＳＷ）

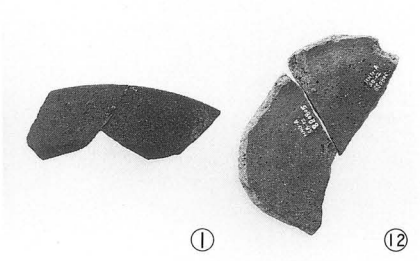


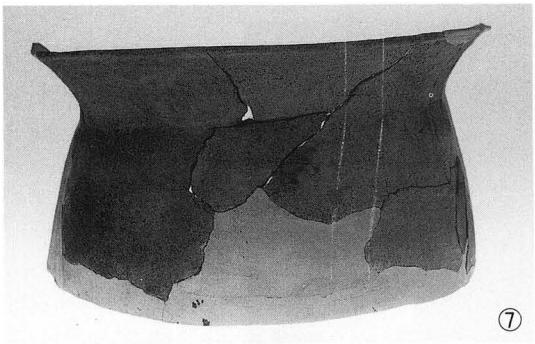
第2号住居址竈（ＳＷ）

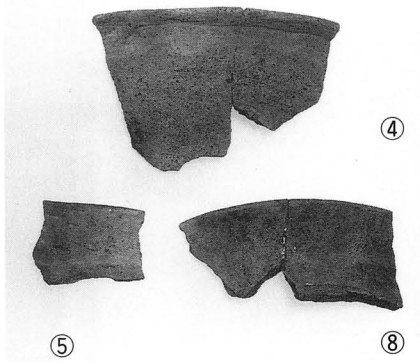

②


③


⑥

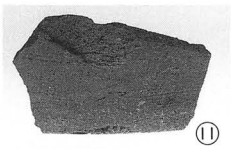

①　⑫


⑦


④　⑤　⑧

⑩

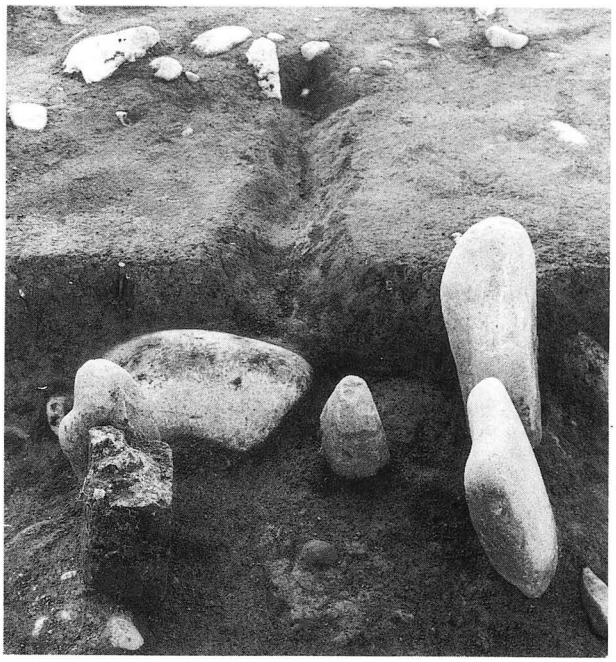
⑨


⑪

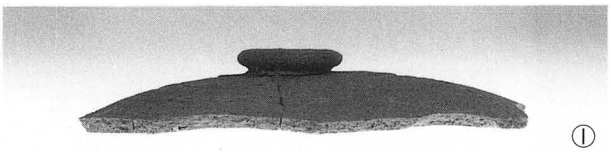
第2号住居址出土遺物

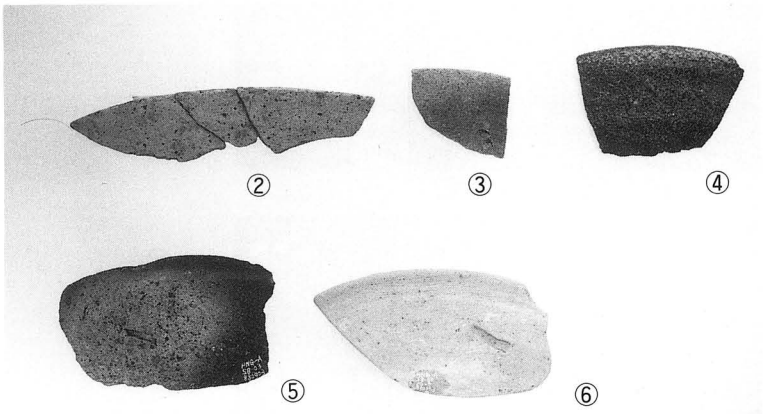
図版6

第3号住居址（E）



第3号住居址竈（E）


①

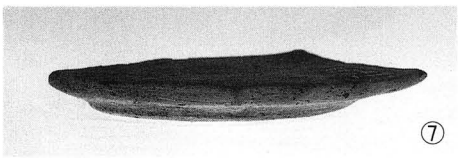

②

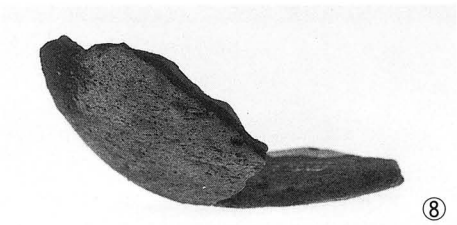
③

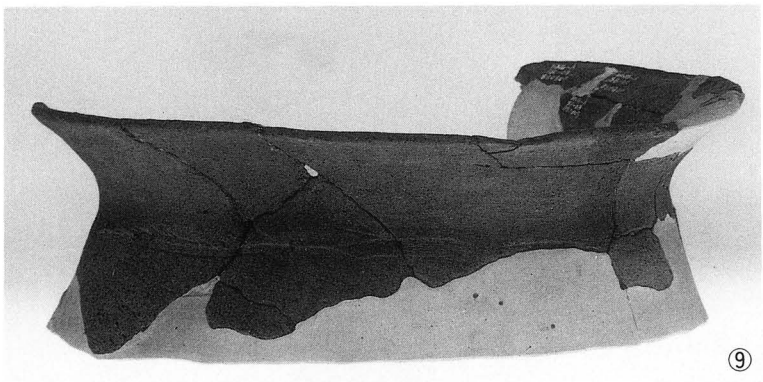
④

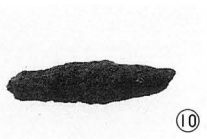
⑤

⑥


⑦


⑧

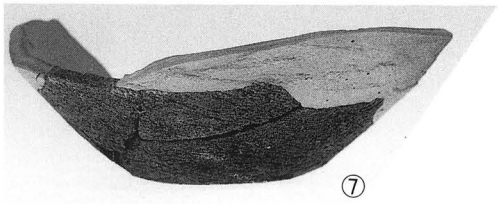

⑨


⑩

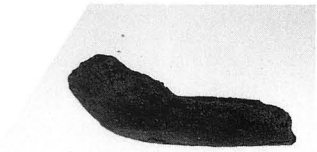
第3号住居址出土遺物

図版8

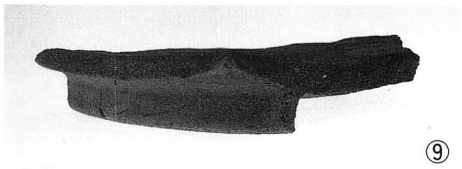
第4号住居址



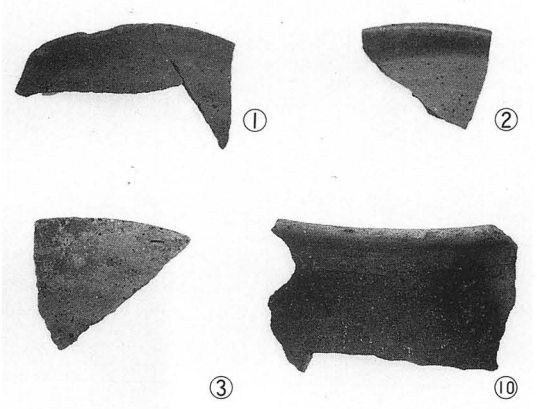
⑦



⑧

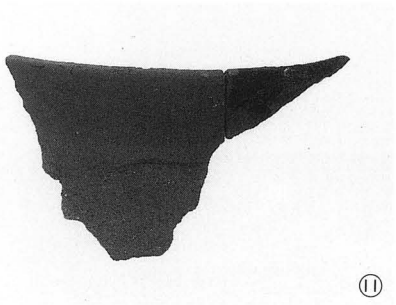


⑨

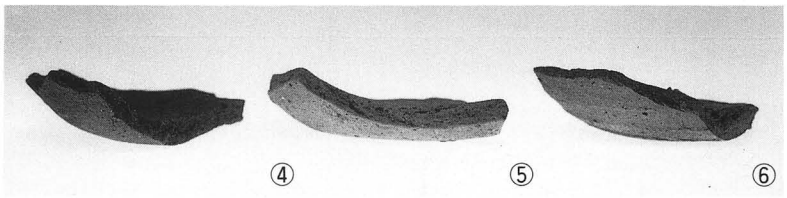


① ② ③ ⑩

第4号住居址竈

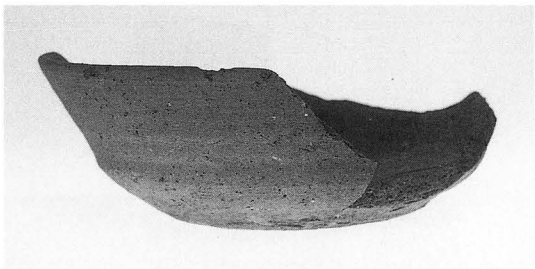


⑪

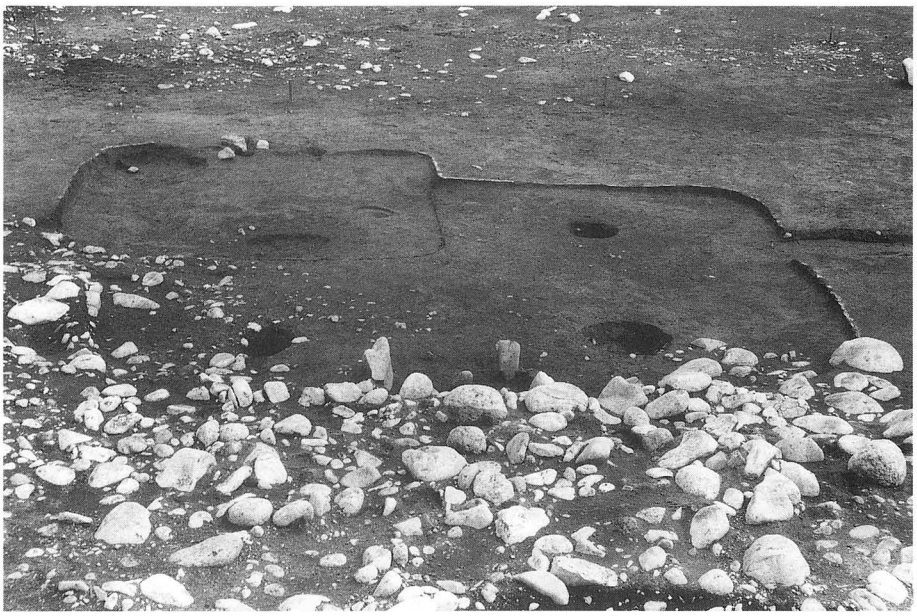


④ ⑤ ⑥

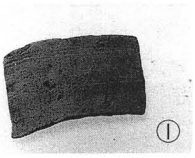
第5号住居址（手前は第6号住居址）（E）

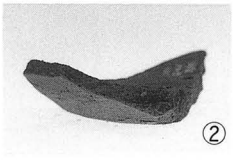


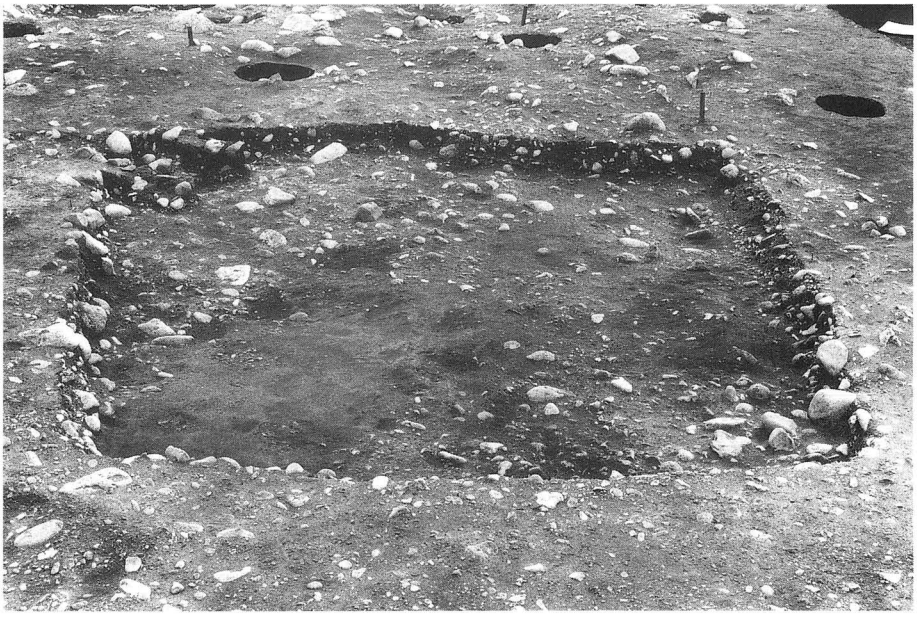
図版10



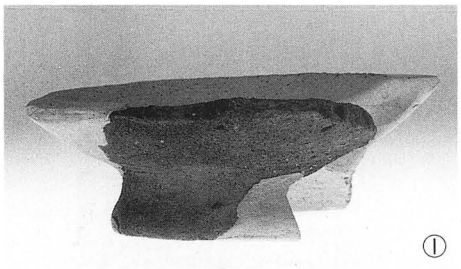
第5、6号住居址（手前は第5号住居址）（W）





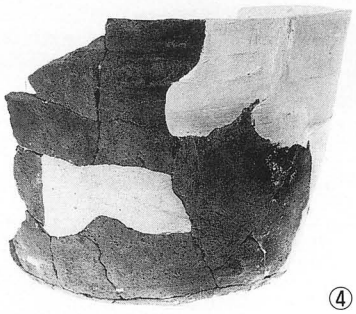


第7号住居址（N）

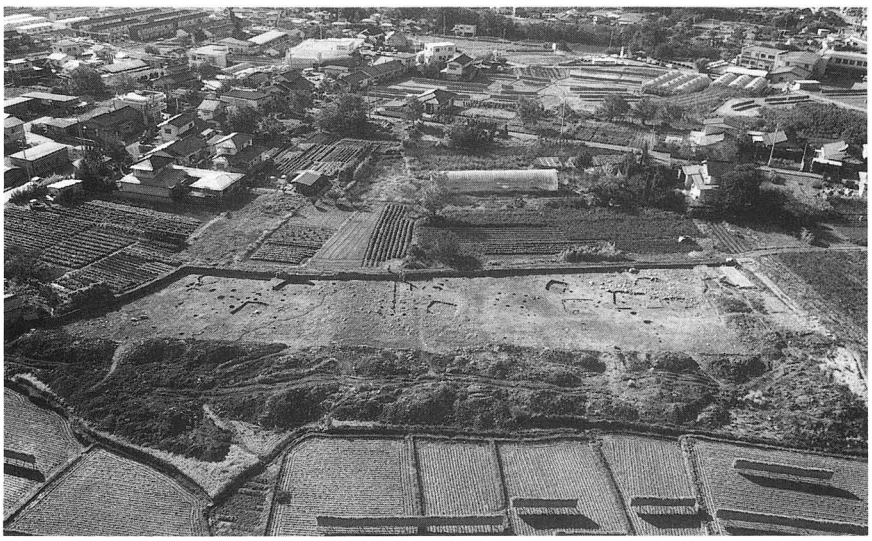

①

②

③

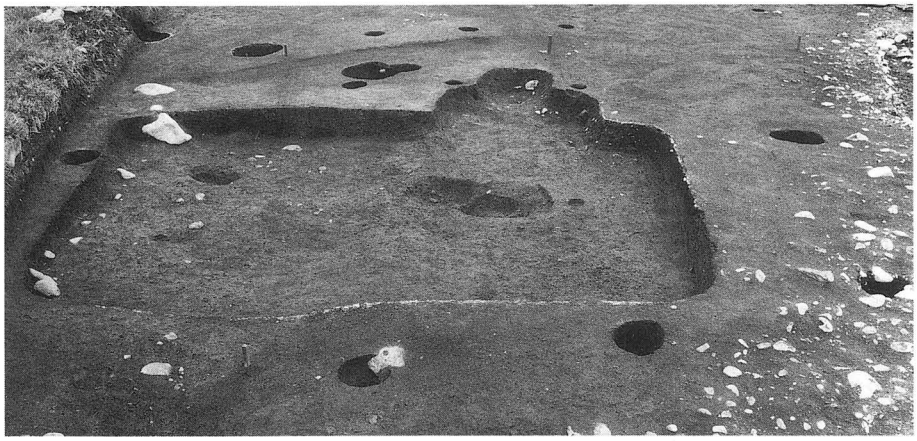

④

第7号住居址出土遺物

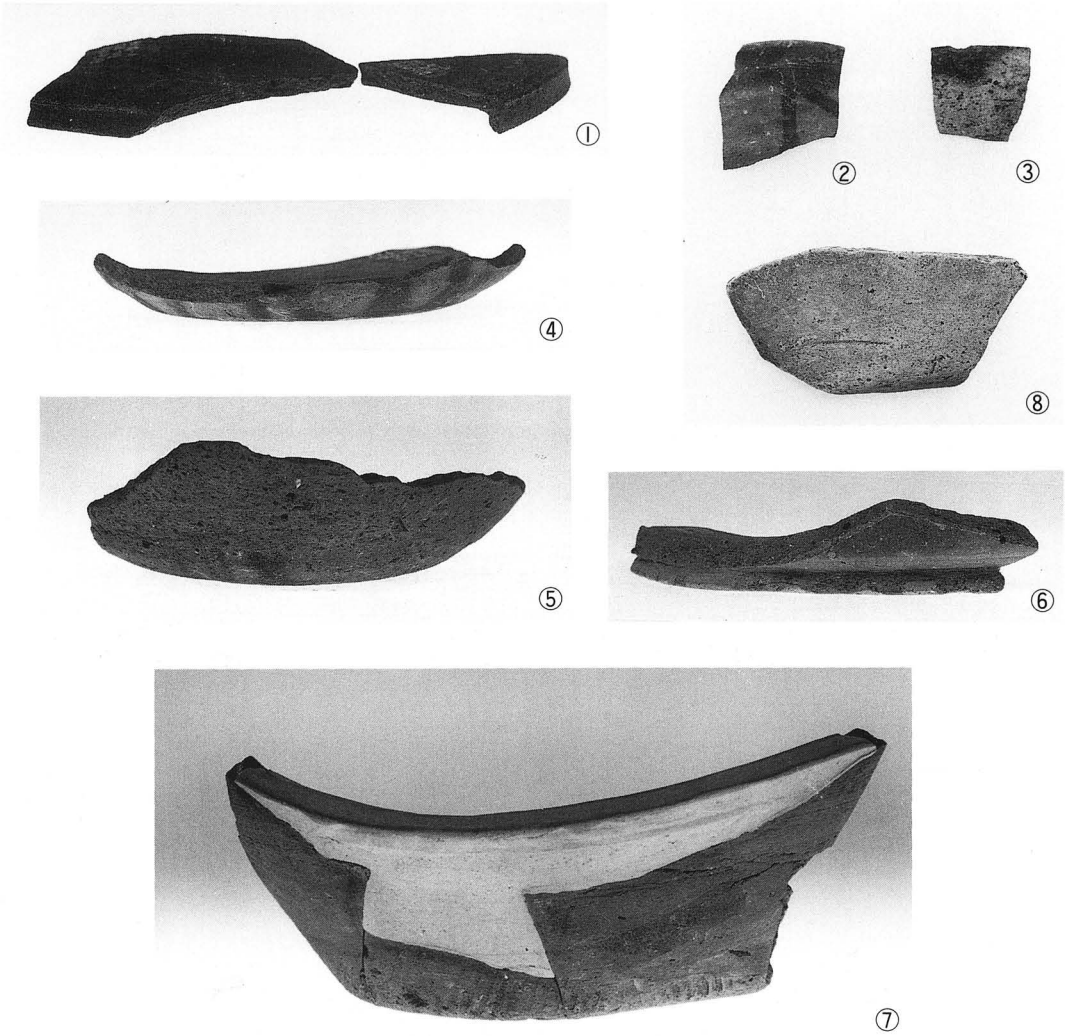


A区航空写真

図版12



第8号住居址（S）

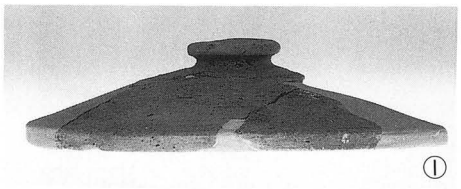


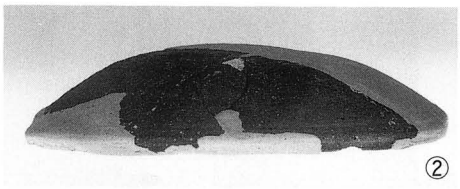
第8号住居址出土遺物

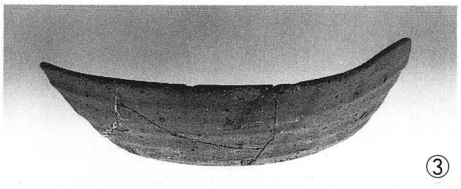
第９号住居址（ＳＥ）

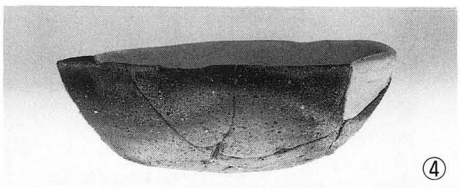
第９号住居址竈（ＳＥ）

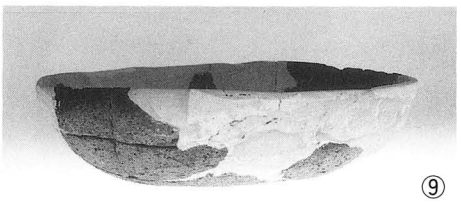
図版14

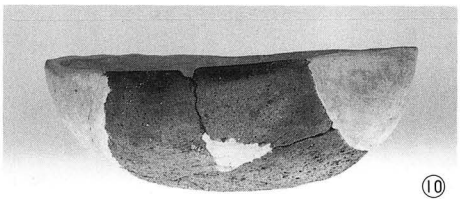

①

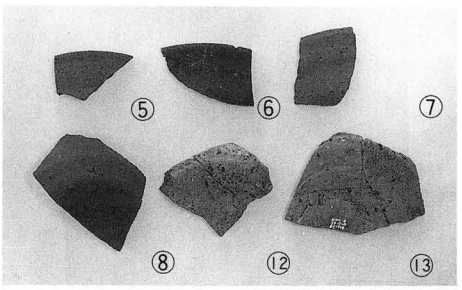

②

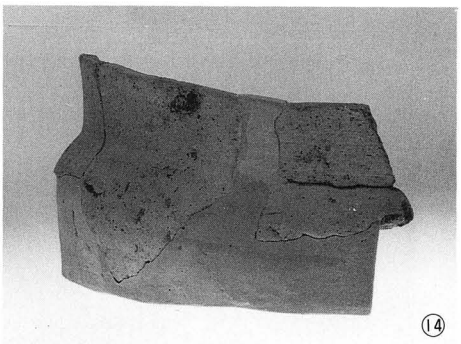

③

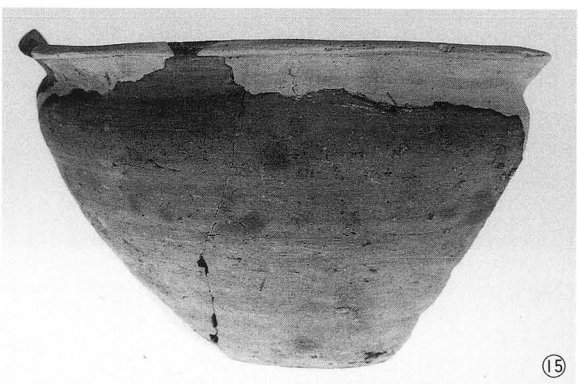

④


⑨

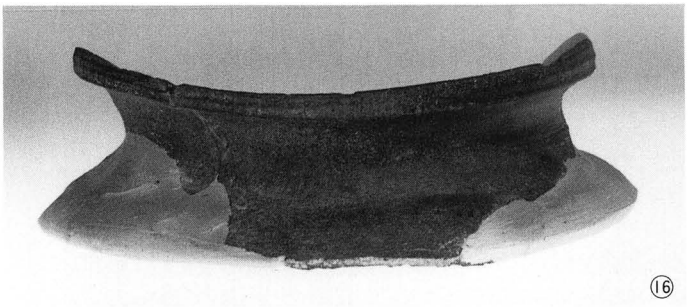

⑩



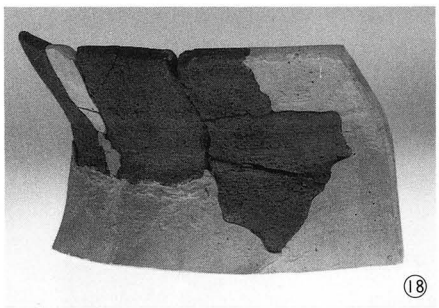

⑭

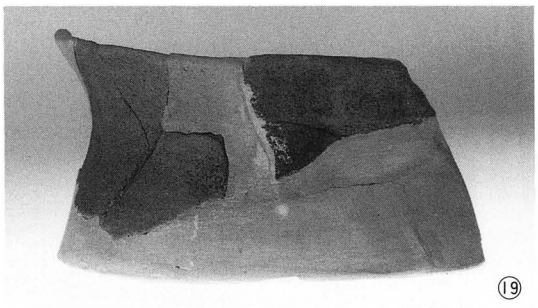

⑮

第9号住居址出土遺物(1)

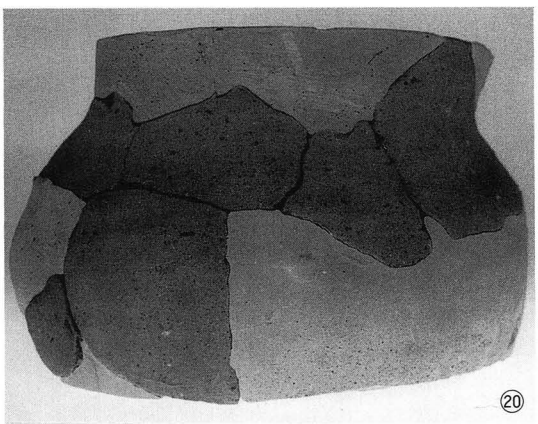

⑯

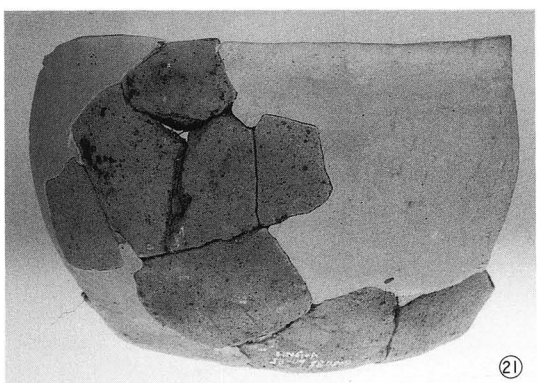
⑰


⑱


⑲

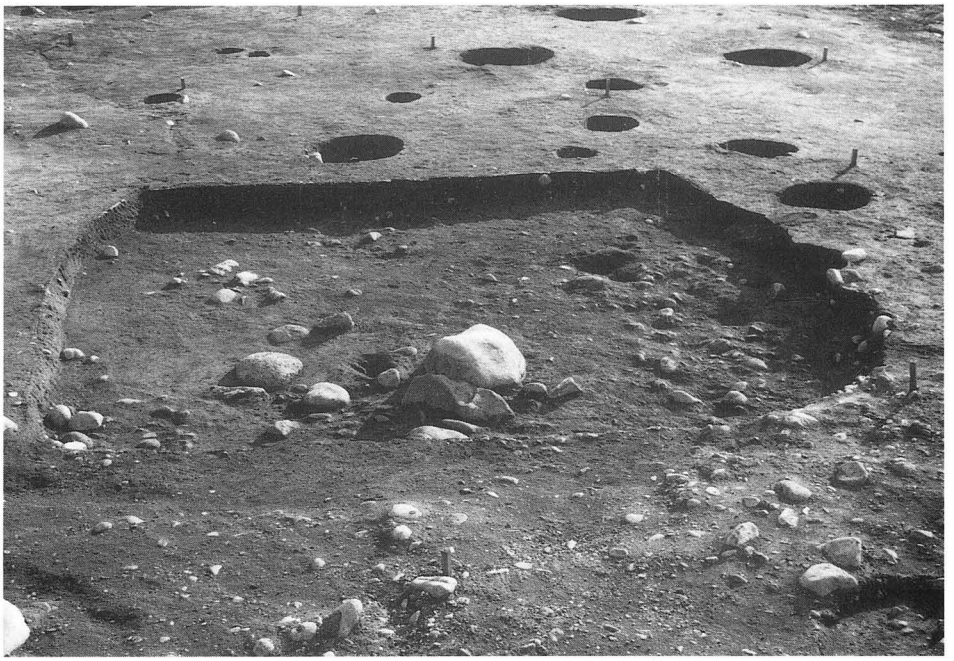
⑳


⑳

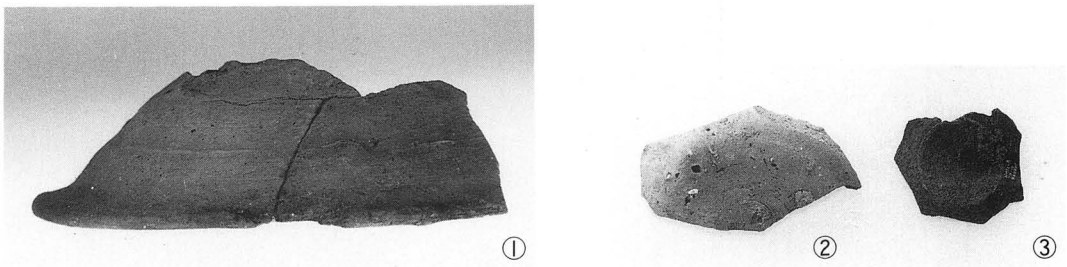

㉑

第 9 号住居址出土遺物(2)

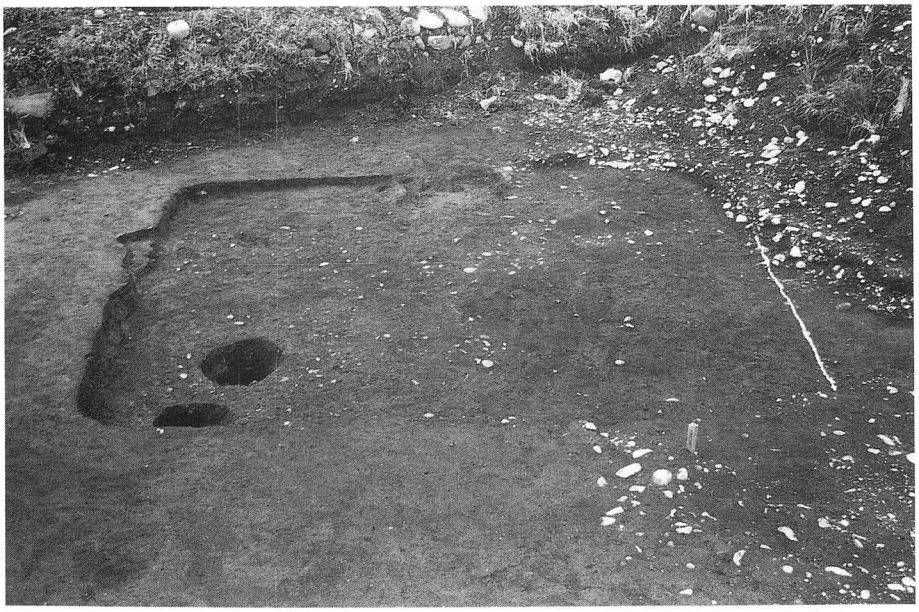
図版16



第10号住居址



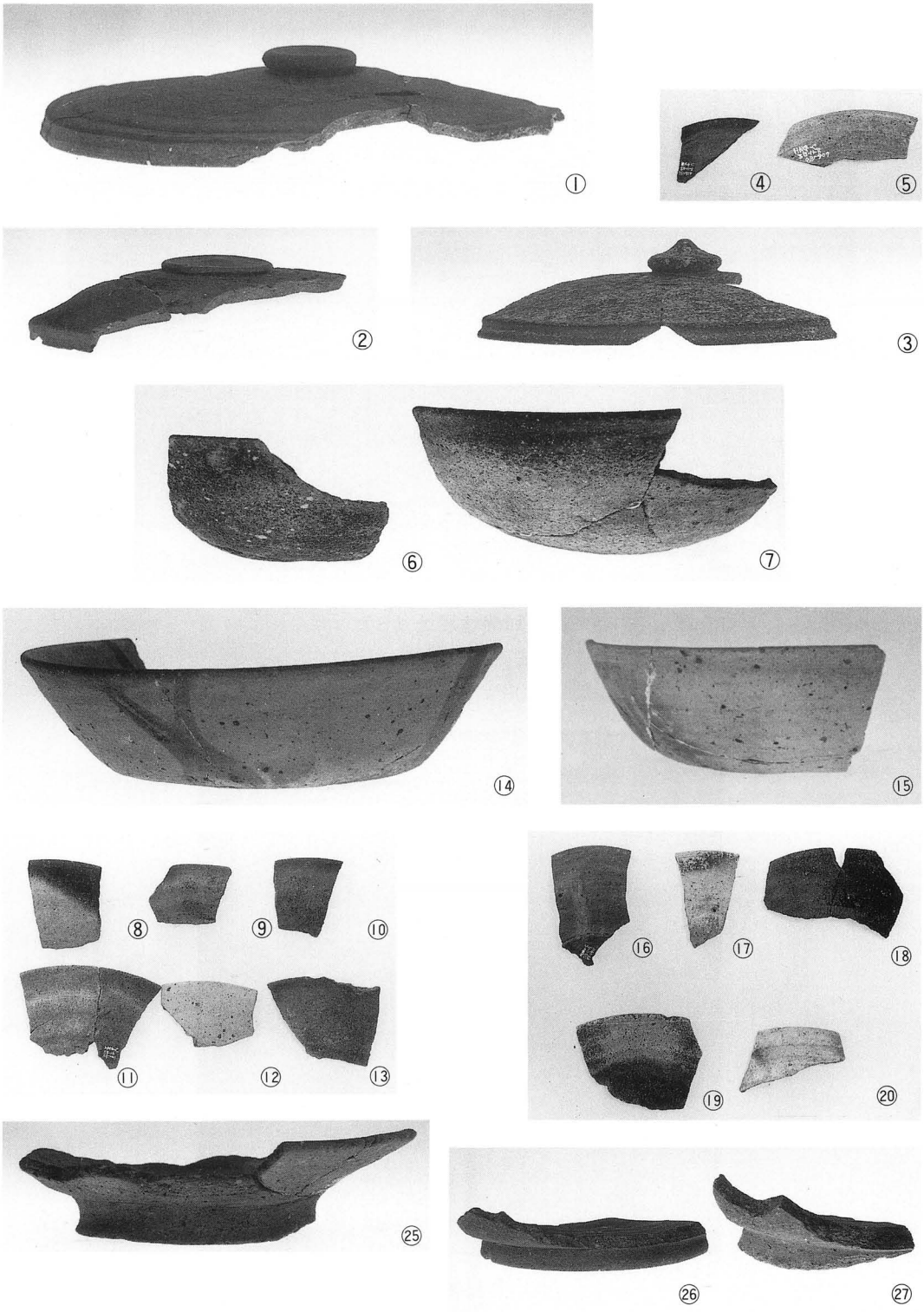
調査風景



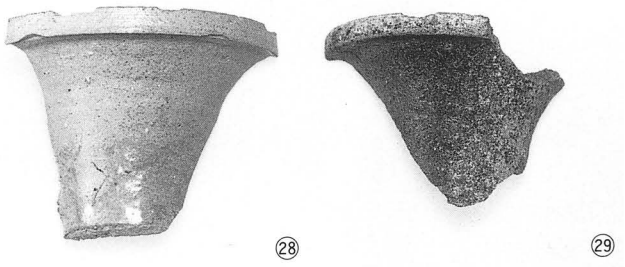
第11号住居址（S）

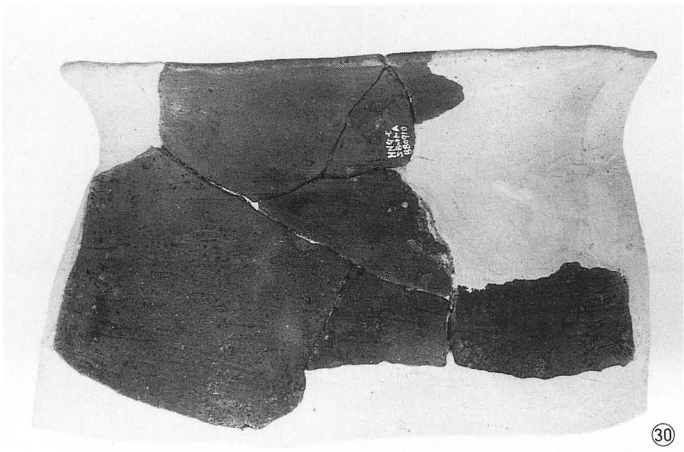
第11号住居址竈（S）

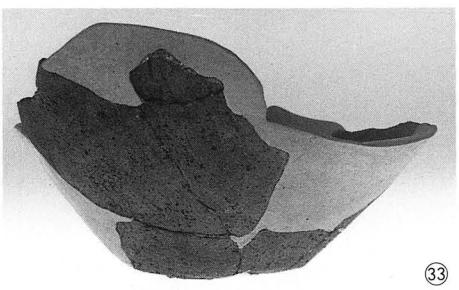
図版18

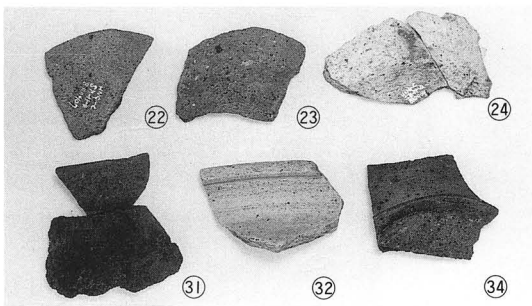


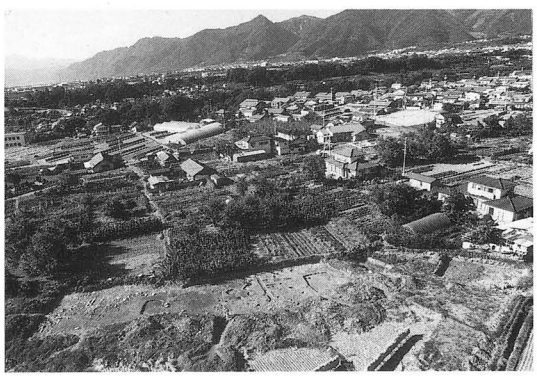
第11号住居址出土遺物(1)











C区遠景（E）

第11号住居址出土遺物(2)